（注）（表）契約條件欄ニハ月給、日給額、住込、通勤又ハ前借金額、契約期間等主要ナル契約條件ヲ記入スベシ

（第三號樣式）

周旋紹介狀況届（昭和　年　月分）

職業別	求人者數	求職者數	紹介件數	管内紹介件數	管外紹介件數
藝妓					
娼妓					
酌婦					
仲居					
計					

昭和　年　月　日

住所
（屋號アル者ハ屋號）
紹介業者　氏　名㊞

何警察署長殿

（注）一　管内紹介件數及管外紹介件數欄ニハ紹介件數ノ内譯ヲ記入スベシ
二　管内紹介件數ハ京都府管内ノ營業者ニ、管外紹介件數ハ京都府以外ノ府縣ノ營業者ニ紹介シタル者ノ數ヲ記入スベシ

〔京都警〕

●藝妓娼妓酌婦紹介營業取締規則取扱手續

昭和二年二月二十五日
京都府訓令第十五號

藝娼妓酌婦紹介營業取締規則取扱手續左ノ通定ム

藝娼妓酌婦紹介營業取締規則取扱手續

藝終署

第一條　藝娼妓酌婦紹介營業取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條ノ願出アリタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認メタル場合ニ限リ許可スベシ

一　願書ハ必要事項ヲ具備スルヤ

二　規則第五條ニ違反シ又ハ同第六條ニ該當スル者ニ非ザルヤ

三　紹介手數料額及其ノ領收方法ハ適當ナリヤ

第二條　規則第三條ノ願出アリタルトキハ其ノ事實及適否ニ付調査ヲ遂ゲ許可スベシ

第三條　規則第五條第二項但書ニ依リ許可セムトスルトキハ事實及意見ヲ具シ禀議スベシ

第四條　規則第七條ノ申請アリタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認メタル場合ニ限リ認可スベシ

一　規則第五條第一項ニ違反スル者ニ非ザルヤ

二　規則第八條ニ該當シ若ハ身元素行ニ關シ不適當ノ者ニ非ザルヤ

第五條　規則第十三條第二項ニ依リ帳簿ノ檢印ヲ願出アタルトキハ署印ヲ以テ每葉契印シ表紙ニ紙數及年月日ヲ記シ署印ヲ押捺スベシ

第六條　規則第十五條ノ屆出アリタルトキハ之ヲ取纏メ每月十日迄ニ報告スベシ

第七條　規則第十六條ノ願出アリタルトキハ本手續第一條ニ準ジ取扱フベシ

第八條　規則第二十條ノ處分ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ事實及意見ヲ具シ申報スベシ

第九條　規則第二十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ速ニ報告スベシ

第十條　警察署ニハ附錄樣式ニ依ル藝妓、娼妓、酌婦紹介營業者及從業者名簿ヲ備ヘ置キ異動アル每ニ加除訂正スベシ

明治三十三年保訓第五十三號藝妓娼妓紹介營業取締規則取扱手續ハ之ヲ廢止ス

〔京都警〕

（京都營）

附錄樣式

（表）

第　號			
紹介業者	許可	昭和　年　月　日	
	營業所ノ所在地及名稱		
	主トシテ紹介スル者		

本籍
住所
氏名
生年月日

（裏）

備考
身上ノ異動其ノ他取締ノ資料トナルベキ事項ヲ記入スベシ

（京都營）

附錄樣式

（表）

第　號			
從業者	認可	昭和　年　月　日	
本籍			
住所			

紹介業者
氏名
生年月日

（裏）

備考	身上ノ異動其ノ他取締ノ資料トナルベキ事項ヲ記入スベシ

●藝娼妓紹介手數料標準額

大正三年三月
保訓第四號

各署長

藝娼妓紹介營業取締規則第七條ニ據ル紹介手數料ハ自今左記標準額ニ依リ處理セラルヘシ

標準額

一　前借金ヲ有スルモノ其金額ノ百分ノ四以下トシ雙方折半支出タルコト

二　前借金ナキモノ一件毎ニ金四圓以下トシ雙方折半支出タルコト

三　市部又ハ署所轄内移轉ニシテ前借金ヲ有スルモノハ其金額ノ百分ノ三以下トシ其支出ハ雙方折半タルコト

四　前項ノ移轉ニシテ前借金ナキモノハ一件毎ニ金三圓以下トシ其支出ハ雙方折半タルコト

五　市郡間又ハ所轄ヲ異ニスル郡内移轉ニシテ前借金ヲ有スルモノハ其金額ノ百分ノ四以下トシ支出ハ抱主七分本人三分ノ率タルコト

六　前項ノ移轉ニシテ前借金ナキモノハ一件毎ニ金五圓以下トシ其支出ハ前項ノ率ト同額タルコト

七　他府縣ニ移轉スルモノハ前借金ノ百分ノ五以下トシ其支出ハ雙方折半タルコト

八　前項ノ移轉ニシテ前借金ナキモノハ一件毎ニ金十圓以下トシ其支出ハ前項ノ率ト同額タルコト

〔京都警〕

●案内人取締規則

明治四十三年九月二十日
京都府令第七十二號

改正　明治四四年京都府令第五八號、大正一三年第八七號

第一條　本則ニ於テ案内人ト稱スルハ通譯ニ依ラスシテ名勝舊跡ノ案内ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條　案内人タラントスル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ差出シ免許ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ案内料金額ヲ定メテ之ヲ記載スヘシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ案内人タルコトヲ免許セス

一　案内ヲナスヘキ名勝舊跡ノ由緒沿革等ニ通セサルモノ

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ改悛ノ情ナキモノ

三　精神病又ハ人ノ嫁厭スヘキ疾病アルモノ

四　素行不良ト認ムルモノ

第四條　案内人ニシテ住所ヲ移轉シ其他免許證面ニ異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ニ免許證ノ書換又ハ再渡ヲ申請スヘシ之ヲ紛失毀損シタルトキ亦同シ

第五條　案内人其業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ免許證ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

本人死亡又ハ行衞不明トナリタルトキハ前項ノ期間内ニ戸籍法第百二十六條ニ定メタル届出義務者ヨリ其届出ヲ爲スヘシ

第六條　案内人ハ毎年三月九月ノ兩度所轄警察官署ニ出頭シ免許證ノ照査ヲ受クヘシ

前項ノ期間ニ照査ヲ受ケサルトキハ廢業シタルモノト看做ス

第七條　案内人ハ就業中免許證ヲ携帶スヘシ若シ他人ヨリ免許證ノ提示ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　案内人ハ附錄雛形ノ徽章ヲ製シ就業中之ヲ左胸部ニ附スヘシ

第九條　案内人ハ左記各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スヘカラス

一　免許證ヲ他人ニ貸與スルコト

二　名義ノ如何ヲ問ハス定額以上ノ案内料金ヲ請求シ又ハ請求セシムルコト

三　强テ案内センコトヲ勸誘シ若ハ勸誘セシメ又ハ故ナク案内ノ依頼ヲ拒絶シ若ハ拒絶セシメ又ハ被案内者ノ意ニ反シテ案内ヲ爲シ若ハ其承諾ナクシテ他人ニ案内ヲ委託スルコト

四　强テ遊興觀覽又ハ物品ノ購買ヲ勸誘スルコト

五　寺社佛堂又ハ宿屋飲食店料理屋其他ノ商店ニ對シ金品ヲ請求シ若ハ此等ノ者ヨリ金品ノ贈與ヲ受クルコト

六　公安又ハ風俗ヲ害スル行爲ヲ勸誘シ又ハ其周旋ヲナスコト

七　虚僞又ハ侮慢ノ言行ヲ爲シ其他被案内者ニ對シ不親切ノ取扱ヲナスコト

八　見苦シキ服裝ヲ爲スコト

第十條　案内人ハ警察官署ノ區域ニ依リ組合ヲ設クルコトヲ得但數警察官署ノ區域ヲ通シテ組合ヲ設クルヲ妨ケス

第十一條　組合ヲ設ケントスルトキハ其區域内ニ於ケル同業者三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ規約ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ數警察官署ノ區域ヲ通シテ組合ヲ設ケ又ハ其組合規約ヲ變更セントスルトキハ事務所々在地ノ警察官署ヲ經由シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　組合ニ於テ役員ヲ選擧シタルトキハ直チニ其氏名ニ履歷書ヲ添ヘ組合規約ノ認可ヲ受ケタル官廳ニ届出ツヘシ

役員ニシテ不適任ト認ムルトキハ其改選ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　組合ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ其他公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ決議ノ取消又ハ役員ノ解職若ハ組合ノ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　警察官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキハ組合ノ帳簿ヲ檢査シ又ハ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條　組合ヲ設ケタル地域内ノ案内人ハ組合ニ加入スヘシ

第十六條　案内人共同シテ業務所ヲ設ケタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ移轉廢止ノ場合亦同シ

第十七條　案内人法令ニ違背シ又ハ第三條第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル事實ノ生シタルトキハ其業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

〔京都警〕

免許取消ノ處分ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ免許證ヲ返納スヘシ

第十八條　本則第二條第九條ニ違背シ又ハ業務停止中案内ノ業ヲ爲シタル者、第四條第五條第七條第八條第十五條第十六條及第十七條第二項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十九條　本則ニ規定シタル違背行爲ヲ敎唆シ若ハ幇助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ處斷ス

附　則

第二十條　從來ノ案内人ニシテ其業ヲ繼續セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ標札ヲ所轄警察官署ニ提出シ免許證ノ下附ヲ受クヘシ

警察官署ハ前項ノ標札提出者ニシテ本則第三條ノ規定ニ該當スト認ムルトキハ免許證ヲ下附セサルコトヲ得

附錄雛形

徽章

長曲尺一寸五分
幅曲尺一寸
地質　金屬銀色
文字　黑色

●案内人取締規則執行手續

明治四十三年九月三十日
京都府訓令第四十五號

改正　大正八年京都府訓令第五三號

第一條　規則第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ規則第三條ニ依リ名勝舊跡ノ由緒沿革ノ大要竝ニ地理ニ就キ試問シ且ツ第二號以下ノ事項ヲ調査ノ上免否スヘシ問答シタル事項ハ一件書ニ記入シ置クヘシ

第二條　案内料金ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一、一日金壹圓五拾錢以内
一、半日金八拾錢以内
一、一時間金貳拾錢以内

第三條　規則第四條ニ依リ免許證ノ書換又ハ再下附ヲ爲シタルトキ若ハ第五條第十六條ノ届書ヲ受理シ又ハ第六條ノ照査ヲ爲シタルトキハ其年月日事由ヲ名簿ニ記入スヘシ

第四條　前條ノ届出ニシテ他警察官署管内ヨリ移轉シタルモノニ係ルトキハ舊管轄地警察官署ニ通牒スヘシ

前項ノ通牒ヲ受ケタル警察官署ハ直ニ名簿ヲ抹消シ且ツ其寫ヲ新管轄警察官署ニ送付スヘシ

第五條　組合規約ニシテ當廳ニ差出スヘキモノハ意見ヲ付シテ進達シ警察官署ニ於テ認可シタル組合規約ハ其寫ヲ添ヘ五日以内ニ報告スヘシ

第六條　左ノ事項ハ事實ヲ詳記シ稟議スヘシ

一　規則第十三條ニ依リ決議ノ取消又ハ役員ノ解職若ハ組合ノ解散ヲ命スヘキ事實アリト認ムルトキ

二　規則第十七條ニ依リ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スヘキ事實アリト認ムルトキ

第七條　警察官署ハ第一號樣式ニ依リ案内人名簿ヲ備置キ免許證ヲ下附シタルトキハ之ニ登錄スヘシ但免許證ノ番號ト名簿ノ番號ハ同一ノモノタラシムヘシ

第八條　免許證ハ第二號樣式ニ依ルヘシ

〔京都警〕

第一號樣式（用紙半紙）

番號	開業年月日	原籍身分 現住所 氏名 生年月日	廢業年月日	照査年月日	備考

第二號樣式　四寸

表面

何警第　號
免許證
原籍現住所身分
案内人　何某
生年月日
年月日　何警察署

裏面

案内料
一　一日金……
一　半日金……

〔京都警〕

第五節　代書人　彫刻業

●代書人規則施行ニ關スル件

大正九年十二月
保第八一三四號

各警察署長

内務省令第四十號ヲ以テ代書人規則公布相成候處同規則施行ニ關シ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付左記ノ通御承知相成度

記

一　規則第一條ノ書類中ニハ其ノ附屬圖面ノ如キ之ヲ包含スト雖單ニ設計圖、測量圖類ノ作製ノミノ依賴ニ應スルコトヲ業トスル者ハ之ニ包含スルモノニアラス又單ニ書翰ノミノ代書ヲ業トスル者ニシテ稀ニ權利義務ニ關スル書翰ヲ代書スルコトアルヘキモ是等ハ强ヒテ本規則ヲ以テ臨ムノ趣旨ニアラス

二　規則第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ文書僞造、詐欺取財、强窃盜其ノ他ノ犯行ヲ爲シ改悛ノ情ナキモノニアラサルヤ其ノ他代書人トシテ不適當ノモノニアラサルヤ否ヲ調査ノ上許否ヲ決シ若シ不許可處分ヲ爲サムトスル場合ハ其ノ事由ヲ具シ稟議ノ上處分セラレ度

三　從來府令中代書人事務所ノ外出張所ナルモノヲ認メタリト雖モ省令ハ總テ是等ヲ以テ事務所ト爲セリ從テ一以上ノ事務所ヲ有スル者ハ其ノ

一ニ就キ主タル事務所ヲ定ムルモノトス

四　規則第五條ニ於テ事務所以外ノ場所ニ於テ代書ノ業務ニ從事スルコトヲ認メラレタルハ遺言狀ノ如キ事務所ニ於テ作製スル能ハサルモノアリ又書類中作製期限ヲ指定シテ依頼スルモノアルヘク是等ニ對シ事務所内ノミニ制限スルハ宜シキニ適セサルノ趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノナルニ依リ本條但書ノ適用ニ付テハ其ノ事實已ムヲ得サルモノナルヤ否ヤヲ調査シ弊害ナシト認ムルモノニ限リ承認セラルヘク尚本件ハ代書事項ニ依リテハ豫メ承認ヲ與ヘ置クモ妨ケナシ本條中警察官署ヲ代書人ノ主タル事務所ヲ管轄スル警察官署ニ限定シアラサルハ其ノ之ニ限定スルニ於テハ代書業者ノ不便勘カラサルヘキヲ考慮シタルニ依ル

五　規則第六條代書料額ハ左ノ標準ニ依リ認可セラレ度

一　許願書及申請書ノ類壹枚ニ付金拾參錢以内
　同半枚ニ付金七錢以内
二　諸屆書ノ類壹枚ニ付金九錢以内
　同半枚ニ付金五錢以内
三　製圖壹枚ニ付五拾錢以内
四　特別ノ事由ニ依リ午後十時以後ニ囑託ヲ受ケ日出迄ノ間ニ於テ其ノ業務ヲ執リタル場合ハ三割以内ヲ增額スルコトヲ得
五　前各號ノ外特殊ノ技能ヲ要スルモノニ付テハ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

六　規則第七條但書ノ場合ニ於ケル代書料以外ノ報酬ハ左ノ標準ニ依リ豫メ承認ヲ受ケ置カシムルヲ妨ケサルモノトス

一　官公署備付ノ諸公簿ノ閲覽一件　金拾錢以内
二　出張旅費、日當、宿泊料
　イ　日當（一日ニ付（九時間以上）／半日ニ付（五時間以上））　金貳圓
　　一時間　金壹圓
　ロ　宿泊料　一泊　金參拾錢以内
　ハ　旅費　陸路一里ニ付　金參拾錢以内
　　一里未滿金拾五錢以内其ノ他ハ實費

七　代書人ノ弊害ノ多クハ規則第九條ニ規定スル條項ニ在ルヲ以テ同條ニ付テハ現ニ代書ヲ業トスル者及將來代書業ヲ許可スル者ニ對シテハ懇篤其ノ趣旨ヲ說示シ了解セシメ代書人ノ義務ニ違反スルコトナカラシメラレ度尚本條第六號中法律事務所トハ辯護士事務所、特許辨理士事務所、公證人執達吏事務所ノ類ヲ指示セルモノトス

八　規則第十一條ニ依ル屆出ノ事項ハ總テ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ限定セルヲ以テ其ノ屆出ヲ受理シタル警察官署ハ遲滯ナク關係地所轄警察官署ニ通報シ遺漏ナキヲ期セラレ度

九　規則第十二條ノ代書事件簿ハ添附樣式ニ據ラシムル樣セラレ度

十　規則第十四條及第十五條ニ於テハ代書人又ハ其ノ補助員ニシテ其ノ業務上ノ義務ニ違反シ又ハ第二號ニ該當スル犯行ヲ爲シ代書人トシテノ業務ヲ行ハシムルニ於テハ公益ヲ害スト認ムル者ニ對シ業務ノ停止、許可ノ取消又ハ使用ノ認可ヲ取消スコト、爲レリト雖モ本件ノ處分ハ當業者ニ與フルノ苦痛最モ甚タシキモノナルヲ以テ特ニ愼重ニ措置セラルヘク尚停止又ハ許可取消ノ處分ヲ爲シタル場合ハ本人ノ氏名等ヲ官報ニ廣告シテ全國ニ周知ノ方法ヲ講セラレ度

十一　規則第十七條ハ同省令ニ依リテ許可ヲ受ケス又ハ司法代書人法、郵便、電信、電話官署代書人規則ニ依リ認可ヲ受ケスシテ代書業ヲ爲ス者ヲ制過スルノ趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノナリト雖モ同令施行ノ際既ニ之ニ該當スル者アルニ於テハ可成說諭ヲ加ヘ任意業務ヲ廢止セシメ直ニ處罰ヲ以テ臨ムカ如キコトナキ樣留意セラレ度

警察官署ニハ添附樣式ノ代書人名簿ヲ備附セラレ度

代書事件簿樣式（用紙半紙）

囑託者ノ住所氏名	囑託ヲ受ケタル事件ノ名稱	囑託ヲ受ケタル年月日	作製書類ノ紙數	代書料

代書人名簿樣式　六寸

番號	本籍及住所	囑託者ノ住所氏名	囑託ヲ受ケタル事件ノ名稱	囑託ヲ受ケタル年月日	作製書類ノ紙數	代書料
第　號						
年月日許可						
事務所ノ位置						

一寸五分

●代書人ノ許可其他區裁判所ヘ通報ノ件

明治四十一年三月
保訓第八號

代書人カ訴訟及非訟事件ニ關シ代理ヲ爲スヤ否ヤニ付其取締上必要有之趣ヲ以テ京都地方裁判所長ヨリ照會ノ次第モ有之候條自今代書人ノ許可及住所氏名變更又ハ許可取消ノ場合ハ其都度所轄區裁判所ヘ通報セラルヘシ

右訓示ス

●彫刻業取締規則

明治十九年九月二十二日
京都府令第二十四號

改正　大正一三年京都府令第八七號

第一條　彫刻業トハ金屬若クハ木石等ヲ以テ印章及諸證券其他ノ版面ヲ彫刻又ハ鑄造スル營業者ヲ云フ但シ自ラ彫刻セサルモ之ヲ販賣スル者亦之ニ準ス

第二條　彫刻業ヲ營ム者ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ但シ廢業又ハ轉居改氏名ヲ爲シタルトキ亦本條ニ準シ屆出ヘシ

第三條　營業者ハ其氏名及業名ヲ記シタル標札ヲ表出スヘシ

第四條　營業者ハ注文明細帳及版面寫影帳ヲ製シ注文明細帳ニハ式ノ如ク其注文シタル者ノ住所氏名年齡月日及種類ヲ本人ニ詳記（自書スル能ハサル者ハ代書スルモ妨ナシ）セシムヘシ但シ本條ノ帳簿ニハ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ

他ノ代書ト兼業別	氏名	生年
備考		

第五條　印章出來交付スルトキハ注文明細帳氏名ノ上ニ印章ヲ押寫シ受取人ノ住所氏名ヲ記載シ且番號及交付ノ月日ヲ朱記スヘシ

第六條　版面出來交付スルトキハ版面寫影帳ニ版面ヲ押寫シ注文主及受取人ノ住所氏名ヲ記載シ且番號及交付ノ月日ヲ朱記スヘシ但シ本條ノ場合ニ於テハ注文明細帳ニモ交付ノ年月日ヲ朱記スヘシ

第七條　注文ヲ受ケ不審ト認ムルトキハ警察官吏ニ密告スヘシ

第八條　官印又ハ(國私)立銀行諸會社ノ株券版面及學校病院諸會社等ノ印章類ノ注文ヲ受タルトキハ必ス注文主ヨリ其注文ノ證憑トナルヘキ書面ヲ受取保存スヘシ

第九條　印判(俗ニ出來合判ト稱スルモノ)ヲ販賣スルトキハ第五條及第六條ニ準シ注文明細帳ヘ買受人ノ住所氏名ヲ本人ニ詳記(自書スル能ハサル者ハ代書スルモ妨ナシ)セシメ其印影ヲ氏名ノ上ニ押寫スヘシ

第十條　營業上ニ關シテハ助業者ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スルモノトス

第十一條　此規則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ヲ以テ罰セラルヘシ

第十二條　此規則ニ違背スルカ又ハ他ノ犯罪アル者ハ其情狀ニ依リ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

注文明細帳記載式

印章　何(府縣)何(郡區)何(町村)何番(戸地)

第　號　印影　注文人　氏　名

年　齡

同　上

右受取人　氏　名

明治何年何月何日交付

同　上

版面注文人　同　上

同　上

同　上　同　上

版面寫影帳式

何(府縣)何(郡區)何(町村)何番(戸地)

注文主　氏　名

同　上

右受取人　氏　名

第　號　版影

明治何年何月何日交付

●彫刻業取締規則施行手續

明治十九年九月
本甲第二一三號

第一條　彫刻業ヲ屆出ルトキハ營業停止又ハ禁止ヲ受タル者若クハ其家族或ハ他人ノ名義ヲ借リ營業ヲ爲ス者ニアラサルヤ否ヲ審査シ牴觸セサルトキハ之ヲ許可スヘシ

第二條　規則第四條ニ依リ帳簿ノ檢印ヲ願出タルトキハ該帳簿初葉ニ年月日檢査ノ旨ヲ記シ且紙數ヲ付記シテ署印ヲ押捺シ尙每葉署印ヲ以テ契印スヘシ

第三條　營業ヲ停止又ハ禁止スヘキ者アルトキハ其事由ヲ具シ伺出ヘシ

第四條　營業者其營業上ニ關シ(情ヲ知テ僞印ヲ彫刻スルノ類)禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其事由ヲ具申スヘシ

第五條　營業ヲ停止又ハ禁止セラレタル者アルトキハ各警察署ニ通知スヘシ但分署ヘハ本屬警察署ヨリ通知スルモノトス

第六條　注文明細帳及版面寫影帳ハ時々臨檢スヘシ但臨檢シタルトキハ年月日檢スト記載シ捺印スヘシ

第七條　檢査員ニハ證票ヲ付與シ臨檢ノ際營業者ニ示サシムヘシ但檢査終リタルトキハ證票ヲ返却セシムルモノトス

第六節　慈善行商　消毒業

●慈善行商取締規則

大正十一年三月三日
京都府令第十四號

慈善行商取締規則左ノ通定ム

慈善行商取締規則

第一條　本則ハ他人ノ住宅ニ就キ物品ノ慈善購買ヲ求ムル行商者ニ之ヲ適用ス

第二條　行商ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ手札形寫眞二枚ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ知事ノ免許ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　本籍、住所、氏名、年齡

二　目的

三　物品ノ種類及其ノ最高價額

四　地域

免許證樣式　(用紙鳥ノ子)

五　期間

六　戰傷者ニ在リテハ恩給證書ノ寫

七　十四歲未滿ノ者ナルトキハ監督者ノ連署

第三條　行商者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一　行商ノ際ハ必ス免許證ヲ携帶スルコト

二　免許證ヲ他人ニ貸與セサルコト

三　夜陰ニ行商ヲ爲サヽルコト

四　欺罔ノ手段ヲ用ヰ又ハ强テ購買ヲ求メサルコト

五　警察官吏又ハ購買者ノ求アルトキハ免許證ヲ提示スルコト

第四條　免許證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ五日以內ニ知事ニ屆出テ再交付ヲ受クヘシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以內ニ知事ニ免許證ヲ返納スヘシ但シ第一號ノ場合ハ戸籍法ノ屆出義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ

一　行商者死亡シタルトキ

二　許可ヲ取消サレタルトキ又ハ期間滿了若ハ廢業シタルトキ

第六條　警察署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本則ニ定ムルモノノ外特別ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　本則ニ違反シ又ハ知事ニ於テ不適當ト認ムルニ至リタルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ行商ヲ停止スルコトアルヘシ

第八條　第二條、第三條ノ規定又ハ第七條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第五條ノ規定又ハ第六條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

行商者十四歲未滿ナルトキハ前二項ノ規定ハ其ノ監督者ニ之ヲ適用ス

表面

二寸五分　　二寸五分

行商ノ目的
物品ノ種類及其ノ價額
行商區域
期間
本證面ト異動欄

四寸

第　號
原籍
住所
慈善行商免許證
大正　年　月　日

氏名
年月日
京都府印

〔京都警〕

折目

裏面

注意

一　行商ノ際ハ必ス免許證ヲ携帶スヘシ
二　免許證ヲ他人ニ貸與スヘカラス
三　夜陰ニ行商スヘカラス
四　欺罔ノ手段ヲ用キ又ハ强テ物品ノ購買ヲ求ムヘカラス
五　警察官吏又ハ購買者ノ求アルトキハ本證ヲ提示スヘシ

〔京都警〕

寫眞貼付

◉慈善行商取締規則執行手續

大正十一年三月三日
京都府訓令第七號

警察部　警察署

慈善行商取締規則執行手續左ノ通定ム

第一條　警察署ニ於テ規則第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ之ヲ進達スヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日
二　性行及經歷
三　目的ノ正否
四　物品ノ時價
五　犯罪及前科

第二條　警察部及警察署ニ別紙樣式ノ臺帳ヲ備付シ所定事項ヲ記入スヘシ

第三條　規則第七條ノ規定ニ依ル處分ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ事實ヲ具シ進達スヘシ

樣式（用紙半紙二ツ折）

經由警察署名	本項ハ警察部臺帳ニ限ル
番號　第　號	
免許ノ年月日	
本籍、住所、氏名生年月日	（監督者在ル場合ハ之カ住所氏名年齡ヲ併記スルコト）
目的	
物品ノ種類及其ノ價額	

〔京都警〕

●消毒業取締規則

大正十一年八月十五日
京都府令第六十一號

消毒業取締規則左ノ通定ム

消毒業取締規則

第一條　本令ニ於テ消毒業ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル建設物、被服、器具其ノ他ノ物件ノ消毒ヲ爲ス營業ヲ謂ヒ消毒所ト稱スルハ消毒業者カ其ノ營業ノ爲ニ設ケタル一定ノ消毒作業所ヲ謂フ

第二條　消毒業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ願出許可ヲ受クヘシ第二號、第三號、第五號乃至第九號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　出願人ノ住所、氏名、年齡、商號、法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地、代表者氏名及定款
二　消毒所及營業所ノ所在地
三　事業經營方法（資本、收支豫算關係ヲ示セル明細書

地域	期間	異動	事項

四　四隣五町以內ニ於ケル第三條各號ノ關係ヲ示セル見取圖
五　敷地ノ面積、建物ノ坪數、建物ノ構造仕樣書竝其ノ平面、正面、斷面及配置圖
六　消毒作業ニ要スル各種設備ノ構造仕樣書及其ノ圖面竝器具器械ノ種類、名稱、箇數
七　消毒物件取扱及消毒ノ方法竝主任者ノ氏名經歷
八　消毒料金
九　落成期日

工事落成スルモ屆出認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三條　左ニ揭クル場所ニ在リテハ消毒所ノ設置ヲ許可セス但シ土地ノ情況等ニ依リ特ニ許可スルコトアルヘシ

一　皇宮、離宮ヲ離ル三百間以內ノ土地
二　御陵ヲ離ル百八十間以內ノ土地
三　御墓ヲ離ル六十間以內ノ土地
四　京都市內
五　建造物、河川、道路等ニ關シ公害アリト認ムル土地

第四條　消毒所ハ左ノ設備ヲ爲シ有毒部ト無毒部トヲ區別シ其ノ境界ハ石、煉瓦、木材ノ類ヲ以テ高サ六尺以上ノ隔壁ヲ施シ出入口ハ各別ニ之ヲ設クヘシ

一　未消毒品置場
二　消毒室
三　既消毒品置場
四　洗濯所及浴場
五　燒却場及汚水溜
六　其ノ他當廳ニ於テ必要ト認ムルモノ

〔京都警〕

第二編　保安　第四章　營業

第五條　消毒所敷地ノ周圍ニハ外部ヨリ見透シ得サル樣適當ノ牆塀ヲ設ケ有毒部ニ於ケル各種ノ設備ハ敷地境界ヨリ二間以上ノ距離ヲ存スヘシ前項規定ノ制限ハ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第六條　未消毒品置場、消毒室、洗濯所、浴場ノ地盤竝之ニ通スル汚水溝及汚水溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造スヘシ

汚水溝及汚水溜ハ適當ナル覆蓋ヲ施シ且汚水溜ノ周緣ハ地盤ヨリ五寸以上高クスヘシ

第七條　未消毒品置場ヲ木造ト爲ストキハ其ノ內壁ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造スヘシ

未消毒品置場ニハ堅牢ナル鎖鑰ヲ施スヘシ

第八條　消毒所ハ時々消毒的清潔方法ヲ行ヒ消毒作業ニ因リ生シタル塵芥、汚水ハ燒却又ハ消毒スルニ非サレハ搬出シ又ハ公共溝渠ニ排泄スルコトヲ得ス

第九條　消毒物件運搬容器ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　容器ノ外側ハ其ノ用途ニ從ヒ左ノ如ク色別シ商號ヲ明記シ置クコト

未消毒品運搬用　黃色
既消毒品運搬用　青色
消毒器具類運搬用　黑色
其ノ他雜用

二　未消毒品運搬容器ノ內側ハ金屬板張トシ覆蓋ノ裝置ヲ爲スコト

第十條　營業者ハ帳簿ヲ備ヘ消毒依賴者ノ住所、氏名、消毒物件ノ種別、番號、員數、料金、消毒月日及受渡月日ヲ記載スヘシ

第十一條　當廳ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ消毒所ノ設備若ハ消毒作業ニ關シ特別ノ施設ヲ命シ又ハ消毒成績ノ試驗ヲ施行スルコトアルヘシ

第十二條　消毒業ヲ讓受ケムトスル者ハ其ノ關係ヲ證スルニ足ル書面竝第二條第一項第一號乃至第三號、第七號及第八號ノ事項ヲ具シ願出許可ヲ

受クヘシ

前項ノ規定ハ消毒業ヲ相續スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　第二條第一項第一號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ當廳ニ屆出ツヘシ

營業者廢業又ハ死亡シタルトキハ營業許可書ヲ添ヘ十日以內ニ屆出ツヘシ但シ死亡ノ場合ハ戶籍上ノ屆出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　工事落成期日ヲ經過シ仍落成セサルトキ

二　事業經營方法確實ナラスト認ムルトキ

三　營業者六箇月以上行方不明トナリ又ハ三箇月以上休業シタルトキ

四　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ衞生上危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ

第十五條　第二條、第七條第二項、第八條乃至第十條、第十二條及第十三條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條及第十四條ノ規定ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十六條　消毒業者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ニ依リ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

消毒業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

〔京都警〕

第十七條　本令ニ依リ當廳ニ提出スル願屆書類ハ其ノ營業所又ハ消毒所所在地ノ所轄警察署ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ消毒ニ關シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノニハ之ヲ適用セス

●消毒業取締規則施行手續

大正十一年八月十五日
京都府訓令第三十三號

警察署

消毒業取締規則施行手續左ノ通定ム

第一條　消毒業ノ許可ヲ與フヘキ者ノ標準ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　事業經營方法確實ナル者

二　相當ノ資產信用ヲ有シ公安ヲ害スル虞ナキ者

第二條　警察署長規則第二條及第十二條ノ規定ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ其ノ記載事項竝左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一　事業經營方法ノ確否

二　出願者ノ性行、資產及信用ノ程度

三　公安及衞生上危害ノ有無

四　其ノ他許否上參考トナルヘキ事項

第三條　警察署長規則第十三條ノ規定ニ依ル屆出ヲ受ケタルトキハ臺帳整理ノ上進達スヘシ

第四條　警察署長規則第十一條ノ規定ニ依リ施設ヲ命シ又ハ試驗ヲ施行スルノ要アリト認メタルトキ及同第十四條ノ規定ニ依リ營業ノ停止又ハ取消ノ要アリト認メタルトキハ事情ヲ具シ報告スヘシ

第五條　警察署ハ每月一回以上主任者ヲ消毒所ニ派出シ構造設備及消毒作業ノ適否ヲ査察セシムヘシ

〔京都警〕

第六條　警察部衞生課及當該警察署ニハ左ノ樣式ニ依ル消毒業臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スヘシ

名稱	摘要
許可年月日	
營業所又ハ事務所所在地	
消毒所所在地	
營業者ノ住所氏名年齡	
消毒所主任者氏名	
器具器械ノ種類、名稱箇數	
消毒物件取扱及消毒方法	
消毒料金	
備考	

第五章　交通

第一節　道路　橋梁　渡津

道路取締令施行細則

大正十一年十二月十二日
京都府令第百十八號

道路取締令施行細則左ノ通改正ス

道路取締令施行細則

第一章　通行

第一條　道路取締令第八條ニ依ル燈火ハ前方諸易キ箇所ニ之ヲ點スヘシ

第二條　貨物ノ積卸ヲ爲ス場合ヲ除クノ外交通類繁ナル道路ニ牛、馬諸車等ヲ駐ムヘカラス

第三條　道路ニ於テ諸車ヲ連繫又ハ竝列シ若ハ後押ノミニテ進行スヘカラス

第四條　諸車二輛以上連續シテ進行スルトキハ後車ハ二間以上ノ間隔ヲ保ツヘシ

第五條　京都市内ニ於テハ牛馬車ハ幅員二間未滿ノ道路ヲ通行スヘカラス
但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　十六歳未滿ノ者、牛車、馬車ノ馭者トナリ又ハ十四歳未滿ノ者牛馬ヲ率キ若ハ之ヲシテ率カシムルコトヲ得ス

第七條　牛馬車ハ口取ヲ爲スヘシ
前項ノ口取ヲ爲ス者ハ乘車スヘカラス但シ馭者臺ノ設ケアルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　惡癖又ハ疾病アル牛馬ヲシテ荷車ヲ輓カシムルコトヲ得ス但シ惡癖制禦ノ裝置ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條　道路ニ於テ牛、馬、諸車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ速ニ警察官吏ニ申告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二章　荷車

第十條　荷臺ノ面積十八平方尺未滿ノモノハ之ヲ小車トス
小車ノ輪帶幅竝積載量ハ左ノ制限ニ從フヘシ
一　輪帶幅一寸以上（荷臺ノ長サ五尺未滿ノモノヲ除ク）
二　積載量百二十貫以内（車臺ノ重量ヲ含ム）

第十一條　荷臺ノ長サ及幅ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
一　牛車　長サ十一尺　幅三尺
二　馬車　長サ十一尺　幅三尺
三　大車　長サ十一尺　幅二尺五寸

第十二條　牛車、馬車ノ前輪ハ後輪ト其ノ輪帶幅ヲ同一ニスヘシ

第十三條　荷車ニ地揩木ヲ附スルトキハ左ノ制限ニ從フヘシ
一　車體ノ後端ヨリ一尺以上突出セシメサルコト
二　木材ヲ用フルコト
三　地揩面ヲ三十平方寸以上ト爲スコト

第十四條　荷車ノ所有者ハ荷臺ノ右側諸易キ箇所ニ其ノ住所、氏名及車體ノ重量ヲ明記スヘシ

第十五條　道路取締令第十六條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ
一　積荷ノ種類
二　重量、容積
三　荷車ノ種類
四　通路及期間

五　道路取締令第十二條第二項ニ該當スルモノニ在リテハ其ノ裝置

第三章　自轉車

第十六條　自轉車ノ所有者ハ後輪泥除表面ニ其ノ鑑札番號ヲ明記スヘシ
前項番號ノ文字ハ太サ三分、幅一寸五分、間隔七分トシ下付郡區役所ノ頭字ヲ冠シ左記樣式ニ依リ白色ニテ記スヘシ但シ公用鑑札ニ在リテハ郡區役所ノ頭字ノ下ニ公ノ字ヲ加フヘシ

愛一、二三七

第十七條　自轉車ニハ完全ナル制動裝置及音響器ヲ備フヘシ

第十八條　前項ノ義務ハ其ノ所有者及使用者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ
三輪車以上ノ自轉車ハ長サ八尺幅四尺ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條　道路ニ於テ自轉車ヲ使用スルトキハ左ノ制限ニ從フヘシ
一　相當ノ座席ナクシテ二人以上同乘セサルコト
二　曲乘又ハ之ニ類スル行爲ヲ爲ササルコト
三　雜者ノ場所ニ於テ乘車セサルコト
四　併行又ハ競爭ヲ爲シ若ハ諸車ヲ連繫セサルコト
五　長大過重其ノ他危險ノ虞アル物件ヲ積載又ハ携帶シテ乘車セサルコト

第二十條　第十六條乃至第十九條ノ規定ハ自動車取締令第三十三條ニ該當スル自動車ニ之ヲ準用ス

第二十一條　十四歳未滿ノ者前條ノ自動車ヲ運轉シ又ハ之ヲシテ運轉セシムヘカラス

第四章　安寧及風紀

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ日時、通路及方法ヲ具シ出發地警察署ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　市街地ノ道路ニ於テ徒歩競爭ヲ爲サムトスルトキ
二　道路ニ神輿、山車、屋臺等ヲ出サムトスルトキ
三　道路ヲ經テ建造物ヲ移轉シ又ハ覆木ヲ用ヒテ物件ヲ運搬セムトスルトキ

第二十三條　工事ノ爲道路占用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ占用中現場諸易キ箇所ニ占用許可ノ年月日、期間及工事ノ種類ヲ揭示スヘシ

第二十四條　道路ヲ掘鑿シ又ハ道路ニ於テ作業スル場合ハ左ノ各號ニ從フヘシ
一　施工ノ區域長キニ渉ル場合ニ於テハ之ヲ適當ニ區分シ一區ノ工事又ハ作業ノ終リタル後ニ非サレハ他ノ區ニ著手セサルコト
二　掘鑿シタル土砂、施工材料及器具ノ類ハ道路ノ一側ニ片寄セ置クコト
三　道路ヲ橫斷シテ施行スル場合ハ之ヲ二分シ其ノ一半ヲ終リタル後ニ非サレハ他ノ一半ニ著手セサルコト
四　交通特ニ頻繁ナル要路ニ於テハ夜間作業其ノ他交通上支障ナキ方法ニ依ルコト
五　交通頻繁ナル道路ニ於テ工事ヲ執行スルトキハ其ノ工事施行箇所ニ工事施行期間、起業者名及請負者名ヲ榜示スルコト
六　施行後ノ埋戻ハ搗固ヲ完全ニスルコト
前項ノ義務ハ占用者工事請負人及現場監督者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第二十五條　道路ニ於テハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一　荷造、修繕其ノ他交通ノ妨害トナルヘキ作業ヲ爲ササルコト
二　奇異ノ扮裝ヲ爲ササルコト
三　交通頻繁ノ場所ニ於テ印刷物ノ類ヲ撒布セサルコト

第二十六條　道路又ハ沿道ノ土地ニ於テ演藝、讀賣其ノ他ニ依リ人寄ヲ爲

シ交通ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五章　清潔

第二十七條　市街地又ハ人家連檐ノ箇所ニ於ケル道路ノ掃除及撒水ハ道路管理者ニ於テ施行スルモノノ外沿道居住者ニ於テ其ノ近接ノ一半ヲ爲スヘシ但シ居住者ナキトキハ家屋又ハ土地ノ所有者若ハ管理人ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　店頭其ノ他道路ニ面シタル場所ニ不潔又ハ惡臭ヲ發スルモノヲ置クヘカラス

第二十九條　沿道ノ便所又ハ汚物溜ニハ適當ナル圍又ハ覆ヲ設クヘシ

第六章　罰則及補則

第三十條　第二條乃至第八條、第十四條乃至第十七條、第二十一條、第二十三條、第二十七條乃至第二十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條　第九條、第十三條、第十九條、第二十二條、第二十四條乃至第二十六條ノ規定ニ違反シタル者、第十條第二項第十一條ノ規定ニ違反シタル荷車ヲ使用シタル者又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル自轉車ヲ乘用シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十二條　道路取締令及本則ハ道路法第一條ニ依ル道路ニ非ラスシテ一般交通ノ用ニ供スル道路ニ之ヲ準用ス

附則

本則第十六條ノ規定ハ大正十二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●道路及其ノ附屬物ノ占用許可又ハ承認ニ際シ所轄警察署長ヘ照覆ノ件

大正十年四月
保第三六號

道路法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル占用ノ許可又ハ承認ニ關シテハ大正九年七月一日内務省訓令第十一號ニ基キ御處理可相成義ニ候モ右ハ交通警察上至大ノ關係ヲ有スル義ニテ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付テハ該訓令第七條ニ規定セルモノヲ除クノ外所轄警察署長ヘ照覆ノ上御處理相成樣致度依命此段通牒候也

●道路及其ノ附屬物ノ占用許可又ハ承認ニ關スル件

大正十年九月
保第七、七一一號

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通府下道路管理者ヘ通牒致シ置キ候ニ付テハ管理者ヨリ該照會アリタルトキハ速ニ之カ調査ノ上意見ヲ附シ回報可相成ハ本年三月通牒ノ次第モ有之候モ由來管理者ニ於テ動モスレハ之カ照覆ヲ厭フノ傾向アルハ主トシテ其ノ照覆ニ多數ノ日子ヲ費シ爲メニ時機ヲ失スルニ起因スルモノヽ如ク思惟セラルヽヲ以テ斯ル場合ハ電話其ノ他便宜ノ方法ニ依リ可及的迅速ニ調査ノ上回報相成樣被致度

○府下道路管理者ヘ通牒

保第七、七一一號　大正十年九月三十日

京都府内務部長　高橋守雄
京都府警察部長　宮脇梅吉

道路ノ占用及通行制限ニ關スル件

道路及其附屬物ノ占用許可又ハ承認ニ關シ所轄警察署長ヘ照覆ノ件ニ付テハ本年四月八日保第三六號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處近來動モスレハ之レカ照覆洩ノ向有之候由甚タ遺憾ニ付爾今右樣ノ儀無之樣致サレ度尚道路取締令第十七條ニ依リ工事ノ爲メ通行ノ禁止又ハ制限相成候場合ハ之亦交

〔京都警〕

通上至大ノ關係ヲ有スル儀ニ付該處分前所轄警察署長ヘ通報相煩シ度依命此段及通牒候也

●京都市街ニ於ケル道路ニ附屬スル溝渠ノ覆蓋敷設又ハ修補ニ關スル件

明治四十一年二月二十一日
京都府令第十一號

京都市街ニ於ケル道路ニ附屬スル溝渠ノ覆蓋ハ從來市ニ於テ經營シタルモノヽ外當分ノ内慣行ニ依リ其道路ニ沿フ土地所有者居住人若ハ使用人ニ於テ敷設又ハ修補スヘシ

本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●福知山町ニ於ケル道路附屬溝渠ノ覆蓋ニ關スル件

明治四十三年八月三十日
京都府令第五十八號

福知山町ニ於ケル道路ニ附屬スル溝渠ノ覆蓋ハ從來町ニ於テ經營シタルモノヽ外當分ノ内慣例ニ依リ其ノ道路ニ沿フ土地所有者居住人若ハ使用人ニ於テ之カ敷設及修補ヲ爲スヘシ

本令ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●京都御苑内街路取締規則違犯者取締ニ關スル件

明治二十五年六月
保收第五五八八號

京都御苑内ニ於テ街路取締規則ニ違犯シ皇宮警察ヨリ最寄警察署又ハ巡査ヘ引渡シタル者アルトキハ同則ニヨリ處分シ且御苑内道路ニ係ル取締ノ向ハ警察署ニ於テモ注意シ若建物樹木等主殿寮ノ被害ニ係ルトキハ同寮出張所ヘ便宜通報セラルヘシ

〔京都警〕

●露店屋臺店指定地

明治四十年八月二十七日
京都府令第五十一號

改正　明治四一年京都府令第七號、四二年第八五號、四三年第七三號、四五年第五八號、大正二年第八號、四年第四八號、六年第五四號、八年第二九號、九年第六八號、一三年第八八號

左ノ場所區域内ニ限リ露店屋臺店ヲ出スコトヲ得

京都市上京區

一大宮通ノ内
　北ハ寺ノ内通上ル前ノ町ヨリ南ハ立賣上ル樋口町迄
一寺ノ内通ノ内
　大宮東入妙蓮寺前町
一五辻通ノ内
　千本以東大宮迄
一下立賣通ノ内
　堀川以西淨福寺迄
一西洞院通ノ内
　椹木町上ル東裏辻町椹木町下ル夷川町
一寺町通ノ内
　二條以南三條以北東側
一下御靈圖子
　寺町以東新烏丸迄北側

一竹屋町通ノ内
　寺町以東新烏丸迄北側
　寺町以西御幸町迄南側
一夷川通ノ内
　寺町以東新烏丸迄北側
　寺町以西御幸町迄南側
京都市下京區
一三條通ノ内
　寺町以西高倉迄
　西洞院西入鹽屋町以西神泉苑西町迄
一四條通ノ内
　小橋以西河原町迄
　寺町以西柳馬場迄
一寺町通ノ内
　四條下ル大雲院前ヨリ佛光寺通迄東側
一松原通ノ内
　寺町以西柳馬場迄
　小田原町西入中野町以西猪熊通東入北門前町迄
一五條通ノ内
　寺町西入北側（七間五尺）
一問屋町通ノ内
　五條下ル一丁目朱雀町同二丁目上人町
一大和大路通ノ内
　松原通以北建仁寺北門迄及五條通下ル三丁目東棟梁町ヨリ南三丁但京都帝室博物館前ハ西側ニ限ル

〔京都警〕

一正面通ノ内
　本町通ヨリ東六十間豐國神社石段下迄
紀伊郡伏見町ノ内
一大手筋通　一上風呂屋　一下風呂屋
一南濱　一東濱南　一三栖向
一豐後橋　一向島橋詰町
一丹波橋通（自字銀冶屋至字桝形自字東大文字至字北尼崎）
久世郡
一宇治町宇宇治小字橋本町（宇治橋西詰南入廣場）
一同町宇治神社御旅所前廣場
一淀町宇下津町ノ内伊勢宮神社入口向側角
一同町宇新町ノ内中央天神社及宇間屋町
綴喜郡
一八幡町ノ内字九番組及六番組
相樂郡木津町ノ内
一宇本町一丁目　一同二丁目　一同三丁目
一同五丁目　一宇南大路町
一宇北大路町　一宇小寺町
南桑田郡龜岡町ノ内
一宇内丸町　一宇本町
一宇河原町川橋詰西川端　一宇新町
船井郡園部町ノ内
一宇宮町ノ内小字西辻
一宇本町ノ内小字廣小路及小字教傳寺前町
天田郡福知山町ノ内

〔京都警〕

一宇廣小路
何鹿郡綾部町ノ内
加佐郡舞鶴ノ内
一宇竹屋　一宇大橋
加佐郡新舞鶴町ノ内
一宇濱（三條通ノ内南ハ大門通ヨリ北ハ富士通迄）
　（七條通ノ内南ハ敷島通ヨリ北ハ八島通迄）
同宇（大門通北側筑波通突當リヨリ秋津洲通突當リ迄ノ間）
同郡餘部町ノ内
一宇餘部上（本町通ノ内四丁目ヨリ五丁目迄）
一宇餘部下（西大門通ノ内四丁目ヨリ五丁目迄）
同宇（本町通一丁目東側延長五十八間）
與謝郡宮津町ノ内
一新濱裏海岸廣場
一宇萬年
一宇小川
中郡峰山町ノ内
一宇御旅町　宇吳服町ノ内通稱杉谷口
竹野郡網野町ノ内
一宇網野町淺茂川街道中間人街道分岐點西一町ノ所ヨリ西ヘ一町ノ間
熊野郡美濱町ノ内
一宇十樂

●露店日覆制限

明治二十年七月
送第四一〇號

市部警察（分）署

第二編　保安　第五章　交通

露店ハ日覆ヲ爲スコトヲ許サヽル儀ト心得ヘク但高サ一丈六尺以上ノモノハ此限ニアラス

●通行止取扱心得

明治三十三年八月
保訓示第四三號

第一條　道路橋梁開鑿架設修繕等ノ爲メ關係ノ官衙若クハ派出員又ハ市役所町村役場ヨリ通行止ノ照會アリタル時若クハ人民ヨリ出願シタルトキハ事實審査ノ上榜標ヲ建設シ停止方取計フヘシ

第二條　行戻リヲ要スル場所ニ於テ通行ヲ停止シタルトキ又ハ假道假橋ヲ知得シ難キ實アルトキハ指示標ヲ建設スヘシ

第三條　通行ヲ停止スルトキハ可成道路橋梁ノ一方ヲ開キ又ハ假道假橋若クハ渡船ヲ設ケシムル等勉メテ通行ノ便ヲ計ルコトニ注意スヘシ

第四條　通行止ノ處分ヲ爲シタル後故ナク工事ヲ遷延ニ附スル者アルトキハ督促シ時宜ニ依リ本官ニ報告スヘシ

第五條　通行止ノ處分ヲ爲シタルトキハ期限及場所ヲ詳記シ關係族團又ハ聯隊ヘ通報スヘシ

第六條　通行止ノ期限ヲ經過シ又ハ期限以内ニ工事落成シ解除ヲ要スルトキハ直チニ榜標ヲ引揚クヘシ

第七條　榜標及指示標ハ左記雛形ニ準據シ警察費ヲ以テ調製スヘシ

榜標

凡例

一　通行止ノ種類ハ概ネ左ノ三種トシ其必要ニ依リ選定スヘシ但第一號第二號但書ハ通行ヲ許シ支障アリト認メタル場合ハ記載スルノ限リニアラス

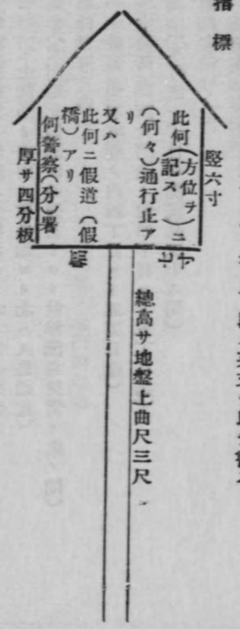
一　牛馬諸車通行止但シ郵便物遞送車及人力車空車ハ此限リニアラス（英文略ス）

一　通行止但シ郵便物遞送車及郵便脚夫郵便電信集配人ハ此限リニアラス（英文略ス）

一　片側通行止（英文略ス）

一　榜標ハ上段ハ邦文ヲ以テ書シ下段ハ英文ヲ以テ書ス

指標



●往來竝ニ車馬通行止ニ關スル件

明治二十三年八月
警本第三二三號

道路橋梁修築等ニ際シ衆庶往來竝ニ車馬通行止ノ儀別紙内務大臣訓令ヲ遵守スヘシ

（別紙）

道路橋梁修築等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ハ公衆ノ不便ヲ感スル尠ナカラサル處ナルニ依リ右等通行止ヲ爲ス場合ニ於テハ事實精査ヲ遂ケ工事上大ナル支障アルカ又ハ通行ニ危險ノ虞アルモノヲ除クノ外ハ可成一般交通ノ便ヲ缺カサル樣注意セラルヘシ

●道路取締令ニ依ル通行制限ノ件

大正十一年七月二十八日
京都府告示第三百二十四號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ京都府何鹿郡綾部町字本宮及同郡同町字味方立會地内綾部橋ノ通行ヲ左ノ通制限セリ

一　自動車ハ空車ニテ徐行スルコト

二　重量百五十貫以上積載シタル牛車馬車其ノ他ノ荷車ハ通行セサルコト

三　牛車、馬車ハ總テ徐行シ二輛以上連續シテ進行スルトキハ各車ノ間隔ハ五間以上ヲ保ツコト

四　隊伍ヲ組ミテ通行スルトキハ伍間ハ一間以上ノ間隔ヲ保ツ且ツ一時ニ二百名以上渡橋セサルコト

大正十一年八月八日
京都府告示第三百三十二號

改正　大正一二年京都府告示第一三號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ自四月一日至九月三十日間自午後六時至同十二時自十月至三月一日至三十一日間自午後四時至同十二時ノ間左ノ區域ニ於ケル諸車ノ通行ヲ禁止セリ

一　京都市上京區寺町通ノ内二條通以南三條通以北

二　同市同區西堀川通ノ内中立賣通以南下立賣通以北

大正十二年二月十三日
京都府告示第八十二號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ京都府相樂郡中和東村地内中和東橋ノ通行ヲ左ノ通制限セリ

一　自動車ハ空車ニテ徐行スルコト

二　牛車、馬車其ノ他ノ荷車ニシテ積載量（〻體ノ重量ヲ合セ）二百貫以上ノモノハ通行セサルコト

三　牛車、馬車ハ總テ徐行シ二輛以上連續シテ進行セサルコト

大正十二年二月二十三日
京都府告示第百六號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ午前九時ヨリ同十二時迄ノ間左ノ箇所ニ於ケル諸車ノ通行ヲ禁止ス

一　京都府與謝郡宮津町字魚屋ノ内東堀川通ハ島崎以南新濱通ニ至ル區域

二　同府同郡同町字魚屋ノ内新濱海岸通ハ東堀川通以西仲町通ニ至ル區域

大正十三年一月十八日
京都府告示第三十號

道路取締令第十八條第一項ニヨリ左ノ通牛馬諸車ノ通行ヲ禁止セリ

京都市上京區椹木町通　小川通以東　釜座通以西　自午前七時至正午

京都市上京區西洞院通　丸太町通以北　下立賣通以南　自午前七時至正午

京都市上京區西堀川通　下立賣通以北　中立賣通以南　自午後四時至午後十二時

京都市下京區新京極一圓

京都市下京區先斗町遊廓區域一圓

京都市下京區錦小路通　高倉通以東　寺町通以西　自午前七時至午後七時

京都市下京區宮川町川端二丁目ヨリ五條通迄

京都市下京區古宮川町二丁目ヨリ五條通迄

京都市下京區問屋町通五條下ル處ヨリ百二十間ノ間　自四月一日至九月三十日　自午前五時至正午　自十月一日至三月三十一日　自午前七時至正午

大正十三年四月二十五日
京都府告示第三百八號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ府縣道木津笠置線相樂郡笠置村地内笠置橋ノ通行ヲ左ノ通制限セリ

一　各支塔ト橋臺トノ間ニ同時ニ三十人以上兩支塔間ニ同時ニ五十人以上通行スルコト

二　歩調ヲ揃ヘテ通行スルコト

三　橋上ニ立止マルコト

四　重量百五十貫以上ノ荷重ヲ積載シタル牛馬車ヲ通行セシムルコト

五　二十間以下ノ間隔ヲ以テ車輛ヲ同一方面ニ通行セシムルコト

六　實車ヲ行交ヒセシムルコト

七　八人乘以上自重一噸以上ノ乘用自動車又ハ積荷ヲ加算シタル重量一噸以上ノ荷物自動車ノ通行スルコト

八　一時間二哩半以上ノ速力ニテ各種自動車ノ通行スルコト

大正十三年五月二日
京都府告示第三百十七號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ午前七時ヨリ午後八時迄京都市下京區錦小路通寺町高倉間ノ牛馬諸車通行ヲ制限セリ但シ左ニ揭クルモノハ此限ニアラス

一、郵便車
二、電報配達自轉車
三、乳母車
四、區域内ニ出入スル荷車ニシテ警察官ノ承認ヲ經タルモノ

大正十三年五月二十七日
京都府告示第三百六十二號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ京都府久世郡御牧村地内淀大橋ノ通行ヲ●左ノ通制限ス

一　貨物自動車、七人乘以上ノ乘用自動車、牛馬車、砲車及輜重車ハ通シテ同一徑間上ニ同時ニ二臺ヲ超過シテ通行セサルコト
二　貨物自動車、七人乘以上ノ乘用自動車、牛馬車、砲車及輜重車ハ十五間以下ノ間隔ヲ以テ同一方向ニ進行セサルコト
三　人牛馬及諸車ハ一時間二哩半(一秒時間約六尺)以上ノ速度ニテ通行セサルコト但シ自轉車ハ此ノ限ニアラス
四　總重量三噸(八百十貫目)以上ノ諸車ノ通行セサルコト
五　二列ヲ超過スル徒歩縱列又ハ一列ヲ超過スル乘馬縱隊ノ通行セサルコト
六　橋上ニ於テ進行ヲ停止セサルコト

大正十三年六月二十四日
京都府告示第四百八號

〔京都警〕

道路取締令第十八條第一項ニ依リ船井郡上和知村地内桝谷橋通行ヲ左ノ通制限ス

一　自動車、牛馬車ハ間隔十間以上ヲ保チ徐行スヘシ
二　自重及積載量ヲ通算シ二百貫ヲ超過スル諸車ノ通行ヲ禁止ス
三　徒歩縱列ハ一列ニテ徐行スヘシ
四　乘馬隊ハ一列ニテ間隔五間以上ヲ保チ徐行スヘシ
五　橋上ニテ進行ヲ停止スルコトヲ禁ス

大正十三年八月十二日
京都府告示第四百八十九號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ船井郡園部町桐ノ庄村園樹橋ノ通行ヲ左ノ通制限ス

一　自重及積載量ヲ通算シ五百五十貫以上ノ諸車ノ通行ヲ禁ス
二　自動車及牛馬車ハ間隔拾間以上ヲ保チ一時間六哩以内ノ速度ニテ通行スヘシ
三　橋上ニ於テ諸車ノ通行ヲ停止スルコトヲ禁ス

大正十三年十一月七日
京都府告示第六百四十三號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ左ノ通牛馬諸車ノ通行ヲ禁止セリ
京都市下京區六角通武信神社前通ヲ西ヘ入南ニ至ル二十間

大正十四年三月十日
京都府告示第百九號

道路取締令第十八條第一項ニ依リ京都府綴喜郡井手村地内玉水橋及同郡八幡町地内御幸橋ノ通行ヲ左ノ通制限セリ

一自動車　四百五十貫(積載自重共)速力一時間六哩以下
二牛馬車　三百貫(積載自重共)

〔京都警〕

但シ二車連續運行ノ場合ハ各車五間以上間隔ヲ保ツコト

●郵便電報ノ遞送集配人往來止ノ箇所通行ノ件

明治二十九年十二月
訓示第八五號

道路往來止若クハ車止ノ場合ニ郵便遞送及集配竝ニ電報配達人ヲシテ他ノ迂路ヲ取ラシムルトキハ通信ノ遲達ヲ來スヘクニ付右等ノ場合ト雖可成通過セシムル樣取計フヘシ

●堤防道路等ノ芝草刈取取締方

明治三十年七月
訓示第一五〇號

近來堤防及道路ノ法腹天端等ニ繁茂セル芝草ヲ窃カニ刈取スル者多々有之爲ニ雨水滲溜シ出水ノ際障害不勘候ニ付各土木工區出張所ニ於テ精密注意スルト雖其場所廣濶ナルノミナラス晝夜ヲ別タス隱見出沒窃取スルカ故ニ到底少數ノ出張員ニテ能ク之ヲ除却シ得サル趣ヲ以テ内務部ヨリ照會ノ次第モ有之候條各巡査ニ訓諭シ爾今部内ヲ巡回スルニ當リ深ク斯邊ニ注意シ是等ノ非行ヲ防遏スヘシ

明治三十年九月
訓示第二〇三號

本年七月二十九日訓示第一五〇號ヲ以テ堤防及道路ノ法腹天端等ニ繁茂セル芝草刈取禁制ノ儀ニ付訓示及置候處右ハ絶對的禁止スルニアラス刈取ヲ出願スル者アルトキハ調査ヲ遂ケ支障ナキ場所ニ限許可スルコトアリ又工事施行ニ際シ刈取ヲ必要トスルトキハ便宜所管土木工區出張所ヨリ所轄警察署分署又ハ巡査駐在所ヘ通知スル旨内務部ヨリ協議有之候條右了知スヘシ

明治三十二年一月
訓示第一號

明治三十年七月二十七日訓示第一五〇號及同年九月四日訓示第二〇三號ヲ以テ堤防及道路ノ法腹天端等ニ繁茂セル芝草刈取禁制ノ儀ニ付及訓示置タル處近來道路兩側溝渠及堤防等ニ農作物若クハ柴草等ヲ露積シ或ハ道路堤防ノ法腹土砂ヲ採掘シ或ハ浚渫シタル泥土ヲ路上又ハ河川ニ持出ス等ノ行爲ニ出ツル者アリ道路保存上障碍アルハ勿論交通上ニ於テモ妨害不勘趣ヲ以テ内務部ヨリ照會ノ次第モ有之候條各部下ニ訓諭シ是等不都合無之樣取締向勵行セシムヘシ

●警察官其他橋梁渡津等無錢通行ノ件

明治十九年四月
本甲第一二九號

橋梁渡津又ハ道路開鑿等總テ通行錢收受許可ノ場所無錢通行ノ廉追々增加相成候ニ付今般更ニ別紙ノ通其所在町村又ハ負擔者ヘ示達アリ

(別紙)

通行錢ヲ請求スヘカラサル者左ノ如シ

一制服ヲ著シ巡行スル憲兵
一隊伍ヲ組タル軍隊
一制服ヲ著スル警部巡査及巡査ノ護送スル囚人
一飛信遞送ノ脚夫竝ニ郵便集配人
但シ特ニ其脚夫タリ集配人タルヲ證スル服ヲ著スル者ニ限ル
一電信配達人
但特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ著シ若クハ左ノ樣形ノ印鑑ヲ携帶スル者ニ限ル

(印鑑樣形)

二寸五分

番號

○何地郵便電信局集配人

何ノ誰

二寸五分

第何號

何國

○何地電信取扱所配達人

何ノ誰

二寸五分

○明治年月日

何何地郵便電信局

○明治年月日

何何國何地電信取扱所

一囚人ヲ護送スル看守押丁及其四人

●消防組員橋梁渡津等無錢通行ノ件

明治二十七年六月
京都府訓令第二十一號

【郵役所】町村役場

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等本年勅令第十五號消防組規則ニ依リ設置シタル消防組員ニシテ水火災警防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲ爲シタルトキニ限其賃錢請求不相成旨其筋ヨリ訓令有之候條此旨免許人ニ示シ方取計フヘシ

第二節　電氣鐵道　索道

【京都警】

●電氣鐵道取締規則

明治三十七年十一月十八日
京都府令第四十二號

改正　明治四一年京都府令第三〇號、大正元年第三〇號

第一章　總則

第一條　本則ハ軌道條例ニ依リ特許ヲ得テ一般運輸ノ業ニ供スル電氣鐵道ニ適用ス

第二條　本則ニ於テ電車トハ客車及貨車ヲ併稱ス

第二章　營業者ニ對スル規定

第三條　電車線路ノ樞要ナル場所ニハ信號標又ハ信號人ヲ設置スヘシ
信號標又ハ信號人ヲ設置スヘキ場所竝信號方法ハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第四條　離合線以外ニ於テ電車停留場ヲ設ケムトスルトキハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第五條　電車ニハ車掌及運轉手ヲ附スヘシ但貨車ハ運轉手ヲシテ車掌ノ職務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第六條　電車ニハ制動器、避難器、音響器及車掌、運轉手間ニ通スル信號器ヲ裝置スヘシ但シ當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ驗速器ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　電車及之ニ附屬スル機械、器具ハ當廳ノ檢査ニ合格シ檢査證書ヲ有スルモノニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第八條　電車及之ニ附屬スル機械、器具ハ每年一回當廳ノ指定スル日時場所ニ於テ當廳ノ檢査ヲ受クヘシ但當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時檢査ヲ行フコトアルヘシ

【京都警】

第九條　電車及之ニ附屬スル機械、器具ハ清潔堅牢ニ保持シ破損シタルトキハ速ニ修繕ヲ加フヘシ
修繕ノ爲メ車體、車臺若ハ電動機ヲ變更シタルトキハ使用前當廳ノ檢査ヲ受クヘシ

第十條　電車ニハ其外部諸易キ場所ニ車輛ノ番號ヲ明記スヘシ

第十一條　電車ニハ行先ヲ示ス爲メ其前後ニ晝間ハ標札ヲ揭ケ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ

第十二條　電車ニハ夜間前照燈ヲ揭ケ且ツ車內及其前後ニ相當ノ光力ヲ有スル燈火ヲ點スヘシ但貨車ハ車內ノ點燈缺クコトヲ得

第十三條　電車ニハ車內諸易キ場所ニ車輛檢査證書及車掌、運轉手ノ氏名ヲ記シタル標札ヲ揭示スヘシ
客車ニハ前項ノ外乘客賃錢表及第三十條第三十一條ノ規定ヲ揭示スヘシ

第十四條　電車ハ特ニ許可ヲ得タル線路ノ外二車以上連結スルコトヲ得ス但故障ヲ生シタル車輛ヲ採引シ又ハ推進スル場合ハ此限ニアラス

第十五條　車掌、運轉手、信號人ノ採用ニ關スル資格及方法竝其服制ハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
當廳ノ認可ヲ受ケタル資格及採用方法ニ依ルニアラサレハ車掌、運轉手、信號人ヲ採用スルコトヲ得ス

第十六條　車掌、運轉手、信號人ニハ證票ヲ交付シ置キ解雇シタルトキハ之ヲ返還セシムヘシ
車掌、運轉手、信號人ニ交付スヘキ證票ノ樣式ハ當廳ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十七條　車掌、運轉手、信號人本則ニ違背シ又ハ當廳ニ於テ其就業上不適當ト認ムルトキハ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ依リ解雇ヲ命セラレタル者ハ當廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ再ヒ之ヲ採用シ又ハ私ニ使用スルコトヲ得ス

第十八條　左ノ場合ニ於テハ三日以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ但第二號ノ場合ハ檢査證書ノ書換又ハ再渡ヲ受ケ第三號ノ場合ハ檢査證書ヲ返納スヘシ
一、營業者ノ住所氏名ヲ變更シ又ハ會社ノ所在地名稱若クハ其代表者ヲ變更シタルトキ
二、車輛檢査證書ヲ亡失毀損シ又ハ其證書面記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ
三、車輛ノ使用ヲ廢止シタルトキ

第十九條　電車運轉上ヨリ生シタル危害ノ事故ハ直ニ其顚末ヲ具シ發生地ノ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第三章　車掌、運轉手、信號人ニ對スル規定

第二十條　車掌、運轉手、信號人ハ就業中制服ヲ著用スヘシ

第二十一條　車掌、運轉手、信號人ハ就業中證票ヲ携帶シ警察官吏ノ求アリタルトキハ之ヲ示スヘシ

第二十二條　車掌、運轉手、信號人ハ自己ノ職務ヲ他人ニ委託スヘカラス

第二十三條　車掌、運轉手、信號人ハ乘客竝公衆ニ對シ懇切ニ接遇シ侮慢ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第二十四條　車掌、運轉手、信號人ハ就業中酩酊スヘカラス又車掌、運轉手ハ行車中飮食、喫煙ヲ爲スヘカラス

第二十五條　車掌、運轉手ハ電車內ニ八種傳染病又ハ其疑アル患者ヲ發見シ若ハ死者アリタルトキハ最寄停留場又ハ離合線ニ停車シ乘客ノ散逸セサル樣注意シ速ニ警察官吏ニ屆出ツヘシ

第二十六條　車掌、運轉手ハ線路又ハ車輛ニ故障アルカ又ハ牛馬、諸車若

ハ公衆ニ對シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ運轉ヲ停止スヘシ警察官吏ニ於テ臨手其他ノ方法ヲ以テ停車ノ意ヲ示シタルトキ亦同シ

第二十七條　車掌ハ特ニ左ノ事項ヲ遵守スヘシ但第一號乃至第三號第五號乃至第七號ハ運轉手ニモ適用ス

一、定員外ニ客ヲ乘セ又ハ定額外ノ運賃ヲ請求セサルコト

二、運轉手臺ニ客又ハ貨物ヲ乘載セサルコト

三、運轉全ク止ミタル後ニ非サレハ客ヲ乘降セシメサルコト

四、客ノ乘降全ク終リタル後ニアラサレハ行車信號ヲ爲ササルコト

五、客ノ乘降場所ハ町衢ニ告知スルコト

六、老幼又ハ婦女乘降ノトキハ厚ク保護スルコト

七、第三十條ニ揭クル者ヲ乘車セシメサルコト

八、第三十一條ニ揭クル行爲ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ制止シ尙ホ肯セサルトキハ其乘車ヲ拒絕スルコト

第二十八條　運轉手ハ特ニ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、制限ノ速度ヲ超過シテ行車セサルコト及制限內ト雖道路ノ交叉部、街角、橋梁、坂路又ハ往來雜沓ノ場所ニ於テハ音響器ヲ鳴ラシ特ニ徐行スルコト

二、消防機械又ハ郵便車通行ノトキハ其進行ニ障礙ヲ與ヘサル樣徐行シ又ハ運轉ヲ停止スルコト軍隊、學生、生徒ノ隊伍及葬儀其他ノ行列通過スルトキ亦同シ

三、行車ノ前途約三十間以內ニ牛馬、諸車若ハ步行者アルトキハ音響器ヲ鳴ラシ警告スルコト

四、同一ノ方向ニ進行スル車輛ハ各車間約六十間以上ノ距離ヲ保ツコト

五、軌道交叉ノ場所ヲ通過セムトスルトキハ交叉部ヨリ約十間前ニ停止シ無難信號ヲ認メタル上進行スルコト

六、停留場又ハ離合線外ニ於テハ特ニ規定アル場合ノ外停車セサルコト

七、停車シタル場合ニ於テハ車掌ヨリ行車信號アルニアラサレハ運轉手始メサルコト

八、信號標又ハ信號人設置ノ場所ハ無難信號ヲ認メタル上ニアラサレハ進行セサルコト

九、運轉中ハ運轉手臺ヲ離レサルコト

十、運轉停止中運轉手臺ヲ離レムトスルトキハ制御機ノ把手ヲ外シ携帶スルコト

第二十九條　信號人ハ就業中澁リニ受持場所ヲ離ルヘカラス

第四章　乘客及公衆ニ對スル規定

第三十條　左ニ揭クル者ハ乘車スヘカラス

一、酩酊シタル者

二、八種傳染病、疥癬、癩病其他同乘者ニ厭忌ノ感ヲ起サシムヘキ疾患アル者

三、同乘者ニ不快ヲ感セシムヘキ不潔ノ容裝ヲ爲シタル者

四、臭氣ヲ發散シ其他同乘者ノ迷惑トナルヘキ物件ヲ携帶シタル者

第三十一條　乘客ハ左ノ行爲ヲ爲スヘカラス

一、肢體ヲ車外ニ出シ又ハ電氣裝置ヲ爲シタル機械器具ニ手ヲ觸ルヽコト

二、喫煙ヲ爲スコト

三、放歌、喧噪其他同乘者ノ迷惑トナルヘキコト

第三十二條　軌道又ハ軌道ニ接近スル場所ニ諸車、木石其他ノ物件ヲ置キ又ハ何等ノ方法ヲ問ハス電車ノ進行ヲ妨害スヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

【京都警】

第三十三條　重量ノ貨物ヲ積載シタル荷車ハ軌道外ニ相當ノ餘地アルトキハ軌道內ヲ通行スヘカラス

第三十四條　電車運轉ノ爲メ特ニ設ケタル專用軌道敷ヲ通行シ又ハ之ニ立入ルヘカラス

第五章　罰則

第三十五條　本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十六條　法人ノ業務ニ關シ法人ノ代表者其他ノ從業者又ハ雇人本則第二章ニ違背シタルトキハ前條ノ科料ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ被告人トス

第六章　附則

第三十七條　明治三十一年八月府令第六十一號私設電氣鐵道電車取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條　本則施行前設置シタル信號標竝信號方法ハ之ヲ變更スル場合ノ外第三條第二項ノ手續ヲ要セス

第三十九條　本則施行以前ニ雇入レタル車掌、運轉手ニシテ本則施行ノ際現ニ使用スル者ハ本則施行後ニ於テモ引續キ使用スルコトヲ得

●電氣鐵道取締規則執行方

明治三十七年十二月
保訓第八號

改正　明治四一年保訓第一〇號

明治三十七年十一月十八日京都府令第四十二號ヲ以テ電氣鐵道取締規則發布セラレタルニ付テハ其執行方ニ關シ左ノ事項ヲ訓示ス

一、電氣鐵道取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第七條乃至第九條ノ「附屬スル機械器具」トハ電動機、制御機、制動器、避雷器、驗遠器、音響器、信號器、前照燈、ランプ、標札等ヲ謂フ

【京都警】

二、營業者カ規則第九條ノ保持修繕ヲ怠ル事實ヲ認メタルトキハ速ニ其狀況ヲ報告セラルヘシ但シ破損ノ爲メ危害急迫ノ場合ハ相當處理スルコトヲ得此場合ハ直ニ其顚末ヲ報告スルヲ要ス

三、電車ノ車輛檢査證ハ第一號樣式ノ通リ定メラレタリ

四、規則第十四條ノ特ニ許可ヲ得タル線路トハ左ノ場所ヲ謂フ

一伏見線ノ一部（高倉新通陸橋以南伏見町終點迄）

二三宅線ノ一部（出町橋東詰田中村ヨリ三宅八幡前終點迄）

五、車掌、運轉手、信號人規則ニ違背シ又ハ就業上不適當ト認ムル者アリテ規則第十七條第一項ヲ適用スルノ要アリト認ムルトキハ其事實ヲ具シ報告セラルヘシ

六、規則第十九條ノ屆出ヲ受理シ又ハ事故ノ發生ヲ認知シタルトキハ直ニ其事實ヲ調査シ第二號樣式ニ依リ報告セラルヘシ但シ其重要ナルモノニアリテハ報告前卽時其概要ヲ電話ニテ報告スルコトヲ要ス

規則第十九條ノ事故ハ營業者ヨリ直ニ屆出ヘキコト、定メラルヽモ便宜車掌若クハ運轉手ヨリ巡査派出所、駐在所又ハ警察署、分署ヘ卽報シ追テ營業者ヨリ正式ノ屆出ヲ爲スモ規定ノ趣旨ニ違背セサルモノトス

七、規則第二十七條ハ乘客ノ保護ト車內ノ秩序維持ノ爲メ車掌ニ特別ノ義務ヲ負ハシメタルモノナレハ能ク其職權ヲ竭サシムルコトニ注意スルト同時ニ其職權ヲ濫用シ乘客ニ迷惑ヲ與ヘサル樣取締ラルヘシ

八、規則第二十八條ハ主トシテ危害豫防ノ趣旨ニ外ナラスト雖トモ左ノ點ハ特ニ注意スルヲ要ス

同條第二號ニ「消防機械ニ通行ノトキハ徐行又ハ運轉ヲ停止スヘシトアリ右ノ通行トハ出火場ニ赴ク場合ノミヲ指スモノトス又同號ニ隊伍行列通過ノトキモ亦徐行又ハ運轉ヲ停止スヘキコト、定メラルヽモ隊伍

行列カ全部通過スル迄電車ノ進行ヲ停止スルトキハ反テ一般交通ニ不便ヲ來スト認ムル場合ハ適宜ノ時機ヲ計リ「軍隊」ヲ除クノ外其隊伍及行列ノ通過ヲ中止シ電車ヲ進行セシムルコトヲ得ヘシ同條第六號ハ一般交通ノ妨害ヲ豫防センカ爲メ設ケタル制限ニシテ特ニ規定アル場合（第二十六條第二十八條第二號同條第五號等）ノ外停留場又ハ離合線外ニ於テハ一切停車スルヲ許サヽル趣旨ナルヲ以テ從前ノ如ク客ヲ乘降セシムル爲メ隨時停車スルヲ得サルモノトス

第一號樣式

車輛檢查證

車輛第號　第　號

營業者

乘客定員　人

明治　年　月　日

京都府

【京都警】

第二號樣式

電氣鐵道事故報告

一事故ノ種別

一發生ノ年月日

一發生ノ場所

一發生ノ原因

一被害ノ狀況

一處分ノ顚末

一車輛ノ番號及車掌運轉手氏名

年　月　日　警察署長名

【警部長ヘ宛】

●電氣鐵道取締規則ニ依ル信號人設置ノ場所竝ニ信號方法

明治三十七年十二月
警保局第四五七一號

市部各署下鴨伏見

今回電氣鐵道取締規則第三條ニ依ル信號人設置ノ場所竝ニ信號方法左ノ通リ認可セラレタリ

信號人設置ノ場所

一北野終點
一堀川通中立賣角
一寺町通丸太町角
一二條通寺町角
一木屋町通二條線路交叉點
一四條小橋
一五條小橋
一鹽小路新道上
一七條京都停車場前

一竹田街道奈良鐵道交叉點（奈良鐵道會社北角）
一竹田街道竹田口棒鼻
一京橋終點

右ノ外臨時往來雜沓ノ場合ニハ適宜人員ヲ增置スルモノトス

信號方法

電車通行ニ差支ナキトキハ綠色合圖ヲ示シ障碍アルトキハ赤色合圖ヲ示ス

合圖ハ晝間旗夜間ハ燈ヲ用フルモノトス

●電氣鐵道取締規則ニ依ル車掌其他服制

明治三十七年十二月
警保局第四六八四號

市部各署下鴨伏見

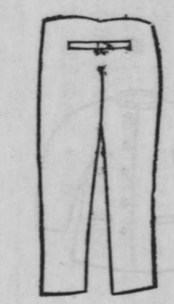
電氣鐵道取締規則第十五條ニ依リ京都電氣鐵道株式會社ノ車掌、運轉手、信號人ノ服制左記雛形之通リ認可相成候條此段及通知候也

上衣共通

表

【京都警】

背面



表面

運轉手及信號人外套

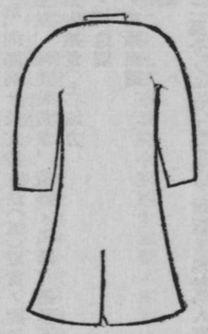
〔京都警〕

背面

表面

車掌外套

背面



〔京都警〕

●電氣鐵道取締規則ニ依ル車掌其他證票

明治三十七年十二月
警察辰第四六八四號

市部各署下鴨伏見

電氣鐵道取締規則第十六條ニ依リ京都電氣鐵道株式會社カ車掌、運轉手、信號人ニ交附スル證票ハ別紙ノ通リ相定メタル旨屆出候條此段及通牒候也

表

割印

第　號

證票　職名　原籍身分

交附明治　年　月　日

氏名
明治　年　月　日生

裏

京都電氣鐵道株式會社

運輸課印

●索道取締規則

明治四十四年五月二十三日
京都府令第九十四號

改正　大正一五年京都府令第一八七號

第一條　本則ニ於テ索道ト稱スルハ索條又ハ鐵線其ノ他之ニ類スルモノヲ架設シ搬器ヲ懸吊シテ人又ハ貨物ヲ運搬スル工作物ヲ謂フ

第二條　營業ノ目的ヲ以テ索道ヲ架設セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一、名稱
二、目的
三、營業所ノ位置
四、架設期間
五、工事方法
（一）起終點ノ位置（二）延長（三）索條及鐵線ノ種類及太サ（四）支持物ノ種類、構造、間隔高サ及支持方法（五）避雷ノ設備方法（六）搬器ノ種類、形狀、重量、最重載貨量、搬器ノ間隔、搬器下端ノ地上ヨリノ距離及一日ノ最大搬量（七）速力
六、索道ノ構造圖
同線路ノ縱斷面圖
同平面圖
（縮尺二萬分ノ一）以上ニヨテ附近ノ地勢、人家、道路等ノ位置ヲ示スヘシ）
七、常備及豫備原動力ノ種類
八、工費概算
九、資本金及事業收支概算

（京都警）

十、落成期日

第二條ノ二　必要アリト認メタルトキハ工作物ノ强度計算書其ノ他必要ナル書類若ハ圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第二條ノ三　第二條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ開始セムトスルトキハ左ノ各號ノ事項ニ付運輸規程ヲ定メ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　料金ニ關スル事項
二　運輸條件ニ關スル事項
三　發著時間ニ關スル事項
四　實施期日

第三條　索道ハ落成檢査ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第四條　正當ノ理由ナクシテ許可ヲ得タル日ヨリ三箇月以內ニ工事ニ著手セス又ハ落成期日後六箇月ヲ經過シ尙竣成セサルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第五條　索道營業ヲ廢止シ若ハ讓受ケムトスル者ハ許可ヲ受クヘシ但シ讓受ノ場合ニ在リテハ本則第二條第一號乃至第四號第九號及第二條ノ三第一號乃至第三號ノ事項ヲ具シ契約書寫ヲ添付シ當事者連署スヘシ

第五條ノ二　索道營業ヲ相續シタルトキハ戶籍謄本ヲ添付シ五日內ニ届出ツヘシ

第六條　本則ハ營業ノ用ニ供セサル索道ニ之ヲ準用ス但シ本則第二條第三號第九號及第二條ノ三ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　風致治水ニ障害ヲ及ホシ又ハ保安上危險ノ虞アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ索道ノ使用ヲ停止シ若ハ之ヲ制限シ又ハ其線路ノ變更改築修理其他必要ナル設備ヲ爲サシメ且原狀回復ヲ命スルコトアルヘシ

（京都警）

第八條　本則第三條及第五條又ハ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

事業者法人ナルトキハ前項ノ科料ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其代表者ヲ被告トス

第九條　本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ總テ營業所所在地警察官署ヲ經由スヘシ

第十條　明治二十九年京都府令第四十五號ハ本則ノ爲其效力ヲ妨ケラルヽコトナシ

附　則

本則施行前索道ヲ架設シ現ニ之ヲ使用スル者ハ明治四十四年七月三十一日迄ニ本則ニ依リ知事ニ届出ツヘシ

●索道取締規則取扱手續

明治四十四年七月十一日
京都府訓令第四十七號

改正　大正一五年京都府訓令第七三號

第一條　規則第二條及第六條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ倘別ニ公害ノ有無其他必要ト認ムル事項ヲ詳具シ許否ノ意見ヲ附シ書類ヲ進達スヘシ

一、頭書記載事項ハ事實相違ナキヤ
二、風致治水又ハ交通上障碍若クハ危險ノ有無
三、索道カ道路人家ニ接近シ又ハ之ヲ橫斷シ若クハ電線等ト交叉スル個所ニ於テ危險豫防上特別設備ノ有無及其完否

第二條　所轄警察署長ハ警部、警部補又ハ巡査部長ヲシテ二ヶ月ニ一回索道ニツキ臨檢視察セシムヘシ

第三條　左記各號ノ場合其他索道ニ關シ危險又ハ其虞アリト認メタルトキハ運滯ナク事業者ニ其旨ヲ警告シ急迫ナル場合ハ臨機應急ノ修理ヲ命スルト共ニ速ニ其狀況ヲ報告スヘシ

一、索條ヲ繫維スル支持物ノ傾斜毀損又ハ朽腐等倒壞ノ虞アリト認メタルトキ
二、索條ノ弛緩損傷又ハ切斷ノ虞アリト認メタルトキ
三、樹枝其他ノ物カ索條又ハ搬器ニ觸レ其他運搬交通上障害危險ノ虞アリト認メタルトキ

第四條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ意見ヲ具シ報告スヘシ

一、貨物ヲ運搬スル索道ニシテ人ヲ運搬スルノ事實アルトキ
二、搬器ニツキ許可セラレタル最重載貨量ヲ超過シテ貨物ヲ積載シ又ハ一定ノ搬器間隔ヲ短縮シ若クハ貨物積載ノ方法粗漫ノ弊アルトキ
三、索道ニヨリ人畜ヲ殺傷シ又ハ家屋其他ノ建造物ヲ毀滅シ若クハ森林田畑ヲ著シク損壞シタルトキ
四、人ヲ運搬スル索道ニシテ定員若ハ最重載貨量ヲ超過シテ運搬スルノ事實アルトキ

第五條　規則第五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ書類ヲ進達スヘシ

第六條　規則第二條ノ三ノ認可申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ適否ヲ調査シ意見ヲ附シ第五條ノ二ノ届書ヲ受理シタルトキハ直ニ之ヲ進達スヘシ

第三節　諸車

●人力車營業取締規則

明治三十四年十二月二十一日
京都府令第九十五號

改正　明治四一年京都府令第五四號、四三年第一〇〇號、大正一〇年第一九號

第一章　通則

第一條　本則ニ於テ人力車營業ト稱スルモノ左ノ如シ

一　人力車ヲ貸スヲ以テ營業トスル者

二　轅夫ヲ抱ヘ人力車ヲ轅カシムルヲ以テ營業トスル者

三　自己又ハ他人ノ人力車ヲ轅クヲ以テ營業トスル者

第二條　前條第一號第二號ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齡及營業ノ種別ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

前條第三號ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齡ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出轅夫鑑札ヲ受クヘシ但營業者タル抱主アル者ハ其連署ヲ要ス

第三條　轅夫ハ地理ヲ略知シ且身體强壯ニシテ就業ニ堪ユヘキ者タルヲ要ス

第四條　前條ノ資格ニ適合スト雖營業ニ不適當ノ者ト認ムルトキハ鑑札ヲ下附セサルコトアルヘシ

第五條　營業者ハ車體屬具ノ使用前ニ所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受クヘシ其車體ヲ改修シ又ハ讓受買受タルトキ亦同シ

第六條　車體屬具服裝及鑑札ハ毎年二回以上所轄警察署又ハ分署ノ指定シタル日時場所ニ於テ檢査ヲ受クヘシ

第七條　前二條ノ檢査ヲ受ケ證印ヲ得サル車體又ハ鑑札ハ使用スルヲ許サス

第八條　營業者ハ左ノ場合ニ在リテハ其事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ左ノ手續ヲナスヘシ

一　住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業シタルトキ若クハ轅夫ノ解雇死亡又ハ行衛不明ナルトキハ其旨届出ヘシ

二　車體ヲ讓渡シ又ハ其使用ヲ廢シタルトキハ車體檢印ノ消除ヲ請求スヘシ

三　住所氏名ヲ變更シ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ其文字不分明トナリタルトキハ鑑札ノ書換ヲ其紛失毀損ニ係ルトキハ鑑札ノ再渡ヲ請求スヘシ

四　轅夫ニシテ廢業シタルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ

營業者死亡又ハ行衛不明ノトキハ戸主又ハ家族ヨリ十日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第九條　鑑札ヲ他人ニ貸與シ又ハ鑑札ヲ有セサル者ニ車ヲ貸與スヘカラス

但自用タルコトヲ確認スル場合ハ此限リニアラス

第十條　檢印アル車ト雖モ破損若クハ不潔ニ至リタルトキハ改修ヲ命シ又ハ使用ヲ差止ムルコトアルヘシ

第十一條　營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ其營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

一　本則ニ違背シ處罰後改悛ノ狀ナシト認ムルトキ

二　轅夫ニシテ體力就業ニ耐ヘ難シト認ムルトキ

三　公安ヲ害シ公衆ノ妨害ヲナシ又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムルトキ

第二章　車體ノ構造及屬具

第十二條　車體ノ構造及屬具ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　轅掛ハ高サ九寸以上奥行一尺以上横幅内法一人乘一尺五寸以上二人乘二尺以上トス

二　倚掛ハ轅掛ヨリ高サ一尺四寸以上トシ轅掛ノ平面ニ對シ百六度以上百十度以下ノ角度ヲ保ツヘシ

三　踏板ハ奥行一尺七寸五分以上トスヘシ

四　車體ハ黒色無地ノ漆塗ニシテ中喪ハ革、羅紗、天鵞絨ノ類ヲ用ユヘシ

五　泥除ハ黒色漆塗ニシテ長サ三尺幅二寸八分以上トス

六　母衣ハ黒色ノ護謨引又ハ桐油製トシ（半母衣ハ白布ヲ用ユルモ妨ケナシ）高サハ腰掛ノ前端ヨリ三尺五寸以上深サ三尺七寸以上トス但晴天ニ限リ撤去スルコトヲ得

七　黒色護謨引又ハ桐油製ノ前掛蒲團膝掛提燈及換銓（二個以上）ヲ備フヘシ

八　車體ノ蹴込及母衣前掛ニハ車體ノ番號ヲ提燈ニハ組名及鑑札番號ヲ判明ニ記入スヘシ

第三章　車夫ノ服裝及就業制限

第十三條　轅夫就業中ハ左ノ服裝ニ從フヘシ但シ汚損シタルモノハ著用スヘカラス

冠リ物ハ黒色饅頭笠（夏期ハ白布ヲ覆フモ妨ケナシ）又ハ大黒形若クハ鳥打帽ノ類但夏期ハ麥藁帽ヲ用ユルモ妨ナシ

著服ハ紺色無地ノ法被及腰引但夏期ハ白色雨雪泥濘炎暑ノ際ハ半腰引（膝關節ヲ覆フモノ）ヲ用フルモ妨ケナシ

雨具ハ黒色ノ護謨引又ハ桐油製其他綫類

第十四條　法被及雨具ニハ其背部ニ鑑札番號ヲ明記スヘシ

第十五條　轅夫ハ鑑札及人力車營業取締規則竝ニ賃錢表ヲ携帯シ警察官吏又ハ乘客ノ求メニ應シ之ヲ示スヘシ

第十六條　（削除）

第十七條　一人乘ニ二人二人乘ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但シ十歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歳未滿ノ者ハ定員外トス

第十八條　八種傳染病患者ハ愆リニ乘車セシムヘカラス若シ止ムヲ得ス乘車セシメタルトキハ消毒法施行ノ後ニアラサレハ使用ヲ許サス

第十九條　汚穢物其他車ヲ汚染シ若クハ惡臭ヲ留ムルモノ又ハ長大ノ物品ヲ乘載スヘカラス

第二十條乃至**第二十四條**　（削除）

第二十五條　駐車場外ニ車ヲ置キ又ハ車ヲ轅キ路上ニ彷徨シ又ハ停立スヘカラス但乘客用辨ノ爲メ通行ノ妨害ト爲ラサル場所ニ一時駐車スルハ此限リニアラス

第二十六條　客ノ求メアリタルトキ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第二十七條　强テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十八條　乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乘セ換ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス

第二十九條　宿屋飲食店料理屋其他ノ商店ニ對シ金品ヲ請求シ若ハ金品ノ贈與ヲ受ケ又ハ乘客ノ指定セサル社寺佛堂宿屋飲食店料理屋其他ノ商店ニ轅入ルヘカラス

第三十條　乘客降車ノ際ニハ其遺留品ナキヤ否ニ注意スヘシ若シ遺留品アリタルトキハ直ニ還附シ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署又ハ分署巡査派出所若クハ巡査駐在所ニ届出ヘシ

第四章　賃錢

第三十一條　乘車賃錢ハ京都市ニ在リテハ各組合協議ノ上其額ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受ケ其他ニ在リテハ各組合ニ於テ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條　何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第三十三條　乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路

程ニヨリ賃錢ヲ計算スヘシ

第五章　駐車場

第三十四條　駐車場ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ定ム

第三十五條　駐車場ニ於テハ到著ノ順序ニ從ヒ車ノ側面ヲ街路ニ向ケ整列シ幅員廣キ市街ニ於テハ正面ヲ街路ニ向ケ置クモ妨ケナシ

第三十六條　駐車場ニハ客ノ乘用ニ供セサル車ヲ置クヘカラス

第三十七條　駐車場ノ掃除ハ日々參集シタル者之ヲ爲スヘシ

第三十八條　組合ハ駐車場ニ隣隙及最寄著名ノ社寺舊跡等ノ里程表ヲ揭示スヘシ

第六章　組合

第三十九條　營業者ハ一警察署又ハ一分署所轄內ヲ區域トシ一組合ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ數警察署又ハ分署所轄內ヲ區域トシ一組合ヲ設クルコトヲ得

前項組合ノ外ニ鐵道停車場汽船發著地其他旅客輻輳ノ場所ニ於テ營業スル者ニ對シテハ特ニ組合ノ設置ヲ認可スルコトアルヘシ

第四十條　營業者ハ組合ニ加入スヘシ

第四十一條　特置組合ニ加入セスシテ其特置組合ノ區域內ニ入リ又ハ特置組合員ニシテ其特置組合ノ區域外ニ於テ營業ヲナスコトヲ許サス但シ特約アル乘客送迎ノ場合ハ此限リニアラス

第四十二條　組合ハ規約ヲ定メ取締選擧ノ方法組合費ノ收支其他必要ノ事項ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ變更シタルトキ亦同シ

第四十三條　組合ニ於テ取締ヲ選定シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條　取締ニシテ不適任ト認ムルトキハ其改選ヲ命スルコトアルヘシ

第四十五條　組合事務所ヲ定メタルトキハ三日以內ニ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ其場所ヲ變更シタルトキ亦同シ

第七章　罰則

第四十六條　第二條、第五條乃至第九條、第十三條乃至第十五條、第十七條乃至第十九條、第二十五條乃至第三十三條、第三十五條乃至第三十七條ノ規定又ハ第十條ノ規定ニ依リ使用ノ禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第八章　附則

第四十七條　一家若クハ數家ニ特約シテ該家ノ專用ニ供スル車ノハ所轄警察署又ハ分署ノ承認ヲ得テ車體ノ構造屬具及服裝等ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ承認ヲ得タルモノト雖承認ノ目的以外ニ於テ擅ニ他ノ乘用ニ應スルトキハ其承認ヲ取消スコトアルヘシ

第四十八條　明治三十五年五月三十一日迄新ニ車體及屬具ノ使用ヲ屆出ルモノハ舊規定ニヨリ檢査ヲ與フルコトアルヘシ其車體屬具及本則施行前ヨリ繼續使用セル車體屬具ニ對シテハ第十二條第一號第二號第三號第五號第六號ヲ適用セス

第四十九條　明治二十七年四月府令第二十七號營業人力車取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●人力車營業取締規則執行手續

明治三十四年十二月二十七日
京都府訓令第六十七號

改正　明治三七年京都府訓令第一四號、三九年第四五號、四一年第四一號、第五六號、四二年第三五號、四三年第四七號、四四年第一一號、大正六年第二五號

〔京都警察〕

第一條　規則第二條ニ依ル營業ノ屆出ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ニヨリ處理スヘシ

〔警察署〔警察分署〕〕

一　規則第一條第一號第二號ノ營業ヲ屆出不都合ナシト認ムルトキハ第一號樣式ノ索引ニ登記シ認可ノ指令ヲ下附スヘシ

二　第二號ノ營業ヲ屆出不都合ナシト認ムルトキハ第二號樣式索引第三號樣式番號簿ニ登記シ第四號樣式ノ鑑札ヲ下附スヘシ

三　自己所有人力車ヲ曉ク者ハ第一號及第二號樣式索引中各別ニ登記スヘシ

第二條　規則第三條ノ就業ニ堪ユヘキ者ト認ムルハ滿十八年以上ノ男子トシ十八年以下ト雖身體强壯ナル者ハ許可スヘシ

第三條　規則第五條ニヨリ檢査ヲ請フ者アルトキハ同第十二條ノ各號ニ依リ檢査ヲ遂ケ其構造適當ナルトキハ第五號樣式番號簿ニ登記シ車體蹴込ニ第六號樣式番號（徑八分楷書）ヲ磨滅セサル樣判明ニ記入セシメ蹴込內部後面ニ第七號樣式ノ檢印ヲ打込ムヘシ檢査ハ所轄郡役所又ハ車稅臺帳登記濟ノ證明アルモノニアラサレハ之ヲ行フヘカラス

第四條　規則第六條ノ檢査ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一　鑑札及車體檢査期ハ概ネ三月ト九月ヲ以テシ尙必要ト認ムル場合ハ臨時檢査ヲ行フヘシ

二　鑑札檢査ト車體檢査トハ同時ニ行フモ妨ケナシ

三　檢査ハ車體及鑑札ノ員數ニ應シテ適宜日時場所ヲ割付ス檢査日割表ヲ作リ遲クトモ七日以前ニ取締人ヲシテ各營業者ニ送達セシムヘシ

四　檢査ハ警部一名巡査若干名ニテ到著順序ニヨリ檢査スヘシ

五　檢査上合格ノ鑑札及車體ニハ第四號第七號樣式ニ示セル檢印ヲ打込ムヘシ

六　檢査ニ當リ所在不明ノ者ハ廢業者ト見做スヘシ

七　檢査ノ成績ハ第八號第九號樣式ニヨリ速ニ警部長ニ申報スヘシ

八　營業者少數ナル地ニ在リテハ第三號第四號ノ方法ヲ簡易ニスルモ妨ケナシ

第五條　規則第八條ノ屆出アリタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一　第一號ノ住所氏名變更ノ場合ハ索引ニ記入シ廢業及斃夫ノ解雇死亡又ハ行衞不明ノ場合ハ索引相當ノ欄ニ其旨記入シ番號名簿ハ刺紙ヲ除却スヘシ

二　第二號ノ場合ハ索引中廢車ノ欄ニ記入シ尙車體番號及檢印ハ消除スヘシ

三　第三號ノ住所氏名變更ノ場合ハ索引及番號簿ニ記入シテ鑑札ヲ書換ヘ交附シ文字不分明ノ場合ハ其個所ヲ紛失毀損ノ場合ハ鑑札面全部ヲ謄記シ尙檢査ヲ受ケタルモノハ其檢印ヲモ附シテ交附スヘシ

四　第四號廢業ノ場合ハ索引及番號名簿ニ記入ノ上番號名簿ハ刺紙ヲ除却スヘシ鑑札返納ノ場合ハ消印ヲ施スヘシ

廢車ハ所轄郡役所又ハ區役所ノ車稅臺帳登記濟ノ證明アルモノニアラサレハ之ヲ認ムヘカラス

第六條　廢業廢車等ニヨリ番號ニ空位ヲ生シタルトキハ新タニ屆出ル每ニ順次塡補スヘシ

第七條　第十一條ニヨリ營業ヲ禁止シ又ハ一ケ月以上營業ヲ停止セントスルトキハ事狀ヲ具シ（警部長）ニ禀議スヘシ

第八條　規則第十二條第四號ノ無地漆塗トハ人物其他草木等種々ノ模樣ヲ書クヲ禁スル精神ナルヲ以テ車體ノ背面ニ紋（徑二寸以內）或ハ記號屋號（一寸以內ノ文字）等ヲ記スルハ妨ケナシ

同條第八號ノ番號（徑一寸楷書）ハ母衣前掛ハ適宜見易キ處ニ提燈ハ前面

ニ組名（徑一寸五分楷書）ノ左右兩側ニ番號（徑一寸楷書）ヲ記入セシムヘシ

第九條　規則第十四條ニ於ケル法被及雨具ノ番號ハ左ノ雛形ニ依リ其背部ノ見易キ處ニ記入セシムヘシ

法被ノ背部ニ記入スヘキ番號

徑一寸八分

雨具ノ背部ニ記入スヘキ番號

一寸

三寸

中第五六八號

第十條　規則第三十一條ノ届出ヲ受ケタルトキハ調査ヲ遂ケ意見ヲ具シテ稟議スヘシ

第十一條　駐車場ハ往來ノ安寧ニ妨ケナキ地ヲ選ヒ第十號樣式ニヨリ標示スヘシ但駐車場ハ甲（正面ニ車體ヲ向ケ置ク處）（乙側面ニ車體ヲ向ケ置クモ妨ケナキ處）ノ二種トシ標柱ノ上部甲ハ五寸ノ黑塗トスヘシ

第十二條　規則第三十八條ノ里程表ハ第十一號樣式ニヨリ乘客ノ認メ易キ樣記載シテ揭示セシムヘシ

第十三條　組合ニ於テ規約ヲ設ケ届出タルトキハ規則第四十二條ニヨリ調査ヲ遂ケ不都合ノ廉ナキモノト認ムルトキハ認可ヲ與フヘシ

第一號樣式

〔京都警〕

數警察署所轄内ニ於テ一組合ヲ設クルトキハ事務所所在ノ警察署又ハ分署ニ於テ受理シ關係警察署又ハ分署協議ノ上否認スヘシ取締人及貸鐽ノ認可モ之ニ準シ受理スヘシ

第十四條　前條規約ヲ認可シタルトキハ規約書寫ヲ添ヘ〔警部長〕ニ申報スヘシ

第十五條　附則第四十七條ニヨリ特約專用ノ承認ヲ求メタルトキハ篤ト事實ヲ調査シ澁許ノ弊ナキ樣注意シ左ノ標準ニ依リ承認ヲ與フヘシ但省略スルハ妨ナシ

區別	承認事項
車體	背面ニ徑二寸以内ノ文字又ハ紋章ヲ附スルコト
屬具	徑一寸以内ノ文字ヲ以テ氏名屋號社所名若クハ紋章ノ類ヲ附スルコト
被服	背部ニ徑一寸以内ノ紋其他徽號襟ニ徑一寸以内ノ文字ヲ以テ氏名屋號若クハ社所名等ヲ附スルコト
帽子	前額ニ徑一寸以内ノ徽章ヲ附スルコト

一　組名番號ヲ省略シ若クハ全ク之ヲ記入セサルコトヲ得ルモ其他ノ制限ハ凡テ規則ニ依ラシムルコト

二　特約專用承認ノ證標ハ第十二號樣式ニヨリ車體ノ識込ニ打附シ提燈ノ後面ニ專用車（徑一寸五分）ノ三字ヲ記入セシムルコト

第十六條　特約專用ノ承認ヲ與ヘタルトキハ專用者ノ住所氏名及承認事項ノ要領ヲ附近警察署又ハ分署ニ通知スヘシ

第十七條　每年一月十日限リ營業者及車體ノ現在數等第十三號樣式ニヨリ〔警部長〕ニ申報スヘシ

〔京都警〕

（表）

警第　號	人力車營業者			車體檢查					
開業	明治　年　月　日	原籍		檢查月日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日
廢業	明治　年　月　日	現住		檢查番號	號	號			
事故	年　月　日			車種類	明治	明治	明治	明治	明治
	明治　年　月　日			廢車	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日
	明治　年　月　日								
	明治　年　月　日								
	明治　年　月　日								
	明治　年　月　日								
	明治　年　月　日								
備考									

〔京都警〕

（裏）

年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日

（表）

檢查月日	檢查番號	車種類	廢車	明治
年月日	號			年
年月日	號			明治
年月日	號			年
年月日	號			明治
年月日	號			年

檢查副紙

〔京都警〕

第二號樣式

（裏面ハ表面ト同上ニ付略ス）

年月日	年月日	年月日	年月日
號	號	號	號
月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日

〔京都警〕

（表）

警第	警第	警第	鑑札	再渡	以上	下付	シタル	故事	鑑	
號	號	號	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治
			年	年	年	年	年	年	年	年
			月	月	月	月	月	月	月	月
			日	日	日	日	日	日	日	日

開業			廢業			人力車鞱	
明治	明治	明治	明治	明治	明治	原籍	現住
年	年	年	年	年	年		
月	月	月	月	月	月		
日	日	日	日	日	日		

檢査	檢査	檢査	札
明治　年　月　日	明治　年　月　日	明治　年　月　日	明治　年　月　日
抱主	抱主	抱主	夫

（裏）

備考

〔京都警〕

第三號樣式　人力車輓夫番號名簿

第四號樣式
鑑札雛形

（表）

竪三寸五分

住所
氏名
年齡

輓子

抱主何某

抱主アル者ハ抱主ノ名

〔京都警〕

第五號樣式

（裏）

烙印一寸四分

京都府
何警察署
又ハ分署

年　月　日

何檢、、、、、、

署名ノ頭字ヲ冠ス

第六號樣式

何　第　號
署名頭字

第七號樣式

人力車番號簿

車體番號	種類	持主氏名

第八號樣式

何二七五檢
年
月
署名頭字

明治何年（三月）（九月）營業人力車體檢査成績報告表

種別	現在車數	檢印ヲ與ヘサル者				
		直チニ檢印ヲ與ヘタル者	車體ノ改修ヲ命シタル者	屬具ノ改修ヲ命シタル者	廢車ヲ命シ又ハ自ラ廢車シタル者	不參ニテ檢査ヲ受ケサル者	計
一人乘							
二人乘							
合計							

何警察（分）署之印　何警察署

第九號樣式

明治何年（三月）（九月）人力車輓夫鑑札檢査成績報告表

種別	現在人員	檢印ヲ與ヘタル者			檢印ヲ與ヘサル者			
		直チニ檢印ヲ與ヘタル者	鑑札書換ヘノ上檢印ヲ與ヘタル者	計	身體强壯ナラサル者	自ラ鑑札ヲ返納シタル者	不參ニテ檢査ヲ受ケサル者	計	服具ノ改修ヲ命シタル者
自己ノ車ヲ輓ク者									
他人ノ車ヲ輓ク者									
合計									

何警察（分）署之印　何警察署

〔京都警〕

第十號樣式

東へ何間西へ何間
公設人力車駐車場

〔京都警〕

第十一號樣式

里程賃錢表

御苑內南門へ	何十丁何錢	上賀茂へ	何里何十丁何錢		
二條離宮へ	何十丁何錢	下鴨へ	何里何丁何錢		
京都府廳へ	何丁何錢	大德寺へ	何十丁何錢		
八坂神社石段下へ	何丁何錢	北野神社へ	何丁何錢		

第十二號樣式

何々へ	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同

署名

何第何號

専用車

烙印

専用主
營業人　何　何

何　某

三寸五分

第十三號樣式

明治何年十二月日人力車營業員數及車數取調報告表

營業者及車數	種別	何年十二月日現在	前年十二月日現在	本年ト前年ノ比較
第一號ノ營業者				増
				減

何警察署（分署）之印

【京都警】

●營業乘合馬車取締規則

明治二十九年七月二十五日
京都府令第二十八號

改正　明治三一年京都府令第五五號、大正一〇年第一八號

第一條　本則ハ乘合馬車營業者及馭者馬丁ノ業ヲ執ル者ニ適用ス

第二條　乘合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可證ヲ受クヘシ

一　營業者ノ族籍住所身分氏名年齡
二　車體數
三　馬匹數
四　車體二輛以上使用スル者ニ其番號
五　駐車場ノ位置（道路其他官有地ニ係ルモノハ借地許可證寫ヲ添付スルヲ要ス）
六　營業區域及線路

第三條　馭者馬丁ノ業ヲ執ラントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

但雇主アル者ハ雇主ノ連署ヲ要ス

一　族籍住所身分氏名年齡
二　馭者ハ馭術ニ關スル履歷書

第四條　營業者支店ヲ設ケムルトキハ業務擔當人ヲ定メ其族籍住所身分氏名年齡ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

業務擔當人ハ營業上ニ關シテハ營業者ト同一ノ責ニ任ス

第五條　駐車場ノ位置又ハ營業區域及線路ヲ變更セントスルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第六條　馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體强壯ナル者ニ限ルヘシ

第七條　馬匹ハ五歲以上ニシテ强壯ナルモノニ限ルヘシ

第八條　線路中積雪泥濘其他危險ノ虞アリト認ムルトキハ行車安全ノ方法ヲ命シ又ハ臨時行車ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　鑑札ヲ下附シタル馭者馬丁ト雖不適當ナリト認ムルトキハ鑑札ヲ引揚クルコトアルヘシ

第十條　營業者ハ車體馬匹ノ使用以前所轄警察署又ハ警察分署ニ於テ檢查

規則	人力車數	計
第一條		
第二號ノ營業者	一人乘	
第三號ノ營業者	二人乘	
計		

【京都警】

證ヲ受クヘシ其買受譲受及車體ヲ改造シタルトキ亦同シ

第十一條　檢査證アル車馬ト雖車體器具ノ破損又ハ馬匹ノ疾病衰弱其他不適當ト認ムルトキハ其檢査證ヲ引揚クルコトアルヘシ

第十二條　許可證檢査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十三條　乘客ノ員數ハ豫メ之ヲ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ受ケ車體内部ノ見易キ所ニ掲示スヘシ

第十四條　賃錢ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ受ケ車體内及駐車場ノ見易キ所ニ掲示スヘシ

第十五條　駐車場ニハ（乘合馬車駐車場）ト記シタル標識ヲ掲クヘシ

第十六條　車體屬具及駐車場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但駐車場ノ構造ハ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ受ケ省略スルコトヲ得

一　車ハ四輛以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘシ

二　車體ハ無地漆塗又ハ假漆塗ニシテ毋衣又ハ屋根ヲ設クヘシ

三　客座中張及敷物ハ革羅紗天鵞絨類ヲ用ヒ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

四　車輪ニハ泥除ヲ設クヘシ

五　車體前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘシ

六　運轉器ノ心棒、發條、力革、手綱及其他ノ器具ハ堅牢强靭ノモノヲ用ユヘシ

七　護謨引又ハ桐油製ノ雨具ヲ備フヘシ

八　駐車場ノ地盤ハ石、煉瓦石、敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第十七條　（削除）

第十八條　車體馬匹ノ檢査證及馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年二回以上所轄警察署又ハ警察分署ノ檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受サルモノハ使用スルコトヲ得ス

第十九條　左ノ場合ニ在テハ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一　轉居改氏名其他許可證檢査證鑑札等ニ異動ヲ生シタルトキ

二　許可證檢査證鑑札等ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不明ニ至リタルトキ

第二十條　左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出許可證車馬檢査證鑑札ヲ返納スヘシ

一　廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタルトキ

二　車馬ヲ賣渡又ハ讓渡タルトキ

三　馭者馬丁ヲ解雇シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死亡シタルトキ

第二十一條　定員外ノ客ヲ乘載スヘカラス

但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第二十二條　左ニ記載シタル者ハ乘載スヘカラス

一　六種傳染病、疥癬、痲病、其他乘客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者

二　瘋癲者、亂醉者

三　汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品

四　獸類

五　危險物

第二十三條　馭者馬丁就業中ハ鑑札及乘合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見シコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十四條　馭者馬丁ハ頬冠リ鉢卷其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條　馭者ハ馭者臺ヲ離ルヘカラス

但馭者選クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十六條　老幼婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十七條　乘客著席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十八條　乘客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十九條　馭者臺ニ客ヲ乘載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ナナサシテ物品ヲ載スヘカラス

第三十條　馭者馬丁ハ行車中飲食又ハ喫煙ヲ爲スヘカラス

第三十一條　行人ニ對シ言語動作ヲ以テ强テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條　（削除）

第三十三條　行車中馬丁ハ客室又ハ馭者臺ニ登ルヘカラス

第三十四條乃至第三十六條　（削除）

第三十七條　營業者ハ警察官署ノ指定セル區域内ニ於テハ監督ヲ乘込マシメ馭者及馬丁ノ監督ヲ爲サシムヘシ

第三十八條乃至第四十條　（削除）

第四十一條　車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第四十二條　定員三分ノ一以上乘客アルトキハ正當ノ理由無クシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十三條　乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤ否ニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサルトキハ五日以内ニ最寄警察署又ハ警察分署巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ届出ヘシ

第四十四條　第二條乃至第四條第一項、第五條、第十條、第十二條乃至第十四條、第十八條乃至第二十五條、第二十七條、第二十九條乃至第三十一條、第三十三條、第三十七條、第四十一條ノ規定又ハ第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第四十五條　馭者馬丁ノ服裝車體及駐車場等本則ニ適合セサル者ハ本年十二月三十日迄ニ改造スヘシ

●自動車取締令施行細則

大正八年二月十四日
京都府令第五號

改正　大正九年京都府令第五八號、第八五號、一〇年第二〇號、一二年第一一〇號、一三年第一一號、第二四號

第一章　總則

第一條　自動車ハ土地ノ狀況ニ因リ特ニ許可ヲ受ケタル場合ノ外市内ニ在リテハ幅員三間、郡部ニ在リテハ二間未滿ノ道路ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ警察官吏ノ承認ヲ得タル箇所ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ長サ八尺幅員四尺以下ノ「オートプライヤー」又ハ「サイドカー」附自動自轉車ノ類ニハ之ヲ適用セス

第二條　市街地又ハ人家連檐ノ箇所ニ於ケル自動者ノ最高速度ハ一時間十四哩トス

第二條ノ二　警察署長ニ於テ自動車ノ徐行ヲ必要ト認ムルトキハ地域ヲ限リ其ノ最高速度ヲ指定スルコトアルヘシ

第三條　試運轉又ハ運搬等ノ爲一時自動車ヲ使用セムトスル者ハ所轄警察署長ノ認可ヲ得標札ノ交付ヲ受クヘシ

第四條　公衆ノ自由ニ交通シ得ル箇所ニ於テ運轉ノ練習ヲ爲サムトスル者ハ所轄警察署長ノ認可ヲ得運轉手補佐ノ下ニ之ヲ行フヘシ

第五條　定員以上ノ人員ヲ乘車セシメ又ハ定量以上ノ貨物ヲ積載スルコト

ヲ得ス但シ十二歳未満ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ五歳未満ハ定員外トス

第六條　運轉手ニ非サル者ヲシテ自動車ヲ運轉セシムルコトヲ得ス

第七條　本則ニ定ムルモノノ外必要ト認ムルトキハ特別ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　自動車取締令又ハ本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第二章　車輛及車庫

第九條　自動車ノ檢査ヲ受ケムトスル者ハ附錄樣式（其ノ一）ニ依リ之ヲ申請シ檢査證ノ交付ヲ受クヘシ

第十條　自動車ノ構造及裝置ハ自動車取締令第四條ニ依ルノ外左ノ制限ニ從フヘシ

一　車體ハ長サ十六尺幅員六尺以下タルコト

二　音響器ハ二箇以上ヲ備フルコト

三　後面ノ燈火ハ電燈又ハ「アセチリン」燈トシ其ノ面ヲ赤色トスルコト

四　空氣入ノ輾（タイヤー）ヲ用ヰル車輛ニ在リテハ豫備輾（タイヤー）一箇以上ヲ備フルコト

五　雨雪泥濘ノ際泥土又ハ汚水ノ飛散ヲ防止スヘキ泥除器ハ良質護謨製トシ厚サ二分以上幅六寸以上長サ車輪ノ直徑ニ等シキ長方形トシ器ノ上部ニ金屬板ヲ附シ取付完全ニ回轉シ能ハサルモノトシ且ツ器ノ下端ト地面トノ距離一寸以内車輪外側トノ距離一寸五分以上トシ運轉中必要ナキトキハ車體内ニ用意シ置クコト

但シ特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　貨物自動車ニ在リテハ附錄樣式（其ノ二）ニ依リ車體ノ兩側諸易キ箇所ニ車輛ノ自重及積載量ヲ記載スヘシ但シ車體ノ構造ニ由リ特ニ許可ヲ受ケタルトキハ之ニ異ナル記載ヲ爲スコトヲ得

七　車體ノ外面ハ赤色ヲ以テ著色セサルコト但シ消防專用ノ車輛ハ此ノ限ニ在ラス

第十條ノ二　自動車取締令第四條竝前條ノ構造裝置ニ適合セサルニ至リタル自動車ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條　前條第一號ノ制限ヲ超ユル車輛ヲ使用セムトスル者ハ許可ヲ受クヘシ

「オートフライヤー」又ハ「サイドカー」附自動自轉車ノ類ハ變速機及速度計ヲ省略シ若ハ制動機及前面ノ燈火一箇ヲ減スルコトヲ得

第十二條　貨車ニシテ護謨製以外ノ輾（タイヤー）ヲ用ヰムトスル者ハ其ノ構造方法ヲ具シ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十三條　車輛番號ノ指示ヲ受ケタルトキハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　番號ハ金屬製ノ札ヲ以テ之ヲ標示シ封印ヲ受クルコト

二　番號ノ文字ハ前面ニ在リテハ太サ六分、高サ三寸、間隔三分、後面ニ在リテハ太サ八分、幅三寸二分、高サ四寸、間隔五分ノ「ゴシック」體亞剌比亞數字ニテ「京」ノ字ヲ冠シ營業用ニ在リテハ黒地ニ白色自家用ニ在リテハ白地ニ黒色ニテ記スルコト

第十四條　自動車取締令第六條第一項又ハ第二項末段ノ規定ニ依リ車輛番號ノ指示ヲ受ケムトスル者ハ前使用地地方長官ノ交付シタル車輛檢查證ノ寫ヲ添附シ之ヲ申請スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ更ニ檢查ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　定期檢查ハ必要ト認ムル時期ニ於テ毎年之ヲ行フモノトス

第十六條　車庫ノ設置ハ所轄警察署長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十七條　車庫ハ左ノ設備ヲ爲シ所轄警察署長ノ檢查ヲ受クルニ非サレハ

〔京都營〕

之ヲ使用スルコトヲ得ス

一　車輛置場ハ漆喰叩トシ其ノ上ヲ「セメント」壁又ハ石、煉瓦若ハ釉藥ヲ施シタル敷瓦ヲ敷クコト

二　粉末消火器ヲ備ヘ置クコト

第三章　營業及自家用

第十八條　自動車營業ハ左ノ三種トス

一　乘合自動車營業

二　貸貸自動車營業

三　貨物自動車營業

第十九條　營業ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　營業者ノ本籍、住所、氏名、生年月日

二　營業所所在地

三　營業ノ種類及地域

四　車輛ノ種類、重量、長サ及幅員

五　原動機ノ種類及馬力數

六　乘客定員又ハ積載量

七　賃錢

八　定款

前項第三號乃至第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ

第二十條　乘合又ハ貨物（地域ニ據ルモノヲ除ク）自動車營業ニ在リテハ前號ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　營業路線及幅員（圖面添附）

二　發著時間及回數

三　停留所ノ位置

四　車輛數

〔京都營〕

前項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受クヘシ

第二十一條　前條ニ依ル營業者ニシテ休業セムトスルトキハ所轄警察署長ノ認可ヲ受クヘシ天災事變其ノ他已ヲ得サル事由ノ爲運轉ヲ休止セムトスルトキ亦同シ

第二十二條　營業者其ノ營業所所在地ニ居住セサルトキハ營業代理人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　營業者ハ名義ノ如何ニ拘ハラス許可以上ノ賃錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十三條ノ二　營業者ハ其ノ營業用車輛ノ内部諸易キ箇所ニ賃錢ヲ標示スヘシ

第二十四條　營業者ニ於テ助手ヲ雇入タルトキハ十日以内ニ其ノ本籍、住所、氏名、生年月日ヲ所轄警察署長ニ届出ツヘシ之ヲ解雇シタルトキ亦同シ

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ之ヲ届出ツヘシ

一　第十九條第一項第一號第二號又ハ第八號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

二　營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ但シ本號ノ場合ハ相續人又ハ財產管理人ヨリ之ヲ届出ツヘシ

三　營業ヲ開始シタルトキ

第二十六條　第二十條ニ依ル營業者ハ每期決算後一ケ月以内ニ其ノ營業成績ヲ報告スヘシ

第二十七條　營業者ハ警察官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十八條　自家用ノ爲自動車ヲ使用セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シヲ之ヲ届出ツヘシ

一　使用者ノ本籍、住所、氏名、生年月日

二　用途
三　第十九條第四號乃至第六號
前項ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四章　運轉手

第二十九條　運轉手ノ免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　本籍、住所、氏名、生年月日
二　免許證及車輛ノ種類
三　履歷

第二十九條ノ二　現ニ運轉手タル者ニシテ其免許ノ有效期間滿了後仍ホ引續キ運轉手タラントスル者ハ其有效期間滿了前六ケ月以內ニ左ノ事項ヲ具シ運轉手免許ノ申請ヲ爲スヘシ
一　本籍　住所　氏名　年齡
二　免許證ノ種類
三　現ニ下付ヲ受ケ居レル免許證寫
四　既往三ケ年內ノ就業地及雇主ノ住所氏名竝ニ其ノ期間
五　寫眞二葉

第三十條　運轉手ノ試驗ハ每月筆記ノ方法ニ依リ之ヲ行フ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス
實地ノ技能ニ關スル試驗ハ十哩以上ノ運轉ヲ行フモノトス

第三十一條　運轉手ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一　（削除）
二　泥土、塵埃ノ著ク飛散スル虞アル箇所ハ特ニ徐行スルコト
三　（削除）
四　自動車ノ距離ハ三十間以上ヲ保ツコト
五　酒氣ヲ帶ヒ又ハ喫煙シ就業セサルコト
六　運轉手臺ニハ助手以外ノ者ヲ乘車セシメサルコト
七　警察官吏又ハ乘客ノ求アルトキハ免許證ヲ呈示スルコト
八　夜間ハ規定ノ點燈ヲ爲スコト
乘合自動車營業ノ運轉手ハ前項各號ノ外傳染性疾患者、泥醉者又ハ同乘者ニ危險若ハ迷惑トナルヘキ物品ヲ携帶シタル者ヲ乘車セシムヘカラス

第三十二條　運轉手其ノ業ヲ廢止シタルトキハ五日以內ニ之ヲ屆出テ免許證ヲ返納スヘシ

第五章　組合

第三十三條　營業者ハ地區ヲ定メ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ規約ヲ定メ認可ヲ受ケ組合ヲ設クルコトヲ得

第三十四條　組合ヲ設ケタル地區ノ營業者ハ組合ニ加入セスシテ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條　組合ニ於テ規約ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　組合ハ左ノ事項ニ關シテハ五日以內ニ之ヲ屆出ツヘシ
一　役員ノ選任又ハ改選
二　成績及費用ノ收支決算
三　解散

第三十七條　必要ト認ムルトキハ役員ノ改選又ハ規約ノ變更若ハ組合ノ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第六章　罰則

第三十八條　第四條乃至第六條、第十條ノ二、第十條ノ五、第十二條、第十三條、第十六條、第十七條、第十九條第二項、第二十條第二項、第二十一條乃至第二十八條、第三十一條、第三十二條又ハ第七條ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十九條　營業者ハ家族、雇人ニシテ其ノ營業ニ關シ違反行爲アリタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
營業代理人ハ處罰ニ付テハ營業者ト看做ス

附錄（其ノ一）

自動車檢査願

用途	用	乘客定員又ハ積載量		製造所	國
型	型	製造番號		製造年月	
車輛構造					
車體大サ	長	尺	寸	原造動機ノ種類及構	
	幅	尺	寸	瓦斯倫自動車	式列氣筩
座席廣サ	長	尺	寸		氣筩ノ直徑
	幅	尺	寸		衝程
空席廣サ	長	尺	寸		同轉數
	幅	尺	寸		馬力數
豫備椅子數			個	電氣自動車	電動機ノ種類
					同個數
積載容積	長	尺	寸		同轉數
	幅	尺	寸		馬力數
	高	尺	寸		
燈火ノ種類及數	前照燈		個	始動裝置	
	尾燈		個	速度計ノ種類	
	側燈		個	制動機ノ種類及數	
	室內燈		個	變速機ノ種類	齒車式　前進　種
把手及ベタルノ種類及數					後進　種
				音響器ノ種類及數	
				豫備タイヤ數	

附則

第四十條　本則ハ大正八年二月十五日ヨリ施行ス

第四十一條　大正二年五月京都府令第三十六號ハ之ヲ廢止ス

車輛購入先及新古ノ區別	

右自動車使用致度候ニ付檢査證御下付被成下度候也

年　月　日

住所

氏名　印

京都府知事　殿

附錄（其ノ二）

一　黒地ニ白文字

一　書體及文字ノ太サハ前面車輛番號ノ例ニ準ス

自動車取締令同施行細則執行手續

大正九年六月二十九日
京都府訓令第三十七號
警察署

第一條　徐行區域ヲ定メタルトキハ其ノ兩端及區域内必要ト認ムル箇所ニ第一號樣式ノ榜示ヲ爲スヘシ

徐行區域ニ於ケル自動車ノ最高速度ハ一時間十二哩以下トスヘシ徐行區域ヲ設定シタルトキハ之ヲ報告スヘシ變更又ハ廢止シタルトキ亦同シ

第二條　細則第三條ノ申請ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一　第二號又ハ第三號樣式ノ標札ヲ交付スルコト

二　必要ナリト認ムル時間ヲ指定スルコト

第三條　細則第四條ノ申請ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一　交通上支障ナシト認ムル場所及時間ヲ指定スルコト

二　期間ハ一箇月以内ヲ限度トスルコト

第四條　自動車營業ノ許可ヲ申請シタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ之ヲ進達スヘシ

一　本籍住所氏名及生年月日

二　性行及經歷

三　資產信用ノ程度

四　他人ニ名義ヲ假ス者ニアラサルヤ

五　犯罪及前科ノ有無

六　事業遂行ノ見込

（京都警）

七　賃錢ノ適否

第五條　路線特定ノ營業ニ在リテハ前條ノ外更ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　交通上支障ノ有無

二　他ノ交通機關トノ關係

三　路線ノ狀態並幅員及其ノ各區間ノ里程

四　發著度數及時間並停留所ノ適否

五　沿道住民ノ故障ノ有無

第六條　取締令第十三條ノ申請ヲ受理シタルトキハ第四條ニ準據スヘシ

第七條　細則第二十一條ノ申請ヲ受理シタルトキハ已ムヲ得サル事情アリト認ムル場合ニ限リ之ヲ認可シ速ニ之ヲ報告スヘシ

第八條　細則第二十二條ノ申請ヲ受理シタルトキハ第四條第一號、第二號及第四號、第五號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ之ヲ進達スヘシ運轉手免許申請ヲ受理シタルトキ亦同シ

第九條　取締令第二十五條ノ申告ヲ受ケタルトキハ卽報スルノ外第四號樣式ニ依リ之ヲ報告スヘシ

第十條　警察署長ハ第五號乃至第七號樣式ノ營業者、車輛並運轉手及助手ノ名簿ヲ備付スヘシ

第一號樣式

三角形、高五尺、一面ノ幅五寸、白地ニ黒文字

第二號樣式

第三號樣式

第四號樣式

大正　年　月　日
自動車事故報告書

署名

事故種別	
發生年月日時及場所	
原因及狀況	
被害者ノ住所氏名年齡	
營業者ノ住所氏名	
運轉手ノ住所氏名年齡	
車輛番號	
處理ノ顚末	

第五號樣式

自動車營業者名簿

六寸五分

許可年月日	營業種別	營業所	商號又ハ屋號	營業人 管理人 又ハ法定 代理人ノ 本籍住所 氏名年齢

表

賃錢

裏

一寸五分

備考

第六號樣式

自動車臺

六寸五分

車輛番號	檢査年月日及其ノ官廳名	營業者又ハ使用者氏名

一寸

〔京都警〕

第七號樣式

自動車運轉手名簿

六寸五分

免許年月日及其ノ官廳名	免許證番號	免許種別	雇主氏名	本籍 住所 氏名 年齢

表

異動及就業上ニ關スル處置其ノ他ノ摘要

裏

一寸五分

注意　助手ハ之ニ準ス

型及定員積載量	廢車年月日
用途	車庫ノ位置

注意　用途ハ自家用又ハ營業用ノ別ヲ記入ス

五分

●自動車檢査及運轉手試驗規則

大正十一年十月二十日
京都府令第九十九號

改正　大正一三年京都府令第三號、第八〇號

自動車檢査及運轉手試驗規則左ノ通定ム

自動車檢査及運轉手試驗規則

第一條　自動車ノ檢査及運轉手ノ試驗ハ本則ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

第二條　自動車ノ檢査ハ機械、車臺、車體、其ノ他各部ノ構造裝置及停車、徐行、疾行、進行竝換向ノ機能ニ就キ之ヲ行フ

第三條　自動車ノ檢査ハ附錄樣式ニ記載セル各構造裝置及機能ノ完全ナルモノヲ以テ合格車トス但シ特別ノ構造裝置ヲ有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　運轉手ノ試驗ハ左ノ三種トス

一　甲種免許試驗
二　乙種免許試驗
三　就業地變更承認試驗

第五條　甲種免許試驗ハ左ノ各科目ニ就キ之ヲ行フ

一　取締規則
二　自動車ノ構造
三　運轉技能

前項第三號ノ試驗ハ試驗委員ノ選定スル二種ノ乘用自動車ニ依リ之ヲ行フ

乙種免許試驗ハ第一項第一號、第三號及第二號中其ノ特定、特種ノ自動車ニ必要ナル事項ニ就キ之ヲ行フ

就業地變更承認試驗ハ第一項第一號及第三號ニ就キ之ヲ行フ

第六條　前條第一項第一號及第二號ハ筆記ノ方法ニ依リ第三號ハ實地ニ就キ之ヲ行フ

第七條　試驗ノ順序ハ筆記試驗ヲ行ヒ其ノ合格者ニ對シ實地試驗ヲ行フモノトス

第八條　筆記試驗ハ每月別ニ定ムル日當廳ニ於テ之ヲ行ヒ實地試驗ハ隨時指定シタル場所ニ於テ之レヲ行フ

第九條　取締規則ノ試驗ハ左記ノ法令ニ就キ之ヲ行フ

一　自動車取締令
二　自動車取締令施行細則
三　道路取締令
四　道路取締令施行細則

第十條　自動車ノ構造ニ關スル試驗ハ左記ノ事項ニ就キ之ヲ行フ

一　車體、車架、蓄電池、車輪軸承及速度計ノ各構造
二　制動、換向、接斷、變速、燃料給養、給油、冷却、著火、起動及差動ノ各裝置竝其ノ機能
三　其ノ他必要ナル各部ノ構造竝裝置

第十一條　運轉技能ノ試驗ハ左ノ各號ノ事項ニ就キ之ヲ行フ

一　發車、進行、逆行、變速換向竝停車ニ關スル技能
二　坂路ニ於ケル運轉技能
三　運轉上必要ナル注意方
四　其ノ他操車上必要ナル事項

第十二條　運轉手ノ試驗ハ各科目百點ヲ以テ滿點トシ六十點以上ヲ以テ合格トス

第十三條　免許申請書受理ノ日ヨリ六ケ月間ニ筆記試驗ニ合格セサルトキハ更ニ六ケ月ヲ經過シタル後再申請スルニ非サレハ受驗スルコトヲ得ス

第十四條　一ノ科目ノ筆記試驗ニ合格シタル者ハ免許申請ノ日ヨリ六ケ月間ヲ限リ其ノ科目ノ試驗ヲ免ス

實地試驗三回合格セサルトキハ筆記試驗ハ合格セサリシモノト看做ス

〔京都警〕

本則施行ノ日迄ニ既ニ申請シタル者ニ對スル本則第十三條ノ適用ニ就テハ一施行ノ日申請シタルモノト看做ス

附錄樣式

自動車檢査成績表

車輛番號	第　號	所有者	
檢査年月日	大正　年　月　日		
車體ノ外觀		變速機ノ機能	
車室内ノ設備		換向機ノ機能	
飛沫防止裝置		エンジンノ機能	
瓦斯發生裝置		トランスミツシヨンノ機能	
速度計ノ機能		デフレンシヤルギヤノ機能	
音響器ノ機能		轍ノ材質	
制動機ノ機能		番號札	
點燈裝置			

第四節　船舶

●汽船營業取締規則

大正十二年六月五日
京都府令第五十九號

〔京都警〕

第一條　本則ニ於テ汽船ト稱スルハ機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ヲ謂フ

第二條　本則ハ汽船ニ依リ左ノ營業ヲ爲スモノニ之ヲ適用ス

一　旅客運輸營業
二　貨物運輸營業
三　賃貸營業

第三條　本則ニ定ムルモノノ外知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ特別ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第五條　汽船ヲ營業ノ用ニ供セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出檢査ヲ受クヘシ但シ船舶檢査法ニ依リ檢査ヲ受クヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

〔京都警〕

一　營業者ノ住所、氏名
二　船舶所有者ノ住所、氏名
三　用途
四　船名
五　總噸數
六　船體ノ型、長サ、幅、深サ、製造所及進水年月日
七　原動機ノ種類、數、公稱馬力數、製造所及製造年月日
八　乘客定員又ハ貨物ノ積載量

檢査ニ合格シタルトキハ附錄樣式ニ依ル機船檢査證ヲ交付ス

第六條　檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營業ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第七條　前條ノ汽船ニハ適當ナル船燈、信號器及救命器ヲ備付スヘシ

第五條ノ汽船ハ當廳ノ指定スル場所及期日ニ於テ毎年定期ノ檢査ヲ行フ

第八條　汽船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　住所、氏名、年齡
二　營業所所在地
三　營業ノ種類
四　航路竝發著寄港地又ハ營業區域（圖面添附）
五　汽船ノ隻數
六　發著時間及回數
七　客室ノ等級竝貨物運賃
八　船舶檢査證又ハ機船檢査證ノ寫
九　船長、運轉士及機關士ノ免狀寫但シ免狀ヲ要セサルモノニ在リテハ其ノ住所、氏名、年齡及履歷書

第九條　營業者自ラ其ノ營業ヲ管理スルコト能ハサルトキハ營業代理人ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　客室ニハ其ノ等級、定員ヲ標示スヘシ

第五條ノ汽船ノ乘客定員ニ就テハ船舶檢査法施行細則第五十七條及第五十八條ノ規定ヲ準用ス

定員以上ノ人員ヲ乘船セシメ又ハ定量以上ノ貨物ヲ積載スルコトヲ得ス

第十一條　貨客ノ運賃ハ其ノ取扱所及船内睹易キ箇所ニ揭出スヘシ

第十二條　乘船券ニハ區間、賃錢及通用期間ヲ明記スヘシ

第十三條　乘船券ハ旅客取扱所以外ニ於テ發賣スルコトヲ得ス

第十四條　定員以上ノ旅客ヲ運輸スル爲曳船ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　衝突其ノ他ノ事故ニ依リ危害ヲ生シタルトキハ速ニ最寄警察官吏ニ屆出ツヘシ

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

一　第八條第一號、第八號及第九號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ
二　開業、休業又ハ廢業シタルトキ
三　汽船ノ使用ヲ廢止シタルトキ
四　營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ

前項第四號ノ場合ニハ戶籍法ニ依ル屆出義務者之ヲ爲スヘシ

第十七條　第五條ニ依リ檢査證ノ交付ヲ受ケタル汽船ノ使用ヲ廢止シタルトキハ前條ニ依ル屆出ト同時ニ檢査證ヲ返納スヘシ

第十八條　風浪又ハ增水等ノ爲危險ノ虞アリト認ムルトキハ所轄警察署長ニ於テ航行ヲ制限スルコトアルヘシ

第十九條　當該官吏ハ營業時間内臨時營業所又ハ汽船ニ臨檢スルコトアルヘシ

第二十條　營業者ハ每期決算後一箇月以內ニ其ノ營業成績ヲ報告スヘシ

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキ

二　本則又ハ本則ニ基キテ發シタル命令ニ違反シタルトキ

三　許可ノ日ヨリ一箇年以內營業ヲ開始セサルトキ

四　休業六箇月以上ニ亙リタルトキ

第二十二條　第五條乃至第七條、第十條乃至第二十一條又ハ第三條ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附錄樣式

機船檢查證

船名		航路定限	
型		船體造水年月日	
總噸數若ハ石數		原動機ノ種類及公稱馬力數	
乘客定員又ハ積載量		原動機製造年月日	

大正　年　月　日

京都府

定期又ハ臨時檢查年月日			
大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日

〔京都廳〕

前項ノ罰則ハ營業者法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

第二十三條　營業者ハ家族、雇人又ハ船員ニシテ其ノ營業ニ關シ違反行爲アリタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルコトヲ得ス營業代理人其ノ管理スル營業ノ範圍內ニ於テ亦同シ

附　則

第二十四條　本令施行ノ際現ニ本令ノ適用ヲ受クヘキ汽船營業ヲ爲ス者ハ三箇月以內ニ本則第五條ノ事項ヲ具シ知事ニ願出テ檢查證ノ交付ヲ受クヘシ

本船所在地

所有者

〔京都警〕

●通船營業取締規則

明治四十年八月二十三日
京都府令第五十號

總則

第一條　本則ニ於テ通船營業ト稱スルハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運航スル船ヲ使用シ河川港灣ニ於テ運漕ノ業ヲ營ムモノヲ謂フ

第二條　他府縣ニ於テ通船營業ノ許可又ハ船夫鑑札、船體檢查證ヲ受ケタル者ハ航路ノ管內ニ直接聯通スル場合ニ限リ本則ニ依リ許可又ハ船夫鑑札、船體檢查證ヲ受クルヲ要セス乘客ノ定員、貨物ノ積量及運賃ニ就テモ亦同シ

第一章　營業者

第三條　通船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ第二號第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　族籍住所氏名年齡

二　船ノ種類及艘數

三　定繫場及航路區域

船カ他人ノ所有ニ係ルトキハ船主ノ承諾書又航路カ疏水運河ナルトキハ京都市ノ許可書寫ヲ前項ノ願書ニ添附スヘシ

第四條　營業用ノ船ハ所轄警察官署ニ於テ檢查證ヲ受ケタル後ニ非サレハ使用スヘカラス船體ノ改修ヲ爲シタルトキ亦同シ

第五條　營業者ハ每年所轄警察官署ノ指定シタル期日及場所ニ於テ船體ノ檢查ヲ受クヘシ所轄警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ船ノ改造修繕ヲ命シ又ハ其使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ七日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但第二號ノ場合ハ檢查證ノ書換又ハ再下付ヲ請ヒ第三號ノ場合ハ檢查證ヲ返納スヘシ

一　營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ住所以外ノ營業所ヲ設ケ若クハ之ヲ廢止變更シタルトキ

二　船體檢查證ヲ亡失毀損シ又ハ其記載ノ事項ニ異動ヲ生シ若クハ文字不明トナリタルトキ

三　廢業又ハ船ノ使用ヲ廢シタルトキ

營業者死亡又ハ失踪シタルトキハ前項ノ例ニ依リ戶籍法屆出義務者ヨリ屆出同時ニ船體檢查證ヲ返納スヘシ

第七條　營業者ハ乘客ノ定員、貨物ノ積量及運賃ヲ定メ營業開始前ニ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ定員、積量、運賃及船體檢查證ハ船內諸易キ場所ニ揭示スヘシ

第八條　營業者ハ船夫鑑札ヲ受有セサル者ニ船夫ノ業ヲ執ラシムヘカラス但十六歲未滿ノ者ヲ助手ニ使用スルハ此限リニアラス

第九條　營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其責ニ任ス

第二章　船夫

第十條　船夫タラントスル者ハ其族籍住所氏名年齡ヲ記シ所轄警察官署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ營業者ニシテ船夫ノ業ヲ執ラムトスルモノ亦同シ

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船夫タルコトヲ得ス

一　酔狂又ハ暴行ノ癖アル者
二　十六歳未滿ノ者
三　瘋癲白痴者
四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ改悛ノ情ナキ者

第十二條　鑑札面ニ異動ヲ生シ又ハ亡失毀損若クハ其記載文字不明トナリタルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ニ届出書換又ハ再下付ヲ請フヘシ

船夫廢業又ハ死亡失踪シタルトキハ速ニ届出同時ニ鑑札ヲ返納スヘシ但死亡失踪ノ場合ハ戸籍法届出義務者ニ於テ其手續ヲ爲スヘシ

第十三條　船夫ハ毎年四月十月ノ兩度所轄警察官署ニ出頭シ鑑札ノ照査ヲ受クヘシ

第十四條　船夫ハ就業中鑑札ヲ携帶シ警察官吏ノ求メアリタルトキハ之ヲ示スヘシ

前項ノ期間ニ鑑札ノ照査ヲ受ケサルトキハ廢業シタルモノト看做ス

鑑札ハ他人ニ貸與スヘカラス

第十五條　酩酊シテ就業シ又ハ見苦敷服裝ヲ爲スヘカラス

第十六條　乘客ハ懇切ニ接遇シ荷モ輕忽傲慢ノ行爲アルヘカラス

第十七條　河川堤防ニ設ケタル水制工、測量標、量水標、護岸、根圍杭又ハ橋脚、塵除杭、燈臺其他浮標等ニ船ヲ繫クヘカラス

第十八條　他船ト行逢フトキハ右ニ避クヘシ若シ淺隘等ニテ避讓スルコトヲ能ハサル場合ハ避クルニ便宜ナル船ヨリ航路ヲ讓ルヘシ

第十九條　前船徐航シ後船之ヲ乘リ越エントスルトキハ後船ヨリ其意ヲ告知シ前船ハ左ニ避ケ後船ハ其右ヲ通過スヘシ

第二十條　濃霧降雪等ニシテ航路分明ナラサルトキハ衝突豫防ノ爲メ適宜ノ方法ニ依リ信號スヘシ

第二十一條　夜中船行ノ際ハ適宜ノ船燈ヲ點用スヘシ

隧道進行中ハ晝夜ニ拘ハラス點燈スヘシ

第二十二條　他船ト衝突シ又ハ其他ノ事故ニ依リ危害ヲ生シタルトキ若クハ橋脚、水制杭、浮標等ヲ毀損シタルトキハ速ニ最寄警察官署又ハ巡査派出所若クハ巡査駐在所ニ届出ツヘシ

第三章　營業者及船夫ニ通スル規定

第二十三條　船内ハ常ニ清潔ニシテ客室ニハ風雨ヲ防クニ足ル設備ヲ爲スヘシ

第二十四條　船體檢査證ハ他船ニ轉用シ又ハ他人ニ貸與スヘカラス

第二十五條　客引ヲ出シ若クハ强テ乘船ヲ勸メ又ハ認可以外ノ運賃ヲ請求スヘカラス

第二十六條　乘客及貨物ノ積量ハ認可以外ニ搭載スヘカラス但認可以内ト雖警察官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時制限スルコトアルヘシ

第二十七條　故ナク出船ヲ拒ミ又ハ約束以外ノ地ニ於テ貨物ノ積卸ヲナシ若クハ乘客ノ意ニ反シテ上陸セシメ又ハ他船ニ轉乘セシムヘカラス

第二十八條　暴風雨、出水、激浪或ハ降雪、結氷等ノ爲メ警察官吏ニ於テ危險ノ虞アリト認ムルトキハ運航ヲ制止スルコトアルヘシ

第二十九條　左ニ列記スルモノヲ乘載スヘカラス

一　癩病其他同乘者ニ厭忌ノ感ヲ起サシムヘキ疾患者
二　保護人ナキ瘋癲人及亂酔者
三　同乘車ニ不快ヲ感セシムヘキ不潔ノ容裝ヲ爲シタル者
四　臭氣ヲ發散シ其他同乘者ノ迷惑トナルヘキ物件ヲ携帶スル者

第三十條　營業者又ハ船夫本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトアルヘシ

第四章　罰則

第三十一條　本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

〔京都警〕

附則

第三十二條　明治二十八年三月府令第三十號諸川通船營業取締規則ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第三十三條　從來ノ通船營業者及船夫ハ明治四十年九月一日迄ニ本則ニ依リ手續ヲ爲スヘシ

●臺灣汽船職員懲戒取扱規則ニ依ル届出取扱ノ件

明治三十六年一月三十一日
京都府訓令第三號
丹後沿海警察(分)署

臺灣總督府令第八十二號臺灣汽船職員懲戒取扱規則第一條第二條ニ依リ其署又ハ其役場ニ該事項ノ届出ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ受理シ同規則第三條ニ準據シテ其取扱ヲ爲スヘシ

參照

臺灣總督府令第八十二號臺灣汽船職員懲戒取扱規則（明治三十五年十月二十四日、同月三十一日官報）抄錄

第一條　海技免狀ヲ受有スル汽船職員其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當シタルトキハ當該船長（船長不在ナルトキハ其代理者）ニ於テ臺灣總督府又ハ本船所在地若ハ爾後初テ到著シタル地ヲ管轄スル廳若ハ支廳内地ニ在リテハ海事局海務署同出張所警察署同分署市役所町村役場市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニアリテハ戸長役場又ハ之ニ準スヘキ役場外國ニアリテハ其地駐劄ノ日本領事館同分館若ハ貿易事務館ニ其旨届出ヘシ

一　人ヲ殺傷シ又ハ自他ヲ問ハス船舶ヲ沈沒破壞シ又ハ船體若ハ機關ヲ毀損シタルトキ
二　船舶ヲ放棄シタルトキ
三　海難ニ罹リタルトキ若ハ海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
四　法令違反ノ所爲アリタルトキ

第二條　前條各號ニ該當スル事實アルコトヲ認知シ若ハ其事實アリト思料シタル者ハ同條ニ揭クル官廳若ハ公署ニ其旨届出ツヘシ

第三條　廳長支廳長海事官稅關官吏警察官吏ニ於テ臺灣汽船職員懲戒規則第一條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ當該職員及必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ海難事件ニ在リテハ左ノ各號ノ事項其他ノ事件ニ在リテハ第一號乃至第五號及第十四號ノ事項ヲ取調調書ヲ作リ直ニ之ヲ臺灣汽船職員懲戒委員會ニ提出スヘシ

一　取調ヲ受ケタルモノヽ住所氏名職業及年齡
二　汽船ノ名稱種類登簿噸數及公稱馬力竝其所有者ノ住所氏名
三　汽船職員ノ住所氏名竝其受有スル海技免狀ノ種類及番號（内地ノ授與ニ係ルトキハ其旨附記スヘシ）
四　發航地到達地竝事件ヲ惹起シタル場所及年月日時
五　事件ノ顚末
六　發航以後事件ヲ惹起シタル迄ノ天候航路速力及船舶職員能取看守ノ當直時間竝其氏名
七　船舶損傷ノ箇所竝其要用ノ適否
八　船客乘組員數竝其死傷ノ有無
九　貨物種類數量竝其損害ノ有無
十　人命船舶及貨物救護ノ方法
十一　航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及航路ニ於ケル目差

〔京都警〕

十二　使用シタル海圖ノ種類及番號
十三　航海日誌ノ存否
十四　取調ヲ受ケタル者何日其地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ取調ヲ受ケタル者ニ之ヲ讀聞カセ其ニ署名捺印スヘシ
臺灣汽船職員懲戒規則抄錄

第一條　海技免狀ヲ受有スル汽船職員其業務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ懲戒委員會ノ評決ヲ以テ懲戒ヲ加フ
一　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シ又ハ自他ヲ問ハス船舶ヲ沈沒破壞シ又ハ船體若ハ機關ノ要部ヲ毀損シタルトキ
二　正當ノ理由ナクシテ其船舶ヲ放棄シタルトキ
三　海難ニ罹リタル自他ノ船舶船客若ハ船員ヲ正當ノ理由ナクシテ救助スルノ方法ヲ盡サヽルトキ
四　其他法令違反ノ所爲ニシテ懲戒ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキ

●和船及漁船等夜間點燈セサルモノ注意方

明治二十九年五月
訓示第一七號

和船若クハ漁船等ニ於テ夜間點燈セサルモノ注意方ノ儀ニ付左ノ通管船局長ヨリ通牒有之候條部内船主又ハ乘込員等ニ敎諭シ災害勿カラシムル樣取計フヘシ

管局第二三五四號（明治二十九年五月六日）

海難取調書中汽船ト和船若クハ漁船トノ衝突ニ關スル事項ヲ調査スルニ和船若クハ漁船ニ於テ成規ノ燈火ヲ標示セサルヨリ此災害ヲ惹起スルモノ十中八九ニ居レリ元來衝突豫防法ハ此等ノ災害ヲ豫防センカ爲メ制定セラレタルモノナルニ拘ハラス和船若クハ漁船乘組員ニ在テハ往々該法ノ何タルヲ辨知セスシテ遂ニ船舶ヲ破損シ生命貨物ヲ亡失シ加之自己曲者トナリテ訴フル所ナキニ至ル寔ニ慨歎ニ堪ヘサル次第ニ有之候向後此災害ヲ除却スルノ手段ハ警察官又ハ町村長等ニ於テ彼輩ノ營業上該法ノ遵由ヲササルヘカラサル所以ヲ懇諭スルノ外無之ト被存候條右ノ趣御示達相成候樣致度遞信大臣ノ命ニ依リ此段及御内議候也

第五節　運送

●運送業取締規則

明治二十年一月二十四日
京都府令第十八號

改正　明治二〇年京都府令第一六〇號、大正一三年第八七號

第一條　運送業者ハ便宜地區ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ定メ郡區役所ヲ經テ府廳ノ認可ヲ受クヘシ
但シ組合ノ分立又ハ合併其外規約ヲ改正セントスルトキ亦同シ

第二條　運送業トハ陸運請負業人馬繼立業陸運稼業廻送業ヲ總稱ス

第三條　新タニ前條ノ營業ヲ爲ス者ハ其地區ノ組合ヘ加入スヘシ

第四條　組合ハ組長副組長ヲ選ミ組合ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ其住所姓名ハ郡區役所ヲ經テ府廳ニ屆出ヘシ

第五條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ揭記スヘシ
一　組合ノ地區及名稱
二　組合ノ事務條規及事務所ノ位置
三　役員ノ職務手當及選擧方法
四　貨物取扱ノ方法竝ニ責任
五　組合ノ費用收支方法

〔京都警〕

六　保證金々額竝ニ保管ノ方法
七　組合ノ證票竝ニ組合會ニ關スル規程
八　違約者處分ノ方法
此外營業上必要ノ事項ハ便宜揭載スヘシ

第六條　組合ノ證票ハ各自之ヲ携帶シ若クハ衆人ノ見易キ場所ニ揭ケ置クヘシ

第七條　運送物毀損滅脫沽濁等ノ懸念アルトキハ相當ノ保護ヲ爲スヘシ

第八條　運送物ニ損害アリト見認メタルトキハ原因ヲ糺シ事由ヲ證明スルニアラサレハ運送スヘカラス但此場合ニ於テハ事狀ヲ詳記シ速ニ組合役員ヘ報告スヘシ

第九條　延著又ハ不著物等アリテ取調ヲ貨主ヨリ申込アルトキハ速ニ捜索ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　請負營業者ハ身元保證金ヲ組合ニ差出シ置クヘシ

第十一條　請負營業者ハ運送物ニ物品ノ種類數量貨主及屆先ノ住所姓名賃錢前拂先拂等ヲ明記シタル送狀ヲ付シ且運送物ノ所在ヲ明カニスル爲メ繼立帳ヲ製シ明細ニ記載シ置クヘシ

第十二條　人馬繼立業者ハ繼立帳ヲ製シ貨物ノ屆先竝ニ使用セシ人名賃錢等ヲ詳記シ置クヘシ

第十三條　本則第一條第三條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第六節　渡航

●外國旅券下付及移民渡航願手續

明治四十年五月五日
京都府令第二十九號

改正　明治四二年京都府令第五五號、大正二年第三號

第一條　外國旅券下付願ハ別紙第一號書式ニ依リ北米合衆國本土及布哇比律賓群島ヘノ渡航者ニ在リテハ乘船シテ出發スヘキ港名ヲ明記シ又移民ノ渡航願ハ第二號書式ニ依リ乘船シテ出發スヘキ港名ヲ明記シ倘ホ最近撮影ノ寫眞二葉ヲ添ヘ當廳ニ差出スヘシ
但シ保證人ヲ定メ渡航スル移民ニアリテハ前項ノ願書ニ別紙第三號書式ニ依ル保證書第四號書式ニ依ル保證人納稅額證明書及戸籍謄本ヲ添付スヘシ

第二條　移民ニシテ年齡十五年未滿五十年以上ノモノハ其渡航ヲ許可セス
但シ移住ノ家族ニシテ移民ト同行シ若ハ其所在地ニ渡航スルモノハ此限ニアラス

第三條　移民ノ保證人ハ當府管内ニ居住シ一ヶ年以來引續キ地租五圓以上ヲ納メ若ハ當府管内ニ土地家屋ヲ所有シ且所得稅ヲ納メ左ノ事項ニ該當セサルモノニ限ル
一　無能力者
二　公權剝奪若ハ停止中ノモノ
三　〔豫戒命令中ノ者〕
四　破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサルモノ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四條　旅券ノ下付ヲ受ケタルモノハ別紙第五號書式ニ依ル領收書ヲ差出スヘシ

〔書式〕

第一號

外國旅券下付願

今般何々ノ爲メ何國何地ヘ旅行致度候ニ付旅券御下付相成度別紙戸籍謄本（身分證明書類）相添ヘ此段相願候也

年　月　日

本籍地何府縣何市郡區町村何番戸地
所在地（本籍地ト所在地ト異ナルトキハ所在地ヲ併記スヘシ）
（戸主家族ノ別、家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ）
族稱職業
何　ノ　某㊞（片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ）
何年　月日生
當何年何ケ月
（未成年者ノ家族ニアリテハ戸主ノ連署又未成年者ノ戸主ニアリテハ後見人若ハ親權者ノ連署ヲ要ス）

京都府知事宛

第二號　渡航願

今般何業ノ爲メ何國何地へ明治何年何月ヨリ向フ何年間渡航仕度候間御許可ノ上旅券御下付相成度移民取扱人（又ハ保證人）連署此段相願候也

年　月　日

本籍地何府縣何市郡區町村何番戸地
現住所（現住所ト本籍地ト異ナルトキハ現住所ヲモ併記スヘシ）
戸主（非戸主ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ）
族稱職業
何　ノ　某㊞（片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ）

〔京都警〕

第三號

京都府知事宛

收入印紙貼用

保證書

何府縣何市郡區町村何番戸地族稱
何　ノ　某

生年月日

右ノ者今般何々ノ爲メ何國何地へ渡航ニ付私共連帶責任ヲ以テ保證人ニ相立候ニ付テハ本人疾病其他困難ノ場合ニ於テハ御指揮ニ從ヒ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘキハ勿論官廳ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシメラレタルトキハ速ニ其費金ヲ辨償致ス可ク又他日保證人タル資格ヲ失フカ若ハ其資格不充分ナリト御認定相成候場合ハ更ニ相當保證人相定ムヘク其他何事ニ依ラス本人ノ身上ニ關シ官廳ノ指示命令ニハ服從致シ保證ノ責

務相竭シ可申依テ右保證書差出候也

年　月　日

何府縣何市郡區町村何番戸地
保證人　何　ノ　某㊞
同　保證人　何　ノ　某㊞

京都府知事宛

第四號　證明書

京都府何市郡區町村何番戸地
何　ノ　某

一地租年額　何圓
（又ハ）
一所得稅年額　何圓
一土地何町段畝歩（家屋若干）所有ス
右者前記ノ通リ當管内ニ於テ一ケ年以來納稅（且土地又ハ家屋ヲ所有）セルコトヲ證明ス

年　月　日

區町村長名

第五號

壹圓ノ收入印紙ヲ貼用シ消印ヲ施サヽルコト

領收書

一海外旅券　壹通
但明治年月日付第何號ナリ（旅券面記載ノ年月日及番號ヲ記載スルコト）

年　月　日

本籍地名
何　ノ　某㊞

京都府知事宛

第六章　産業

第一節　農業

●肥料取締法施行細則

大正十年七月十五日
京都府令第七十五號

改正　大正一五年京都府令第九〇號

第一條　肥料營業ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ附錄第一號乃至第三號樣式ニ依リ出願スヘシ

第二條　肥料營業者ハ營業所、製造場及藏置所ノ見易キ場所ニ標札ヲ揭クヘシ

第三條　肥料營業者ニシテ自ラ管理ヲ爲ササル營業所、製造場、藏置所ニハ管理人ヲ定メ遲滯ナク其ノ住所氏名ヲ届出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四條　行商鑑札ヲ喪失又ハ著シク毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スヘシ

第五條　肥料取締法第六條又ハ第七條ノ處分書ヲ本人ニ送達スルコト能ハサルトキハ之ヲ告示ス

第六條　肥料行商者ハ帳簿ヲ携帶シ肥料ヲ讓受ケ又ハ肥料營業者ニ讓渡ス毎ニ其ノ名稱、數量、價額、年月日及相手方ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第七條　未成年者又ハ禁治產者ノ願、届書ニハ法定代理人ノ連署ヲ要シ禁治產者又ハ妻ナルトキハ輔佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス

第八條　法人ノ肥料營業免許願書ニハ事務所ノ位置及代表者ノ氏名ヲ記載シ定款ヲ添付スヘシ

前項ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨届出ツヘシ

〔京都警〕

第九條　肥料營業ニ關スル願、届、保證票、帳簿、標札ハ附錄第四號乃至第十九號樣式ニ依ルヘシ

第十條　第二條第三條第六條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十一條（削除）

附　則

第十二條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附錄樣式略ス）

●京都府穀物檢查規則

大正九年五月十一日
京都府令第四十四號

改正　大正一〇年京都府令第三〇號、一一年第一九號、一二年第一四號

大正四年京都府令第十九號京都府米穀檢查規則左ノ通改正ス

第一條　本則ニ於テ穀物ト稱スルハ左ノモノヲ謂フ

一米　玄米、精米

一麥　玄大麥、玄稞麥、小麥

第二條　府內生產ノ穀物ヲ府內ニ於テ授受シ（精米ヲ除ク）又ハ府外ニ移出セムトスル者ハ其ノ一回ノ授受又ハ移出高玄米ハ四斗精米ハ二斗玄大麥ハ十二貫匁玄稞麥ハ十五貫匁小麥ハ十四貫匁以上ナルトキハ本則ノ定ムル所ニ依リ俵、叺若ハ袋ニ入レ檢查ヲ受クルコトヲ要ス

府外生產ノ穀物ニシテ其ノ證還ナキモノ及府內ニ於テ精白シタルモノハ府內生產ノモノト看做ス

第三條　檢查ハ生產檢查、移出檢查ノ二種トス生產檢查ハ他人ニ交付スヘキ玄米及麥ニ付特別ノ事情アルモノノ外生產市町村ニ於テ之ヲ行フ

移出檢查ハ府外ニ移出スル穀物ニ付港灣停車場其ノ他福要ノ場所ニ於テ之ヲ行フ

〔京都警〕

第四條　穀物ヲ汽車積、電車積、船積トスルトキハ府內運搬ノ場合ニ於テモ之ヲ移出ト看做ス陸路ニ依リ京都市內ヘ搬入スル場合亦同シ但シ單ニ精白ノ爲搬入スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　檢查ハ左ノ事項ニ付之ヲ行フ

一　品質
二　乾燥
三　調製
四　容量又ハ重量
五　俵裝

米一俵ノ容量ハ四斗トシ一叺又ハ一袋ノ容量ハ二斗以上四斗未滿トス麥一俵ノ重量ハ玄大麥ハ正味十二貫匁玄稞麥ハ正味十五貫匁小麥ハ正味十四貫匁トス玄米及麥ハ叺又ハ袋ニ入ルコトヲ得ス

俵裝ハ二重トシ掛繩ハ米ニ在リテハ橫繩五箇所二廻結縱繩二筋四方掛トシ麥ニ在リテハ橫繩五箇所二廻結縱繩二筋二方掛トス但シ生產檢查ニ於テハ縱繩ヲ免除スルコトアルヘシ

第六條　檢查ハ左ノ各號ニ依リ合格、不合格ヲ定メ生產檢查ニ在リテハ合格ハ甲、乙、丙ノ三等級ヲ付シ移出檢查ハ米ニ在リテハ大粒、小粒ニ分チ合格玄米ハ各一等、二等、三等合格精米ハ各一等、二等、三等、四等合格麥ハ各一等、二等、三等ノ等級ヲ付ス

一　粒形齊一ナリヤ否種類品位ノ異ナルモノヲ混淆セサルヤ否
二　乾燥良好ナリヤ否
三　籾、粃、稈、碎米、土砂、塵芥等ヲ除去セラレタリヤ否精米ニ在リテハ糠、石粉ノ附著少キヤ否
四　俵裝良好ナリヤ否

第七條　檢查ハ檢查員之ヲ行フ

檢查員其ノ職務ヲ行フトキハ第一號樣式ノ證票ヲ携帶スルモノトス

第八條　檢查員ハ自己又ハ親族ノ所有若ハ其ノ所有ト爲ルヘキ穀物ノ檢查ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　生產檢查ハ米ニ在リテハ每年十月一日ヨリ翌年三月末日迄麥ニ在リテハ每年六月一日ヨリ九月末日迄之ヲ行フ但シ特別ノ事情アルモノニ對シテハ右期間外ト雖之ヲ行フ

第十條　檢查ハ日出ヨリ日沒迄之ヲ行フ

第十一條　生產檢查ヲ受ケムトスル者ハ口頭又ハ書面ヲ以テ現品所在地、俵數、受檢希望ノ日時ヲ具シ現品所在地市町村ノ檢查員ニ請求スヘシ

第十二條　生產檢查ヲ受クル場合ハ第二號樣式ノ票箋ヲ俵口ノ一方ニ結付ケ檢查員ノ認印ヲ受クヘシ

第十三條　移出檢查ヲ受ケムトスル者ハ第三號樣式ノ請求書ヲ現品所在地最寄檢查員派出所若ハ臨時出張所ニ差出スヘシ

第十四條　本則ノ定ムル記號ニ類似シタル商標其ノ他ノ記號ヲ俵、叺又ハ袋ノ表面ニ附記押捺スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　第四條但書ノ場合ニ於テ穀物ヲ京都市內ヘ搬入スル者ハ第四號樣式ノ一ノ申請書ヲ現品所在地最寄檢查員派出所若ハ臨時出張所ニ差出シ承認ヲ受ケ精白ノ後市外ニ搬出スルトキハ第四號樣式ノ二ノ届書ヲ差出スヘシ

精白營業者ハ第五號樣式ニ定ムル帳簿ヲ備ヘ前項ノ承認ヲ經タル穀物ハ之ニ記載スヘシ

第十六條　他府縣產ノ穀物ニシテ其ノ證還ナキモノヲ移入シタル者ハ現品所在地最寄檢查員派出所若ハ臨時出張所ニ届出テ第六號樣式ノ證印ヲ受

クルコトヲ得

第十七條　移出檢査ヲ受ケムトスル者ハ檢査手數料トシテ玄米ハ一俵ニ付金七錢麥ハ一俵ニ付金三錢ヲ納付スヘシ但シ農業倉庫業者カ農業倉庫業法第一條第一項ニ依ル保管穀物ヲ移出セムトスルトキハ其ノ檢査手數料ハ玄米ハ一俵ニ付金三錢麥ハ一俵ニ付金一錢トス

第十八條　檢査上必要ナル積替、運搬、枡廻、秤量、解俵等ニ關スル夫役及費用ハ受檢者ノ負擔トス

第十九條　檢査員生產檢査ヲ爲シタルトキハ俵小口ニ第七號樣式ノ證印ニテ卷封シ之ニ證印ヲ押捺ス

第二十條　檢査員移出檢査ヲ爲シタルトキハ玄米及麥ハ俵面ニ第八號樣式ノ記號ヲ押捺シ精米ハ俵、叺又ハ袋ノ掛繩ノ結止ニ第九號樣式ノ證印ヲ卷封シ之ニ認印ス

第二十一條　檢査員ニ於テ容量重量又ハ俵裝ノ規定ニ適合セサルモノト認メタルトキハ容量重量ノ補足若ハ改裝ヲナサシメタル後檢査ヲ行フ

第二十二條　檢査員本則違反ノ疑アリト認ムルトキハ穀物ノ保管又ハ運搬停止若ハ關係資料ノ提供ヲ命スルコトヲ得

第二十三條　檢査員ハ必要アリト認ムルトキハ檢査濟ノ穀物ノ再檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　檢査濟ノ穀物ニシテ俵裝毀損其ノ他ノ事故ニ依リ解俵シタルトキハ檢査ハ其ノ效力ヲ失フ證印毀損亡失シ又ハ證印不明瞭トナリタルトキ亦同シ

第二十五條　檢査記號又ハ證印アル俵ハ檢査員ノ抹消ヲ受クルニ在ラサレハ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第二十六條　左ノ各號ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者

一　第十五條第一項ノ規定ニ違反シ穀物ヲ搬入シタル者

一　檢査ヲ免ルルノ目的ヲ以テ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

一　授受又ハ移出セムトスル檢査濟ノ穀物ニ濕氣ヲ施シ異質ノ穀物其ノ他ノ物ヲ混入シ又ハ其ノ容量重量ヲ變更シタル者

一　故ナク檢査ノ記號ヲ抹消シ又ハ卷封ヲ破棄シタル者

第二十七條　第十五條第二項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ爲ササル者又ハ第二十二條ノ穀物ノ保管、運搬停止又ハ關係資料ノ提供ヲ拒ミ第二十三條ノ再檢査ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第二十八條　穀物ヲ授受又ハ移出スル者ハ其ノ代理人家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本則ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條　穀物ヲ授受又ハ移出スル者カ未成年者若ハ禁治產者ナルトキハ本則ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ間則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　穀物ヲ授受又ハ移出スル者カ法人ナルトキハ本則ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ間則ハ之ヲ其ノ代表者若ハ清算人ニ適用ス

附　則

第三十一條　本則ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　本則中麥ノ檢査ハ大正九年生產ノモノヨリ之ヲ施行ス

（樣式略ス）

●穀物檢査手數料徵收規則

大正九年五月十一日
京都府令第四十五號

改正　大正一二年京都府令第三四號、一五年第一三三號

大正六年京都府令第四十號米穀檢査手數料徵收規則左ノ通改正ス

第一條　穀物檢査手數料ハ證紙ヲ以テ納付スヘシ

證紙ハ檢査請求書ニ貼付シ請求者ノ印章ヲ以テ消印ヲ爲スヘシ

第二條　損傷又ハ汚染シタル證紙ハ之ヲ使用シ又ハ引換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　證紙ノ種類及彩紋ハ第一號樣式ニ依ル

第四條　證紙ハ證紙賣捌所ニ於テ之ヲ賣捌ク

前項ノ賣捌所及其ノ賣捌人ハ知事之ヲ指定シ別ニ告示ス其ノ取消ヲ爲シタルトキ亦同シ

第五條　前條ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ第二號樣式ニ依ル申請書ヲ知事ニ差出スヘシ

第六條　證紙賣捌人ハ第三號樣式ニ依ル請求書ヲ府廳又ハ京都府穀物檢査所ニ差出シ料金ヲ納付シタル後證紙ノ交付ヲ受クヘシ

第七條　證紙賣捌手數料トシテ前條納付金額ノ百分ノ五ニ相當スル證紙ヲ賣捌人ニ交付ス但シ壹錢ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第八條　證紙賣捌人ハ第四號樣式ノ標札ヲ揭クヘシ

第九條　證紙賣捌人其ノ賣捌ヲ廢止セムトスルトキハ知事ニ屆出ツヘシ知事ハ必要ニ應シ賣捌人ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合賣捌殘餘ノ證紙ハ之ヲ返納シ其ノ證紙金額ヨリ百分ノ五ヲ控除シタル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得

第十條　本則第二條前段ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十一條　（削除）

第十二條　（削除）

第十三條　本則ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式略ス）

●蠶絲業法施行手續

大正七年一月十五日
京都府令第一號

改正　大正八年京都府令第三九號、九年第三二號、一二年第三九號、一四年第二二號、一五年第八一號

第一條　蠶業取締所及其ノ支所ハ左ノ通之ヲ常置ス

名稱	位置	管轄區域
京都府蠶業取締所	府廳內	府下一圓（山城國（久世、綴喜、相樂郡ヲ除ク）直轄）
京都府蠶業取締所木津支所	相樂郡木津町	久世郡、綴喜郡、相樂郡
京都府蠶業取締所園部支所	船井郡園部町	南桑田郡、北桑田郡、船井郡
京都府蠶業取締所綾部支所	何鹿郡綾部町	何鹿郡

京都府蠶業取締所福知山支所	天田郡福知山町	天田郡
京都府蠶業取締所舞鶴支所	加佐郡舞鶴町	加佐郡
京都府蠶業取締所宮津支所	與謝郡宮津町	與謝郡
京都府蠶業取締所峰山支所	中郡峰山町	中郡、竹野郡
京都府蠶業取締所久美濱支所	熊野郡久美濱町	熊野郡

出張所ヲ設ケタルトキハ其ノ名稱、位置、管轄區域及開閉ノ期日ハ之ヲ告示ス

第二條　蠶絲業法施行規則第二條ノ免許願書ハ樣式第一號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第三條　免許ヲ受ケタル蠶種製造者死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ戶主若ハ家族ヨリ、業務ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ本人ヨリ遲滯ナク免許證ヲ返納スヘシ

第四條　蠶絲業法施行規則第五條ニ依ル屆書ハ每年三月末日迄ニ樣式第二號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

前項ノ屆書ハ三月末日以後蠶種製造ノ免許ヲ受ケタルモノニ在リテハ免許後遲滯ナク之ヲ知事ニ差出スヘシ

第五條　蠶絲業法施行規則第六條ノ規定ニ依ル屆書ハ生繭取扱場所ヲ豫定シタルモノニ在リテハ每年五月十日迄ニ、之ヲ豫定セサルモノニ在リテハ生繭取扱開始前五日迄ニ樣式第三號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第六條　蠶絲業法施行規則第六條、第十二條及第十三條ノ規定ハ每年八月十日以後ニ之ヲ適用セス

第七條　蠶絲業法施行規則第八條ノ規定ニ依ル許可願書ニハ戶籍謄本ヲ添附シ之ヲ知事ニ差出スヘシ但シ死亡ニ依ラサル相續ノ場合ニ於テハ被相續人ノ連署ヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ之ト同時ニ免許證ノ書換ヲ請求スヘシ

第八條　蠶絲業法施行規則第十五條ノ規定ニ依ル蠶室及蠶具ノ消毒ハ蠶兒ノ飼育又ハ蠶種製造ノ都度之ヲ行フヘシ

養蠶者ノ使用シタル蠶室又ハ蠶具ヲ使用セムトスル場合ニ於テハ其ノ使用前ニ消毒ヲ行フヘシ

第九條　蠶絲業法施行規則第十七條ノ原蠶種製造用蠶兒檢查請求書ハ樣式第四號ニ依リ、普通蠶種製造用蠶兒掃立屆ハ樣式第五號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第十條　蠶絲業法施行規則第十九條第一項但書ノ規定ニ依リ掃立口ヲ合併シ又ハ分割セムトスルトキハ其ノ掃立口及合併又ハ分割スヘキ部分ヲ蠶種製造者ニ通知ス

第十一條　蠶絲業法施行規則第二十一條第一項ノ記號ハ平假名ヲ用井、同規則第三十四條第二項ノ符號ハ數字ヲ用井、容器ニ納メタル袋製蠶種ハ各袋ニ一容器每ニ起算シタル番號ヲ附スヘシ

第十二條　（削除）

第十三條　蠶絲業法施行規則第三十七條第一項ノ規定ニ依リ記載スヘキ品種名ハ雌蛾ヲ先ニ雄蛾ヲ後ニ記載スヘシ

第十四條　蠶絲業法施行規則第二十二條ノ原蠶種製造用繭檢查請求書ハ樣式第六號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第十五條　蠶絲業法施行規則第二十四條ノ普通蠶種製造用收繭屆ハ樣式第七號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第十六條　蠶絲業法施行規則第二十六條第一項ノ規定ニ依ル普通蠶種製造用蠶兒讓渡屆ハ樣式第八號ニ依リ之ヲ蠶業取締所ニ差出スヘシ

第十七條　蠶種製造者蠶絲業法施行規則第三十三條第一項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ蠶種ヲ蠶業取締所ニ差出シ書面又ハ口頭ヲ以テ之カ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相當證明ヲ必要トスルトキハ其ノ證憑物件ヲ提示スルコトヲ要ス

第十八條　蠶絲業法施行規則第三十二條但書又ハ第三十六條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ交雜又ハ變更セムトスルモノニ付左ノ事項ヲ記載シタル許可願書ヲ其ノ蠶兒ノ上簇前知事ニ差出スヘシ

一　化性、品種名
二　品種ノ沿革
三　蠶性、繭質ニ關スル調書
四　交雜又ハ變更ヲ必要トスル理由
五　製造豫定額

第十九條　蠶絲業法施行規則第二十五條第一項、第二十八條第一項ノ規定ニ依リ種繭檢查合格證又ハ種繭證明書ノ裏書若ハ下附ヲ請求セムトスルトキハ樣式第九號ニ依リ其ノ請求書ヲ蠶業取締所ニ差出スヘシ但シ讓渡人ノ裏書ノ請求ハ讓受人ノ下付請求書ニ連署シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條　蠶絲業法施行規則第四十五條ノ原蠶種母蛾檢查請求書ハ製造後直ニ樣式第十號ニ依リ知事ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ニハ種繭檢查合格證ヲ添附スヘシ

第二十一條　蠶絲業法施行規則第四十六條ノ普通蠶種歩合檢查請求書ニハ種繭證明書アルモノハ之ヲ添附シ製造後直ニ樣式第十一號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第二十二條　蠶絲業法施行規則第四十七條ノ輸入又ハ移入蠶種ノ檢查請求書ハ樣式第十二號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第二十三條　蠶絲業法施行規則第四十八條第二項ノ規定ニ依リ檢查ヲ拒ミタル蠶種、第五十條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ普通蠶種ト爲スヘキ蠶種ニ付テハ其ノ記號、番號、蠶種製造地、品種名及數量ヲ蠶種製造者ニ通知ス

第二十四條　蠶絲業法施行規則第五十二條第二項ノ規定ニ依ル普通蠶種再檢查請求書ハ不合格ノ通知ヲ受ケタル後十日內ニ樣式第十三號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

普通蠶種歩合檢查請求書中ニ其ノ旨ヲ記載シ豫メ前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ樣式第十一號中ニ之ヲ明記スヘシ

第二十五條　蠶絲業法施行規則第五十三條ノ規定ニ依リ檢查請求變更ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ樣式第十四號ニ依リ其ノ願書ヲ知事ニ差出スヘシ

第二十六條　蠶絲業法施行規則第五十四條ノ二又ハ第五十九條第一項ノ規定ニ依リ檢查證印又ハ封緘印ノ押捺ヲ請求セムトスルトキハ樣式第十五號ニ依リ其ノ請求書ヲ蠶業取締所ニ差出スヘシ

第二十六條ノ二　蠶種製造者蠶絲業法施行規則第五十八條第三項但書ノ規定ニ依ル桠製普通蠶種ノ塡補區ニ押捺スヘキ認印ノ輪廓及肉色ハ同規則樣式第十五號ニ準シ之ヲ定メ樣式第二十號ニ依リ直ニ之ヲ蠶業取締所ニ

届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十七條　蠶種製造者ハ毎年十一月末日迄ニ越年種ハ前年、不越年種ハ其ノ年ニ於テ製造シタル原蠶種ノ消費ニ付様式第十六號ニ依リ届書ヲ知事ニ差出スヘシ

第二十八條　蠶絲業法施行規則第七十四條ノ規定ニ依ル桑苗生産届書ハ毎年七月末日迄ニ様式第十七號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第二十八條ノ二　蠶絲業法施行規則第七十六條但書ノ規定ニ依リ發育ノ不良ナル桑苗ヲ譲渡サムトスル者ハ様式第二十一號ニ依ル許可願ヲ知事ニ差出スヘシ

第二十九條　蠶絲業法施行規則第七十八條第二項ノ規定ニ依リ鑑札ノ下付ヲ出願セムトスル者ハ様式第十八號ニ依リ鑑札下付願ヲ知事ニ差出スヘシ

蠶絲業法施行規則第七十八條ノ規定ニ依リ鑑札ヲ有スル者死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ戸主若ハ家族ヨリ、業務ヲ廢止シタルトキハ本人ヨリ、從業者ノ鑑札不要ニ歸シタルトキハ其ノ雇主ヨリ其ノ鑑札ヲ蠶業取締所ニ返納スヘシ

第三十條　免許證、種繭檢査合格證、種繭證明書、蠶種檢查（再檢查）合格證明書又ハ鑑札ヲ毀損シ若ハ亡失シタルトキハ其ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得但シ毀損シタルモノハ之ヲ返納スヘシ

第三十一條　蠶種製造場所又ハ蠶兒飼育場所ニ於テ受クヘキ檢查ニハ蠶種製造者、其ノ管理者又ハ適當ナル代理人之ニ立會スヘシ

第三十二條　第三條若ハ第二十九條第二項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第十八條ノ願書ニ虚偽ノ事項ヲ記載シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條　蠶業取締官吏吏員ノ官職印、蠶業取締所及支所印ハ様式第十九號ニ依ル

第三十四條　本令ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ所轄蠶業取締所ヲ經由スヘシ

附　則

第三十五條　本令ハ大正六年法律第十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正七年一月十五日）

（様式略ス）

第二節　畜産　家畜傳染病　獸醫

●畜禽飼養場取締規則

明治四十一年七月十七日
京都府令第四十六號

改正　大正七年京都府令第三二號

第一條　本則ニ於テ畜禽飼養場ト稱スルハ豚、鷄、鶩、鳶鳥ノ類ヲ養業ノ爲メ飼養スル場所ヲ謂フ

第二條　畜禽飼養場ヲ設ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　畜禽飼養場ノ位置
二　敷地ノ坪數竝ニ構造仕様書
三　最近ノ人家、道路、飲料水及ヒ隣地トノ距離ヲ示シタル平面圖
四　畜禽ノ種類及ヒ其飼養豫定數
五　落成期日

第三條　畜禽飼養場ハ左ノ構造設備ヲ爲スヘシ

但第三號ノ規定ハ豚ヲ飼養スルモノヽ外之ヲ適用セス

一　敷地ノ周圍ニハ畜禽ノ逸遊ヲ防クヘキ墻垣又ハ柵欄ヲ設クルコト

〔京都警〕

二　墻垣又ハ柵欄ノ内側ニハ不滲透質ノ材料ヲ以テ雨水及汚液ヲ排泄スヘキ溝渠ヲ設クルコト

三　不滲透質ノ材料ヲ以テ適當ノ場所ニ汚液溜ヲ設ケ且堅牢ナル覆蓋ヲ爲スコト

前項ノ外警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時設備ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　畜禽飼養場ハ離宮、御陵、御墓ヲ距ル百八十間以上、社寺官公署、學校、病院、公園、名所、舊跡、人家稠密ノ場所及交通頻繁ナル道路ヲ距ル六十間以上ニシテ障害ナキ場所ニ非サレハ設置スルコトヲ得ス

第五條　畜禽飼養場ハ常ニ清潔ニ掃除シ且汚液溜ハ時々汲取ルヘシ

第六條　人家稠密ノ場所ニ於テ惡臭ヲ發スル飼料ヲ烹煮シ又ハ禽糞ヲ乾燥スヘカラス

第七條　疾病ニ罹リ又ハ斃死シタル畜禽ハ食用ノ爲メ販賣スヘカラス

第八條　廢場又ハ場主ニ異動ヲ生シ若ハ場主ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ場主ノ死亡又ハ失踪ニ係ルトキハ戸籍法ニ據ル届出義務者ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條　本則ニ違背シ又ハ衞生上公害アリト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十條　本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條　場主カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ第十條ノ罰則ヲ法定代理人ニ適用ス

附　則

第十二條　本則第四條ノ制限ニ抵觸スル畜禽飼養場ハ大正七年十二月三十一日迄ニ移轉スヘシ

第二編　保安　第六章　産業

第十三條　明治二十八年三月府令第三十六號家禽場取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●家畜傳染病豫防法施行細則

大正十三年四月二十九日
京都府令第三十三號

家畜傳染病豫防法施行細則左ノ通定ム

第一條　家畜傳染病豫防法（以下單ニ法ト稱ス）第二條ニ依ル届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テシ左ノ各號ヲ具スヘシ、但シ獸醫以外ノ者ニ在リテハ第一號第六號及第七號ヲ除ク

一　病名
二　畜類性
三　畜主ノ住所職業氏名
四　發病月日
五　現在地、發病地又ハ經過地
六　診斷又ハ檢案ノ日時
七　發病ノ系統及病勢

第二條　前條ノ届出ヲ爲シタル畜類全癒又ハ斃死シ若ハ之ヲ殺シタルトキハ所有者、保管者又ハ獸醫ハ直ニ最初届出ヲ爲シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ届出ツヘシ

第三條　法第十三條ニヨル届出ハ左ノ各號ヲ具スヘシ

一　畜類、性、年齢、毛色
二　斃死月日時及場所
三　畜主ノ住所職業氏名
四　屍體ノ處置ノ方法及場所

五　獸醫ノ診斷書又ハ檢案書

第四條　家畜ノ所有者又ハ保管者、其ノ家畜ニ付傳染病豫防液又ハ免疫血清ノ注射ヲ受ケタルトキハ注射完了後五日以內ニ左ノ各號ヲ具シ施術獸醫ノ證明ヲ受ケ當廳ニ屆出ツヘシ

一　畜類、品種、性、年齢、毛色

二　注射ノ年月日（第一回）（第二回）注射液ノ種類竝製造年月日及製造所又ハ製造者氏名

前項ノ屆出ヲ爲シタルモノハ法第七條ニヨル地方長官ノ施行シタル注射ト看做ス

第五條　法第十條但書ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ當廳ニ願出ツヘシ

第六條　傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體ヲ學術研究又ハ病勢鑑定ノ爲解剖セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ヲ運搬セムトスルトキ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●家畜傳染病豫防法施行細則取扱手續

大正十三年四月二十九日
京都府訓令第九號

改正　大正一三年京都府訓令第二六號、一五年第四號

【郡役所】市役所　警察署　町村役場

【京都警】

家畜傳染病豫防法施行細則取扱手續左ノ通定ム

家畜傳染病豫防法施行細則取扱手續

第一條　家畜傳染病豫防法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條第一項ニ依ル報告ハ第一號樣式市町村長ニ對スル通報ハ第二號樣式ヲ以テシ尙其ノ旨隣接ノ市町村長及警察官署ニ通報スヘシ、傳染病終熄シタルトキ亦同シ

前項ノ通報ヲ受ケタル市町村長ハ其ノ旨部內ニ公示シ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

第二條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ牛疫若ハ流行性鷰口瘡發生シタルトキ又ハ傳染病蔓延ノ兆アリト認ムルトキハ其ノ他家畜傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ急報スヘシ

第三條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ法第四條乃至第七條第九條第十四條第十六條乃至第十八條ニ依ル命令又ハ處分ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ知事ニ具申スヘシ

第四條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ左ノ場合結果報告スヘシ

一　法第三條第一項第十一條第十二條規則第七條及細則第八條ノ許可ヲ爲シタルトキ

一　法第十五條ニヨル臨檢ヲ爲シタルトキ

一　細則第一條及第二條ノ屆出テヲ受理シタルトキ

第五條　細則第六條及第七條ノ願書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

第六條　細則第三條ニ依ル屆出ハ一年分ヲ第三號樣式ニ依リ翌年一月十五日迄ニ報告スヘシ

第七條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ法第二十四條第一項ニ依ル手當金交付ノ必要アルトキハ法第二十五條各號ヲ調査シ且ツ規則第十四條ニ

三名以上ノ評價人ヲ推薦シ知事ニ具申スヘシ

第八條　評價人評價ヲ爲シタルトキハ家畜ニ付テハ第四號書式、物品ニ付テハ第五號樣式ニ依リ知事ニ報告スヘシ

第九條　細則第四條ノ屆出ヲ爲シタル者注射濟證交付ノ申請ヲ爲シタルトキハ屆出事項調査ノ上第六號樣式ノ證ニ必要事項ヲ記入シ屆出人ニ交付シ屆書ニ交付ノ年月日及番號ヲ記入シ當廳ニ進達スヘシ

第十條　前條ノ證ヲ交付シタル犬ニ付テハ所有者又ハ保管者ニ於テ第七號第一號樣式

家畜傳染病發生報告

病名	畜類	牝牡	年齢	發病 日	月	斃死 日	月	殺 日	月	快復 日	月	所有者又ハ保管者ノ住所氏名

備考（發病地、現在地、病勢疑似症其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ）

右及報告候也

年　月　日

知事事務取扱

知事宛

注意　表中斃死、殺又ハ快復ヲ報告スル場合ニ於テ既ニ其畜類ノ發病報告ヲ爲シタルモノハ朱書スヘシ

第二號樣式

家畜傳染病發生通報

病名	畜類	牝牡	年齢	發病 日	月	斃死 日	月	殺 日	月	快復 日	月	所有者又ハ保管者ノ住所氏名

警察官署長（家畜防疫委員）

備考（第一號樣式ニ同シ）

右及通報候也

年 月 日

警察官署長（家畜防疫委員）

市町村長（警察官署長）宛

注意 第一號樣式ニ同シ

第三號樣式

家畜斃死表（何年分）

	牛	馬	緬羊	山羊	豚	摘要
傳染性病						
流行病						
普通病						
其他						
計						
備考						

注意 本表中ニハ法律ニ規定シタル傳染病ノ爲斃死シタルモノヲ含マス
衛生狀態斃死多キ疾病ニ付テハ其ノ原因其ノ他參考トナルヘキ事項

第四號樣式

〔京都警〕

〔京都警〕

家畜評價報告

畜類	品種	性	年齡	發病月日	豫防液注射月日	殺月日	評價額	所有者又ハ保管者ノ住所氏名

右報告候也

年 月 日

評價人 氏 名

知事宛

第五號樣式

物品評價報告

品種	數量	評價額	所有者又ハ保管者ノ住所氏名

右報告候也

年 月 日

評價人 氏 名

知事宛

第六號樣式

第　號

（何）注射之證

畜類	
牝種	
年齡	
體格	
注射年月日	

現住所　畜主　番地

右　注射ヲ完了シタルコトヲ證ス

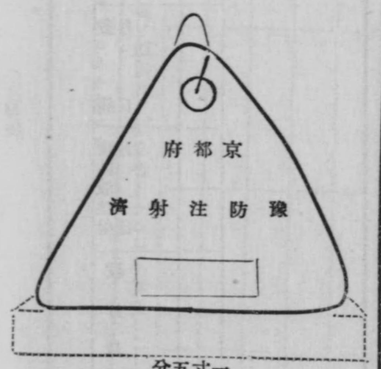
大正　年　月　日

京都府警察部

發行番號ハ其ノ署頭文字ヲ附スヘシ

第七號樣式

標札



一寸五分

【京都警】

●獸疫豫防上相互通報ノ件

明治三十一年九月
訓示第九五號

獸疫豫防施行細則第三條ニ據リ同則第一條及第二條第一項ノ屆書ヲ受タル警察官ハ管內各警察署相互ニ通報スルハ勿論甲乙管轄ヲ異ニスル場合ト雖壤地相接スル地方ニ於テ相互ニ通報スルハ豫防上頗ル便益アル儀ト思料候條自今直接通報方取計ハルヘシ

●畜牛結核病豫防法令取扱手續

明治四十年五月三日
京都府訓令第三十六號

第一條　畜牛結核病豫防法施行規則第二條第一項ニ依リ檢査ヲ受クヘキ畜牛ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ第一號樣式ニ依リ五日以內ニ報告スヘシ

同條第二項及第三項ニ依リ新タニ檢査未濟ノ畜牛ヲ所有シ若クハ管理シ又ハ屆出事項ニ變更ヲ生シタル屆出ヲ受ケタルトキハ卽時前項ノ手續ヲナスヘシ但畜牛所在地ノ變更ニシテ他ノ警察區域ニ亙ルトキハ相互速カニ通報スヘシ

第二條　畜牛結核病豫防法施行規則第三條第三項ニ依リ結核病ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ヨリ檢査ノ請求ヲ受ケタルトキハ「ツベルクリン」注射後四十五日ヲ經過セサルモノニアラサルヤ否ヲ調査シ速ニ報告スヘシ

第三條　畜牛結核病豫防法施行規則第五條ニ依ル畜牛檢査ノ期日及日時場所ハ警務長ノ指示ニ依リ指定スヘシ

畜牛結核病豫防法施行規則第四條第三項ニ依リ警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ第七條第二項ニ依リ屆出ノ事由正當ト認メ別ニ檢査ノ日時場所ヲ指定セントスルトキハ豫メ警務長ニ稟議スヘシ

前二項ノ檢査期日及日時場所ハ畜牛所有者又ハ管理者ニ通達スヘシ

第四條　畜牛結核病豫防法施行規則第七條第一項ニ依リ屆出ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ正當ノ理由アルモノニ限リ之ヲ猶豫シ五日以內ニ報告スヘシ

第五條　畜牛結核病豫防法施行規則第十條ニ依リ耳標ヲ附シタル畜牛ハ每月二回以上臨檢シ必要ナル注意ヲ加フヘシ

第六條　畜牛結核病豫防法施行規則第十一條第一項ニ依リ耳標ノ毀損若クハ喪失ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其番號ヲ記シ當廳ニ請求シ更ニ之ヲ附スヘシ

檢査員又ハ警察官署ニ於テ其毀損喪失ヲ發見シタルトキ亦同シ

第七條　畜牛結核病豫防法施行規則第十二條ニ依リ檢査員ノ指定シタル隔離又ハ鎖鎖ノ方法若クハ場所ヲ變更セントスルトキハ支障ノ有無ヲ調査シ許否スヘシ但シ許可ヲ與ヘタルトキハ第二號樣式ノ許可證ヲ交付シ速ニ報告スヘシ

第八條　畜牛結核病豫防法施行規則第十七條ニ依リ屠場以外ノ場所ニ於テ屠殺セントスルトキハ其調査ヲナシ支障ナシト認ムルモノニ限リ認可スヘシ但認可ヲ與ヘ屠殺セシメタルトキハ其耳標ノ番號ヲ記シ五日以內ニ報告スヘシ其屠場ニ於テ屠殺セシメタルトキ亦同シ

第九條　畜牛結核病豫防法施行規則第十七條乃至第二十一條ニ依リ指揮ヲ行フトキハ明治三十六年八月農商務省令第九號畜牛結核病豫防法ニ依ル檢査員執務規程第二十二條ニ依リ措置スヘシ

第十條　畜牛結核病豫防法施行規則第二十五條ニ依リ「ツベルクリン」ノ注射ヲ行ヒタル屆出ヲ受ケタルトキハ其成績ヲ徵シ第三號樣式ニ依リ速ニ報告スヘシ

【京都警】

第十一條　畜牛結核病豫防法施行規則第二十八條ニ依リ結核病ニ罹リ又ハ其疑アル畜牛ヲ發見シタル屆出ヲ受ケタルトキハ畜牛ノ所在地及畜牛ノ所有者又ハ管理者ノ住所氏名竝ニ畜牛ノ種類（洋牛、和牛、雜種牛）牝牡年齡毛色特徵等ヲ具シ遲ニ報告スヘシ

第十二條　畜牛結核病豫防法施行規則第三十條ニ依リ結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體其他病毒汚染ノ物品等ヲ埋却セシ場所發掘ノ願出ヲ受ケタルトキハ其事由ヲ精査シ許否スヘシ

前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ現場ニ臨檢シ病毒汚染ノ部分ニ對シ規定ノ消毒藥（石炭酸水二十倍（結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）石灰乳十倍（生石灰一分水九分）格魯兒石灰二十倍（格魯兒石灰五分昇汞水千倍（昇汞一分鹽酸十分水九百八十九分））ヲ以テ適當ノ消毒ヲ施シ遲ニ報告スヘシ

第十三條　他府縣ヨリ耳標牛移動ノ通知ヲ受ケタルトキハ其都度速ニ報告スヘシ

第十四條　警察官署ニハ第四號樣式ノ耳標牛臺帳ヲ備付シ移動ノ都度加除更正スヘシ

（第一號樣式ノ一）（用紙半紙）

搾乳場以外ニ飼養スル畜牛現在表

牝牡別	用途	頭數	町村別

右報告候也

年　月　日

知事事務取扱　宛

備考　用途ノ欄ニハ他用ト種牡牛トノ區別ヲ記入スルモノトス但シ用途ノ如何ヲ問ハス種牡牛檢査ニ合格シタル牡牛ハ凡テ種牡牛トナスモノトス

（第一號樣式ノ二）（用紙半紙）

搾乳場內ニ飼養スル畜牛現在表

用途	牝牡	生後六ケ月以上	生後六ケ月以內	計

畜牛所在地　所有者又ハ管理者住所

所有者又ハ管理者氏名

右報告候也

年　月　日

知事事務取扱　宛

備考　用途ノ欄ニハ乳用ト種牡トヲ區別スヘシ

（第二號樣式）（用紙厚紙竪五寸橫三寸）

畜牛移動許可證　號

耳標京第

現在地

移動地

右

年　月　日　移動ヲ許可ス

京都府畜牛結核病檢查員

官　氏　名印

（第三號樣式）（用紙半紙）

表	差溫	溫時	體時
症			
症			

番號	
檢査年月日	
檢査場所	
所有者管理者	
種類	
用途	
性及年齡	
毛色	
特徵	
診斷	

ツベルクリン注射成績

注射月日時	注射量	注射前ノ體溫			注射後ノ					
		時	時	時	時	時	時	時	時	時

既往	
現	
處分方法	
備考	

（第四號樣式）（用紙半紙）

耳標牛臺帳

輕症疑牛別	耳標番號	號名	胤種	牝牡	年齡	毛色	特徵	畜牛所在地	所有者又ハ管理者住所	所有者又ハ管理者氏名	備考

輕症疑牛別欄ニハ疾病ノ輕重ヲ記入スルモノトス

〔京都警〕

〔京都警〕

●牛疫ニ關スル注意事項

明治三十年八月訓示第一九三號

第一項　牛疫ヲ發見シ又ハ其屆出ヲ受タルトキ左ノ事項ヲ電話電信其他速達ノ法ニ依リ急報スヘシ

一　牛疫發生ノ郡市町村名及飼主ノ住所氏名疫牛ノ頭數

二　發見又ハ屆出ノ時刻

三　斃死又ハ撲殺シタル日時

四　交通遮斷ノ區域地名方位但長文ニ渉リ又ハ繁雜ニシテ分明ナラサルトキハ書面又ハ圖面ニ擧示シ郵報スルモ妨ナシ但シ新タニ發生シ又ハ交通遮斷區域ヲ擴張セントスルトキニ限ル

第二項　牛疫ノ疑アリテ當部獸醫ノ派遣ヲ要ムルモ遠隔其他ノ故障アリテ迅速檢診スルコト能ハサル場合ハ派遣獸醫ノ檢診ニ先タチ其飼牛者ヲシテ最寄ノ開業獸醫ニ往診ヲ求メシメ同時ニ第一項ノ一、二ノ事項ト其模樣ヲ報告スヘシ但シ飼牛者又ハ其家族若クハ病毒汚染ノ恐アル者ハ使者ニ充ツルコトヲ得ス

第三項　第一項ニ依リ急報ヲ爲シタル後更ニ交通遮斷區域ノ圖面ヲ製シ地名地理間數町村大字小字疫牛ノ所在位置頭數交通停止ノ標札ノ位置ヲ分明ナラシメ左記事項ト共ニ追報スヘシ但シ交通遮斷區域內ニ健牛アルトキハ其所在等本項ノ圖面ニ附記スヘシ

一　牛ノ種類　洋種　和種ノ別

二　牝牡及使用ノ別（使用トハ農牛荷車輓牛及乳牛等ノ別ヲ記ス）

三　年齡

四　發病月日

五　斃死又ハ撲殺ノ別竝ニ其月日時

六　評價額金高

七　飼牛主ノ住所氏名

八　牛疫確定又ハ牛疫嫌疑ノ別

九　燒却又ハ埋却ノ別

十　牛疫發生ノ系統若シ不分明ノトキハ其大體ヲ報シ追テ詳報スルモ妨ナシ

十一　檢診獸醫ノ氏名

十二　健牛ヲ隔離シタルトキハ其模樣頭數其他參考トナルヘキ事項

第四項　交通遮斷ノ區域ヲ定ントスルトキハ其地形交通ノ繁否飼牛ノ多寡等ニ依リ伸縮スルコトアルモ凡ソ四町以上六町以內ノ距離ヲ以テ其區域定限トス

第五項　牛疫發生シタル飼牛者及其家族雇人ニシテ邸宅外ニ出テントスルトキハ消毒ヲ嚴行スルニアラサレハ之ヲ許サス

第六項　牛疫發生シタルトキハ其飼牛者及其家族雇人ハ死屍ノ片付撲殺及消毒ニ從事セシムルハ妨ナキモ此際邸外ノ使役ニ充テサルヘシ

第七項　牛疫發生シタルトキハ其附近二町以内ノ飼牛者及其家族雇人ハ諭示シテ邸外ニ出ルコトヲ停ムルヲ要ス

若シ病毒飛散シ蔓延ノ狀アリト認ムルトキハ其一部落ノ飼牛者及其家族雇人ハ本項ニ準スヘシ

第八項　牛疫發生シタルトキ其附近二町以内ノ飼牛者ヲシテ直ニ消毒藥ヲ備ヘ牛舍及病毒浸染ノ恐アル場所ハ時々散布シ清潔ヲ執行セシムヘシ

第九項　牛疫發生シタルトキ其邸内ニ出入スル者ハ跣足ノ外靴又ハ草履若クハ下駄等ヲ穿用セシムヘカラス

第十項　牛疫ノ嫌疑アルカ又ハ已ニ發生シタル家ニハ巡査又ハ看守者ヲ附シ他人ノ近接ヲ制スルヲ要ス

第十一項　牛疫發生シタル邸宅ニハ消毒ヲ完了スルニアラサレハ牛疫豫防ニ關セサル者ノ出入ヲ禁スヘシ若シ止ヲ得サル者ハ邸宅ノ入口ニテ巡査又ハ看守者ノ紹介ニ依リ用ヲ辨セシムヘシ

第十二項　撲殺又ハ汚物運搬及消毒ニ從事シタル人夫ノ著衣ハ可成燒却セシムルヲ要ス但シ燒却ヲ欲セサルトキハ嚴密ナル消毒ヲ爲サシムヘシ

第十三項　撲殺竝ニ病毒汚染ノ物件ヲ燒却スルハ其邸内ニ於テ執行スヘシ

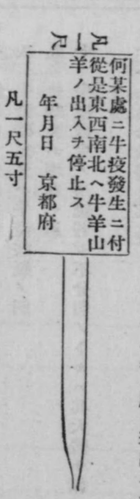
（用紙美濃紙）

牝牡ノ別	牝	使用ノ別	農用	飼	住所
種類	和種	性質	柔		氏名
年齢	六歳	產地	大阪何々		

但シ撲殺ハ其飼牛者ニ懇說シタル後施行スヘシ

第十四項　牛疫豫防ニ從事スル者ハ消毒衣ヲ著シ消毒ヲ行フニアラサレハ牛疫又ハ嫌疑アル牛舍ヘ出入スヘカラス

第十五項　交通遮斷ノ標札ハ左ノ例ニ倣ヒ市役所村役場ニ於テ作リ警察官吏ト協議シ遮斷區域ノ位置又ハ其見易キ所ニ表出スヘシ



牛疫豫防交通遮斷期限

明治三十年九月
訓示第二〇六號

牛疫ノ交通遮斷ハ斃死又ハ撲殺ノ當日ヨリ二十一日間ヲ以テ遮斷期限ノ定例トス依テ區域内ニ最終發生ノ日ヨリ起算シ十七日間經過ノ時ハ遮斷區域解除ノ都合有之候條其遮斷解除ノ區域ヲ明示シ其旨報告セラルヘシ

牛籍簿調製方

明治三十年八月
訓示第一九〇號

獸疫流行ノ際參考ニ供スル爲メ牛籍簿別紙ノ通相定候條常ニ牛籍ヲ調査シ其異動竝ニ參考トナルヘキコトヲ記錄シ之ヲ整理スヘシ

牛籍簿

毛色	黑	買入讓受年月日	年月日買	飼	住所
寸尺特徵	三尺五寸何々	原價	何程	主	氏名
備考	（賣渡讓渡斃死其他ノ異動竝ニ年月日等ヲ記錄ス）				
牝牡ノ別	、	使用ノ別	、		
種類	、	性質	、		
年齢	、	產地	、		
毛色	、	買入讓受年月日	、		
寸尺特徵	、	原價	、	主	
備考	、、、、				

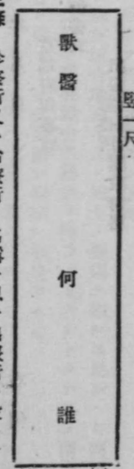
獸醫取締規則

明治二十一年四月七日
京都府令第三十七號

改正　大正一五年京都府令第一二〇號

第一條　本管内ノ開業獸醫ニシテ他管下ハ勿論他郡市町村ニ移轉シ又ハ他府縣ノ開業獸醫本管内ニ移住シタルトキハ第一號書式ニ依リ當廳ニ届出ヘシ但シ他府縣ヨリ移住ノ獸醫ハ免狀寫ヲ添ヘ届出ヘシ

第二條　開業獸醫ハ左ノ雛形ノ木標ヲ門戸ニ掲示スヘシ



第三條　診察所又ハ治療所ノ名稱ヲ以テ出張所ヲ設ケントスル者ハ其場所竝ニ出張定日ヲ記シ第二號書式ニ依リ届出ヘシ場所ヲ變更廢止スルトキ亦同シ但シ管外ヘ出張所ヲ設ケ又ハ變更廢止セシトキモ本文ニ準ス

第四條　出張診察所治療所ハ左ノ雛形ノ門標ヲ掲出スヘシ

竪三尺

出張診察所
治療所　獸醫何　誰

第五條　開業獸醫ハ豫テ處劑錄ヲ調製シ診察治療ノ都度病獸ノ名稱持主ノ住所氏名及病名處方ヲ明記シ置キ主務員點檢ノ用ニ供スヘシ

第六條　藥劑ヲ與フルトキハ其容器又ハ包袋ヘ病獸ノ持主竝ニ自己ノ住所姓名藥劑用法ヲ詳記シ劇藥ヲ配伍シタルトキハ特ニ（注意藥）ノ三字ヲ記スヘシ但シ處方書ヲ與フルトキハ病獸ノ名稱及持主ノ住所氏名月日ヲ明記シ必ス捺印スヘシ

第七條　開業獸醫ニシテ施術一人ニシテ爲シ能ハサルノ場合ニ當リ其子弟ヲシテ手傳ハシムルハ妨ナシト雖豫メ助手ノ名義ヲ付シ配劑又ハ施術セシムヘカラス

第八條　開業獸醫ハ左ノ各項ニ觸ルヽコトヲ得ス

一　診察ヲ爲サヽル病獸ヘ藥劑或ハ處方書ヲ與ヘ又ハ死體ヲ診察セスシテ診斷書ヲ與フルコト

二　藥劑法ヲ辨セサル者ニ調劑セシムルコト

三　種々無稽ノ名ヲ唱ヘ藥劑ヲ付與販賣スルコト

第九條　獸醫免許規則及獸類傳染病豫防規則ニ明文アルモノハ之ニ從フヘシ

第十條　第九條ヲ除クノ外各條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式　開業移轉御屆

（京都營）

住所　族籍　獸醫　何　某

私義從來屆書ノ地ニ開業罷在候處今般（何府縣）何郡何市何町何村何番戶或ハ何某方ヘ（寄留轉籍ノ）開業仕候間此段御屆申上候也

年　月　日　右　何　某印

京都府知事宛

第二號書式　出張診察所治療所開設御屆

住所　族籍　獸醫　何　某

私義今般何郡何市何町何村何番戶或ハ何某方ヘ毎月（何曜日隔日）出張診察所或ハ治療所開設仕候間此段御屆申上候也

年　月　日　右　何　某印

京都府知事宛

第三節　森林

◉森林法施行細則

大正三年十月二十日
京都府令第七十號

改正　大正一五年京都府令第一三八號

第一條　公共團體又ハ社寺ノ代表者カ森林法施行規則第二條第一項ニ依リ區分書ヲ差出スヘキ期間ハ現ニ其公共團體又ハ社寺ニ屬スル土地ニ付テハ大正五年八月三十一日迄トシ其新ニ取得シタル土地ニ付テハ其取得ノ日ヨリ三月以內トス

第二條　公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其森林ノ實測面積五十町歩以上ノモノニ付テハ第號樣式ニ依ル施業案ヲ實測面積五十町歩未滿ノモノニ付テ

（京都營）

ハ第二號樣式ニ依ル施業要領ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項認可申請ノ期間ハ現ニ公共團體又ハ社寺ニ屬スル森林ニ付テハ大正五年八月三十一日迄トシ其新ニ取得シタル森林ニ付テハ其取得ノ日ヨリ三月以內トス

公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ森林法施行規則第二條第一項ノ土地中森林トシテ管理スヘキモノニ付テハ第一項ノ區別ニ依リ其施業案又ハ施業要領ヲ定メ同條ニ依ル區分書ト共ニ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　保安林編入ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ森林法施行規則第七條ノ規定ニ依ル申請書竝圖面ノ外第三號樣式ニ依ル編入調書竝編入地附近一帶ノ狀況ヲ知ルニ足ルヘキ圖面ヲ差出スヘシ

第四條　森林法第二十條但書第二十五條第二項及第二十六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者竝同法第十三條又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ制限セラレタル土地ニ於テ作業又ハ開墾ヲ爲サムトスル者ハ第四號樣式ニ依リ施業又ハ開墾二月以前ニ知事ニ出願スヘシ

作業又ハ開墾ノ方法若ハ期間ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス

作業又ハ開墾ヲ中止若ハ廢止シタルトキハ二十日以內ニ知事ニ屆出ツヘシ

第五條　開墾カ地租條例ニ依ル開墾ニ該當シ且其面積地番ノ一部分ニ止マルトキハ出願前地番分割ノ手續ヲ爲スヘシ

作業又ハ開墾ヲ爲サムトスル土地ニ付出願者以外ニ所有者又ハ地上權者アルトキハ出願者ハ其願書ニ所有者又ハ地上權者ヲシテ連署セシムルカ若ハ其承諾書ヲ添付スルコトヲ要ス

第六條　保安林ニ於ケル施業ハ一箇所毎ニ之ヲ爲スヘシ但保安林ノ目的ヲ害セサル場合ニ限リ二箇所以上ヲ併合シテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ニ於テ一箇所ト稱スルハ保安林臺帳ノ一筆ヲ謂フ

第七條　保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依ルヘシ但林種ノ改良其他必要アル場合ニ於テハ保安林ノ目的ヲ害セサル程度ニ於テ一部ノ皆伐ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其皆伐面積ト土地ノ狀況トニ依リ二箇所以上ニ分チテ伐採スヘシ

第八條　保安林伐採面積ハ連年作業ニ在リテハ輪伐齡ヲ以テ立木竹地面積ヲ除シタル商以內トシ隔年作業ニ在リテハ其商ニ隔年ノ年數ヲ乘シタル積ヨリ大ナルコトヲ得ス

擇伐作業ニ在リテハ其ノ伐採區域ハ前項伐採面積ノ三倍以上ナルヲ要ス

第九條　隔年作業ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　森林法第六十一條ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ得ムトスル者ノ提出スル願書ハ第五號樣式ニ依ルヘシ

第十一條　森林法施行規則第三十四條第二項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左記事項ヲ具スヘシ

一　所在地番、地目、面積

一　免除ヲ受ケムトスル理由

一　森林組合地區ト其ノ地トノ關係ヲ知ルニ足ルヘキ圖面

第十二條　森林組合カ總會ヲ開カムトスルトキハ其ノ開會期日及議案ヲ開會ノ日ヨリ七日以前ニ知事ニ報告スヘシ

總會ノ決議事項ハ總會閉會ノ日ヨリ七日以內ニ知事ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ役員會ノ決議事項ニ之レヲ準用ス

第十三條　森林ニ害蟲又ハ僞菌發生シ若ハ蔓延ノ虞アルコトヲ認メタルトキ竝之ヲ驅除豫防シタルトキハ森林所有者ハ左記事項ヲ具シ知事ニ報告スヘシ

一害蟲黴菌ノ名稱其方言
一主ナル被害物ノ種類、被害ノ狀況
一驅除豫防ノ方法

第十四條　市町村長ニ於テ森林法第十條第一項第二項第十一條第十三條第三十三條第八十一條第一項又ハ第百七條ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ知事ニ具申スヘシ

第十五條　保安林編入若ハ解除ノ申請書ニハ其ノ土地所在、地番、地目、面積及所有者ニ關スル稅務署土地臺帳ノ抄本竝其ノ土地ニ付權利設定ニ關スル裁判所(登記所)登記簿ノ抄本ヲ添付スベシ

森林開墾願書ニハ其ノ土地ノ所在、地番、地目、面積及所有者ニ關スル稅務署、土地臺帳ノ抄本竝第六號樣式ニ依ル調査書ヲ添付スヘシ

第十六條　(削除)

第十七條　第四條第二項ノ規定ニ違反シタルトキハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十八條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　明治三十三年京都府令第三十九號森林法實施手續ハ之ヲ廢止ス

第二十條　明治三十九年京都府訓令第一號公有山野整理規程ニ依リ知事ノ認可ヲ受ケタルモノハ本則第二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

(樣式略ス)

●火入取締規則

明治四十四年八月四日
京都府令第百二十二號

改正　大正一三年京都府令第八七號

第一條　森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ左ノ場合ヲ除クノ外火入ヲナスコトヲ得ス

造林地拵、開墾、病蟲害驅除

第二條　前條ノ場合ニ於テ火入ヲナサントスルトキ又前條以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲナサントスルトキハ左ノ各項ヲ具シ左記樣式ニ依リ二十日以前ニ所轄警察署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ開墾ノ場合ニ於テハ開墾許可書ノ寫ヲ添付スルヲ要ス

一所在地所有者住所氏名
一火入段別
一火入ノ目的竝ニ其理由
一火入期日
一防火線竝ニ防火ノ設備
四至ノ境界ヲ見ルヘキ實地略圖
一接續地ノ種目及林況地況竝ニ其所有者

第三條　前條ノ許可ヲ受ケタルモノハ其接近セル土地ノ所有者又ハ管理者(國有林ニ在リテハ所轄小林區署)ニ火入期日七日以前ニ其旨通知スヘシ

第四條　防火線ハ幅三間以上トシテ都テ柴草ヲ苅採リ落葉竝ニ塵芥ヲ除去スル等延燒ノ虞ナキ設備ヲ爲スヘシ

第五條　日出前、日沒後及ヒ風勢穩カナラサルトキハ火入スヘカラス

前項其他止ムヲ得サル事由ニヨリ許可期日ニ火入ヲ爲スコト能ハサルトキハ更ニ期日ヲ定メ直ニ其旨所轄警察署ニ屆出且隣接地所有者又ハ管理者ニ通知スヘシ

第六條　火入ノ期日間ハ其地區ニ應シ相當番人ヲ配置シ火氣全ク消盡スルニ至ル迄其場所ヲ退クヘカラス

第七條　警察官ニ於テ防火ノ準備不充分又ハ風勢ニ依リ他ニ延燒ノ虞アリト認ムルトキハ直ニ之レヲ延期又ハ中止セシムルコトアルヘシ

〔京都警〕

第八條　第四條乃至第七條ノ規定ニ違背シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第九條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年十月京都府令第百五號原野取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(樣式)

火入願

何郡何村何大字何字何番地
一山林(原野其他)段別何段步

所有者　何　某

內

段別何段步　火入

一火入ノ目的竝ニ其理由　何々
一火入期日　何々
一防火線竝ニ防火ノ設備　何々

右ハ今般前記之通リ火入致度候間御許可相成度別紙圖面相添此段相願候也

年　月　日

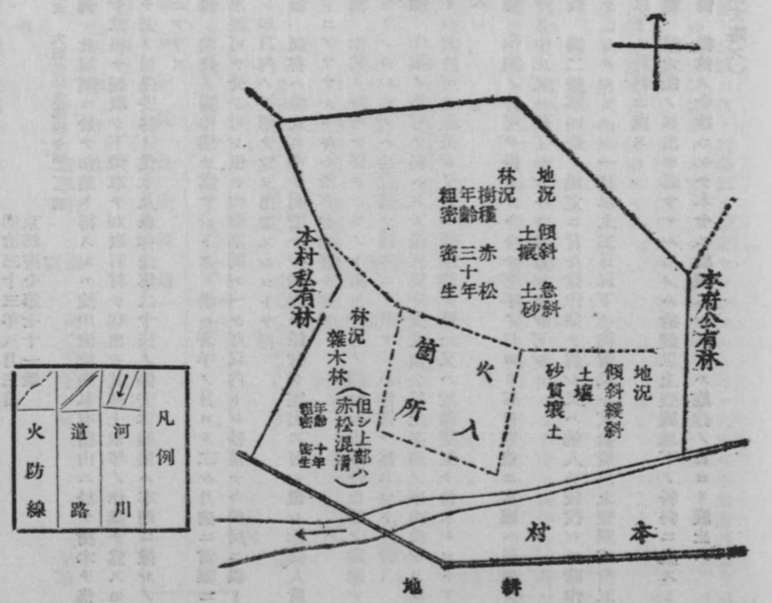
何郡何村何大字
願人　何　某

何々警察署長宛

(他人ノ所有地ニ火入ヲナサントスル場合ハ相當地主ノ承諾書ヲ本願書ニ添付スヘシ)

〔京都警〕

何郡何村大字何字何々何番地火入箇所圖
何村大字何々私有林



●國有林接續森林ニ火入出願ノ場合所轄小林區署ヘ照會ノ件

明治三十二年十月
保訓第五六號

警察(分)署

自今森林法(第三十三條)及同法施行細則(第十一條)ニ依リ警察官吏ヘ火入出願シタル者アルトキハ國有林接續ノ森林ニ爲ス場合ニ限リ豫メ所轄小林區署ヘ支障ノ有無ヲ照會シ許否スヘシ

●森林取締ニ關スル件

明治二十四年六月
警本第一二九號

森林取締方ニ付大阪大林區署長ヨリ別紙ノ通照會有之候條今後右ニ據リ林務官吏ヨリ協議アリタルトキハ相當取計ヒ又駐在巡査ヘモ豫メ宜シク訓授シ置カルヘシ

(別紙)

乙第二一一號(明治二十四年五月三十日)

森林犯罪ニ付テハ林務官吏モ亦タ司法警察官ト相成夫々執行罷在候得共何分ニモ部内廣濶ノ上人少ニシテ取締行屆兼候場合モ有之(中略)當署所轄小林區派出所林務官吏ヨリ可及御協議儀モ有之候節ハ宜敷御應承相成度尚林産物拂下入林等ニ際シ取締上ニ關スル場合ハ入林者ノ氏名其小林區派出所ヨリ御管下警察署若クハ巡査駐在所ヘ可及御通知儀モ有之候條豫テ御了知置相成度候也

●淀川流域内山林作業取締規則

〔京都警〕

改正　大正元年京都府令第二一號

明治三十三年八月三日
京都府令第七十一號

第一條　此規則ニ於テ作業ト稱スルハ淀川流域内私有諸山ニ於テ樹木ヲ伐採シ草根ヲ掘取シ下柴草ヲ刈取石材ヲ切出シ其他土取等ノ作業ヲ爲スモノヲ云フ但保安林ノ伐木及森林法第二十條ノ保安林施業ハ本則ニ據ルノ限ニアラス

第二條　前條ノ諸作業ヲ爲サントスル者ハ著手ノ月ヨリ三ケ月前ニ當廳ニ願出許可ヲ受ク可シ但シ作業期間ハ一ケ年以内トシ砂害ナキ箇所ニ限リ五ケ年以内ノ年期ヲ定メ出願スルコトヲ得

第三條　願書ハ樣式ニ準シ明瞭ナル圖面ヲ添付シ差出ス可シ但シ作業人所有主ニアラサルトキハ所有主連署ヲ要ス

第四條　作業ノ許可ヲ得タルモノト雖モ許可ノ際特ニ土砂扞止等ノ設備ヲ命セラレタルモノハ其設備ヲ爲スニアラサレハ作業ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　作業ノ許可ヲ與ヘタル後天災時變其他公益上必要ノ事由生シタルトキハ其許可ヲ取消シ又ハ一時作業ノ停止又ハ設備變更ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　作業ノ許可ヲ得タルトキハ著手ノ日ヨリ五日以前ニ當廳ヘ屆出ツ可シ其中止又ハ終了セシトキ其旨屆出ツ可シ

第七條　第二條第四條ノ規定ニ背キ諸作業ヲ爲シ又ハ他人ヲ使役シテ諸作業ヲ爲シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第八條　第六條ノ屆出ヲ爲サヽルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第九條　從前ノ令達ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ施行ノ日ヨリ廢止ス

(樣式略ス)

第四節　狩獵　威銃

●狩獵法施行細則

大正十四年十二月十五日
京都府令第百二號

狩獵法施行細則左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

狩獵法施行細則

第一條　狩獵免狀ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ第一號樣式ニ依ル納稅額證明書ヲ添付シ所轄警察署長ニ願出ツヘシ

第二條　狩獵法第十二條ニ依リ飼養ノ目的ヲ以テ許可ヲ受ケ鳥獸ヲ捕獲シタルトキハ所轄警察署長ニ屆出テ飼養認可證ノ交付ヲ受クヘシ買受ケ又ハ讓受ケタルトキ亦同シ

飼養ヲ廢シタルトキハ飼養認可證ヲ添付シ十日以内ニ所轄警察署長ニ屆出ツヘシ

第三條　甲種狩獵免狀ヲ有スル者獵具ヲ裝置シタルトキハ各獵具ノ見易キ個所ニ其ノ住所氏名ヲ明記シ置クヘシ

第四條　土地所有者ニシテ禁獵區設定ヲ出願セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

一　出願者ノ職業住所氏名及生年月日
二　地上權者ノ有無
三　禁獵區ト爲スヲムトスル土地ノ地目別面積又ハ水面積
四　禁獵區ノ存續期間
五　禁獵區ト爲サムトスル理由
六　禁獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面

前項第二號ノ地上權者アル場合ハ其ノ同意書ヲ添付スヘシ

〔京都警〕

第五條　出願ニ依リ禁獵區ヲ設定セラレタルトキハ大正八年農商務省告示第二百二十號雛形ノ木標ヲ設ケ所轄警察署長ノ檢査ヲ受クヘシ

第六條　狩獵法又ハ同施行規則ニ依リ農林大臣若ハ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第七條　本令第二條第三條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令施行前ニ捕獲シ、買受ケ又ハ讓受ケタル鳥獸ニシテ現ニ飼養スル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日内ニ所轄警察署長ニ屆出テ飼養認可證ノ交付ヲ受クヘシ

第一號樣式

所得稅額證明書

原籍　府市町字　番地(戶)
　　縣郡村字　番地(戶)
現住所　京都府(市郡區町村字　番地(戶)
身分(戶主又ハ戶主トノ關係)　職業(職業別)　何　某　年月日生

戶主ノ納稅額	本人ノ納稅額	摘　要
金圓拾錢	金圓拾錢	

右證明候也

大正　年　月　日
京都府　郡　町(村)長　何　某印

備考
現住地ト原籍地ト異ニスルトキハ各一通ツヽ添付ヲ要ス

●狩獵法令取扱手續

大正十四年十二月十五日
京都府訓令第三十三號

狩獵法令取扱手續左ノ通定ム

狩獵法令取扱手續

第一條　毎年六月三十日迄ニ狩獵免狀ノ下付見込數ヲ報告スヘシ

第二條　狩獵免許ノ出願アリタルトキハ施行規則第五條各號ノ事項ヲ精査シ願書添付ノ印紙ニ消印ノ上免狀ヲ下付スヘシ

第三條　第一號樣式ノ狩獵原簿ヲ備置キ免狀ヲ下付シタルトキハ之ヲ登錄スヘシ

第四條　施行規則第九條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ速ニ之ヲ報告スヘシ

第五條　狩獵免狀統計表ハ第二號樣式ニ依リ調製シ毎年四月二十日迄ニ報告スヘシ

第六條　返納シタル狩獵免狀及殘餘並ニ書損ノ免狀用紙ハ毎年五月二十日迄ニ取纏メ當廳ニ送付スヘシ

第七條　狩獵法第十二條及同施行規則第十一條ニ依リ採取又ハ捕獲シタル鳥獸及其ノ卵雛ノ種類別員數並ニ採捕地府縣名ヲ第三號樣式ニ依リ五月二十日迄ニ報告スヘシ

第八條　施行細則第三條ニ依リ飼養認可證ノ下付ヲ願出テタルトキハ第四號樣式ニ依ル臺帳ニ登錄ノ上第五號樣式ノ飼養認可證ヲ下付スヘシ

附則

大正八年京都府訓令第六十八號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

警察署

第　號

住所

身分職業　氏　名

年月日生

甲(乙)種　等

年　月　日下付

備考

第二號樣式

大正　年度狩獵免狀統計表

警察署

種目	等級	免狀受入數	同下付數	同稅額	再渡數	書損數	殘數
甲種	一等						
	二等						
	三等						
	計						
乙種	一等						
	二等						
	三等						
	計						
合計							

備考

第三號樣式

大正　年度捕獲鳥獸卵雛統計表

警察署

鳥獸名	捕獲地府縣名	甲種	乙種	狩獵法第十二條ニ依ルモノ 害鳥獸驅除	狩獵法第十二條ニ依ルモノ 愛翫飼養	其ノ他
計						

第四號樣式

下付年月日	番號	種類員數	捕獲又ハ讓受別	飼養廢止年月日	住所氏名

第五號樣式

第二編　保安　第六章　產業

二寸

表

第　號

市郡　町村字

飼養主　姓　名

年月日生

飼養認可證

大正　年　月　日交付

警察署

三寸

裏

飼養鳥(獸)　何　壹羽(頭)

一　本證ハ大切ニ保存スヘシ

一　飼養ヲ廢シタルトキハ十日以内ニ本證ヲ返納スヘシ

一　警察官ノ要求アリタルトキハ本證ヲ提示スヘシ

備考

本證ハ壹羽(頭)ニ各壹枚ヲ交付スルモノトス

●狩獵法施行心得

大正八年十月三日
京都府訓令第四十五號

警察署

狩獵法施行ニ關テハ左ノ通心得ヘシ

一　狩獵法第八條ノ適用方ニ付テハ左ノ如ク取扱フヘシ

（イ）戸主カ地租、營業稅又ハ所得稅ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メサル場合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ル

（ロ）戸主並家族カ地租、營業稅又ハ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨリ少キトキハ家族ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納ムヘキ免許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ルヘク家族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戸主ノ納ムヘキ免許稅ハ其ノ納稅額ニ依ル

二　御獵場、御料林野、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於テ有害鳥獸驅除ノ必要ヲ認メ當該管理官廳ヨリ所屬公務員ニ交付シタル有害鳥獸驅除ノ證票ハ地方長官ノ下付スヘキ許可證ニ代ルモノトス

三　狩獵法施行規則第二十五條ニ依ル獵區設定認可願並獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面ハ別紙第一號及第二號樣式ニ準セシムヘシ

第一號樣式

獵區設定認可願

一　獵區ノ名稱　　府何郡町市何町村獵區

二　事務所ノ位置　　府何郡町市何町村大字何々字何番地

三　獵區ノ區域　　府何郡町市何町村及何町村ノ一部

四　獵區ノ面積　　山林　何町何段何畝何歩
　　原野　同
　　田　同
　　畑　同
　　池沼　同
　　計　同

五　獵區存續期間　　自何年何月何日至何年何月何日

六　狩獵法施行規則第二十二條ノ承認料額　一人一日　何圓

七　鳥獸ノ保護蕃殖ニ關スル方法

八　獵區內ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況

前記ノ通獵區設定致度候ニ付テハ御認可相成度狩獵法施行規則第二十五條第二項規定ノ書類相添ヘ此段相願候也

年　月　日

府何郡町市　何町村長　何　某印

農商務大臣宛

凡例

田	無色
畑	黃色
宅地	茜紅色
山林	綠色
原野	鼠色
湖海池沼溜池等ノ水面	藍色
河川	藍色
道路	褐色
府縣界	黑書
郡市界	同前
町村界	同前
大字界	同前
字界	同前
獵界區	朱書
捕獲禁止區域界	同前
家屋	墨書
標識（木標・制札）	同前
獵區案內圖	同前

備考

圖面ニハ周圍ノ間數及府縣郡市町村名ヲ記入スヘシ

大正十五年十一月十六日
保訓第九二號部長

●狩獵法施行細則取扱ニ關スル件

大正十四年十二月府令第一〇二號狩獵法施行細則第二條ノ取扱ニ關シテハ左記ノ通心得ラルヘシ

各警察署長宛

記

一　飼鳥營業者ニシテ狩獵法施行規則第十一條ノ二第一項ニ記載スル鳥類ヲ飼養スル者ニハ飼養認可證ヲ交付スヘシ

二　狩獵法第十二條ノ許可ヲ受ケ捕獲シタルモノニシテ施行規則第十一條ノ二第一項ニ記載スル鳥類ノ賣買讓渡ノ許可願ハ讓渡人ノ居住地ヲ管轄スル警察署長ニ連書シ之ヲ提出セシムヘシ

三　買受若ハ讓受ニ依ル飼養認可證下付願ニハ賣買若ハ讓渡許可書ヲ添付セシムヘシ

●禁獵區表

（府設）

大正年月日	府告示番號	設定期間	區域
大正十年五月十三日	二八三	自大正十年六月一日 至同二十年五月三十一日	南桑田郡馬路村ノ內大字馬路、池尻 千歲村ノ內大字出雲、小口、旭村ノ內大字里、賓保、美ノ田
同　十二年二月十四日	八三	自大正十二年三月一日 至同十六年二月二十八日	何鹿郡吉美村一圓
同	八四	自大正十二年三月一日 至同十七年四月十五日	船井郡須知町一圓
同　九月二十五日	五二四	自大正十二年十月十日 至同二十二年十月九日	綴喜郡三山村、菩賢寺村ノ內 相樂郡狛田村
同　十三年三月十五日	一九一	自大正十三年三月二十日 至同十八年三月十九日	竹野郡網野町ノ內 同島津村
同　九月九日	五四四	自大正十三年九月十日 至大正十九年九月九日	與謝郡栗田村ノ內
同　十二月十六日	七〇九	自大正十四年一月一日 至同二十年十二月三十一日	愛宕郡大宮村ノ內大字氷室、觀清
同　十五年七月九日	三八四	自大正十五年八月一日 至大正二十五年七月三十一日	中郡峯山町、丹波村ノ內
同	三八五	同	熊野郡久美濱町、神野村ノ內

（國設）

桃山禁獵區	桃山御陵周圍
宮津灣禁獵區	宮津灣及大嶋小嶋

〔京都警〕

金閣寺裏禁獵區	京都市、葛野郡花園村ノ內 愛宕郡鷹ケ峯村

〔京都警〕

●保護鳥捕獲出願ヲ受ケタルトキ處理方

大正四年五月
保第三七五〇號

各署長

近來籠鳥トシテ飼養スルノ目的ヲ以テ保護鳥ノ捕獲ヲ出願スルモノ頓ニ增加シ濫獲ノ弊ニ陷ラサルヤノ虞モ有之候條向後右願書進達ニ際シ左記方針ヲ以テ御處置相成度此段及通牒候也

一、籠鳥トシテ飼養セムトスル保護鳥捕獲許可申請ハ繡眼兒、鶯、駒鳥、山雀ニ限ラシムルコト

一、學術研究以外ニハ保護鳥ノ卵雛ヲ捕獲スルハ法ノ禁スル所ナルヲ以テ願書ニハ必ス親鳥ト記載セシムルコト

一、同一人ニ對シ同種類ノ保護鳥ノ捕獲ハ二羽ヲ超エシメサル方針ニ付願書提出ノ際此ノ制限ヲ超ユル者ニ對シテハ其ノ旨ヲ諭シテ訂正セシムルコト

一、出願者ノ職業、資產竝從來保護鳥飼養ノ有無若シ飼養シ居ルトセハ其ノ現在數及出願ノ目的ニ相違ナキヲ精査シ進達書ニ附記スルコト

●團體狩獵願ニ關スル取扱方

大正八年十二月
保第七七七八號警察部長

各警察署長

在鄉軍人會、青年團、學校等ニ於テ其ノ會長、團長又ハ學校長指揮ノ許ニ兎狩ヲ行ハムトスル者ニ對シテハ狩獵法施行規則第七條（害鳥獸驅除）ニ準據シ特ニ貴官ニ於テ許可相成候樣致度依命及通牒候也

追テ本文許可ノ上ハ其ノ指揮者名、實施月日、捕獲數報告相成度申添候

●銃獵禁止場所

明治四十二年十一月十六日
京都府告示第五百三十三號

府下相樂郡木津町大字木津小字片山二番地及何鹿郡山家村字和本小字岡ケ谷火藥庫ノ周圍百二十間以內ノ場所ニ於テ銃獵ヲ禁止ス

大正八年十一月二十五日
京都府告示第八百二十八號

左記ノ箇所危險豫防ノ爲銃獵ヲ禁止ス

宇治郡山科村大字四ノ宮字行者谷山林二十八番地、二十七番地、二十六番地ノ一、二十六番地ノ二、二十五番地、二十四番地ノ一、二十四番地ノ二、二十三番地、二十二番地、二十一番地、二十番地、三番地、二番地ノ一、二番地ノ二

大正十年三月八日
京都府告示第百四十三號

左記ノ箇所ハ危險豫防ノ爲銃獵ヲ禁止ス

天田郡福知山町大字天田字寺ノ段

マ四〇〇ノ丁山林　マ四八〇ノ內山林
マ四八〇原野　マ四八〇ノ乙山林
マ四七八原野　マ四七九原野
マ四七七原野　マ四七六ノ一宅地

マ四七六山林　マ四八一山林
マ四六六畑　マ四六二原野
チ八七ノ乙原野　チ七八四山林
チ八〇八山林　チ四六三畑
チ四六四畑　チ四六二ノ乙畑
チ四六〇原野　チ四六一畑
チ九八山林　チ九七山林
チ九二山林　チ九一山林
チ九一乙山林　チ四六五ノ乙山林
チ四六五山林　チ八九山林
チ八八山林　チ九〇山林

●官林除害銃鑑札

明治二十四年三月
警本第七〇號

左記ノ通農商務大臣ヨリ達有之候條爲心得通達ス

戌第一八〇號

明治十四年五月丙第九號當省達ノ官林除害銃從來下渡シ有之分ハ其儘使用セシメ自今下渡ノ分ハ別紙見本ノ通改正候條爲心得警察官ヘ達シ置クヘシ

（別紙）

表面

第　號
官林除害銃鑑札
官姓名

〔京都警〕

裏面

印

農商務省

ノ印ニテ農商務省トアリ

●空氣銃取締ノ件

明治四十五年五月
保訓第五號

從來空氣銃ニ付テハ明治三十八年十月保訓第一八號ニ依リ狩獵法第一條ノ銃器中ニ包含セサルコトニ取扱ヒ來リタル處這回農務局長ヨリ別紙ノ通リ通牒有之候條今後今村式及三宅式兩種ノ空氣銃ニ對シテハ同條ニ依ル銃器トシテ相當取締ラルヘシ

右訓示ス

農第七〇二五號（明治四十五年五月二十三日）

從來空氣銃ニ付テハ狩獵法第一條ニ依ル銃器中ヨリ之ヲ除外スルコトニ省議決定致居候處今回空氣銃ノ製法頗ル巧妙ヲ極メ其威力殆ト裝藥銃ト同一程度ノモノアルヲ發見致候ニ付今後左ニ示セル如キ空氣銃ニ對シテハ狩獵法第一條ニ依ル銃器トシテ相當御取締相成樣致度

依命右通牒ス

記

一、今村式空氣銃

今村式空氣銃ハ專賣特許品ニシテ其銃身ハ口徑三十番（約四分三厘）長サ二尺七寸總長三尺八寸五分アリ散彈竝實彈兼用銃ニシテ福岡縣八女郡羽犬塚驛前北島支店ノ製作販賣ニ係リ其種類及定價左ノ如シ

二連發別誂　金壹百圓
同　特別　金七拾五圓
同　上等　金五拾五圓
同　普通　金四拾五圓
單發別製　金四拾圓
單發ステツキ形　金參拾圓

二、三宅式空氣銃

三宅式空氣銃ハ中折ステツキ形ノ散彈及實彈兼用銃ニシテ銃身ノ口徑約三分アリ東京小石川區戸崎町三宅在志ノ製作ニ係リ一挺ノ價金參拾參圓ナリ

●威銃取締規則

大正十年七月一日
京都府令第六十八號

第一條　有害鳥獸ヲ驅逐スル爲威銃ヲ使用セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ所轄警察署長ニ出願シ許可證ノ下付ヲ受クヘシ

一　職業、住所氏名、生年月日
二　被害ノ狀況竝使用區域見取圖
三　使用銃器ノ名稱
四　使用期間

第二條　左ニ記載シタル者ハ威銃ヲ使用シ又ハ之ヲシテ威銃ヲ使用セシムルコトヲ得ス

一　未成年者又ハ操銃ノ經驗ナキ者
二　白痴、瘋癲又ハ視力不充分ナル者
三　狩獵法令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル後一箇年ヲ經過セサル者

第三條　威銃使用期間ハ六十日以內トシ且特別ノ場合ヲ除クノ外狩獵法第五條第三項ノ期間內ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條　左ノ場所ニ於テハ威銃ヲ使用スルコトヲ得ス但シ禁獵區地域內ニ於テ禍害ノ狀況ニ依リ特ニ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

一　皇宮、離宮、御陵、御墓、御獵場又ハ禁獵區ヲ離ルル二百米突以內ノ地域
二　銃獵禁止區域、社寺境內墓地、建造物、道路又ハ公園ヲ離ルル三十米突以內ノ地域
三　其ノ他公安ヲ害スル虞アル場所

第五條　威銃使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　許可證ハ之ヲ他人ニ貸與セサルコト
二　威銃使用中ハ許可證ヲ携帶スルコト

第六條　警察署長ニ於テ保安上必要ト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條　許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ五日以內ニ屆出テ再下付ヲ受クヘシ

第八條　本令ニ依リ處罰セラレタル者ノ許可證ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條　許可證ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ所轄警察署長ニ返納スヘシ

第十條　本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令施行前ニ許可證ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

●威銃取締規則取扱手續

大正十年七月一日
京都府訓令第十七號

警察署

第一條　規則ニ依リ威銃ノ使用ヲ出願シタル者アルトキハ左ノ各項ヲ精査

シ許否ヲ決スヘシ

許可證ハ第一號樣式ニ依ル

一　規則第一條各號

二　規則第二條各號

三　規則第四條各號

四　其ノ他危害ノ有無

第二條　警察署長ハ第二號樣式ニ依リ威銃許可臺帳ヲ備置キ許可證下付返納其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

第三條　規則第三條ノ除外例竝第四條但書ニ依リ威銃ノ使用ヲ許可セムトスルトキ又ハ規則第六條ニ依リ許可ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ニ稟議スヘシ

一號樣式

二寸二分

第　號　有效自大正　年　月　日
期間至大正　年　月　日

威銃使用許可證

警察署

三寸三分

〔京都警〕

住所	郡　町村字
職業氏名	業
生年月日	年　月　日
區域	村字　内

裏

一許可區域外ニ於テ銃銃ヲ使用スヘカラス

二實彈ヲ裝置シ又ハ軍用銃ヲ使用スヘカラス

三許可證ハ之ヲ他人ニ貸與スヘカラス

四威銃使用中ハ本證ヲ携帶スヘシ

五本證ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ五日以内ニ返納スヘシ

二號樣式

第　號　大正　年　月　日下付

住所職業　氏　名　年月日生

許可區域　村　字

許可期間　自大正　年　月　日
至大正　年　月　日

備考

第五節　漁業

●京都府漁業取締規則

大正十年十一月二十二日
京都府令第九十七號

改正　大正一二年京都府令第二號、第八一號、第一〇一號、一三年第九三號、一四年第六七號、一五年第七一號、第一五二號、第一六〇號

第一章　總則

第一條　（削除）

第二條　農商務大臣ニ提出スヘキ出願申請屆出ニハ漁業法施行規則ニ定ムルモノノ外尙其ノ副本一通ヲ添附スヘシ

第三條　定置漁業區劃漁業及特別漁業ノ免許願書ニ添附スヘキ漁場圖ハ二千分ノ一ノ比例ニ據ルヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル漁業ノ漁場圖ハ此ノ限ニ在ラス

一　河川沼湖池ニ於ケル定置漁業及區劃漁業

二　特別漁業第七種漁業乃至第九種漁業

第二章　漁業許可

第四條　左ニ揭クル漁業ヲ爲サムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　烏賊漬漁業

二　鰍漬漁業

三　浸木漁業

四　カラチ網漁業（礁卷網、礁刺網ヲ含ム）

五　エイト網漁業

六　揚繰網漁業

七　巾著網漁業

八　流網漁業

九　刺網漁業（張切網、仕切網、鳴子網、ズズ網ヲ含ム）

十　卷網漁業

十一　袋網漁業（川曳網、「ズル」、「ウズラ」ヲ含ム）

十二　鮎素掛漁業

十三　水眼眼鏡使用漁業

十四　鵜飼漁業

前項ノ規定ハ專用漁業ノ免許ヲ受ケタル漁業ニシテ其ノ漁場内ニ於テ營業スル場合ニ適用セス

第五條　前條第一項ノ規定ニ依ル願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ漁業每ニ出願スヘシ

一　漁業ノ名稱

二　漁獲物ノ種類

三　漁業ノ場所

四　漁業ノ時期

五　許可ノ期間

第六條　前條第二號乃至第四號ヲ變更セムトスルトキハ第四條第一項ノ規定ニ準シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ鑑札ヲ添附スヘシ

第七條　漁業許可ノ期間ハ十箇年以内トス

第八條　漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付ス

第九條　第四條第一項ノ漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶スヘシ但シ鑑札ノ再下付又ハ書換申請中ノ者ハ第十條第三項ノ規定ニ依リ經由シタル市町村長ノ證明書ヲ携帶スヘシ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ事由ヲ具シ鑑札ノ再下付又ハ書換ヲ申請スヘシ

一　鑑札ヲ亡失シタルトキ

二　鑑札ヲ毀損シ又ハ其ノ文字不明トナリタルトキ

三　轉住又ハ改氏名ヲナシタルトキ

前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ申請書ニ鑑札ヲ添附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル申請書ハ漁場所在地ノ市町村長ヲ經由スヘシ但シ漁場カ二市町村以上ニ渉ルトキハ漁場ノ主要部分ノ屬スル市町村長ヲ經由スヘシ

第十一條　水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ許可シタル漁業ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

本則其ノ他漁業ニ關スル法令ニ違反シタルトキ亦同シ

第十二條　鑑札ハ相續讓渡共有ノ場合ヲ除ク外貸與スルコトヲ得ス

第十三條　鑑札ハ廢業死亡又ハ許可期間滿了ノ場合ハ二十日以內ニ許可ヲ取消サレタル場合ハ卽時ニ本人若ハ戶籍ニ據ル屆出義務者ヨリ之ヲ返納スヘシ

第十四條　第五條乃至第七條第九條但書及第十條乃至第十三條ノ規定ハ之ヲ漁業法施行規則第五十條ノ漁業ニ適用ス

第三章　制限禁止

第十五條　左ニ揭ク水產動物及其ノ製品ハ之ヲ捕獲シ若ハ所持シ又ハ販賣スルコトヲ得ス但シ養殖ノ爲管外ヨリ移入セシ確證アル鰻ハ此ノ限ニ在ラス

一　鰻　　體長　八寸以下
二　鮑　　殼長　三寸以下
三　榮螺　殼口　徑一寸以下

第十六條　左ニ揭ク水產動植物ハ其ノ下ニ定ムル期間內之ヲ採捕シ又ハ其ノ採捕シタルモノヲ所持シ若ハ販賣スルコトヲ得ス其ノ製品ノ所持若ハ販賣ニ付キテモ亦同シ

一　鮑　　自七月一日　至十一月三十日
二　海鼠　自九月一日　至十月三十一日
三　和布　自二月一日　至二月末日
四　鰡　　自六月一日　至九月三十日

但シ丹後國熊野郡久美濱灣ニ限ル

五　鮭　　自十月十五日　至十一月十五日
六　鱒　　自十二月十五日　至一月十五日
七　鮎　　自二月一日　至五月三十一日

但シ丹後國竹野郡宇川ニ限リ自十月十六日至七月十五日

丹波國北桑田郡船井郡南桑田郡內桂川本支流ニ限リ自二月一日至六月二十日及自十月一日至同月三十一日

八　アマゴ　自十月一日　至同月三十日

第十七條　左ニ揭ク區域ヲ禁漁區トシ水產動植物ノ採捕ヲ禁ス

一　山城國葛野郡梅ヶ畑村淸瀧川筋京都電燈株式會社發電所用水取入口堰堤ヨリ上流ニ於テ百八十間下流ニ於テ二百間ノ區域

二　山城國相樂郡犬河原村木津川筋京都電燈株式會社發電所用水取入口堰堤ヨリ上流ニ於テ百間下流ニ於テ發電所放水渠迄及夫レヨリ下流二百間ノ區域

三　丹後國熊野郡久美濱灣口湊村大字大向字日出鼻暗礁ヲ基點トシ方位角六十度ノ見通線ヨリ水戶口迄ト水戶口中央ヨリ左右兩岸ニ添ヒ二十間是ヨリ沖合ヘ直角ニ六十間ノ所ニ至ル點ノ見通線以內ノ區域但シ禁漁期間ハ二月一日ヨリ八月三十一日迄トス

四　丹波國何鹿郡山家村由良川筋京都電燈株式會社發電所用水取入口堰堤ヨリ上流ニ於テ五十間下流ニ於テ發電所放水渠迄及夫レヨリ下流百間ノ區域

五　山城國宇治川筋宇治川電機株式會社發電所用水取入口堰堤（右岸久世郡槇島村左岸綴喜郡田原村）ヨリ上流ニ於テ百五十間下流ニ於テ二百間ノ區域

〔京都警〕

六　丹波國何鹿郡山家村上林川筋帝國電燈株式會社發電所用水取入口堰堤ヨリ上流ニ於テ百間下流ニ於テ百五十間ノ區域

第十八條　山城國葛野郡嵯峨村桂川筋一ノ堰ヨリ上流嵐山大悲閣溪流迄十二町五十間ノ區域ニ於テ水產動物ノ捕獲ヲ禁ス但シ釣具ヲ以テ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　潛水器ヲ以テ水產動植物ヲ採捕スルコトヲ禁ス

第二十條　築ハ九月二十日ヨリ六月三十一日ニ至ル期間之ヲ築設使用スルコトヲ禁ス

第二十一條　左ニ揭ク漁具ヲ以テ其ノ下ニ定ムル區域ニ於テ水產動物ヲ捕獲スルヲ禁ス

一　打瀨網　丹後國熊野郡三谷山同國同郡大向四神ヶ嶽（標高六九五）トノ見通線但馬國美方郡猫崎ヨリ經ヶ岬正北三海里ヲ經テ若狹國三方郡常神崎ニ至ル線及若狹國大飯郡青葉山ト丹後國加佐郡毛島トノ見通線ノ三線ヲ以テ圍マレタル區域竝丹後國加佐郡沖ノ島ヨリ若狹國遠敷郡多田ヶ嶽見通線以南ノ區域

二　手繰網　丹後國熊野郡久美濱灣

三　血貝桁網　同上

四　海鼠桁網　丹後國與謝郡橋立灣及同國熊野郡久美濱灣

五　藻曳網　丹後國與謝郡伊根灣

第二十二條　左ニ揭ク漁具若ハ漁法ヲ以テ河川沼湖池ニ於テ水產動物ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

一　水眼鏡、水覗眼鏡硝子モンドリガヲ引鳥繩其ノ他感繩ヲ使用スルコト

二　火振漁ヲ爲スコト但シ鵜飼漁業ハ此ノ限ニ在ラス

三　水流ヲ變換シ又ハ濁湯セシメテ漁業ヲ爲スコト

四　水中ニ電流ヲ通シテ爲ス漁法

第二十三條　氣、仕切網其ノ他流水ヲ遮切ル漁具ハ左ニ揭ク箇所ニ於テハ各其ノ下ニ定ムル期間之ヲ使用スルコトヲ禁ス

一　由良川本支流　自十二月十五日至一月十五日及自二月一日至同月末日

二　宇川（丹後國與謝郡及同國竹野郡）自十二月十五日至一月十五日

第二十四條　溯河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ河川流幅五分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スヘシ

第二十五條　左ニ揭ク區域ノ禁止ハ九月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル期間トス

一　桂川筋乙訓郡久世村久世橋ヨリ同郡久我村久我橋下流百五十間ノ區域

二　宇治川筋久世郡宇治町鐵道鐵橋ヨリ下流五百間ノ區域

第二十六條　養殖又ハ學術研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ漁業法第三十四條ニ基キ制限禁止シタル漁具漁法ヲ用ヰムトスル者及同條ニ基キ制限禁止シタル水產動植物ノ採捕ヲ爲サムトスル者ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　採捕ノ目的
二　採捕スヘキ水產動植物ノ名稱
三　採捕ノ場所
四　採捕ノ時期
五　漁具漁法

前項ノ許可ヲ受ケタル者採捕ニ從事スルトキハ許可書ヲ携帶スヘシ

第二十七條　漁業者ニ非サル者ハ左ニ揭クル漁具若ハ漁法ニ依ルノ外水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

〔京都警〕

一　手釣
二　竿釣但シ鮎素掛ヲ除ク
三　投網
四　笊掬

第四章　漁場標識

第二十八條　漁場標識ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　漁業ノ種類及名稱
二　漁場ノ位置及區域
三　漁業權者ノ氏名又ハ名稱（共有者ノ場合ハ其ノ代表者ノ氏名）
四　免許年月日及免許番號

第二十九條　漁場標識亡失毀損シ又ハ其ノ文字不明トナリ若ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ再設若ハ書換ヲ爲スヘシ

第三十條　漁場標識ヲ建設シ又ハ前條ノ規定ニ依リ書換ヘ若ハ再設シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第三十一條　漁業權消滅シタルトキハ直ニ漁場標識ヲ撤去スヘシ
前項ノ場合ニ於テ漁業權者死亡シタルトキハ戸籍法ニ據ル屆出ノ義務者ニ於テ法人カ解散シタルトキハ清算人ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第五章　罰則

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　許可ヲ受ケスシテ第四條第一項ノ漁業ヲ爲シタル者
二　第十一條ニ規定シタル漁業ノ制限又ハ停止命令ニ違反シタル者
三　第十五條第十六條第十八條乃至第二十三條及第二十五條ノ規定ニ違反シタル者

前項ノ場合ニ於テ犯人ノ所持シ又所有スル漁具漁獲物竝其ノ製品ヲ沒收ス但シ前記物品ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
一　第九條第十條第一項第二號及第三號第十二條第十三條第二十六條第二項第二十七條第三十條及第三十一條ノ規定ニ違反シタル者
二　漁場標識ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ直ニ書換ヲ爲ササル者

附　則

第三十四條　本則ハ大正十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五條　本則施行前ニ許可ヲ受ケタル漁業ニシテ本則ニ牴觸セサルモノハ其ノ許可期間本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十六條　本則施行前ニ巾著網漁業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ許可ヲ出願スルトキハ其ノ許否ノ處分アル迄仍漁業ヲ爲スコトヲ得

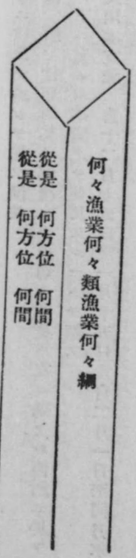
●漁場標識竝許可漁業（砂盛）札雛形

明治四十五年六月二十五日
京都府告示第二百八十號

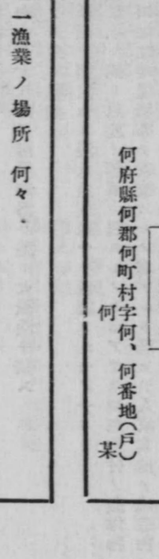
京都府漁業取締規則ニ據ル漁場標識明治三十五年七月京都府告示第二百十八號竝許可漁業鑑札雛形同年同月京都府告示第二百二十號ヲ左ノ通改正ス

漁場標識雛形

四寸角以上



高サ地上五尺以上



許可漁業鑑札雛形

竪　三　寸
横　二　寸

表面

第何號
明治何年何月何日
何漁業鑑札
烙印
京都府
（何々郡役所）
何府縣何郡何町村字何、何番地（戸）
何某

裏面

一漁業ノ場所　何々
一漁獲物ノ種類　何々
一漁業期間　自何月何日　至何月何日
一許可期間　明治何年何月何日迄
一制限又ハ條件　何々

●漁業ノ地方名稱

明治四十五年六月二十五日
京都府告示第二百七十九號

明治三十五年七月京都府告示第二百十九號漁業法施行規則第五十條ニ該當スル漁業ノ名稱ヲ左ノ通改正ス

藻手繰綱漁業
一藻手繰綱漁業
藻打瀨網漁業
一藻打瀨網漁業
藻曳網漁業
一藻曳網漁業
潛水器漁業
一潛水器漁業
空釣繩漁業
一鱚釣繩漁業

●火振漁禁止ニ關スル件

明治四十二年九月
保第四五二八號

各署長

漁業取締規則中禁制ノ火振漁ノ方法、河川ノ範圍、禁制ノ爲メ主トシテ保護ヲ受クル魚ノ種類等ニ付舞鶴鎭守府附主理ヨリ問合セニ對シ別紙ノ通リ主務課ヨリ回答相成候條爲念此段及通牒候也

（別紙）

一火振漁法
枯レタル竹木稻藁麥稈茅穗等ヲ束ハニシ火ヲ點シ松明ト爲スモノ且ツ其

他ノ火器ヲ携ヘ夜中河川湖沼等ノ淺瀬ニ魚族ノ餌ヲ求ムル爲又ハ產卵ノ爲メ深淵ヨリ出泳シ來ルモノ及ヒ强雨出水ノ爲メ魚族濁水ニ醉ヒ或ハ奔騰ノ暴流ニ疲レ淡水シタル堤塘且ツ淺水シタル田畑ノ畦畔等ニ遂泳シ來ルモノ等ヲ前記ノ松明及ヒ火器ヲ振リ照シ「金挾ミ」「カラチ又手網其他網類」「錯突」「銛突」「叉物切斷」「石塊撲殺」「棍棒打殺」等ノ慘酷ナル漁法ナリ

二禁制河川湖沼ノ範圍

本府下管內一市十八郡ノ河川湖沼ハ悉ク火振漁ヲ禁ス

三保護ヲ受クル魚ノ種類

別ニ魚ノ種類ヲ指定セス淡水魚族總テヲ保護スルモノナリ

四該火振漁禁止ハ獨リ魚族ノ蕃殖ニ關スルノミニアラス田畑作付ノ農作物ヲ荒廢シ田畑畦畔堤塘等ヲ破壞スルノ虞アルト延ヒテ人家其他ノ建造物等ニ對シ火災惹起ノ虞アル等ノ方面豫防ヲモ包含ス

●漁獵採藻禁止區域

大正四年一月八日
京都府告示第十六號

舞鶴軍港第二區ヨリ第三區ニ亙ル戸島四所村字白杉間ニ左圖ノ通漁獵採藻禁止區域ヲ改正シタル旨同鎭守府ヨリ通知アリタリ

（圖略ス）

●魚付林保護規則

明治二十一年四月
京都府令第四十三號

第一條　魚付林ハ水產蕃殖漁業上緊要ナルヲ以テ管下沿海諸山ニ於テ其箇所ヲ定ムル左ノ如シ

竹野郡袖志村字經ケ岬　第百九十四番地
同郡同村同字　第百五十九番地ヨリ第百六十一番地ニ至ル

〔京都營〕

同郡同村字浦ケ谷　第百六十三番地
同郡中濱村字友ケ崎　第五番地
同郡尾和村字友ケ浜　第一番地第二番地
同郡同村字神野口　第四十一番地ヨリ第四十三番地ニ至ル
同郡此代村字見岬　第百二十八番地
同郡同村字大平　第百二十九番地ヨリ第百三十一番地ニ至ル

熊野郡大向村字飛口　第百三十六番地第百三十七番地
加佐郡田井村字椎崎　第六十一番地
同郡同村同字　第百六十一番地ノ一

同郡同村字成生村字磯島　第百四十四番地ノ一
同郡同村字葛島　第二十番地
同郡同村字桃崎　第十九番地ノ内三段歩
同郡同村字黒地　第五十七番地ノ一
同郡同村字岬本走リ　第五十七番地ノ一
同郡同村字濱崎　第百四番地
同郡同村字ホウフウ山　第百八番地
同郡同村字丸山　第百十二番地
同郡同村字磯山　第八十七番地ヨリ第八十九番地ニ至ル
同郡同村同字　第九十八番地ヨリ第百番地ニ至ル
同郡野原村字高嶋　第五十三番地
同郡同村字倉山　第五十三番地ノ五ヨリ第五十三番地ノ
同郡同村同字

同郡同村字三濱村字丸山　十二至ル
同郡同村同字磯山　第四十六番地
同郡千歳村字磯　第四十五番地ノ内七段歩
同郡同村字南脇　第七十四番地ノ内一町五段歩
同郡白杉村字金崎　第十三番地
　第五百五十四番地ヨリ第五百五十七番地ニ至ル
同郡同村字藤ケ谷　第五百五十四番地ヨリ第五百七十一番地ニ至ル
同郡神崎村字五ヒウラケ濱　第三十四番地
同郡同村字長坂　第三十五番地
同郡同村字金崎　第三十六番地
同郡同村字ミツクリ
同郡佐波賀村字烏島
同郡同村字蛇島　第一番地
同郡和田村字乙クリ　第九番地
同郡長濱村字捻松　第二十二番地第二十三番地
同郡大波下村字丸山　第百五十八番地
同郡犬島村字蚫ノ谷　第百二十五番地
同郡日出村字毘沙門鼻　第一番地
同郡龜島村字青島　第六番地
同郡平田村字大下ノ森　第百三十番地
同郡本庄濱村字引間　第一番地
同郡同村字タイ山　第四十二番地

第二編　保安　第六章　產業

同郡同村字タイ平　第二十五番地
同郡浦入村字アキヤ　第九番地ヨリ第十一番地ニ至ル
同郡島蔭村字鈴島　第五十六番地
同郡同村字双山　第三番地ノ三ヨリ第三番地ノ五ニ至ル
同郡同村同字　第三番地ノ一
同郡同村字ユリ　第四十七番地第四十七番地ノ三
同郡同村同字　第四十八番地ノ一ヨリ第四十八番地ノ六ニ至ル
同郡泊村字ハンダ　第四十番地
同郡同村字横地　第三十番地
同郡獅子崎村字長濱　第五十六番地
同郡小田宿野村字石崎　第一番地ノ内六畝二十六歩
同郡中津村字石崎　第一番地ノ二
同郡獅子村字小島　第二番地ヨリ第五番地ニ至ル
同郡同村同字　第二百二十七番地第二百二十八番地
同郡同村字セド　第二百二十九番地第二百三十番地
同郡同村字カス谷ノ内磯ノ上　第二百三十一番地
同郡同村字カス谷ノ内磯ノ脇　第二十番地ヨリ第二十三番地ニ至ル
同郡田井村字大池ノ内中江　第二十四番地ヨリ第二十七番地ニ至ル
同郡同村字大池ノ内片島　第百六十五番地第百六十六番地
同郡同村字石谷ノ内佛崎　第四十一番地ノ内丙丁
同郡同村字大池　第百八十七番地
同郡同村字蒼浦　第百六十七番地
同郡同村同字　第百八十九番地ヨリ第百九十一番地ニ
同郡同村同字

同郡同村同字ノ内イメ　至ル
同郡同村字皿ノ内カラ々々　第二百九十二番地
同郡同村字皿　第二百九十三番地
同郡同村字皿ノ内魚見山　第三百八番地ノ内一段歩
同郡同村字田弁　第三百九番地
同郡新井村字松川　第三百十番地
同郡同村同字　第五番地
同郡小田宿野村字城山　第九番地第十番地
竹野郡濱詰村字和谷ノ内　二町歩
同郡同村字鹽々地　第三十九番地第四十番地
同郡同村同字　第三十六番地第三十七番地
同郡同村同字　第二十二番地ヨリ第二十四番地ニ至ル
同郡間人村字城山　第六十八番地
同郡峰石村字永見　第十番地ノ乙
同郡竹野村字小屋ノ鼻　葛野郡嵯峨町
京都市下鴨町　紀伊郡伏見町
乙訓郡向日町　久世郡宇治町
宇治郡醍醐村　相樂郡木津町
綴喜郡田邊町　北桑田郡周山村
南桑田郡龜岡町　何鹿郡綾部町
船井郡園部村　天田郡福知山町
天田郡上夜久野村　加佐郡舞鶴町
加佐郡河守町　與謝郡野間村
中郡峰山町　竹野郡網野町
熊野郡久美濱町

第二條　魚付林ノ一個人ノ所有又ハ村持ニ拘ハラス協議ヲ以テ錄止ヲ爲シ苗木植付ヲ勉ムヘシ

第三條　魚付林ハ毎年一度其景況及植付等戶長ニ於テ取調郡役所ヲ經テ屆出ヘシ但シ苗木植付ハ其字段別及苗木種類員數植付人名ヲ詳記スヘシ

第四條　魚付林ハ樹木ヲ保存スルヲ必要トス故ニ勉メテ濫伐セサル樣注意スヘシ尤モ非常天災又ハ萬止ムヲ得サル場合ニ於テ一個人所有林ハ自家建築ノ爲メ一村所有林ハ其公共ノ爲メ家屋建設橋梁架設等ノ用材ニ限當廻ノ許可ヲ受ケ幾分ヲ間伐スルコトヲ得

第五條　前條ノ外開墾又ハ土石及木根掘採等ノ作業ヲ爲サント欲スルトキ

〔京都參〕

ハ當廳ニ願出ヘシ

第六條　本則第四條第五條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第六節　氣象　測候

●京都府管內氣象測候規則

改正　昭和二年告示第九八號

大正十五年六月二十三日
京都府告示第三百四十一號

明治四十一年京都府告示第百九十九號京都府管內氣象測候規則左ノ通改正ス

京都府管內氣象測候規則

第一章　觀測所

第一條　管內觀測所ヲ氣象觀測所及雨雪量觀測所ノ二種ニ分チ左ノ場所ニ置ク

氣象觀測所

京都市下鴨町
乙訓郡向日町
宇治郡醍醐村
綴喜郡田邊町
南桑田郡龜岡町
船井郡園部村
天田郡福知山町
加佐郡舞鶴町
與謝郡野間村
竹野郡網野町

雨雪量觀測所

愛宕郡大原村
相樂郡大河原村
北桑田郡知井村
北桑田郡宮島村
船井郡檜山村
何鹿郡山家村
加佐郡由良村
中郡五十河村

愛宕郡雲ケ畑村
南桑田郡本梅村
北桑田郡大野村
北桑田郡黑田村
何鹿郡中上林村
天田郡細見村
與謝郡與謝村

第二條　觀測所ハ雨、雪、霰、雹、霧、霜、電、雷、風、地震其ノ他每一日中ノ諸現象ノ觀測ヲ爲ス

第三條　氣象觀測所ニ於テハ普通寒暖計、最高寒暖計、最低寒暖計雨量計等ヲ備ヘ每日午前十時左記ノ觀測ヲ爲ス

溫　度
最高溫度
最低溫度
雲　量
天　氣
雨雪量
積雪量

雨雪量觀測所ニ於テハ雨量計ヲ備ヘ每日午前十時雨雪量及積雪量ノ觀測ヲ爲ス觀測所ニ於テハ前二項ノ觀測ノ外大雨雪ノ場合ハ臨時ニ觀測ヲ爲ス

第二章　天氣豫報

第四條　測候所ハ每日左ノ地方區域ニ分チ地方天氣豫報ヲ發ス

山城地方
丹波東部地方
丹波西部地方
丹後地方

山城國一圓
丹波國ノ內南桑田、北桑田、船井ノ三郡
丹波國ノ內天田、何鹿ノ二郡
丹後國一圓

第五條　地方天氣豫報ハ測候所、同宮津出張所、警察署、巡査派出所駐在所其ノ他必要ト認ムル場所ニ之ヲ揭示ス

測候所、同宮津出張所、京都停車場構內ニ於テハ前項揭示ノ外信號旗ヲ揭揚シテ地方天氣豫報ヲ示ス

第六條　地方天氣豫報ハ每日午後五時迄ニ之ヲ發シ翌日ノ天氣ヲ豫報シ必要ノ場合ハ更ニ追報ヲ發スルコトアルヘシ

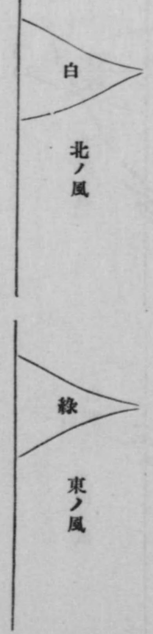
第七條　地方天氣豫報ハ左ノ用語ヲ以テ之ヲ示ス

風向
北ノ風　東ノ風
南ノ風　西ノ風
天氣
晴　曇
雨　雪

用語ハ附加語ヲ添ヘ又ハ重用スルコトアルヘシ

第八條　地方天氣豫報ノ信號ハ每日日沒時迄柱頭ニ左ノ旗幟ヲ揭揚ス

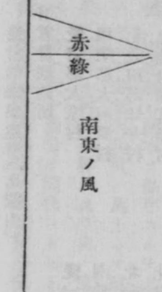
風向三角旗



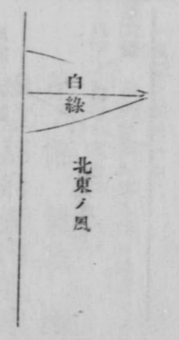
天氣方旗

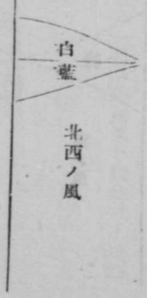
豫報ニ東、西、南、北、晴、曇、雨、雪ノ用語ヲ重用スルトキハ左ノ旗幟ヲ用ウ

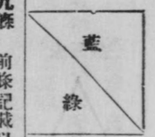
風向三角旗



天氣方旗







第九條　前條記載以外ノ豫報用語ニ對シテハ近似用語ノ信號旗ヲ揭ケ豫報ヲ前後數段ニ分ツトキハ信號旗ヲ其順序ニ連揭ス

第三章　暴風警報

第十條　測候所ハ管內ニ荒模樣アリト認メタルトキハ第四條ノ地方區域ニ依リ地方暴風警報ヲ發シ天候平穩ニ復セント認メタルトキハ解警報ヲ發ス

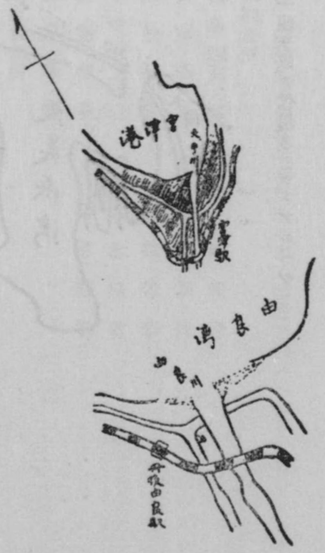
第十一條　地方暴風警報ハ左ノ用語ヲ以テ之ヲ示ス

風强カルヘシ
風雨强カルヘシ
暴風雨ノ虞アリ

第十二條　地方暴風警報ハ測候所、同宮津出張所、警察署、巡査派出所駐在所町村役場其ノ他必要ト認ムル場所ニ之レヲ揭示ス

第十三條　左ノ場所（圖中▲印ノ個所）ニ於テハ信號標ヲ揭揚シテ地方暴風警報ヲ示ス

京都市下京區西ノ京京都府測候所構內
丹後國加佐郡舞鶴町字松蔭
丹後國加佐郡由良村字由良
丹後國與謝郡宮津町字鶴賀京都府測候所宮津出張所構內
丹後國與謝郡伊根村字龜島
丹後國竹野郡間人町字淸水
丹後國熊野郡湊村字大向



第十四條　地方暴風警報信號ハ警戒中三尺毎ニ赤日二色ニ塗リ分ケタル柱頭ニ左ノ標識ヲ揭揚ス但シ赤圓筒赤圓錐ノ夜間信號ハ其ノ場合ニ依リ紅燈一個ヲ以テ代用スルコトアルヘシ

晝間信號

赤球	赤圓筒	赤圓錐
赤	赤	赤

夜間信號

紅燈	紅燈	紅燈
紅	紅	紅
紅		

解釋

紅	風雨强カルヘシ
紅	暴風雨ノ虞アリ

第四章　出水及晩霜豫報

第十五條　河川ノ堺水氾濫ノ虞アルトキハ出水豫報ヲ發ス

前項ノ出水豫報ハ測候所、同宮津出張所、警察署、巡査派出所駐在所町村役場其ノ他必要ト認ムル場所ニ之ヲ揭示ス

第十六條　四月十五日以降五月末日ニ至ル期間ニ於テ結霜ノ虞アルトキハ晩霜豫報ヲ發ス

前項ノ晩霜豫報ハ測候所、同宮津出張所、警察署、巡査派出所駐在所町村役場其ノ他必要ト認ムル場所ニ之ヲ揭示ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●京都府管內氣象測候取扱規程

大正十五年六月
京都府訓令第十六號

京都府測候所　農事試驗場　蠶業試驗場
茶業研究所　繭糸試驗場　木津農學校
亀岡農學校　河守實業學校　警察署
巡査派出所　巡査駐在所　土木出張所
町村役場

第二條　觀測所ハ管內氣象測候規則第二條、第三條ニ依ル氣象觀測ヲ爲スヘシ

第三條　觀測所ハ京都府測候所ニ左ノ報告ヲ爲スヘシ

氣象觀測所

氣象觀測月報	暴風報告
雷雨報告	地震報告
動物報告	植物報告
臨時雨量報告	大雪報告
初霜報告	初雪報告
雜象報告	

雨雪量觀測所

雨雪量月報	暴風報告
雷雨報告	地震報告

第四區土木工營所
第五區土木工營所
府立農事試驗場
府立農事試驗場山城園藝場
府立蠶業試驗場
府織物試驗場
府茶業研究所
府立木津農學校
府立亀岡農學校
府立河守蠶業學校

明治四十一年京都府訓令第三十二號京都府管內氣象測候取扱規程左ノ通改正ス

京都府管內氣象測候取扱規程

第一條　左ノ場所ニ於テ氣象觀測ヲ爲スヘシ

第三區土木工營所

臨時雨量報告　大雪報告
初霜報告　初雪報告
雜象報告

第四條　氣象觀測及報告方法左ノ如シ

一　觀測時

一　時刻ハ總ヘテ本邦中央標準時ヲ用ヰヘシ時計ハ時々最寄電信局又ハ鐵道停車場ニ就キ其ノ時計ヲ正シ置クヘシ

一　定期觀測ハ毎日午前十時一回トス

一　大雨雪ノ際ハ臨時觀測ヲ爲スヘシ

二　溫度

一　寒暖計ハ總テ攝氏ノ度ヲ用ヒ一定ノ百葉箱内ニ懸垂スルモノトス

一　溫度ヲ測ルニハ水銀ノ頂端ト目トヲ水平ナラシメ分位迄ヲ讀ミ取ルヘシ

一　最高溫度ハ最高寒暖計、最低溫度ハ最低寒暖計ニ依リテ之ヲ測リ、寒暖計ハ執レモ一定ノ百葉箱内ニ横懸シ觀測終レハ必ス現度ニ復シ置クヘシ

一　最高寒暖計ノ當日讀ミ取リタル溫度ハ前日ノ最高溫度タルヘキモ觀測簿ニハ檢度當日ノ欄ヘ記入スヘシ

一　寒暖計ノ讀ミ取リ方ハ最高寒暖計ハ水銀ノ右端、最低寒暖計ハ管中示針ノ右端ヲ左右目ノ中央ニ置キテ分位迄ヲ讀ミ取リ復度ハ最高寒暖計ハ其ノ頭部ヲ持チテ手ヲ垂レ前後ニ强ク打振リ、切レタル水銀絲ヲ球部ニ在ル水銀ト接續セシムヘシ最低寒暖計ハ球部ヲ上ニシテ之ヲ斜ニ持チ示針ヲシテ酒精絲ノ端ニ至リテ止ラシム其

ノ復度セル示度ハ執レモ普通寒暖計ノ示度ト略々合スヘキモノナレハ、之ヲ確ムヘシ

三　雨雪

一　降水量ハ雨量計ニ由テ雨雪ヲ受ケ雪霰ハ融解シ硝子拼ヲ以テ之ヲ測ル其ノ度目ハ耗ヲ用ヒ、十分位迄讀ミ取ルヘシ

一　當日定時ニ測リタルモノハ、前二十四時間ノ量ニシテ之ヲ前日ノ降量トスヘキモ觀測簿ニハ當日ノ欄ニ記入スヘシ

一　大雨雪ノ際臨時觀測ヲ爲シタルトキハ觀測簿相當欄ニ記入スヘシ

一　積雪量ハ降雪期ニ於テ積尺ヲ以テ一定ノ場所ニ於テ之ヲ量ル、其ノ積量ハ降雪ノ有無ニ拘ラス初メテ堆積セシヨリ之ヲ取除カス其ノ全ク融解スル迄毎日觀測時ニ之ヲ檢シ別ニ最深積雪ノ深サヲ觀測シ其ノ時刻ヲモ記シ置クヘシ

四　雲量及天氣

一　雲量ハ目分量ヲ以テ之ヲ測ル雲量ハ十分率ニシテ滿天一面ニ雲アルヲ十トシ一點ノ雲無キヲ零トス此ノ比例ニ依リテ其ノ量ノ多少ヲ判定スヘシ但シ濃霧ニシテ雲ヲ辨シ難キトキハ十ト記入スヘシ

一　雲量二以下ヲ快晴三以上七迄ヲ晴、八以上ヲ曇トス降雨降雪降霰ノトキハ雲量ノ多少ニ拘ラス雨雪霰トシ濃霧ニシテ雲ヲ辨シ難キトキハ濃霧ト記スヘシ

五　風向風力

一　風向ハ八方位ヲ用フルモノトス卽チ左ノ如シ

北、北東、東、南東、
南、南西、西、北西、

風信器ノ設備無キ場所ニ於テハ、手頃ノ旗竿ヲ樹テ其ノ頂ニ細長キ布片ヲ取リ付ケ長旒ノ如クシ其ノ風ニ靡ク方向ニ依リ風ノ吹キ來ル方向ヲ觀測シ風向ヲ知ルヘシ旗旒ノ設備ナキ場所ニ於テハ煙ノ靡ク方向ヲ觀察シテ風向ヲ知ルヘシ

一　風力ハ左ノ階級ニ據ル

名稱		解釋
靜穩		煙全ク上昇シ或ハ殆ンド直上シ又ハ樹葉動カサルモノ
軟風		人チシテ風ノ感覺ヲ起サシムルモノ
和風		樹葉ヲ動スモノ
疾風		小枝ヲ動スモノ
暴風	强風	勁枝ヲ動スモノ
	烈風	大樹ノ幹ヲ動スモノ
	颶風	樹ヲ拔キ家ヲ發クモノ

强風、烈風颶風ヲ總稱シテ暴風ト謂フ

六　雷雨

雷鳴ヲ聞キタルトキハ左ノ各號ニ從ヒ正確ニ觀測スヘシ

一　雷鳴ノ時刻及方角　最初雷鳴ヲ聞キタルトキハ直ニ時計ニ付テ其ノ分時ヲ驗シ、後、屋外ニ出テ雷鳴ノ方向ヲ見ルヘシ時刻ノ方向等不正確ナリト思考スル場合ハ其ノ旨明記スヘシ

雷鳴ノ止ミシ時刻及方角ノ觀測亦同シ

一　雷ノ經過セシ方位及道筋　例ヘハ南ヨリ起リ西ヲ經テ北西ニ走リタリ又ハ天頂ヲ經過シテ北ニ走リタリ等ト記スヘシ但シ地物ニ據ルヘキモノアルトキハ單ニ方向ヲ記スノミナラス某山脈ニ沿フテ某所ニ去ルト記スヘシ經過セシ道筋ハ主トシテ雷雲ニ依リテ判斷シ夜間雷雲ヲ見分ケ難キトキハ電光又ハ雷聲ニ依リテ決定スヘシ

一　雷ノ强弱、弱、中强ノ三種ニ區別シテ觀測スヘシ弱トハ其ノ音弱キモノ中トハ雷鳴中位ノモノ强トハ最モ近ク雷聲戸障子ヲ振動シ落雷等ノ災害ヲ釀スニ至ルモノ

一　雨ノ降リ始メシ時刻及時間　雷鳴ニ伴フ雨ノ降リ始メヨリ降リ止ミ迄ノ時刻ヲ測リ併テ其ノ時間中ニ降リタル雨量ヲ測ルヘシ雷鳴前ヨリ連續セシ降雨アルトキハ其ノ旨明記スヘシ

一　雨ノ强弱ハ弱中强ニ區分シ記入スヘシ其ノ標準ハ左ノ如シ

弱　雨聲ナキモノ
中　雨聲アルモノ
强　雨聲人語ヲ亂スモノ

一　降雹　降雹アルトキハ其ノ大小ハ普通人ノ知リ易キ物品ニ比較シテ記スヘシ例ヘハ大豆大、鷄卵大ト謂フカ如シ雹ノ甚大ナルモノハ其ノ重量、形狀等モ併セテ記載スヘシ

七　地震

地震ヲ感シタルトキハ如何ナル輕微ノモノト雖モレナク左ノ諸項ヲ觀測スヘシ

一　發震時　始メテ地震ヲ感シタルトキハ直ニ時計ニ就テ精密ニ讀ミ取ルヘシ

一　地震ノ震變、其ノ强サハ左ノ標準ニ依リ觀測スヘシ

微震　靜止セル人若クハ注意深キ人ノ感シタル輕微ナルモノ

弱震　一般ニ感スヘキ强サノ地震ニシテ戸障子ノ動ク音ヲ聞キ垂下物ノ動搖又ハ液體等ノ振動スルモノ

强震　坐リ悪キ器物ノ倒伏液體ノ溢出振子時計ノ運動ヲ停止スル程度ノモノ

烈震　家屋ヲ倒シ懸崖又ハ傾斜地ノ崩壊スル等地盤ノ大變化ヲ來ス程度ノモノ

一　地震ノ性質、振動急激ナリシカ緩慢ナリシカヲ觀察シ感覺ニ依リテ之ヲ記シ上下動又ハ水平動ヲ著シク感シタルトキハ上下動著シ又ハ水平動著シトト記入スヘシ

一　地鳴　地震ノ際地鳴ニ注意シ其ノ有無ヲ觀察シ其ノ音ハ何音ニ似タルカヲ詳記スヘシ

八　記事

一　記事ハ午前零時ヨリ夜半ニ至ル毎一日中ニ於ケル雨、雪、霰、雹、霧、霜、電、雷、風、地震、其ノ他諸顯象ノ觀測ヲ爲シ觀測簿相當欄ニ記入スヘシ

九　報告

一　觀測簿ハ測候所ヨリ交付ス、本簿ハ月報ニ代用スルモノニシテ一ケ月ノ觀測事項ヲ記入シ終リタル後翌月五日迄ニ測候所ヘ送付スヘシ

一　觀測簿ノ一ケ月ハ毎月二日ニ始メ翌月一日迄トス

一　二十四時間以内ニ雨雪量三十粍以上ニ達シタルトキハ其ノ都度本府測候所ヘ報告スヘシ

一　觀測所々在地ニ於ケル初霜初雪ハ直ニ測候所ヘ報告スヘシ

〔京都警〕

一　雷雨報告ハ交付セル一定ノ用紙ニ記入シ卽日測候所ニ報告スヘシ但シ落雷降雹等ノ爲メ被害アリタル場合ハ更ニ二日以内ニ詳報スヘシ

一　地震報告ハ交付セル一定ノ用紙ニ記入シ卽日測候所ニ報告スヘシ但シ弱震以上ノ場合ハ電信又ハ電話ニシ直報シ更ニ其ノ被害等詳報スヘシ

一　暴風報告（强風以上ノ風吹キタルトキ）ハ交付セル一定ノ用紙ニ記入シ卽日測候所ニ報告スヘシ但シ家屋ノ倒壞其ノ他被害甚大ナルトキハ電話又ハ電信ヲ以テ直報スヘシ

一　海嘯、洪水大雪（雪ノ積雪二尺以上ニ達シタルモノ）等ハ其ノ都度測候所ニ報告スヘシ

一　動植物報告ハ交付セル一定ノ用紙ニ記入シ毎年一月中ニ前年分ヲ測候所ニ報告スヘシ

一〇　大雨通報式

一　大雨通報ハ左記ノ事項ヲ電信又ハ電話ヲ以テ通報スルモノトス但シ電信電話共不通ノ場合ニ於テハ便宜ノ方法ヲ以テ速報スヘシ

觀測時
雨量
記事
觀測所地名

一　大雨通報電信ハ左ノ式ニ據ルヘシ

觀測時　雨量　記事　觀測所地名

電文　〇　〇　（〇〇〇）　〇

〔京都警〕

觀測時ヲ記スニハ午前一時ヲ「〇一」正午ヲ「一二」夜半ヲ「二四」トシ二個ノ數字ヲ用フヘシ

雨量ハ粍ニ止メ數字三個ヲ用ヒ括弧ヲ以テ之ヲ區劃ス但シ百粍ニ滿タサルトキハ其ノ位置ニ（〇）一個ヲ記スヘシ

記事ハ觀測時ニ於ケル模樣ヲ報スルモノニシテ、片假名一字ヲ用ヒ、左ノ符號ニ依ルヘシ

ア　降雨シツヽアリ
イ　降雨强キ方
ウ　降雨弱キ方
エ　降雨斷續
オ　引續キ大雨　河川增水
カ　河川氾濫　被害大ナリ
キ　霽レタリ
ク　霽レタレトモ尙天候險惡ノ模樣

一一　地震電信式

一　地震通報式ハ左記ノ事項ヲ電信又ハ電話ヲ以テ直報スルモノトス但シ電信又ハ電話共不通ノ場合ニ於テハ便宜ノ方法ヲ以テ速報スヘシ

發信時
震度
記事
觀測所地名

一　地震通報電信ハ左ノ式ニ依ルヘシ

時　分　震度　記事　觀測所地名
〇〇　〇〇　（〇）　〇〇

時ヲ記スニハ午前一時ヲ（〇一）正午ヲ（一二）午後十一時ヲ（二三）トシ二個ノ數字ヲ用ヒ分ハ〇〇ヨリ初マリ五九ニ至ル數字ヲ以テ記スモノトス

震度ハ括弧ヲ以テ之ヲ區劃シ數字一字ヲ用ヒ第一符號ニ依ル

記事ハ觀測所附近ニ於ケル地震ノ模樣ヲ報スルモノニシテ片假名二字ヲ用ヒ第二符號ニ依ル

第一符號　震度

一　弱震
二　强震
三　烈震

第二符號記事

ア　地鳴アリ
イ　續震アリ
ウ　續震多シ
エ　上下動著シ
オ　水平動著シ
カ　家屋動搖ス
キ　家屋稍々烈シク動搖ス
ク　人々屋外ヘ飛出ス
ケ　戸障子鳴ル
コ　時計止ル

サ　棚上ノモノ落ツ
シ　障子紙裂ク
ス　壁ニ龜裂ヲ生ス
セ　煙筒破損ス
ソ　土塀破損ス
タ　土塀破壞ス
チ　家屋破損ス
ツ　家屋破壞ス
テ　石垣破壞ス
ト　潰家アリ
ナ　潰家多シ
ニ　地裂アリ
ヌ　土地陷落ス
ネ　土地隆起ス
ノ　山崩レアリ
マ　海嘯アリ
ミ　人畜ニ死傷アリ
ム　死傷者多シ
メ　井水汚濁ス
モ　詳ナラス
ヤ　記スヘキコトナシ

第五條　氣象觀測所ニ於テハ觀測主任及副主任ヲ定メ測候所長ニ報告スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

〔京都警〕

第六條　觀測ニ要スル機械器具類其ノ他必要ト認ムル物品ハ測候所ヨリ貸與若クハ交付ス

第七條　警察署ニ於テ測候所ヨリ地方天氣豫報及暴風警報ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ揭示シ且巡査派出所駐在所其ノ他必要ト認ムル場所ニ之ヲ轉報スヘシ

第八條　地方天氣豫報　地方暴風警報發受轉報箇所左ノ如シ

天氣豫報

發報所	受報所	備考
測候所	警察部、市内各警察署、七條驛前巡査派出所、上下消防署、宮津署	
警察部	山城各郡警察署、龜岡、周山、園部警察署	電話ヲ以テ直報又ハ遞次轉報
宮津警察署	丹後各郡警察署、福知山綾部警察署	同上
各警察署	巡査派出駐在所其ノ他必要ノ場所	

暴風警報

發報所	受報所	備考
測候所	警察部、市内警察署、上下消防署、宮津、福知山、久美濱警察署、舞鶴町伊根村、岩瀧町、間人町由良村濱詰村役場、中濱淺成川漁業組合	電話又ハ電信ヲ以テ直報

〔京都警〕

警察部

山城各郡警察署、龜岡園部警察署	電話ニテ直報又ハ遞次轉報
市内各警察署	巡査派出所其ノ他必要ノ個所
郡部警察署	巡査駐在所其ノ他必要ノ個所
宮津警察署	峰山、網野、舞鶴新舞鶴、綾部警察署、加悅町役場

第九條　地方暴風警報信號標所在地ノ町村役場ハ信號ノ揭ケ卸シヲ爲スヘシ

第十條　大雨ノ際河川ノ出水ヲ豫報スル爲測候所及上流ニ於ケル觀測所ハ下流地關係警察署ヘ雨量ヲ速報スヘシ

前項ノ大雨ト稱スルハ二十四時間以內七十耗以上ノ雨量アルトキヲ謂フ

發報所	受報所	備考
名張	三重縣名張觀測所	
上野	三重縣上野觀測所	
大河原	相樂郡大河原村雨雪量觀測所	
京都測候所	木津、井手、宇治、向日町警察署及測候所	
黑田	北桑田郡黑田村雨雪量觀測所	同右
周山	周山氣象觀測所	測候所
園部	園部氣象觀測所	向日町、伏見、宇治警察署及測候所

第十一條　前條ニ依リ通報ヲ發シタル後尙引續キ降雨アルトキハ其ノ量三十耗以上ニ達シタル毎ニ追報ヲ發スヘシ

第十二條　警察署ニ於テ前二條ノ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係巡査派出所駐在所ニ通知スヘシ巡査派出所駐在所ニ在リテハ最寄町村役場其ノ他必要ト認ムル場所ニ之ヲ轉報スヘシ

第十三條　第十條第十一條ノ外測候所ハ管內各河川堺水氾濫ノ虞アルトキハ關係警察署ニ出水豫報ヲ發スヘシ

第十四條　警察署ニ於テ出水豫報ヲ受ケタルトキハ第十二條ニ準シ之ヲ轉報スヘシ巡査派出所駐在所亦同シ

警察署巡査派出所駐在所町村役場其ノ他ニ於テ前項ノ豫報ヲ受ケタルトキハ之ヲ揭示スヘシ

第十五條　大雨ノ通報ヲ發受スル箇所左ノ如シ

發報所	受報所	備考
京都測候所	園部、龜岡、太秦、向日町、伏見、宇治警察署及測候所	下流ニ被害ヲ及ホス虞アルトキハ測候所ヨリ更ニ向日町宇治井手木津ノ警察署ヘ轉報ス
龜岡	太秦、向日町、伏見、宇治警察署及測候所	下流ニ被害ヲ及ホス虞アルトキハ測候所ヨリ更ニ太秦向日町伏見宇治龜岡園部ノ警察署ヘ轉報ス

龜岡	京都府立龜岡農學校	太秦、向日町、伏見、宇治警察署及測候所
宮島	北桑田郡宮島村雨雪量觀測所	福知山、綾部、舞鶴警察署及測候所
檜山	船井郡檜山村雨雪量觀測所	福知山、舞鶴警察署及測候所
綾部	京都府蠶業試驗場	同　右
柏原	兵庫縣柏原觀測所	同　右
福知山	福知山氣象觀測所	舞鶴警察署及測候所
五十河	中郡五十河村雨雪量觀測所	峰山、網野警察署及測候所

第十六條　測候所ハ管內氣象測候規則第十六條ニ依リ結霜ノ虞アルトキハ關係警察署ヘ晩霜豫報ヲ發スヘシ

警察署ニ於テ晩霜豫報ヲ受ケタルトキハ直ニ巡査派出所駐在所ニ轉報シ巡査派出所駐在所ハ更ニ町村役場其ノ他必要ト認ムル場所ニ轉報スヘシ

第十七條　天氣豫報暴風警報通報式ハ測候所ニ於テ之ヲ定メ通知スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔京都警〕

第七章　商工業

第一節　度量衡

●度量衡取締規則

明治四十二年十月十五日
京都府令第九十六號

改正　大正元年京都府令第二三號、一五年第一二二號

第一條　本則ニ於テ營業者ト稱スルハ免許ヲ受ケタル度量衡器ノ製作者、修覆者及販賣者ヲ謂ヒ使用者ト稱スルハ度量衡器ヲ取引又ハ證明ノ目的ニ使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スル者ヲ謂フ

第二條　使用者ハ度量衡法施行令第十三條第一種取締檢査執行期日及提出ノ場所等ニ付テ知事ノ告示アリタルトキハ左記ノ器物ヲ除クノ外其ノ使用又ハ所持スル度量衡器全部ヲ指定ノ場所ニ其ノ期日內ニ提出スヘシ

一　玻璃製度器
一　陶磁器製桝
一　玻璃製桝
一　化學用量器（メスフラスコ、ビペット、ビユーレット、メスシリンドル）

第三條　使用者ハ前條ニ依リ器物ヲ提出スルトキハ左記樣式ノ提出書ヲ添附スヘシ

樣式

度量衡器提出書

使用者	職業
	氏名
住所	種類
	番號

第四條　使用者ハ地中臺秤其ノ他土地建物等ニ取附ケタル度量衡器ニシテ分解スルニ非サレハ運搬シ難キモノハ其ノ事由ヲ具シ豫メ知事ノ許可ヲ受ケ本則第二條ニ依ラサルコトヲ得

第五條　使用者ハ止ムヲ得サル事故ノ爲ニ本則第二條ニ依ル提出ヲ知事ノ告示期日內ニ爲シ難キトキハ直チニ其ノ理由及器物ノ種類、番號、個數ヲ市町村長ニ屆出ツヘシ

第六條　當該官吏公吏ハ前條ノ度量衡器其ノ他取締上必要ト認メタルモノニ對シ期日及場所ヲ指定シ使用者又ハ所有者ニ提出ヲ命スルコトアルヘシ、使用者又ハ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ミ又ハ其ノ提出ヲ怠ルコトヲ得ス

第七條　度量衡類似ノ器物ヲ販賣シ又ハ取引、證明ノ目的ニ使用スヘカラス

第八條　使用者ハ左記ノ器物ヲ店舖其ノ他賣買、授受、證明等ヲ爲ス場所ニ置キ又ハ行商ノ際携帶スヘカラス

一　度量衡法第八條ニ依リ使用禁止ノ度量衡器
二　度量衡類似ノ器物

第九條　營業者ハ看板ヲ戶外ニ揭クヘシ其ノ雛形左ノ如シ

〔京都警〕

何器製作(修覆)(販賣)所	氏名	竪三尺以上 幅一尺以上 用材適宜
桿秤緒絎修覆所	氏名	竪三尺以上 幅一尺以上 用材適宜

第十條　營業者ニシテ住所外ニ營業所、工場又ハ分工場ヲ設置シタルトキハ營業所ニ在リテハ支配人又ハ代理人、工場又ハ分工場ニ在リテハ管理者ヲ定メ十日以内ニ之ヲ當廳ニ届出ツヘシ、其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ業主自ラ其ノ場所ニ於テ業務ヲ執ル場合ハ此ノ限ニ非ス

第十一條　製作者、修覆者又ハ輸入(移入)販賣者ニシテ度量衡器ニ番號ヲ附記スルトキハ左ノ區別ニ從ヒ毎五年之ヲ更新シ順ヲ追フヘシ但シ甲種檢定ヲ受クルモノト區別スヘシ

度器
- 一直形
- 一直角形
- 一連接直形
- 一細帶狀
- 一鎖狀

量器
- 一金屬製枡
- 一玻璃製枡
- 一陶磁器製枡
- 一木製枡
- 一斗概
- 一化學用量器

衡器
- 一天秤及上皿天秤
- 一分銅
- 一臺秤及自働秤
- 一上皿桿秤及十分秤
- 一桿秤

第十二條　營業者ハ其ノ營業ノ種別ニ從ヒ帳簿ヲ備ヘ記入スヘキ事項ノ生スル都度左ノ事項ヲ記載シ附込ミ終了後滿五ヶ年間之ヲ保存スヘシ但シ廢業後ト雖モ右ノ期間内ハ尚ホ之ヲ保存スヘシ

一　製作簿　製作年月日、物質、種類、番號、檢定ノ合格不合格ノ區別個數

二　仕入簿　仕入年月日、物質、種類、製作(輸入)者ノ氏若クハ記號、番號、個數、代價、仕入先ノ住所氏名但シ輸入(移入)ニハ其ノ帳簿ヲ別冊トシ尚ホ檢定ノ合格不合格ノ區別ヲ明記スヘシ

三　販賣簿　販賣年月日、物質、種類、製作(輸入)者ノ氏若クハ記號、番號、個數、代價但シ卸賣ト小賣トハ別冊トスヘシ

四　修覆簿　修覆年月日、物質、種類、製作(輸入)者ノ氏若クハ記號、番號、檢定ノ合格不合格ノ區別、修覆料、修覆依託者ノ住所氏名但シ桿秤緒絎ノ修覆ハ其ノ帳簿ヲ別冊トスヘシ

製作者、修覆者及輸入(移入)販賣者ハ其ノ製作簿、修覆簿又ハ仕入簿ニ檢定ノ甲種、乙種ヲ區別シテ記入シ若クハ別冊トスヘシ

本條ノ帳簿ヲ保存期間内ニ滅失シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ

第十三條　營業者ハ其ノ營業ノ種別ニ從ヒ別紙樣式ニ依リ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日ニ至ル一ヶ年間ノ營業報告書ヲ調製シ毎年四月十五日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

營業者ハ廢業又ハ營業免許ノ消滅シタルトキハ前項ニ準シ營業報告書ヲ調製シ免許狀返納ト同時ニ當廳ニ差出スヘシ

營業者死亡シテ相續人其ノ營業ヲ承繼セサルトキハ相續人前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條　製作者、修覆者度量衡器修覆ノ依託ヲ受ケタルトキハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第十五條　度量衡法施行細則第二十一條ニ依リ桿秤緒絎ノ修覆營業ヲ届出ツルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル營業設計書ヲ添附スヘシ

一　修覆場ノ位置

二　修覆用秤架及分銅ノ種類、個數

前項ノ設計ヲ變更セントスルトキ又ハ修覆營業ヲ廢止シタルトキハ直チニ當廳ニ届出ツヘシ

第十六條　度量衡器ノ修覆依託者ハ修覆ヲ託スルニ當リ自己ノ住所氏名ヲ修覆營業者ニ告知スヘシ

第十七條　度量衡器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ本人若クハ代理人當廳ニ出頭シテ器物ノ授受ヲ爲スヘシ

第十八條　(削除)

第十九條　本則第九條、第十條、第十三條ニ違背シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

第二十條　本則第六條、第七條、第八條、第十二條、第十四條、第十六條ニ違背シタル者ハ科料又ハ拘留ニ處ス

第二編　保安　第七章　商工業

第二十一條　本則ハ明治四十二年十一月一日ヨリ施行ス

第二十二條　本則第十一條ニ據ル番號ハ本年ニ限リ從來ノ順ヲ追フヘシ

第二十三條　本年一月一日ヨリ同三月三十一日ニ至ル營業報告ハ本則第十三條樣式ニ準シ明治四十二年十一月三十日迄ニ差出スヘシ

第二十四條　營業者ノ住所外ニ營業所、工場又ハ分工場ヲ從來設置セルモノハ本則第十條ニ準シ支配人又ハ代理人若クハ管理者ヲ定メ明治四十二年十一月十日迄ニ當廳ニ届出ツヘシ

第二十五條　從來桿秤取緒絎絲修覆營業ヲ爲シツヽアリタル販賣者ハ更ニ本則第十五條ニ依リ明治四十二年十一月三十日迄ニ届出ヲ要ス

(別紙略ス)

●度量衡取締規則施行手續

明治四十二年十月十五日
京都府訓令第四十六號

〔郡〕市役所　〔警察署〕〔警察分署〕　町村役場

第一條　市町村長ハ毎年六月迄ニ其ノ内部ニ於ケル度量衡器ノ製作所、修覆所及販賣所ノ取締ヲ行ヒ終了後十五日以内ニ左記ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ

但シ必要ト認ムルトキハ隨時取締ヲ行ヒ其ノ狀況ヲ五日以内ニ報告スヘシ

一　營業者ノ氏名

二　營業所又ハ工場、個所ノ增減及位置變更ノ有無

三　營業用帳簿ノ整否

四　販賣器物ノ現在種類及整否個數

五　前各號ノ外犯則ノ有無

第二條　市町村長ハ營業者又ハ其ノ法定代理人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ其ノ旨五日以内ニ知事ニ報告スヘシ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

二　度量衡法第十四條ノ刑ニ處セラレタルモノ

三　破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモノ

第三條　度量衡法施行令第十三條ノ第一種取締檢査執行區域、提出場所及日時等ニ就テ同法施行細則第四十八條ニ據リ知事ノ告示アリタルトキハ當該市町村長ハ豫メ使用者ノ提出期日ヲ記入セル左記樣式ノ提出告知書ヲ普ク使用者ニ配布シ遺漏ナク檢査ヲ受ケシムヘシ

樣式

表

提出告知書

一提出期日　明治何年何月何日午前何時

一檢査場所在　何市何町村字何々

一提出者ハ裏面ノ提出書ニ住所、職業、氏名及器物ノ種類、番號等ヲ記入ノ上度量衡取締規則第三條ニ據リ之ヲ器物ニ添附シ其ノ器物ヲ右ノ期日ニ檢査場ニ差出スヘシ

一提出者ハ器物ニ丈夫ナル紙ノ名札ヲ附スヘシ

一知事告示ノ期日内ニ器物ノ提出ヲ怠リタル者ハ度量衡法施行細則第五十五條ニ依リ貳拾圓未滿ノ科料ニ處セラルヘシ

一提出書ハ器物一個ニ付必ス一枚ヲ用ユヘシ

但シ組分銅ハ一組ニ付一枚ヲ用ユヘシ

竪　四寸五分

幅　六寸五分

〔京都警〕

第四條　市町村長ハ其ノ部内ノ第一種取締檢査ニ付知事ノ指定期日二日以上ニ渉ルトキハ其ノ期日ノ範圍内ニ於テ便宜所屬町村内各小字ニ對スル日割ヲ定メ直チニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第五條　市町村長ハ度量衡取締規則第五條ニ依レル使用者ノ屆書ヲ受理シタルトキハ直チニ之ヲ當該取締執行官吏ニ通告シ其指揮ヲ受クヘシ

第六條　市町村長ハ其ノ部内第一種取締檢査期間内ハ檢査場ニ於テ器物ノ受附、引渡ノ事務ヲ補助スヘシ

第七條　第一種取締檢査場設置地ノ市町村長ハ前條ノ外、檢査場ノ設備、檢査用具ノ保管其ノ他取締執行官吏ノ需メアル場合ニ於テハ之カ補助ヲ爲スヘシ

第八條　市町村長ハ必要アリト認ムルトキハ使用者ノ取締ヲ行フコトヲ得

第九條　郡長ハ其部内ニ於ケル度量衡取締事務ニ關シ町村長ヲ監督シ諸般

受附第　號　何市町村

度量衡器提出書

使用者		器物		備考
住所	職業	氏名	種類	番號	

裏

ノ事務ヲ補助スヘシ

第十條　警察官吏ハ知事ノ指定スル期日ニ於テ當該技術官ト共ニ度量衡ノ取締ヲ行フヘシ但シ事宜ニ依リ警察官吏單獨ニ其取締ヲ行フコトヲ得

第十一條　警察署長、分署長ハ前條ノ取締ヲ終了シタルトキハ別紙樣式ニ依リ十五日以内ニ其ノ成績ヲ知事ニ報告スヘシ

第十二條　本則第十條ノ取締ニ於テ度量衡器ノ檢定證印ヲ除去シ若クハ消印ヲ要スルモノハ當該技術官其ノ手續ヲ行フ

第十三條　警察官吏ハ當該技術官ノ監査ヲ經タルモノニ非サレハ度量衡法第十一條ニ依リ度量衡器ヲ破毀スヘカラス

第十四條　度量衡法第十條第二項ニ依ル犯罪ノ搜索ハ警察官吏ニ在リテハ左ノ資格アル者ニ非サレハ之ヲ爲スヘカラス

一　警視

一　警部

一　警察署長、分署長又ハ其ノ代理ヲ爲ス警察官吏

（別紙）

樣式

明治何年度量衡器取締成績報告

種別	何町（村）		合計	
	正個數	否個數	正個數	否個數
度 直尺				
度 曲尺				
度 疊尺				

警察署（分署）名

〔京都警〕

第十五條　警察官吏ハ平素受持部内ニ於ケル使用者ノ取締ヲ行フヘシ

第十六條　市町村長及警察官吏ハ度量衡ノ取締ヲ爲スニ當リ必要アルトキハ互ニ其ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第十七條　警察署長、分署長及市町村長ハ犯則者ヲ發見シタルトキハ相當ノ處分ヲ爲シタル後十日以内ニ左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ

一　犯則者住所、氏名及其ノ職業

二　犯則事項

三　處分要領

第十八條　警察署長、分署長及市町村長ハ度量衡法第八條第十三條ニ該當スル度量衡器ニ就テ刑事訴追ニ付セントスルトキハ當該技術官ノ檢案ヲ要求スヘシ

第十九條　警察署長、分署長及市町村長ハ度量衡取締ニ關シ當該技術官ノ出張ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ場所及日時ヲ具シテ之ヲ知事ニ申請スヘシ

器				量						器	衡					器	計	三器合計	取締戸數
巻尺	鏈尺	縮尺	計	木製桝	金屬製桝	玻璃製桝	陶磁器製桝	斗概	化學用量器	計	天秤及上皿天秤	上皿棹秤及十分秤	臺秤及自働秤	棹秤	分銅	定量錘 増錘			

右及報告候也

年　月　日

警察署長
警察分署長　名印

知事宛

備考

市部警察署及分署ハ町名ヲ省クコトヲ得

●度量衡器取締ノ件

大正三年十一月六日
京都府訓令第三十八號

近來度量衡器取締ノ周到ニ趣クニ伴ヒ直接其器物ニ不正ノ方法ヲ施ス者漸次其跡ヲ絶タントスルモノ、如シト雖奸黠商賈等却テ他ニ惡手段ヲ求メテ或ハ度量衡器ヲ不正ニ使用シ或ハ顧客ノ信用ヲ濫用シ計量上ニ不正手段ヲ弄スルモノ次第ニ増加セントスルノ傾向アリ今ニシテ之ヲ矯正スルニ非サレハ信用取引ノ基礎ヲ危フカラシメ一般消費者ニ與フル損害亦少シトセス殊ニ

一増量ノ目的ヲ以テ商品(假令生糸石炭薪炭等ノ如キモノ)ニ他物ヲ混シ或ハ濕氣ヲ包含セシメタルモノ又ハ其包裝等ニ奸詐ヲ施シタルモノ

一取引上ニ於ケル信用ヲ惡用シ商品(米、石炭、肉類、砂糖、菓子、乾物等ノ如キモノ)ノ數量ヲ詐ルモノ

一稱呼量ニ添ハサル内容小ナル容器ヲ用ヒタルモノ(例令牛乳瓶酒醬油等ノ通樽ノ如キモノ)

等ノ如キ最モ其弊害ノ甚大ナルモノト認ム此等ノ取締ニ就テハ法ノ存スルモノハ法ニ據リテ之ヲ處斷シ法ノ據ルヘキナキモノハ諭告其他ノ方法ニ依リ之ヲ取締リ漸次改悛ニ赴カシムル様努ムヘシ

●度量衡法ニ依ル計量器ノ製作、修覆、販賣營業及使用者ノ取締ニ關スル件

大正十年三月十五日
京都府令第十六號

度量衡法ニ依ル計量器ノ製作、修覆、販賣營業及使用者ノ取締ニ關シテハ明治四十二年京都府令第九十六號度量衡取締規則ヲ準用ス

第二節　市場

●家畜市場法施行細則

明治四十四年一月二十八日
京都府令第十一號

改正　明治四四年京都府令第一四三號、大正九年第九號

第一條　家畜市場ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ許可セス

一、離宮御用邸御陵ヲ距ルコト百八十間以内ノ土地

二、御墓學校病院兵營署名ノ社寺公園ヲ距ルコト六十間以内ノ土地

三、公衆及家畜衞生其他公益ニ害アリト認ムル場所

第二條　常設及定期家畜市場ニ於テハ事務所檢査所賣場畜舍隔離所及汚物溜ヲ設ケ其構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ、檢査所ハ二坪以上トシ屋根ヲ設ケ石材煉瓦又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ健康檢査及治療ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

ロ、賣場及繫場ハ屋根ヲ設ケ石材煉瓦又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ排尿溝ヲ設クヘシ

ハ、畜舍及隔離所ハ石材煉瓦又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ造リ六十分一ノ勾配ヲ附シ其內壁ハ不滲透質ノ材料若クハ厚板ヲ以テ四尺以上ノ腰張ヲ爲シ適當ノ窓ヲ設ケ欄房ハ牛馬一頭毎ニ間口四尺以上奥行七尺以上ニ區劃シ其前方ニ六尺以上後方ニ三尺以上ノ通路ヲ附シ且其後方ニ排尿溝ヲ設クヘシ但犢駒羊豚ハ一區域內ニ數頭ヲ收容スルモ妨ケナシ

ニ、汚物溜及尿溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ畜舍隔離所ヲ距ルコト一間以上ノ所ニ造リ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ浸入ヲ防クヘシ

第三條　臨時家畜市場ハ事務所檢査所賣場繫場ヲ區劃シ雨雪ヲ避クニ足ルヘキ設備ヲ爲スヘシ

〔京都警〕

第四條　臨時家畜市場ノ假設建物ハ閉市後直ニ撤去スヘシ但シ特ニ之ヲ存置セントスル者ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　常設又ハ定期家畜市場ノ改築若クハ增築ヲ爲サントスルトキハ建物ノ構造仕樣書及圖面ヲ添ヘ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　家畜市場ノ工事落成シタルトキハ直ニ知事ニ屆出ツヘシ

第七條　家畜ノ賣買交換ヲ業トスル者ニシテ家畜市場法第七條第一項但書ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ所屬市場ノ名稱家畜ノ種類竝ニ其事由ヲ具シ所轄警察署ヘ出願スヘシ但本條ニ依リ許可スヘキモノハ左ノ場合ニ限ル

一、家畜市場ニ出場セサル種牡牛馬、乘馬、乳用牛ノ賣買交換ヲ爲サントスルトキ

一、家畜市場ヘ率付ヲ爲シ能ハサル疾病又ハ負傷牛馬ノ賣買交換ヲ爲サントスルトキ

第八條　常設家畜市場ニ於テ獸醫ヲ定メタルトキハ直ニ其氏名住所ヲ定期及臨時家畜市場ニ於テ獸醫ヲ定メタルトキハ開市五日以前ニ其氏名住所ヲ知事ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條　家畜市場開設者ハ第一號書式ノ臺帳ヲ調製シ家畜市場法施行規則第七條ノ事項ヲ記入スヘシ

第十條　家畜市場ハ常ニ淸潔ヲ保チ破損ノ箇所ハ直ニ修理スヘシ

第十一條　常設市場開設者ハ三ケ月毎ニ定期又ハ臨時家畜市場開設者ハ閉市後十日以內ニ第二號書式ニ據リ其狀況ヲ知事ニ報告スヘシ

第十二條　本則ニ依リ提出スル書面ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第十三條　第四條乃至第十一條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條　本則ハ明治四十四年二月一日ヨリ施行ス

第十五條　家畜市場法施行前ニ知事ノ許可ヲ得タル家畜市場ハ市場業務規程ヲ定メ明治四十四年三月末日限リ知事ニ屆出ツヘシ

（第一號書式）

〔京都警〕

（第二號書式）

何（臨時）常設（定期）家畜市場狀況報告

自明治何年何月何日
至同　年何月何日

種別	性	毛色	高サ	用途	産地	飼養地	代價	取引	賣買交換當事者
番號								月日	賣買交換當事者
嵐種	年齡	特徵	（又ハ重量）						

種類	用途	區別	入場頭數	賣買頭數	價額	一頭ノ價額 最高	最低	平均	交換頭數
外國	役用	牡牛							
		牝牛							
		犢							
	乳用	牡牛							
		牝牛							
		犢							

（畜牛）

種 肉用 成牛 牝	種 肉用 成牛 牡	種 肉用 犢 牝	種 肉用 犢 牡	雜種 乳用 成牛 牝	雜種 乳用 成牛 牡	雜種 乳用 犢 牝	雜種 乳用 犢 牡	雜種 役用 成牛 牝	雜種 役用 成牛 牡	雜種 役用 犢 牝	雜種 役用 犢 牡	雜種 肉用 成牛 牝	雜種 肉用 成牛 牡	雜種 肉用 犢 牝	雜種 肉用 犢 牡	内國種 乳用 成牛 牝	内國種 乳用 成牛 牡	内國種 乳用 犢 牝	内國種 乳用 犢 牡	内國種 役用 成牛 牝	内國種 役用 成牛 牡	内國種 役用 犢 牝	内國種 役用 犢 牡	内國種 肉用 成牛 牝	内國種 肉用 成牛 牡	内國種 肉用 犢 牝	内國種 肉用 犢 牡

（備考）
本欄ニハ前回又ハ前年ニ比シ盛衰價額ノ高低及其原因畜牛ノ良否集合セシ買受人ノ地方別竝ニ買取數等市場ニ關スル詳細ノ狀況ヲ記載スヘシ
右報告候也

〔京都警〕

年　月　日

知事宛

何常設（定期）（臨時）家畜市場狀況報告　自明治何年何月何日 至同年何月何日　（馬四）

種類區別	洋種 牝 當才	洋種 牝 二才	洋種 牝 三才以上	洋種 牡 當才	洋種 牡 二才	洋種 牡 三才以上	洋種 小計	雜種 牝 當才	雜種 牝 二才	雜種 牝 三才以上	雜種 牡 當才	雜種 牡 二才	雜種 牡 三才以上	雜種 小計	和種 牝 當才	和種 牝 二才	和種 牝 三才以上	和種 牡 當才	和種 牡 二才	和種 牡 三才以上	和種 小計
入場頭數																					
賣買頭數																					
價額																					
一頭ノ價額 最高																					
一頭ノ價額 最低																					
一頭ノ價額 平均																					
交換頭數																					

何郡町村何市場開設者

何　某印

〔京都令〕

（備考）
前表ニ同シ
右報告候也
年　月　日

知事宛

何郡町村何市場開設者
何　某印

〔京都警〕

何常設（定期）家畜市場狀況報告
臨時
自大正何年何月何日
至同　何年何月何日（羊豚）

別種用途	入場頭數	賣買頭數	價格 最高	最低	平均	交換頭數
			一頭ノ價格			
山羊 肉用 牡			圓	錢	錢	頭
山羊 種用 牝						
綿羊 種用 牡						
綿羊 種用 牝						
綿羊 肉用 牡						
綿羊 肉用 牝						
綿羊 其他 牡						
綿羊 計						
豚 種用 牡						
豚 種用 牝						
豚 肉用 牡						
豚 肉用 牝						
豚 其他 牡						
豚 計						
其他 牡						
其他 牝						
計 牡						
計 牝						
計						

牝	當二才以上	當二才以上三才以下	當三才以上	計
通計				

〔京都警〕

備考
前表ニ同シ
右報告候也
年　月　日

知事宛

何郡町村何市場開設者
何　某印

第三節　製茶

●製茶取締規則

明治四十四年四月二十八日
京都府令第七十三號

改正　明治四四年京都府令第八五號

第一條　本則ニ於テ不正不良ノ製茶ト稱スルハ明治四十四年農商務省令第二十號ニ該當スルモノ及ヒ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一、他ノ植物ノ枝葉ヲ以テ製茶ニ擬製シタルモノ

二、潮入茶若クハ之ニ加工シ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ

三、日光ニテ乾燥セシメ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ但シ紅茶、烏龍茶、番茶ヲ除ク

四、製茶ノ粉末ヲ「ヴシン」ニ擬製シタルモノ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ

五、磚茶ニシテ土砂ノ混入セルモノ又ハ壓搾不充分ナルモノ

六、含有水分量製茶總量ノ百分ノ六ヲ超ユルモノ

七、前各號ノ一ニ類似セルモノ

第二條　製茶業者竝ニ製茶賣買業者ハ不正不良ノ製茶ヲ製造又ハ賣買スル

コトヲ得ス

他ノ植物ノ枝葉ヲ以テ製茶ニ擬製シタル者ハ之ヲ製茶業者ト看做ス

第三條　製茶業者竝ニ製茶賣買業者ハ當該官公吏又ハ警察官吏ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ當業者ハ當該官公吏ニ對シ證票ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第四條　第一條第一號乃至第七號ニ該當スル製茶ヲ製造若クハ賣買シ又ハ第三條第一項ニ違背シタルトキハ五日以內ノ拘留又ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第五條　本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第八章　工場

第一節　通規

●工場法施行細則

大正十五年七月一日
京都府令第百三十四號

大正五年京都府令第五十二號工場法施行細則左ノ通改正ス

第一條　工業主ハ其ノ工場ガ工場法ノ適用ヲ受クベキ事由ノ生ジタルトキハ左記事項ヲ具シ十日以內ニ之ヲ届出ヅベシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　工場名、工場所在地、工業主ノ住所及氏名

二　常時使用スル職工ノ數（寄宿及通勤者ノ區別ニ依リ男女別ニ記載シ十六歲未滿ノ者ノ員數ヲ附記スルコト）

三　經營スル事業ノ種類

四　原動機ノ種類及箇數

五　一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）竝休憩時間ノ配置

六　毎月ノ休日回數及其ノ定日

七　賃金其ノ他ノ給與ヲ定ムル方法及其ノ支給日

八　工場法ノ適用ヲ受クベキ事由

現ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニシテ之ヲ受ケザルベキ事由ノ生ジタリト認ムルトキハ其ノ旨事由ヲ具シテ十日以內ニ届出ヅベシ

第二條　輸出絹織物工場ノ工業主ニシテ其ノ工場ニ付工場法施行規則第三條ニ依ル地方長官ノ告知ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ之ヲ届出ヅベシ

一　織物ノ種類及作業ノ方法

二　同一工場ニテ全部輸出絹織物ヲ製織スルモノナリヤ否

他ノ織物ト併セ製織スル場合ニハ輸出絹織物ノ作業場ハ獨立セルヤ否又ハ他ノ作業場トノ區劃ノ有無

其ノ區劃ヲ設ケザル場合ニハ輸出絹織物ノ製織ニ使用スル機臺數及其ノ他ノ機臺數

三　輸出絹織物ト其ノ他ノ織物トヲ製織スル工場ノ準備工程ニ付テハ輸出絹織物ト其ノ他ノ織物トニ付作業場ノ區別若ハ區劃又ハ作業日割ノ區分ノ有無

四　前項ノ區別若ハ區劃又ハ區分ヲ爲サザル工場ニ於テハ輸出絹織物ノ準備工程ノミニ從事スル職工ト其ノ他ノ職工トノ區別ノ有無

告知ヲ受ケタルモノニシテ前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ十日前ニ又其ノ告知ヲ受ケタル業務ヲ廢シタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第三條　工場法施行規則第三條ノ規定ニ依リ就業時間ヲ延長シタルトキハ左記事項ヲ具シ十日以內ニ之ヲ届出ヅベシ

一　業務ノ種類及就業時間ヲ延長シタル作業名

二　其ノ作業ニ從事スル職工數竝十六歲未滿ノ者及女子ノ員數

三　延長シタル一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）

前項各號ノ事項ヲ變更シ又ハ延長シタル時間ヲ廢シタルトキハ十日以內ニ之ヲ届出ヅベシ

第四條　工場法第四條但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　業務ノ種類又ハ作業名

二　就業セシメントスル職工數竝十六歲未滿ノ者及女子ノ員數

三　延長セントスル一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）及其ノ期間

四　延長ノ許可ヲ受ケントスル事由

第五條　工場法第七條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　業務ノ種類

二　休憩時間ヲ一齊ニ與フルコトヲ得ザル事由竝其ノ作業名

三　作業ニ從事スル職工數竝十六歲未滿ノ者及女子ノ員數

四　一日ノ就業時間竝休憩時間ノ配置

休憩時間ヲ一齊ニ與フルニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ヅベシ

第六條　工場法第七條第三項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　業務ノ種類

二　變更前及變更後ノ一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）竝其ノ休憩時間ノ配置

三　延長セントスル期間

四　延長セントスル休憩時間ノ利用方法、職工數竝十六歲未滿ノ者及女子ノ員數

第七條　工場法第八條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　業務ノ種類

二　避クベカラザル事由ニ因リ臨時必要ナル事由

三　一日ニ於ケル延長時間（自午前又ハ後何時至午後又ハ前何時）

四　一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）竝休憩時間ノ配置

五　作業名、其ノ作業ニ從事スル職工數竝十六歲未滿ノ者及女子ノ各員數

六　期間

七　從來ノ一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）竝休日
八　廢スベキ休日ノ回數

第八條　工場法施行規則第四條ノ規定ニ依ル届書ニハ前條各號ノ外左記事項ヲ具備スベシ

一　原料又ハ材料及生產品名
二　作業日ノ配置及其ノ日數
三　一月ニ付七日ヲ超エザル事由

第九條　工場法第八條第三項ノ規定ニ依ル届書ニハ左記事項ヲ具シ五日前ニ之ヲ届出ヅベシ

一　業務ノ種類
二　就業時間ヲ延長スベキ期間竝其ノ一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）
三　延長ノ必要アル作業名、其ノ作業ニ從事スル職工數竝十六歲未滿ノ者及女子ノ員數
四　臨時必要アル事由

第十條　工場法第八條第四項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　業務ノ種類及作業名
二　季節ニ依リ繁忙ナル期間及就業時間ヲ延長セントスル期間
三　延長セントスル一日ノ就業時間（始業及終業ノ時刻）竝其ノ休憩時間ノ配置
四　其ノ業務ニ從事スル職工數竝十六歲未滿ノ者及女子ノ員數

第十一條　工業主ハ工場法施行規則第八條ニ揭ゲル疾病ニ罹レル者アルトキハ左記事項ヲ具シ遲滯ナク之ヲ届出ヅベシ

一　病名及發病ノ年月日
二　病者ノ住所、氏名及年齡
三　雇入ノ年月日及作業名

〔京都醫〕

四　同條第一項第四號又ハ第五號ノ疾病ニ罹レル者ニ付傳染病豫防ノ處置ヲ爲シタルトキハ其ノ概況

前項ノ疾病治癒シタルニ依リ就業セシメタルトキハ其ノ者ノ氏名、就業ノ日及作業名ヲ五日以內ニ届出ヅベシ

第十二條　工業主ハ工場法施行規則第八條第三項但書ノ規定ニ依リ業務ニ就カシメタルトキハ前條第二項ニ準ジ醫師ノ意見書ヲ添ヘ之ヲ届出ヅベシ

第十三條　工業主ハ工場法施行規則第十四條ノ規定ニ依リ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシメタルトキハ樣式第一號ノ職工傷病者名簿ヲ調製シ其ノ都度之ヲ記載シ工場ニ備置クベシ

第十四條　工業主ハ工場法施行規則第九條第二項但書ノ規定ニ依リ業務ニ就カシメタルトキハ左記事項ヲ具シ醫師ノ意見書ヲ添ヘ遲滯ナク之ヲ届出ヅベシ

一　職工ノ氏名及年齡
二　分娩ノ日及生產、死產ノ別
三　哺育ノ方法
四　就業セシメタル日及其ノ作業名

第十五條　工業主ハ工場法施行規則第九條又ハ第九條ノ二ノ規定ニ該當スル事實アリタルトキハ樣式第二號ノ妊產婦名簿ヲ調製シ其ノ都度之ヲ記載シ工場ニ備置クベシ

第十六條　工業主ハ工場法施行令第五條乃至第七條、第八條、第九條及第十四條ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲シタルトキハ樣式第三號ニ依リ翌月二十日迄ニ之ヲ届出ヅベシ

第十七條　工場法施行令第七條ノ二ノ規定ニ依ル認定ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　業務ノ種類

二　職工ノ住所、氏名、年齡及其ノ作業名
三　負傷又ハ疾病ニ罹リタル日時及場所
四　負傷又ハ疾病ノ部位、症狀及其ノ經過ノ概要
五　危害防止裝置ノ有無及其ノ構造
六　重大ナル過失ト認メタル事由
七　其ノ他認定上ノ參考事項

第十八條　工場法施行令第十三條但書ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　業務ノ種類
二　職工ノ氏名及年齡
三　扶助料ノ種類及金額
四　扶助料ノ支給ヲ受クル者ノ住所、氏名及職工トノ續柄
五　分割支給ノ方法
六　分割支給ヲ要スル事由

第十九條　工業主ハ左記事項ヲ具備スル職工賃金支拂簿ヲ調製シ其ノ支拂ノ都度之ヲ記載シ工場ニ備置クベシ

一　支拂ヲ爲シタル年月日
二　職工ノ氏名
三　支拂金額
四　控除金額及其ノ名稱

第二十條　工場法施行令第二十四條但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　職工ニ貯蓄ヲ爲サシムル契約ニハ其ノ職工ノ範圍、每回ノ貯蓄金額、貯蓄方法、利率及其ノ支拂方法
二　職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲ス契約ニハ其ノ事由、職工ノ範圍、給付ノ種類、價格及給付方法
三　同條第二號ノ契約ニハ其ノ職工ノ責ニ歸スベキ事項

第二十一條　工場法施行令第二十五條ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニハ貯蓄方法及貯蓄金管理ノ方法ヲ詳具スベシ

第二十二條　工場法施行規則第二十條第三號ノ規定ニ依リ工業主ガ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スベキ場合左ノ如シ

一　職工ガ出產ノ費用ニ充テントスルトキ
二　職工、戶主又ハ家族ガ負傷若ハ疾病ニ罹リ又ハ火災、水災其ノ他不慮ノ災厄ニ遭遇シタルトキ
三　其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アルトキ

第二十三條　工業主ハ工場法施行令第二十七條ノ規定ニ依リ歸鄉旅費ヲ支給シタルトキハ樣式第四號ニ依リ翌月二十日迄ニ之ヲ届出ヅベシ

第二十四條　工業主ハ工場法施行令第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ雇傭契約ノ解除ヲ爲シ又ハ第二十七條ノ三ノ規定ニ依リ證明書ヲ交付シタルトキハ其ノ都度職工名簿ノ解雇欄ニ左記該當事項ヲ記載スベシ

一　即時解雇又ハ豫告解雇
二　解雇豫告ノ年月日
三　手當支給金額竝日數
四　解雇豫告期間ノ計算ニ算入セザリシ期間及其ノ由
五　證明書交付ノ年月日

第二十五條　工場法施行令第二十七條ノ二第三項但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　試ノ雇傭職工ノ範圍及其ノ作業ノ種類
二　試ノ雇傭期間
三　試ノ雇傭期間中ノ支給賃金率

〔京都醫〕

四　試ノ雇傭期間ヲ十四日以内ト爲スコトヲ得ザル事由

第二十六條　工場法第十八條第三項ノ規定ニ依ル認可ノ申請又ハ同法施行規則第二十二條第一號ノ規定ニ依ル屆出ニハ樣式第五號ニ依ル選任契約書寫ヲ添付スベシ

第二十七條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ工場管理人ニ選任スルコトヲ得ズ

一　其ノ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スルコト能ハザル事情アル者

二　未成年者、禁治產者、準禁治產者

三　破產者ニシテ復權ヲ得ザル者

四　工場管理人ノ認可ヲ取消サレタル者ニシテ其ノ取消ノ日ヨリ二年ヲ經過セザル者

五　禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後三年ヲ經過セザル者

六　性行又ハ經歴上工場管理人タルニ適セザル者

工場管理人ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルベシ

第二十八條　工業主ハ工場法施行規則第二十五條ノ規定ニ依リ療養ノ爲休業二週日以內ノ見込ヲ以テ屆出デタル後休業二週日以上ニ及ビタルモノアルトキハ工場法施行規則樣式第四號記載心得第二號ニ準ジ其ノ事由ヲ附記シ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

第二十九條　第十三條、第十五條及第十九條ノ規定ニ依リ調製シタル帳簿ノ用紙ハ記載ノ日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第三十條　工場法令ニ依リ知事ニ差出ス書類ハ所轄警察署ヲ經由スベシ

附　則

第三十一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　大正十二年法律第三十三號附則第三項ノ規定ニ依リ就業セシムル工業主ハ本則第一條第一項第五號ノ就業時間ニ關シテハ各組ノ就業時間及其ノ就業時ノ轉換方法ヲ記載スベシ

第三十三條　大正十五年勅令第百五十三號附則第三條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　工場所在地ノ地方ニ於ケル慣習ノ支拂期間及許可ヲ受ケントスル支拂期間（自何月何日／至何月何日）

二　許可ヲ受ケントスル支拂日

第三十四條　大正十五年勅令第百五十三號附則第四條ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニハ左記事項ヲ具備スベシ

一　學齡兒童ノ氏名及年齡

二　教授ノ場所

三　教授科目及每週ノ教授時間數

四　教授者ノ氏名及其ノ履歷

五　教授時間ト就業時間トノ關係

第三十五條　本則中十六歲トアルハ本則施行後三年間ハ十五歲トス

（樣式第一號）

職工傷病者名簿

傷病者氏名	生年月日	業務別男女別	業務非業務ノ別	病名症狀部位	發病又ハ負傷ノ日時及場所	休業日數	就業可否ニ付テノ醫師ノ意見	結末				醫師氏名	醫師認印欄
								治癒ノ日	就業ノ日	解雇ノ日	死亡ノ日		

（用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス）

〔京都警〕

（樣式第二號）

姙產婦氏名	生年月日	賃金額	出產年月日	出產前休業日數	出產後休業日數	就業セシメタル年月日	備考
原籍	現住所	產兒ノ狀態	哺育方法（母乳ト人工營養トノ別）		就業時間中ニ哺育時間ヲ求メタルヤ否		

（用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス）

〔京都警〕

（樣式第三號）

月分扶助支給月報

工場名	
工場所在地	
工業主又ハ工場管理人	

（用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス）

扶助種類	扶助金額 圓	錢	扶助ヲ受クル原因	扶助料算出ノ標準賃金額及算出方法	支給年月日	扶助ヲナシタル日數	死亡職工ノ續柄	男女別	扶助ヲ受ケタル者ノ住所氏名
施療					大正　年　月　日				
療養費	〃	〃			〃				
休業扶助料	〃	〃			〃				
打切扶助料	〃	〃			〃				
障害扶助料	〃	〃			〃				
遺族扶助料	〃	〃			〃				
葬祭料	〃	〃			〃				
施療	〃	〃			〃				
療養費	〃	〃			〃				
休業扶助料	〃	〃			〃				
打切扶助料	〃	〃			〃				
障害扶助料	〃	〃			〃				
遺族扶助料	〃	〃			〃				
葬祭料	〃	〃			〃				

扶助支給月報記載心得

一　扶助ハ工場法令ノ規定ニ依リ工業主ノ義務ニ屬スルモノノミヲ記載スヘシ

二　施療ハ之ヲ金額ニ見積リ記載スヘシ

〔京都警〕

三　扶助ヲ受クル原因欄ニハ病名又ハ負傷ノ種類ヲ記載シ障害扶助料ニ付テハ右ノ外疾病負傷ニ依ル身體障害ノ程度ヲ附記シ遺族扶助料及葬祭料ニ付テハ死亡職工ノ氏名ヲ附記スヘシ

四　同一職工ガ同一原因ニ依リ翌月以後ニ渉リ扶助ヲ受クルトキハ翌月以後ノ分ニハ氏名ノ上ニ○印ヲ附スヘシ

〔京都警〕

（様式第四號）　（用紙ハ一頁ハ半紙半折大トス）

月分歸郷旅費支給月報

工場名　工場所在地　工業主又ハ工場管理人

歸郷旅費ノ區別	解雇年月日	歸郷年月日	職工ノ郷里	歸郷旅費額及其ノ内譯	歸郷旅費ヲ受クルモノノ住所、氏名、生年月日
	大正　年　月　日	大正　年　月　日			
	〃	〃			
	〃	〃			
	〃	〃			
	〃	〃			

歸郷旅費支給月報記載心得

一　歸郷旅費ノ支給ハ工場法施行令第二十七條ノ規定ニ依リ工業主ノ義務ニ屬スルモノノミヲ記載スヘシ

二　歸郷旅費ノ區別ハ工場法施行令第二十七條ノ規定ニ舉ゲタル種別ニ依リ例ヘバ未成年者ガ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ十五日以内ニ歸郷スル場合ニ於テハ「未成年者」ト記載シ工場法施行令第七條ノ規定ニ依リ終身勞務ニ服スルコト能ハザルニ依リ扶助ヲ受ケタル職工ガ解雇後十五日以内ニ歸郷スル場合ハ「終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ」ト記載スヘシ

（様式第五號）

選任契約書

一　工場法第十八條ノ規定ニ依リ何某ハ何某ヲ何工場管理人ニ選任シ同法第十九條ノ規定ニ依ル同工場ニ付一切ノ權限ヲ附與ス

一　何某ハ何工場管理人トシテ何某ニ代リ工場法令ニ規定スル全般ノ責ニ任ズベキコトヲ承諾ス

右契約ス

年　月　日

何府
縣何郡何町村字何何番地
工業主　何　某㊞
何府
縣何郡何町村字何何番地
何々　何　某㊞

●工場法施行細則取扱ニ關スル件

大正十五年九月九日
五監工第一二七二號

各警察署長宛

第一 工場法令ニ依ル願届又ハ報告書類ヲ受理シタルトキハ迅速ニ處理シ規定アルモノノ外五日以内ニ進達スベシ

第二 工場法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第一條ニ依ル届出ヲ爲サザル者ニ對シテハ所定ノ日限内ニ其ノ届ヲ爲サシムベシ

工場法ノ適用ヲ受クベキ工場ナルヤ否ニ付疑義アル場合ハ速ニ左ノ事項ヲ具シ禀議スベシ

一　當時使用スル職工數
二　事業ノ種類
三　疑義ヲ生ズル點
四　其ノ他參考事項

第三 許可、認可ノ申請及届書ヲ受理スル場合ハ所定ノ事項ヲ具備セシメ事實ヲ審査シ意見ヲ附シ（意見ナキモノハ書類進達月日ヲ記入シ署長認印スベシ）進達スベシ

第四 細則第十七條ニ依ル重大過失ノ認定申請ヲ受理スル場合ハ所定事項ヲ具備セシメ意見ヲ附シ速ニ進達スベシ

第五 職工負傷疾病月報、扶助支給月報、歸郷旅費支給月報、工場災害事故報告、職工死傷報告ヲ受理スル場合ハ其ノ内容ヲ審査處理シ進達スベシ但シ工場災害事故報告ニ接シタル場合ニ於テハ直後ノ現狀ヲ維持シ電話其ノ他ノ方法ヲ以テ即報スベシ

第六 扶助規則、就業規則ノ作成又ハ變更届ヲ受理スル場合ハ例文ヲ參酌シ法令ノ所定事項ヲ具備セシメ事實ヲ審査シ進達スベシ

第七 工場管理人ニシテ不適任ト認ムル行爲アリタルトキハ事實ヲ具シ速ニ報告スベシ

第八 左ノ各號ニ關シテハ特ニ査察ヲ爲シ若シ違反事實ヲ發見シタルトキハ即時始末書ヲ徵シ事狀ヲ具シ禀議スベシ

一　工場法令所定ノ手續ヲ經ズシテ十五歳未滿（大正十八年七月一日以降ハ十六歳未滿トス以下同ジ）ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシメ又ハ午後十時ヨリ翌午前五時ニ至ル間（職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ大正十八年六月末日迄ハ支差ナシ）ニ於テ就業セシムルコトナキヤ

二　特ニ認可ヲ受ケタルモノノ外十四歳未滿ノ者ヲ使用シ居ラザルヤ（尚工業勞働者最低年齢法第二條同法施行規則附則第二項ヲ參照スベシ）

三　十五歳未滿ノ者及女子ニ對シ休日及休憩時間ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタル事實ナキヤ

四　工場法第九條、第十條ノ就業制限ニ關スル違反ノ事實ナキヤ

五　病者又ハ産前、産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ニ關スル違反ノ事實ナキヤ

六　特ニ許可ヲ受ケタルモノノ外職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂ヒ居ルヤ

七　賃金、貯蓄預リ金ニ關スル法令ノ規定ニ違反ノ事實ナキヤ

八　扶助又ハ歸郷旅費ニ關スル法令ノ規定ニ違反ノ事實ナキヤ

九　職工ノ雇入、解雇、徒弟及學齒兒童ニ關スル法令ノ規定ニ違反ノ事實ナキヤ

〔京都警〕

一〇　扶助規則、就業規則ノ周知、賃金率及計算方法ノ明示又ハ就業時間、休日、休憩時間ノ掲示ヲ爲シ居ルヤ

一一　職工名簿、賃金支拂簿、傷病者名簿、妊産婦名簿ニ所定ノ記載ヲ爲シ居ルヤ

一二　災害豫防裝置ニ遺漏ナキヤ

一三　寄宿舍、寢具、食堂、炊事場、浴場及便所ニ不備又ハ不潔ノ點ナキヤ

前各號ノ外工場法令ノ指導又ハ運用ニ努メ常ニ査察ヲ爲シ違反事實ニ對シテハ即時事狀ヲ具シ報告スベシ

第九 職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因又ハ工場法施行令第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助及歸郷旅費ニ關スル事項ニ付審査若ハ調停ヲ爲ス必要アリト認ムル事實アリタルトキハ其ノ事狀ヲ具シ速ニ報告スベシ

第十 監督注意票（第二票ノ送達ヲ受ケタルトキハ第三票ヲ指名ノ工業主又ハ工場管理人ニ交付シ注意事項ヲ期限内ニ實行セシメ附屬用紙ヲ切斷シテ指定事項ヲ記入シ署名捺印ノ上所轄警察署ヲ經由シテ届出シムベシ第二票ハ警察署ニ編綴保管シ實行ヲ促ス資料ニ供シ又實行届アリタルトキハ其ノ旨附記シ整理シ置クベシ

●工場法適用ニ關スル件

大正五年九月一日
京都府告示第四百十三號

工場法規適用ニ關シ左ノ通定ム

第一條 左記各號ニ該當スルモノハ工場法第八條第四項ノ季節ニ依リ繁忙ナル事業トス

一、生絲製造業
二、製茶業
三、果物ノ鑢詰ニ關スル業務

第二條 左記各號ニ該當スルモノハ工場法第十五條ノ業務上ノ疾病トス

一、砒素、砒素化合物、水銀、水銀化合物、燐、燐含有物、鉛、鉛化合物、チアン水素酸、チアン化合物、其他毒性又ハ劇性料品ヲ取扱フ業務ニ於ケル其中毒諸症及業務ノ過程ニ於テ發生シタル毒性又ハ劇性物質ニ因ル中毒諸症

二、業務上使用スル鑛酸、苛性アルカリー、「クロール」、「フルオール」、フルオール化合物、クロール化合物、「テール」其他腐蝕性又ハ刺戟性料品ニ因ル腐蝕又ハ潰瘍

三、生絲工ノ手指蜂窩織炎、研磨工ノ水渗及業務上使用スル「テール」「セメント」、チアン化合物等ニ因ル皮膚濕疹

四、業務ニ因ル筋ノ强直、痙攣、斷裂、腱鞘炎、關節炎、脫腸

五、高熱物體ノ取扱、刺戟性瓦斯又ハ異物ニ因ル結膜炎其他ノ眼病

六、褥瘡、瞰毛、革皮、其他古物ヲ取扱フ業務ニ因ル丹毒、炭疽、「ペスト」、痘瘡

七、前各號列記以外ノ疾病ニシテ業務上ノ疾病ト認メラルヽモノ

第三條 工場法施行規則第三條ノ機械生絲製造ノ業務中ニハ機械生絲製造業ニシテ連結シタル設備ニ依リ蒸汽其他ノ裝置ヲ共同ニ使用スル玉絲製造及ヒ足踏製絲ノ業務ヲ含ム

第二節　製造場

●製造場取締規則

明治二十九年十月三日
京都府令第四十五號

改正　明治二九年京都府令第五七號、三〇年第五一號、三一年第六三號、三三年第一〇九號、四〇年第八號、四五年第五一號、大正一三年第九五號

第一條　本則ハ蒸汽力電働力水力石油發動機鬪火爐吹子竈類ヲ使用シ又ハ惡臭劇烈ヲ發シ其他危害ヲ生シ健康ヲ害スル虞アル製造場ニ適用ス

第二條　前條製造場ヲ新設シ又ハ增設變更セントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ願出ヲ許可ヲ受クヘシ

一　敷地ノ位置郡市區町村字番地

二　敷地及建造物ハ坪數竝ニ周圍三十間以內ノ地形人家等ノ位置及其互ノ距離ヲ示シタル平面圖

三　敷地內ニ於ケル建造物非常口機械類竈火爐吹子烟突等ノ位置及其互ノ距離ヲ示シタル平面圖

四　有害瓦斯ヲ發散スルモノハ其防除方法汚水ヲ生スルモノハ其排除方法汚物ヲ生スルモノハ其除却ノ方法ヲ記シタル書面

五　機械類(電氣機械ヲ除ク)竈火爐吹子等ノ種類大サ及個數

但汽罐汽機ニ在テハ其名稱公稱常用汽壓安全辨ノ個數種類實馬力及製造地名製造年月ヲ記入スヘシ

六　製品名原料燃料ノ種類量目

七　職工ノ員數(男女ニ區別ス)及就業竝ニ休業時間

八　五十坪以上ノ二階以上煉化石建造物ニ在テハ左ノ仕樣書及圖面

一竪(正面及側面)斷面平面小屋割伏地ノ各地圖面(縮尺五十分ノ一以上)

一用材種類及寸法ヲ詳記シタル切組仕樣書及圖面(縮尺二十分ノ一以上)

九　木造平家建及五十坪未滿ノ二階以上建若クハ居宅ノ一部ヲ使用スルモノニ在テハ其平面圖及仕樣書

十　烟突ノ仕樣書及圖面(縮尺五十分ノ一以上)但シ用材ノ名稱品質寸法數量竝ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一煉化石ノ烟突ニ在テハ地質ノ模樣地平以上ノ高サ形狀底部ノ寸法頂部ノ寸法煉化石ノ總數底部ヨリ順次頂部ニ至ル煉化石ノ厚サ竝ニ積方「モルタル」ノ調合底部掃除口ノ構造地杭ノ種類竝ニ長サ地杭ノ打方何寸間若クハ一坪ニ付何本ノ割地平ヨリ地杭頭迄ノ深サ竝ニ面積「コンクリート」ノ調合厚サ竝ニ面積

一鐵板製ノ烟突ニ在テハ基礎ノ仕樣地平上ノ高サ外形及厚サ(呎吋ニテ)支線(ステー)ノ種類箇數大サ及取付方法

十一　避雷針ノ仕樣書但シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

頭尖ノ形狀及大サ導線ノ種類及大サ地中銅板ノ廣サ及埋設方法竝ニ頭尖導線ニ於ケル接續方法

蒸汽力及五馬力以上ノ電働力ヲ使用スル製造場及瓦斯製造場ハ前項ニ準シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

前二項ニ關シ市街地建築物法施行細則ニ依リ認可申請書ヲ提出スルトキハ前項第八號乃至第十一號ノ圖書ヲ省略シ前項ノ場合ニ於テハ第一號乃至第七號ノ圖書ヲ該申請書ニ添付出願スヘシ但シ建築物ノミニ關スルトキハ市街地建築物法施行細則ニ依ル認可ヲ以テ前二項ノ許可アリタルモノト看做ス

第三條　前條第八項第九項及第十一項ノ工事施設仕樣書ニハ擔當技術者連署スヘシ

第四條　左ノ場所ニ在テハ煤煙粉塵劇烈又ハ有害惡臭ノ氣體ヲ發散スル製造場ノ設置ヲ許サス但シ土地ノ狀況ニ依リ構造完全ニシテ公害ナキモノト認ムル場合ニ在テハ特ニ許可スルコトアルヘシ

一皇宮離宮及御用邸御料地ヲ離ル三百間以內ノ土地

一御陵ヲ離ル百八十間以內ノ土地

一御墓ヲ離ル六十間以內ノ土地

一京都市內

一建造物河川道路等ニ對シ公害アリト認ムル土地

第五條　紡織製綿油製寸等火災ノ虞アル製造場ニ在テハ相當ノ防火法ヲ設ケ且發火ノ虞レ多キ作業場ト其他ノ場所トニ於ケル境界ニ防火壁ヲ設クヘシ

第六條　蒸汽罐ノ位置ハ最近地ノ人家道路ニ對シ直徑五十尺以上ノ距離ヲ有スヘシ但シ常用汽壓五十磅以下ヲ使用スル汽罐ニ在テハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ニ拘ハラス特ニ許可スルコトアルヘシ

煉化石造ノ烟突ハ他ノ人家道路ニ對シ其高サ三分ノ一以上ノ距離ヲ有スヘシ汽罐煉化石造ノ烟突トノ距離亦同シ

第七條　石炭ヲ燃用スル烟突ハ高サ六十尺以上ノ煉化石造又ハ鐵板製トシ煉化石造ニ係ルモノハ避雷針ヲ裝置スヘシ但シ汽罐又ハ竈ノ大小及事業ノ種類場所ノ模樣等ニ依リ必要ト認ムルマテ高サヲ伸張セシメ又ハ燃料少量ニシテ公害ナキモノト認ムルトキハ本條制限以內ニ短縮許可スルコトアルヘシ

第八條　第二條ノ許可ヲ受タル後左ノ場合ニ在テハ其官廳(當廳ヘ差出スモノハ所轄警察署ヲ經由スヘシ)ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

但檢査上不適當ノ工事ト認ムルトキハ更改ヲ命スルコトアルヘシ

一　石又ハ煉化石造ノ建物若クハ烟突ニ付テハ地盤ヲ掘鑿シ杭打チナストキ

但シ木造ニシテ本項ノ地形ナスモノニ在テモ亦同シ

二　同上「コンクリート」ヲ敷設シ竝ニ其礎ヲ組成シタルトキ

三　避雷針ヲ取付ケタルトキ(地中銅板ノ埋沒前ニ)

四　全部ノ工事ヲ落成シタルトキ

五　其他臨時指示シタル場合

第九條　工事落成ノ檢査證ヲ受ルニアラサレハ就業スルコトヲ得ス

第十條　汽罐汽機又ハ蒸汽力ヲ用ユル蒸釜ヲ使用スル製造場ニ在テハ左ノ規定ニ從フヘシ

一　汽罐汽機蒸釜ハ据付前及工事落成後檢査ヲ受ケ其證書ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス證書有效期限ヲ經過シタルトキ亦同シ

二　二ケ月以上汽罐汽機蒸釜ノ運轉ヲ休止シタルトキハ檢査證ヲ返納シ再ヒ使用セントスルトキハ更ニ檢査ヲ受クヘシ

三　檢査證書ニ記載セル常用汽壓ヲ超過セシムルコトヲ得ス

四　檢査官吏ノナシタル安全辨ノ封鎖ハ私ニ開封スルコトヲ得ス

五　檢査證書ハ汽罐室又ハ汽機室內見易キ箇所ニ揭ケ置クヘシ

六　機關手油差火夫ヲ雇入レントスルトキハ其履歷ヲ添ヘ又ハ雇止ヲナシタルトキハ五日以內ニ許可ヲ受タル官廳(當廳ヘ差出スモノハ所轄警察署ヲ經由スヘシ)ニ屆出ヘシ

第十一條　製造場ノ建造物及汽罐汽機又ハ火爐竈吹子等損傷若クハ其他ノ事由ニ依リ公害ヲ釀スヘキ虞アルモノニ付テハ特ニ修理又ハ改造ヲ命シ且其命令ノ履行ヲ了ルマテ作業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十二條　製造場ニ於テ出火崩壞破裂等ノ危害ヲ生シ若クハ危害ヲ生スヘキ虞アルトキハ速ニ豫防ヲナシ卽時許可ヲ受タル官廳(當廳ヘ差出スモノハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ)ニ屆出ヘシ

第十三條　鑄物銅吹鍛冶等火粉ヲ飛散スル虞アル製造場ニ在テハ暴風ノ際ハ臨時休業スヘシ

第十四條　製造場ノ賣買讓與貸借ヲナシタルトキハ雙方連署ノ上五日以內ニ許可ヲ受タル官廳(當廳ヘ差出スモノハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ)ニ屆出認可ヲ受クヘシ

檢査證面ニ異同ヲ生シ又ハ紛失毀損シタルトキハ五日以内ニ許可ヲ受タル官廳（當廳ヘ差出スモノハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ）ニ届出證書ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

廢業シタルトキハ五日以内ニ許可ヲ受タル官廳（當廳ヘ差出スモノハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ）ニ届出檢査證書ヲ返納スヘシ

第十五條　本則第一條ニ記載セル各種ノ製造場ニ屬セサル者ト雖モ蒸汽力電働力ヲ使用シ又ハ烟突（石炭ヲ除キ其他ノ燃料ヲ用ユル烟突ニシテ屋上六尺以内ノモノハ此限ニアラス）ヲ建設スルモノニ付テハ本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ヲ適用ス

第十六條　本則第二條第八條第九條第十條第十二條第十三條第十四條ニ違フ者又ハ第八條ノ命令ニ從ハサル者ハ貳圓以上拾圓以内ノ罰金ニ處ス

附則

第十七條　本則發布以前創設ノ製造場及蒸汽力電働力ヲ使用シ若クハ烟突ヲ建設シタル者ニシテ其創設ノ許可ヲ受サルモノハ明治二十九年十一月三十日迄ニ本則第二條ニ依リ届出認可ヲ受クヘシ

●製造場取締規則施行手續

明治三十年四月
訓第二十三號

改正　明治四三年保訓第四號、四五年訓令第二八號、大正一三年第二八號

第一條　本則第一條ヲ適用スル製造場ハ其範圍擴濶ナルヲ以テ豫メ其種類ヲ指定シ難シト雖其大意ヲ列舉セハ凡左ノ種類トス

一　蒸汽力　電働力　水力　石油發働機　蒸釜使用ノ工場竝ニ紡織　製綿　製絲　製油　燐寸　烟火　銅吹鑄物　製纖　鍛冶　線條　硝子　陶器　煉化石　瓦　亞鉛鍍金　瓦斯　石鹼　摸革　石灰　コークス　セメント　煉炭　精米　精粉　染物　革染　堆場　蠟　護謨類　有害藥品危險物使用及之ニ類スル各種ノ製造場

二　前項各種ノ製造場ト雖火氣臭氣劇毒ナク或ハ火氣ヲ用ユルモ銹、鍍金、銅、錫細工、鋲、釘ノ類ヲ製造スルモノニシテ其規模最モ狹矮ナルモノ又ハ味噌醬油酒飴纏詰菓子等ノ食品ヲ製造スルモノハ本條ノ範圍外トス

第二條　本則第二條ノ新設ハ新ニ家屋ヲ築造スルト舊屋ヲ轉用スルトヲ問ハス又增設變更ハ現工場ニ增棟シ或ハ之ヲ擴メ或ハ縮小シ或ハ現形ヲ變シ或ハ工場附屬建物（假小屋物置便所其他之ニ類スル矮小ノ建物ハ包含セス）烟突ノ修理改造等皆之ニ包含スト雖シテ第一號以下各號ハ工場ノ種類ニ依リ關係ナキモノハ其記載ヲ要セス

第三條　本則第二條第十五條ニ該當スル願書ヲ受タル時ハ各記載ノ事項仕樣書圖面等具備セルヤ否ヲ審査シ尚警部又ハ巡査部長若シ差支タルトキハ受持巡査ヲシテ現場ニ臨檢セシメ左ノ事項ヲ調査シタル復命書ヲ徵シ公害ノ有無其他必要ナル事項ヲ審査シ許否ノ手續ヲ爲シ若クハ（當廳ヘ差出スモノハ）意見ヲ詳具シ五日以内ニ願書ヲ進達スヘシ

一　本則第二條第一項乃至第四項ニ係ル事實ハ相違ナキヤ否

二　敷地地盤ノ高低及地質

三　工場内空氣ノ流通非常口必要ノ有無火災又ハ劇毒惡臭ヲ發スヘキモノハ其及ホスヘキ關係如何

四　汚水又ハ汚物ヲ生スルモノハ其除却ヨリ他ニ及ホスヘキ關係如何

五　本則第四條及第六條ニ關係スルトキハ其距離

六　工場近傍ニ官公舍學校病院公園其他著明ナル神社佛閣等建造物ノ有無竝ニ其距離

七　舊建物ヲ用ユルトキハ危險ノ有無竝ニ修理スヘキ箇所

八　近傍住居者地主等ニ於テ故障ノ有無

九　前各項ノ事項ハ其關係アルモノニ限リ記載シ又其他關係アリテ參考トナルヘキ事項ノ記載ヲ要ス

第四條　左ニ該當スル工場建築物等ハ前條ノ調査書類及願書ニ許否ノ意見ヲ添附シ禀議スヘシ

一　（削除）

二　（削除）

三　五馬力以上ノ原動機（石油、空氣及瓦斯發動機モノ）ヲ使用スル工場其ノ他重要ナルモノ

第五條　本則第三條ハ五十坪以上ノ二階以上ノ建物及煉瓦石造鐵管烟突ニシテ高サ六十尺以上ノ工事ニ係ルモノヲ主トシ其他ノ工事仕樣書ニハ必要ト認メタルトキ連署セシメ其他ハ臨機取扱フヘシ

第六條　本則第四條ハ多量ノ石炭ヲ燃料トスルモノ健康ヲ害スルモノ最モ劇毒アル製造場ニ適用スルニアリト雖同條ノ制限ニ關係スヘキ工場及本則第十五條ニ該當スル願書ヲ受タルトキハ特ニ注意審査シテ進達スヘシ

第七條　本則第五條ノ各製造場ハ其規模大ナルモノニ適用シ均シク火災ノ虞アル工場ト雖製品ノ少數又ハ工場狹矮ナルモノ若クハ住宅ヲ劃シ工場トスル種類ノモノハ必スシモ防火法ヲ設ケシムル主旨ニアラス

第八條　本則第二條第二項第三項及第六條ノ距離ハ敷地ハ境界建家ハ軒先下道路ハ道敷ノ外側汽罐烟突ハ其周圍外側ヨリ丈量スヘキモノトス

第九條　本則第七條ノ鐵板製トハ總テ金屬ヲ包含ス又煉部煉瓦石造煉部鐵管烟突ニ建設スルモノハ必シモ避雷針ノ裝置ヲ要セス但土蔵烟突ハ屋上六尺以下マテハ其使用ヲ許可スルコトヲ得

第十條　本則第八條第十條ノ檢査ハ極メテ必要ノコトニシテ且其時機アルモノナレハ指令又ハ檢査證ヲ交附スルトキ受驗ノ手續ヲ示シ置キ檢査ノ時機ヲ過マリナカラシムヘシ

第十一條　本則第十一條及第十二條ノ危害ヲ發スヘキ虞アルコトヲ知リ又ハ其届出ヲ受タルトキハ一面卽時相當ノ處置ヲ施シ一面其狀況ヲ報告スヘシ

第十二條　本則第十四條ノ届出ヲ受タルトキハ其異動スヘキ原因又ハ將來故障ノ有無等ヲ調査シ許否ノ手續ヲ爲シ若クハ（當廳ヘ差出スモノハ）意見アルトキハ其事由ヲ具シテ進達スヘシ

第十三條　警察署長又ハ分署長ハ警部又ハ巡査部長ヲシテ二ケ月内ニ一回以上受持巡査ハ一ケ月内ニ一回以上各製造場ニ臨檢シ左ノ事項ヲ視察セシムヘシ營業用ノ爲メ設ケタル煙突ニ對シテモ亦之ニ準スヘシ

一　建造物又ハ工業上危險火災公害傳染病其他健康ヲ害スルコトナキヤ否

二　蒸汽罐及其他ノ機械ニ對シ當然ノ注意ヲナスヤ否

三　危險物又ハ有害藥品等ノ貯藏又ハ取扱上ノ注意如何

四　許可外ノ施工又ハ燃料ノ種類ヲ變シ若クハ增加スル等ノコトナキヤ否

五　職工ノ行狀又ハ使役ノ程度其他取扱上ノ如何

六　煙突掃除ノ模樣

七　規則遵守ノ狀況

第十四條　工事落成其他ノ檢査ヲ爲スヘキトキハ警部又ハ巡査部長若シ差支アルトキハ受持巡査ヲシテ速ニ臨檢シ其成績（當廳ヘ差出スモノ）ヲ届書ト共ニ報告スヘシ但シ檢査上差支ナキトキハ假リニ其使用ヲ許スヘシ

第十五條　蒸汽罐使用ヲ休止シ一時檢査證ヲ返納シタルトキハ其署ニ該證ヲ領置シ休止届書ト共ニ其旨報告スヘシ

第十六條　警察署又ハ分署ニ於テ別紙第四號書式ニ倣ヒ製造場臺帳ヲ調製シ關係ノ事項ヲ記載シ取締上ノ資料ニ供スヘシ其異動アリタルトキ亦同シ但シ本則第十五條ニ該當スル煙突ノ原簿ハ第五號書式ニ倣ヒ本文ニ準シ調製スヘシ

第十七條　製造場臺帳及檢査證用紙書式ハ左ノ如シ

第一號式（用紙ハ仙花ノ類）

（表）

第　號

製造場檢査證

何區何通何町何番戸
持主　氏　名

何々工場
何々附屬建物
何々製造場
煙突　煉瓦石高何尺何臺

年　月　日

「何」警察（分）署印

縦四寸五分　横六寸

（裏）

記事

年　月　日何工場ヲ（改築）（變更）（增築）（縮少）ス檢査員印

年　月　日何々

［京都營］

縦四寸五分　横七寸五分

第二號式

番號	第	號
製造場	名稱	何々
	所在	何
主持	住所	
	氏名	

汽罐

汽罐ノ種類	年月製造	公稱馬力	同數	汽罐ノ種類	個數	安全辨ノ種類	寸法	常用汽壓
	明治　年　月							

使用ノ限ニ拘ハラス

年月	至自	明治	年	月	日	何年ヶ月間

右檢査ノ上前記期限同一使用ヲ許シ此證ヲ附與ス

年　月　日

京都府

［京都營］

第三號式（用紙仙花ノ類）

（表）

第　號

住所　持主　氏　名

煉瓦石又ハ鐵管煙突檢査證

年　月　日

「何」警察（分）署印

竪四寸　横二寸七分

（裏）

記事

年　月　日增築改築縮少ス

年　月　日何々

檢査員檢印

第四號式

番號	第號	許可	年　月　日
		廢止	年　月　日
何々製造場	位置	何區何通何町何番戸	
	製出品	何々	
	何工場	何ケ所	
	何々	何々	
	汽罐室	何々	
	附屬建物	何々	
備考			

持主	住所	氏名
器械ノ種類及員數	器械ノ種類	同上員數
	何々	何個
煙突	種別	高サ
	煉化石	何尺
		燃料及量數
		石炭一日何斤
職工員數	男	何人
	女	何人
休業日及就業時間	毎月何日	
	午前何時就業午後何時休業	

〔京都警〕

第五號式

第　號	何々營業所	年　月　日許可	煉化石煙突	高サ何尺	一日燃料石炭何斤
住所	持主　氏　名	備考			

〔京都警〕

●製造場及煙突ノ新設增築變更願ニ記載ノ燃料調査ノ件

明治三十年八月
訓示第一五七號

製造場又ハ營業用煙突ノ新設若クハ增築變更等ノ場合ニ於テ其願書ニ記載スル燃料石炭薪材其他ヲ殊更ニ少量ニ記載シテ近隣居住者ノ故障ヲ避ケントシ又ハ其規模ノ狹小ヲ假裝シテ容易ニ許可ヲ受ントスル者アリ且又其許可ヲ得タル後私カニ燃料ヲ變更シ若クハ之ヲ增加スル者有之哉ニ相聞ヘ候條右出願ノ際事業ノ大小模樣ニ依リ燃量ノ相當スルヤ否ヤヲ調査シ且許可ノ後私カニ變更增加スル等ノコトナキヤ否ヤ精密視察シ公害ヲ豫防セラルヘシ

●製造場新設及增設變更願書進達ニ關スル調査事項

明治三十年五月
訓第五二號

製造場ノ新設增設及變更等ノ願書ヲ進達スルニ方リ取締規則掲載事項ノ記載方ヲ省略シ或ハ脫漏シタルモノ又同則取扱手續ニ規定シタル事項ニ踐行セスシテ書類ヲ進達スル向モ有之處分上不便尠カラス候條自今注意ヲ加ヘ精密調査シ尙左ノ事項ヲ注意セラルヘシ

一新設願書題目ハ何々製造場云々ト記セシムル事

一他ノ警察署分署部內ニ住居スル者ハ其部內其製造場ニ關スル用務代辯人ヲ定メシムル事

一圖面ハ可成鄭重ニ調製セシムル事

一增築變更ノトキハ新舊ノ區域ヲ明カニセシムル事
一願書調製ノ爲メ濫リニ多額ノ手數料ヲ受クル者取締ノ事

●發動機使用巡回作業ニ關スル件

大正十一年三月
工第一二四七號

各警察署長

別紙甲號稟議ニ對シ乙號ノ通リ回報致置キ候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

甲號
峰發第一九四號
大正十一年三月十四日

京都府警察部長宛

峰山警察署長

近來ヤンマー石油發動機ヲ使用シ精米、籾摺等ヲ巡回作業セントスル事業家有之候カ右ハ製造場取締規則ノ適用ヲ受クヘキモノナルヤ否ヤ疑義ナキ能ハス該機械類ハ別冊ノ通リノ構造ニシテ固定ノ工場ヲ有セス申込ニ應シ處々ニ機械類ヲ運搬作業スルモノニ有之該原動機使用ニ關シテハ公害危險ノ虞有之樣認メラレ候モ移動工場ノ如キ性質ニシテ製造場取締規則ニ當該適用條項等無之處理上疑義相生シ候條右ハ如何ナル手續ニ依リ處理可然哉何分ノ御指揮相仰キ度此段及稟議候也

追テ御指揮ノ際別冊返戻相成候樣致度此段申添候也

乙號
工第一二四七號
大正十一年三月二十七日

〔京都警〕

●煙突ノ高サ及燃料制限許可標準

明治三十年九月
訓第六〇號

製造場取締規則中煤煙ノ飛散スル煙突ノ高サ竝ニ燃料制限ノ許可標準別紙ノ通内定相成候條自今右標準ニ倣ヒ土地ノ狀況及燃料ノ多寡等ヲ察シ適當ニ處分スヘシ

京都府警察部長

大正十一年三月十四日付峰發第一九四號ニテ稟議ノ發動機使用巡回作業ニ關スル件ハ法文上ヨリ言ヘハ當然製造場取締規則ノ適用ヲ受クルモノニシテ同規則第二條ニ依リ一一作業セントスル場所ニ於テ許可ヲ受ケ機械設置落成ノ上屆出檢査證ノ下附ヲ受ケテ後ニ作業シ得ルモノナルモ事實上稟議ノ如キ巡回作業ヲナスモノナレハ規則ニ依ル手續ヲ取ルハ困難ト認メラルルニ付原動機調帶等ニ柵圍又ハ覆ヲナシ又ハ夜間及人家稠密ノ場所等ニテハ作業セシメサル樣ニナシ危險公害等無キモノナレハ便宜上許可ノ手續ヲ省略シテ作業セシメ支障ナキモノト認メラルヽニ付爾後右ニ依リ御取扱相成度候也

〔京都警〕

煤煙ノ飛散スル煙突高サ許可標準　但十二時間燃量

第一項

皇宮離宮御邸御地御陵御墓ニ對スル土地ノ制限四分ノ三以内ノ土地但皇宮離宮御用邸御料地及御陵ハ六十間御墓ハ三十間以内ノ土地ハ許可セス

用料

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數	燃料期限半數以上	同未滿
石炭			
煉炭	五十斤	四十尺以上	
無煙炭	百斤	六十尺以上	四十尺以上
薪材	十五貫目	五十尺以上	二十五尺以上
汽罐發動	石油機		

上欄土地内ノ特許

宿屋

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數		
石炭			
煉炭	百斤	六十尺以上	
無煙炭	百五十斤	六十尺以上	
薪材	二十五貫目	五十尺以上	

湯屋

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數		
石炭			
煉炭	百斤	六十尺以上	
無煙炭	二百斤	六十尺以上	
薪材	二十五貫目	五十尺以上	

第二項

前項ノ制限四分ノ三以上制限内ノ土地ニ於ケル特許

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數	燃料制限半數以上	同未滿
石炭	百斤	六十尺以上	四十尺以上
煉炭	百斤	六十尺以上	四十尺以上
無煙炭	二百斤	六十尺以上	四十尺以上
薪材	二十七貫目	五十尺以上	三十尺以上
汽罐	常用汽壓二十磅以内		

上欄土地内ノ湯屋特許

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數		
石炭	百五十斤	六十五尺以上	
煉炭	百五十斤	六十五尺以上	
無煙炭	二百五十斤	六十五尺以上	
薪材	四十貫目	六十尺以上	

第三項

鴨川以東市域以南七條

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數	燃料制限半數以上	同未滿

上欄土地内ノ

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數	燃料制限半數以上	同未滿

通妙法院馬町通以北ノ土地及鴨川以西堀川以東今出川通以南七條通以北ノ土地	石炭	二百斤	七十尺以上	四十五尺以上	特許白川橋通以北五條通以南中立賣以北及西洞院以西	石炭	二百五十斤	七十尺以上	四十尺以上
	煉炭	二百斤	七十尺以上	四十五尺以上		煉炭	三百斤	七十尺以上	四十尺以上
	無煙炭	三百斤	七十尺以上	四十五尺以上		無煙炭	四百斤	七十尺以上	四十尺以上
	薪材	五十四貫目	六十尺以上	四十尺以上		薪材	六十貫目	六十尺以上	三十五尺以上

第四項　前項ノ制限以外ノ市内ノ土地

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數	燃料制限半數以上	同未滿
石炭	三百斤	七十尺以上	四十尺以上
煉炭	三百五十斤	七十尺以上	四十尺以上
無煙炭	五百斤	七十尺以上	四十尺以上、
薪材	八十貫目	六十五尺以上	四十尺以上

上欄ノ土地内特許

燃料制限		煙突高サ制限	
燃料	量數	燃料制限半數以上	同未滿
石炭	三百五十斤	七十五尺以上	三十五尺以上
煉炭	四百斤	七十五尺以上	三十五尺以上
無煙炭	六百斤	七十五尺以上	三十五尺以上
薪材	九十貫目	七十尺以上	三十尺以上

第五項　燃料ノ數量ニ對スル煙突高サ制限

石炭	一萬斤以上	五千斤以上	一千斤以上	五百斤以上	三百斤以上	百斤以上	百斤未滿
	百五十尺以上	百尺以上	八十尺以上	七十尺以上	六十尺以上	四十尺以上	三十尺以上
煉炭	一萬斤以上	五千斤以上	一千斤以上	五百斤以上	三百斤以上	百斤以上	百斤未滿
	百二十尺以上	九十尺以上	八十尺以上	七十尺以上	五十五尺以上	四十尺以上	三十尺以上
無煙炭	一萬斤以上	五千斤以上	一千斤以上	五百斤以上	三百斤以上	百斤以上	百斤未滿
	百尺以上	八十尺以上	七十尺以上	六十尺以上	五十尺以上	四十尺以上	三十尺以上
薪材	二千七百貫目以上	千三百五十貫目以上	二百七十貫目以上	百三十五貫目以上	八十一貫目以上	二十七貫目以上	二十七貫目未滿

〔京都警〕

百尺以上	八十尺以上	七十尺以上	六十尺以上	五十尺以上	三十五尺以上	二十五尺以上	

備考

明治三十年八月

一　本表ハ大體ヲ示シタルモノニ付特ニ煤煙飛散ノ除害法ヲ設ケ又ハ石炭ノ最モ善良ナル品ヲ使用スルトキハ幾分ノ増加ヲ許スコトアルモノトス

二　二種以上燃料（コークス又ハ木炭ヲ除ク）ヲ使用スルモノハ本表ノ比例ニ依リ増減ス但石炭六斤（百六十目一斤）ニ對スル薪材十斤ノ比例ヲ標準トス

三　燃料ノ量數ニ對スル煙突ノ高サハ本表制限下欄最低ヨリ燃料ノ増加スルト土地ノ模樣トニ從ヒ高サヲ漸次伸張セシムルモノトス但燃量ノ最モ少量ニシテ標準ニ依リ難キ事情アルモノハ實際ノ狀況ニ從ヒ之ヲ定ム

四　平均ニ燃料ヲ使用セス不同ニ燃燒スルモノ假令ハ煉化石瓦陶器燒等ノ如キモノハ其時間割ニ依リ其量數ヲ計算スルモノトス

〔京都警〕

●石炭薪材ヲ燃料トスル煙突掃除臨檢ノ件

明治三十年七月
訓示第一四五號

石炭薪材ヲ燃料トスル製造場及營業用煙突ノ掃除ハ左ノ例ニ從ヒ執行セシメ其都度臨檢シ煤煙飛散火災等ノ公害ヲ豫防セシムヘシ

一　京都市内ノ土地

一日（十二時間トス）石炭二百斤薪材五十貫目以上ヲ燃燒スル煙突ハ毎月四回以上其以下ハ三回以上トス

二　京都市接續地六十間以内及伏見園部福知山舞鶴宮津町ノ内人家稠密ノ土地

一日石炭二百斤薪材五十貫目以上ヲ燃燒スル煙突ハ毎月三回以上其以下ハ二回以上トス

三　其他ノ土地

毎月二回以上トス但燃料多量ニシテ人家連檐ノ土地ニ在テハ三回以上トス

四　木炭「コークス」ヲ燃料トスル煙突ハ毎月三回以上火袋及煙拔ヲ掃除セシム

●四十尺以上ノ煙突ニ避雷裝置ノ件

明治三十九年十二月
保第四六八八號

一煉瓦若クハ石造ノ煙突ニハ避雷針ヲ設置シ其導線ハ撚合線ノ數七本以上ニシテ其合計ノ切斷面積ハ直徑二分九厘ノ圓形ノ積（SW十四番線十九ケ撚ニ相當ス）ヨリ小ナラサル銅線ニシテ是ヲ厚サ五厘廣サ九平方尺以上ニ相當スル銅板又ハ銅線ニ電氣的完全ナル接合ヲ爲シ地中ヲ掘リ水面以下六尺ヨリ深キ處ニ埋設スルコト但シ頭尖ノ形狀及太サハ煙突ニ相當スルモノヲ用フルコト

二上部鐵板下部ヲ煉瓦造リトスル煙突モ前項ノ避雷裝置ヲナスハ最モ完全ナル方法トスルモ左ノ接地裝置ヲナシテ前項ノ方法ニ代フルコトヲ得ヘ

シ但シ煉瓦造ノ部分ハ三十尺以上ニシテ其上部ヲ鐵板造トナスモノハ周圍ノ狀況ニヨリ必要アリト認ムルトキ本項ノ裝置ニ依ラシメス必ス前項ニ依ラシムルモノトス尤モ該煙突ニシテ大地ト充分ナル電氣的接續ヲナセルモノハ本項ニ依ラシムルノ限リニアラス

煙突鐵製部分ヲ直徑一分八厘ノ圓形ノ切斷面積（SW十四番七ケ撚ニ相當ス）ヨリ小ナラサル銅線或ハ之レト同等以上ノ電導率ヲ有スル線ヲ以テ完全ニ大地ニ電氣的接續ヲナシ猶ホ煙突ニ附屬ノ金屬體ハ完全ニ之ト接續スヘシ而シテ右地中銅板若クハ銅線ノ埋設方ハ前項ノ例ニ依ル但シ六十尺以下ノ煙突ノ地中銅板ニハ厚サ三厘廣サ六平方尺ノモノヲ用フルコトヲ得

●特種化學工場ノ廢水ヨリ生スル農作物被害ニ對スル施設ノ件

大正十一年六月
工第二五八〇號

各警察署長

近來伸銅業其ノ他硫酸、硝酸等ヲ使用スル工場ニシテ何等除害ノ設備ヲナサスシテ不完全ナル下水又ハ灌漑用水等ニ流下セシメ爲ニ農作物、養魚池等ニ被害ヲ及ホスモノ屢次有之候就テハ是等既設工場ニシテ此際作業狀況及其ノ附近トノ關係ヲ調査ノ上被害アリト認メ若クハ其ノ虞アルモノハ至急左記除害ノ方法又ハ設備ヲ命シ且ツ其ノ狀況ヲ報告相成度候

記

一、完全ナル下水アルモノハ之レヲ放流スルコト
一、相當水量アリテ被害ノ虞ナシト認ムル河川ニ放流スルコト
一、中和シテ廢水池ニ放流滲透セシムルコト
一、止ムヲ得スシテ灌漑用水ニ流下セントスルトキニハ完全ナル中和裝置ヲ設クルコト

尚ホ是等工場ノ新設、增設等ノ出願アリタルトキハ前記載ノ被害ノ有無及附近ノ關係等ヲ詳細調査相成度候

此種ノ既設工場ニ對シテハ時々臨檢ノ上除害設備ノ完否、附近ノ被害有無等ヲ視察相成度此段及通牒候也

●工場廢液ニ關スル件

大正十二年五月
工第二二七三號

各警察署長

特種化學工場ノ廢液ヨリ生スル農作物被害ノ件ニ關シテハ大正十一年六月八日付通牒致置候處近來染色、機械、化學工場等ニシテ工場ヨリ廢出スル有害ノ廢液ヲ田畑ノ灌漑用水路ニ放流スルモノアリ爲ニ右灌漑用水ヲ使用スル下流田畑ノ農作物ニ被害ヲ及ホシ往々ニシテ被害農民トノ間ニ紛擾ヲ釀スモノアルニ付既設工場ノ排水ニ就テハ十分取締ヲナシ被害ヲ認メタル場合ハ直ニ適當ノ處置ヲ採リ其ノ狀況ヲ報告シ又工場ノ新設、增設、變更等ニシテ農作物ニ被害ヲ及ホス虞アル廢液ヲ排出セントスルモノニ就テハ其ノ廢液ノ處分ニ付製造場取締規則施行手續第三條ニ依リ調査ヲナスハ勿論工場廢液ノ質、分量、放流水路及右水路ヲ下流ニテ灌漑用ニ使用シ居ルヤ否ヤ之ヲ使用シ居ル場合ニハ近傍居住者地主等ノ故障ノ有無等ニ付一層詳細ニ調査スルノ外必要ニ應シ農會、町村長等ニ就テモ其ノ意見ヲ徵シ通達（又ハ禀議）相成度右及通牒候也

●小型低壓汽罐及蒸罐ニ關スル件

大正十二年五月
工第二一一〇號

各警察署長

近來汽坐機又ハ蒸氣發生機等ノ名稱ヲ以テ小型汽罐又ハ低壓汽罐ノ設置ヲ

出願スルモノ多ク右ニ付テハ明治四十二年八月三十日保第四一九三號通牒ノ次第モ有之候處此等ニ對スル各署ノ取扱方區々ニ亙リ不統一ヲ免レサルニ依リ右通牒ハ之ヲ廢止シ今後此等ハ願書記載ノ名稱如何ニ拘ラス汽罐トシテ當廳ニ於テ許可スヘキニ依リ左記各號ニ依リ御取扱相成度及通牒候也

記

一、常用汽壓毎平方吋ニ付五磅以下（五磅ヲ含ム）ノ汽罐ニ在リテモ水面計、壓力計、人孔及封鎖ヲ施シタル裝置ノ安全辨若ハ封鎖ヲ施シ得ル裝置ノ安全辨ヲ具備セシムルコト、シ出願ノ際願書ニ無漏記載セシムルコト

二、前號ノ汽罐ハ定期ノ檢査ヲ省略シ特ニ汽罐檢査證ヲ下附セス工場檢査證中ニ作業設備トシテ記載スルコト但シ前號汽罐附屬ノ壓力計ハ臨時又ハ定期檢査ヲ行フコトアルヘシ

三、第一號ノ汽罐ハ新設落成ノ際所轄警察署ニ於テ檢査ヲ執行シ別紙樣式ニヨル調書ヲ落成屆ニ添付シ進達スルコト

四、前號ノ落成檢査ハ左記ノ事項ニ付テ行フモノトス

イ、第一號記載ノ附屬品ヲ具備セシムルコト

ロ、壓力計ハ當廳ノ檢査ヲ受クヘシ但シ檢定證印アルモノハ此ノ限リニ在ラス

ハ、安全辨ノ封鎖ハ各部蒸氣止辨ヲ閉塞シ其ノ汽罐ノ最大能力ニ於テ蒸氣ヲ發生セシメ毎平方吋五磅以上ノ壓力ニ上昇セサルコトヲ確認シタル後ニ行フコト

ニ、水面計ハ硝子管ノ外徑八分ノ五吋以上タラシムルコト

ホ、人孔ノ大サハ罐内掃除ニ支障ナキ程度タラシムルコト

五、既ニ署長ニ於テ許可シタル汽罐（名稱ノ如何ニ拘ラス）ハ左記各項ニ依リテ取扱フモノトス

イ、第一號該當ノ低壓汽罐ニアリテハ當廳ニ於テ許可シタルモノト看做シ府主管ニ移シ工場檢査證ヲ下附スヘキニ依リ大正十二年六月十五日迄ニ調査ノ上前號各項ニ依ル附屬品ノ取付及安全辨ノ封鎖ヲ行ヒ左記樣式ニ依ル調査竝工場檢査證及工場臺帳寫ヲ添付シ報告スルコト

ロ、既ニ署長ニ於テ許可シタル汽罐ニシテ汽壓五磅ヲ超過スルモノニアリテハ當廳ニ於テ檢査ノ上汽罐檢査證ヲ下附シ毎年定期ノ檢査ヲ施行スヘキニ依リ大正十二年六月十五日迄ニ調査ノ上工場檢査證及工場臺帳寫ヲ添付シ報告スルコト

六、汽罐（前號低壓汽罐ヲ含ム）ハ其ノ常用壓力ヲ超過シテ使用セサル樣壓重取締ヲ爲シ違反者ニ對シテハ相當處罰ノ手續ヲ執ルコト

七、蒸罐ニ付テモ前各號ニ準シテ取扱フコト

新設小型汽罐落成檢査調書

檢査員氏名	
工場ノ位置	
工場主氏名	
檢査施行年月日	
汽罐ノ型式及大サ	コルニツシュ型（圓型又ハ楕圓型）又ハ竪型等 大サ直徑　何呎何吋 長サ（又ハ高サ）何呎何吋 毎平吋ニツキ何封度
常用汽壓	
汽罐ノ狀態	罐板ノ厚サ其ノ他願書ト異レル事項又ハ汽罐狀態ニテ特ニ注意ヲ要スル事項
安全辨ノ徑及個數	徑、何吋、何個
水面計ノ個數	右又ハ左側ニ一個或ハ左右兩側ニ各一個宛等
使用スル水	井水又ハ水道川水等
備考	新造ノモノ又ハ既ニ何年間使用ノモノ等ノ事項又ハ其ノ他ノ事項ニツキ記入

備考　報告ニ使用スル用紙ハ整理ノ都合上半紙大ナルコト

●排氣管ニ關スル件

大正十二年六月
工第二二二四號

各警察署長

發動機ニシテ排氣及音響少ナキモノニ排氣管及消音器ノ設置ヲ省略スルノ件ニ關シ別紙甲號ノ如キ井手警察署ヨリノ申立ニ對シ乙號ノ如ク回答候條貴管内ニ於テモ同樣ニ取扱ヒ相成度

右通牒候也

甲號

井發第二四一號

大正十二年五月十九日

京都府警察部長殿

井手警察署長

製造場ニシテ石油發動機ヲ使用スルモノニ對シテハ從來必ス排氣管ヲ設置セシメ來タリ候處最近製造サレタル「ナニワ式石油發動機」ハ排氣ハ極メテ微弱ニシテ排氣管ノ必要無之旨製造元ニ於テ言明致居候爲一般使用者ニ於テハ排氣管ノ設置ヲ厭ヒ中ニハ之カ設置ヲ肯セサルモノサヘ有之而シテ之カ實際ノ排氣狀況ヲ調査スルニ從來ノ發動機ヨリ排氣量ノ減少サレ居ルハ事實ニシテ肉眼上排氣管ノ必要ヲ認メサル程度ノモノ有之候得共肉眼ニ見ヘサル瓦斯ノ排泄サルヽモノヨリ以上ニ多カルヘシト相認メ候ニ付テハ依然排氣管ヲ設置セシメサレハ許可セサルコトニ取計ヒ可然哉目下製茶期ニ際シ差迫リタル義モ有之候條至急何分ノ御指揮相成候樣致度此段及上申候也

乙號

工第二二二四號

大正十二年六月二日

京都府警察部長

〔京都警〕

井手警察署長殿

大正十二年五月十九日付井發第二四一號ニテ上申ノ石油發動機ノ排氣管設置ヲ省略スルノ件ニ就テハ明治四十五年六月二十二日付保第四五七七號ノ通牒ノ次第モ有之候處右ハ發動機ヨリ生スル排氣ハ衞生上有害ナルト排氣ノ爲ニ發スル音響劇シク公害アルニ付排氣管及消音器ヲ設備セシムルノ趣旨ニシテ貴署ヨリ上申ノ如キ排氣量及音響少ナキモノニ就テハ發動機設置ノ場所及附近ノ狀況等ニヨリ公害及衞生上有害ノ虞ナシト認ムルモノハ排氣管及消音機ノ設置ヲ省略シ支障無シト認メラレ候條右回答候也

第三節　勞働者

●工業勞働者最低年齡法施行細則

大正十五年七月十四日
京都府令第百五十一號

工業勞働者最低年齡法施行細則左ノ通定ム

工業勞働者最低年齡法施行細則

第一條　十六歲未滿ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ其ノ使用者ハ樣式第一號ニ依リ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ其ノ被使用者ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニハ之ヲ適用セズ

第二條　工業勞働者最低年齡法第三條ノ規定ニ依ル名簿ハ樣式第二號ニ依ルベシ

第三條　本則ニ依リ知事ニ差出ス書類ハ所轄警察署ヲ經由スベシ

第四條　第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔京都警〕

（樣式第一號）

（用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス）

工業被使用者屆

（大正　年　月　日屆出）

使用者住所	市郡	町村	大字	字	番地			
工業ノ種類								
作業場名		使用者氏名						
被使用者現在數	寄宿		通勤		計			
	男	女	男	女	男	女		
十二歲以上十四歲未滿ノ者								
十四歲以上十六歲未滿ノ者								
計								
備考								

樣式第二號

（用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス）

男	氏名		
女	生年月日		
住所		本籍	

履歴	
雇入	
解雇	
雜	

記載心得

一　履歴欄ニハ學歴ニ付テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載シ又業務上ノ履歴ノ概略ヲ記載スベシ

二　雇入欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日、雇入期間ノ定メアルモノハ其ノ期間其ノ他雇入ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スベシ

三　解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スベシ被使用者死亡シタルトキハ本欄ニ其ノ年月日、死亡ノ原因、死亡ニ至ル迄ノ經過ヲ記載スベシ

四　名簿作成ノ當務者ハ雜欄其ノ他便宜ノ場所ニ作成ノ年月日ヲ記載シ署名又ハ捺印スベシ

●工業勞働者最低年齢法施行細則取扱ニ關スル件

大正十五年九月
五監工第一三二八號

各警察署長宛

第一　工業勞働者最低年齢法施行細則第一條ニ依ル屆ヲ爲サヾル者ニ對シテハ速ニ所定事項ヲ具備シタル屆ヲ爲サシメ事實ヲ審査シ五日以内ニ進達スベシ

工業勞働者最低年齢法（以下單ニ法ト稱ス）ノ適用ヲ受クベキ工業ナルヤ否ニ付疑義アル場合ハ速ニ左ノ事項ヲ具シ稟議スベシ

一　工業ノ種類

二　疑義ヲ生ズル點

三　其ノ他參考事項

第二　法第二條第二項ノ規定ニ依ル認可申請書ヲ受理スル場合ハ左記事項ヲ具備セシメ事實ヲ審査シ意見ヲ附シ五日以内ニ進達スベシ

一　學校名及其ノ所在地

二　兒童ニ爲サシムル作業ノ概要

三　兒童數及其ノ兒童ノ最低年齢

四　校則及日課表

五　其ノ他參考事項

第三　法令ノ指導又ハ勵行ニ努メ左ノ各號ニ關シテハ特ニ査察ヲ爲シ若シ違反事實ヲ發見シタルトキハ即時始末書ヲ徵シ事狀ヲ具シ稟議スベシ

一　十二歳以上十四歳未滿ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セザルモノヲ工業ニ使用シ居ラザルヤ（同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ工業ニ使用スルモノ又ハ知事ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ）

二　名簿ヲ備置キ所定ノ記載ヲ爲シ居ルヤ

三　法施行ノ際ニ十二歳未滿ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル者ヲ引續キ使用シ居ルモノニシテ所定ノ屆ヲ爲シ居ルヤ

〔京都警〕

●勞働者募集取締令施行細則

大正十四年二月二十七日
京都府令第七號

勞働者募集取締令施行細則左ノ通定ム

勞働者募集取締令施行細則

第一條　勞働者募集取締令（以下單ニ令ト稱ス）第三條ノ屆出ハ就業場所在地所轄警察官署ヲ經由スヘシ

令第三條第一項、第二項ノ屆出ハ募集開始十日以前ニ之ヲ爲スヘシ

第二條　令第四條第一項、第三項、第五條第四項、第七條若ハ第八條ノ許可、再交付、書換ノ申請、屆出若ハ返納ハ募集從事者ノ住所地所轄警察官署ヲ經由スヘシ但シ住所ヲ管外ニ變更シタルトキハ警察官署ヲ經由スルヲ要セス

令第四條第一項、第五條第四項ノ寫眞ハ正面向、脫帽、半身ノ臺紙ヲ附セサル手札形ニシテ最近撮影ノモノナルコトヲ要ス

第三條　當廳ノ許可ヲ受ケタル募集從事者其ノ本籍、住所又ハ職業ヲ變更シタルトキハ住所地所轄警察官署ヲ經由シ三日以内ニ之ヲ屆出ツヘシ但シ住所ヲ管外ニ變更シタルトキハ警察官署ヲ經由スルヲ要セス

第四條　令第九條第一項ノ屆出ハ募集著手三日以前ニ之ヲ爲スヘシ令第九條ノ屆出添付文書ハ令第三條ノ規定ニ依リ屆出ヲタル官廳ノ檢印ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第五條　募集從事者ハ管内ニ於ケル令第十一條ノ應募者名簿ヲ募集手續完了後一年間保存スヘシ

第六條　募集從事者又ハ募集主令第十六條ノ規定ニ依リ管内ニ於ケル應募者ヲ歸鄕セシメタルトキハ歸鄕者ノ住所、氏名、事由、措置及送還年月日ヲ具シ募集地所轄警察官署ヲ經由シ三日以内ニ之ヲ屆出ツヘシ

第七條　募集從事者令第十八條第二項ノ規定ニ依リ募集ノ停止ヲ命セラレタルトキハ直ニ募集從事者證ヲ提出シ其ノ旨記入ヲ受クヘシ停止ヲ解除セラレタルトキ亦同シ

第八條　第三條、第五條、第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第九條　本細則ノ施行ニ關シテハ令第二十二條乃至第二十四條ノ規定ヲ準用ス

附則

第十條　本細則ハ大正十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　明治四十一年京都府令第九號職工募集取締規則ハ之ヲ廢止ス

●勞働者募集取締令同施行細則取扱手續

大正十四年三月三日
京都府訓令第九號

警察署

勞働者募集取締令同施行細則取扱手續左ノ通定ム

勞働者募集取締令同施行細則取扱手續

第一條　令第三條ノ屆出アリタルトキハ其ノ内容ニ關シ誇大虛僞ノ記載ナキヤ否調査ノ上進達スヘシ

第二條　令第四條ノ許可ノ申請アリタルトキハ寫眞ト本人ト照合シ願書記

載事項ノ外左記事項ヲ調査ノ上許否ノ意見ヲ附シ進達スヘシ

一、素行及信用

二、禁治産者又ハ準禁治産者ニアラサルヤ否

三、文書又ハ印章僞造、猥褻、姦淫、賭博、殺人、傷害、墮胎、遺棄、逮捕、監禁、脅迫、略取、誘拐、窃盜、强盜、詐欺、恐喝、横領又ハ贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル者ニアラサルヤ否

四、密賣淫ノ容止又ハ媒合ノ罪ヲ犯シタル者ニアラサルヤ否

五、第三號及前號以外ノ罪ヲ犯シタル者ニアラサルヤ否

六、紹介、周旋ノ營業取締ニ關スル法令ニ依リ營業ノ許可ヲ取消サレタル者ニアラサルヤ否

七、藝妓、娼妓又ハ酌婦等ノ紹介、周旋ヲ業トスル者ニアラサルヤ否

八、料理屋、貸座敷、待合、藝妓屋其ノ他之ニ類スル營業ヲ爲シ又ハ之等營業者ト同居スル者ニアラサルヤ否

九、其ノ他參考トナルヘキ事項

（樣式）

許可番號	第　號	許可年月日	大正　年　月　日
募集從事者	本籍	募集主	住所又ハ法人ノ主タル事務所所在地
	住所		氏名又ハ法人ノ名稱
	氏名		法人ノ代表者氏名
	職業		他ノ募集主名
	生年月日	就業	所在地
	年　月　日生		名稱
募期間	自大正　年　月　日 至大正　年　月　日		

〔京都警〕

十、第二號乃至第八號ノ一ニ該當スル者ニシテ特ニ支障ナシト認ムルトキハ其ノ理由

募集從事者許可ヲ受ケタル後前項第二號乃至第八號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ速ニ報告スヘシ

第三條　警察官署ニ別記樣式ノ勞働者募集從事者臺帳ヲ備ヘ其ノ管内ニ住所ヲ有スル募集從事者ヲ記載シ變更アリタルトキハ其ノ都度處理スヘシ

第四條　募集從事者證ノ再交付、書換ノ申請、返納、令第七條、第八條第二項、細則第三條、第六條ノ屆出アリタルトキハ事實調査ノ上進達スヘシ

第五條　令第九條ノ屆出添付文書ニ檢印ヲ請フ者アリタルトキハ之ヲ進達スヘシ

第六條　令第十四條、第十五條ノ屆出アリタルトキハ警察官吏臨檢スヘシ

第七條　警察官署ニ於テ令第十八條ニ依ル許可ノ取消又ハ募集停止ノ處分ヲ必要ト認メタルトキハ詳細狀況ヲ具シ速ニ報告スヘシ

〔京都警〕

募集從事	區域	募集廢停止事由	募集從事者證	再交付	書換	返納	提出
		募集主ノ事業廢止	募集ノ委託解除	募集從事ノ廢止	募集從事者ノ死亡	許可取消	募集停止
		大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日

場	備考
事業ノ種類	
工場管理人又ハ鑛業代理人	

第九章　土木　河川　砂防

●土木工事取締規則

明治四十年八月二十三日
京都府令第四十九號

改正　明治四〇年京都府令第五四號、四四年第二七號、第一四五號、大正元年第三四號、二年第四號

第一條　本則ニ於テ土木工事ト稱スルハ公共團體又ハ私人ニ於テ工費ヲ負擔スル第二條及第三條ノ起業ヲ謂フ

第二條　左ニ記載スル土木工事ヲ施行セントスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　道路、橋梁ノ新築、改築（第三條ニ該當スルモノヲ除ク）及除却
二　河川、港灣、堤防、護岸、水制、波除、堰堪等ノ新築、改築（第三條ニ該當スルモノヲ除ク）及除却竝ニ河川港灣ノ浚渫及掘鑿
三　溜池、用惡水路（以上河川ヨリ引水シ又ハ之ニ注入シ若ハ之ヲ橫過スルモノヲ除ク）ノ新築、改築及除却

第三條　左ニ記載スル土木工事ヲ施行セントスル者ハ地籍ノ屬スル郡長ノ許可ヲ受クヘシ但市內又ハ市郡若ハ二郡以上ニ跨ル工事ハ知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　府費負擔以外ノ道路ニ於ケル橋梁（流域二府縣以上ニ跨ル河川（支派川ヲ包含ス）ノ河身及堤防ニ關スル工事ヲ除ク）ノ改築
二　府費負擔以外ノ道路ニ於ケル路面ノ切下ケ又ハ盛上ケ
三　府費負擔以外ノ河川港灣ニ於ケル堤防、護岸、水制、波除、堰堪（以上流域二府縣以上ニ跨ル河川（支派川ヲ包含ス）ノ河身ニ關スル工事ヲ除ク）ノ改築
四　溜池、用惡水路（水路敷ニ施設スル堰堪ヲ包含ス）溝渠ノ新築、改築及除却
五　道路、堤防、護岸ノ掘鑿

前各號ノ工事ニシテ本則又ハ他ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ得テ施行スルモノ若ハ其一部ニ屬スル工事ハ本條ニ依ルノ限リニ在ラス

第四條　許可ヲ受ケントスルトキハ願書ニ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ但工事ノ種類ニ依リ其必要ヲ認メサルモノハ之ヲ取捨スルコトアルヘシ

一　計畫說明書
二　工事方法書
三　各種ノ計算書
四　實施設計書
五　收支豫算書
六　利害調書
七　潰地調書
八　實測圖面（平面圖ハ縮尺千二百分ノ一以上縱斷面圖ハ橫千二百分ノ一以上トス）
九　構造圖（縮尺適宜）

第五條　第二條及第三條但書ニ依ル出願ハ地籍ノ屬スル郡市役所及町村役場ヲ經由スヘシ

第三條（但書ヲ除ク）ニ依ル出願ハ地籍ノ屬スル町村役場ヲ經由スヘシ

第六條　公共團體ニ於テ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ工事ノ屬スル年度ノ歲入出豫算表ヲ添附スヘシ但數年度ニ涉ルヘキモノニシテ工事ノ性質上各年度ニ分割シテ許可ヲ受クルコト能ハサル場合ニハ其ノ起工年度ノ歲入出豫算表及各後年度ノ歲入出豫定ヲ記載シタルモノヲ添附スヘシ

第七條　公共團體ノ起業ニシテ工事カ其ノ公共團體ノ地籍外ニ跨ルトキハ關係公共團體ノ議會ノ意見書ヲ添附スヘシ但シ公共團體ノ議會ニ於テ五

十日內ニ意見書ヲ提出セス若ハ之ヲ拒ミタルトキハ其ノ願末ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條　私人ノ起業ニ係ルモノニシテ其維持修繕費ヲ關係公共團體ニ於テ負擔スヘキ場合ニ在テハ其議會ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第九條　水利ニ關スル出願ハ其ノ河川又ハ水路ノ水利關係人ノ承諾書ヲ添附スヘシ但故ナクシテ承諾セス若ハ不當ノ申込ヲ爲スモノアルトキハ其ノ願末ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

十年以上ノ慣行ヲ改メサル範圍ニ於テ工作物ノ改築ヲ爲ス場合ニハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ慣行ヲ立證スルコトヲ要ス

第十三條ニ依ル出願ノ場合ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

第十條　同一河川若ハ水路ニ於テ引水及放水ヲ爲ストキハ其ノ河川若ハ水路ノ引水及放水口ヨリ各三十間ノ距離ヲ除キタル上流及下流ノ區域ニ於テ河川若ハ水路ヲ利用スル者ハ之ヲ水利關係人ト看做サス但河川若ハ水路ノ數地ニ定著シテ工作物ヲ施ストキ知事ニ於テ特ニ關係アリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　河川ノ合流シタル以下ノ河川ニシテ名稱ヲ異ニスル場合ハ從來其ノ本流ノ河川ト稱セルモノヲ以テ連續シタル河川ト看做ス

第十二條　軍港區域ニ屬スル土木工事ノ出願ハ第四條第一號乃至第四號第八號及第九號ノ圖書各二通ヲ添附スヘシ

經ケ卯ヨリ酉府下ニ屬スル沿岸ニ於ケル土木工事ノ出願ハ前項ニ依ル圖書ノ外ニ附近沿岸ノ關係ヲ明ニシタル一般圖二通ヲ要ス

第十三條　第二條ニ記載スル土木工事ニシテ豫メ許可ヲ受クルニアラサレハ實施スルニ足ル設計又ハ圖面ヲ調製シ難キ場合ニ限リ工事ノ大體ニ就キ許可ヲ受クルコトヲ得

第十四條　前條ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ願書ニ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　計畫說明書
二　工事方法書
三　各種ノ計算書
四　收支豫算書
五　利害調書
六　實測圖面（平面圖ハ縮尺六千分ノ一以上縱斷面圖ハ橫六千分ノ一以上縱五百分ノ一以上トス）
七　施行規定圖（縮尺百分ノ一以上）
八　構造圖（縮尺適宜）

第十五條　工事ノ著手及竣工ハ各三日內ニ當該官廳ニ屆出ツヘシ

第十六條　工事ハ許可ヲ受ケタル期限又ハ指定セラレタル期限內ニ著手若ハ竣工セサルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

天災其他當該官廳ニ於テ正當ト認ムル事由ニ因リ前項期限內ニ工事ニ著手又ハ竣工スルコト能ハサルトキハ延期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條　許可ヲ受ケタル工事ト雖公益上必要アルトキハ其許可ヲ取消シ又ハ許可ノ條件ヲ變更シ若ハ許可ニ因リテ生シタル事實ノ更正ヲ命スヘシ

第十八條　本則又ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ其違背ニ因リテ生スル事實ノ更正若ハ其違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　第十七條及第十八條ノ處分ニ因リテ生スル費用ハ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十條　第二條第三條及第十五條ニ違背シタル私人ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

●土木工事入札者取締心得

明治三十四年一月
保訓示第二號

第一項　官廳公署（當廳ヲ除ク）學校病院銀行會社等ノ主管設計ニ係ル土木工事ノ入札アルトキハ入札場所々轄警察官署ヨリ豫メ時日場所事件其他參考トナルヘキ事項ヲ關係警察官署ヘ通報スヘシ

第二項　前項ノ通報ヲ受ケタル警察署長警察分署長ハ部下ヲ督シ明治三十三年九月保訓示第四〇號犯罪被疑者視察內規ニ依リ同內規第一條第七號第九號ニ據ル名簿登錄者ノ視察ヲ勵行シ必要アルトキハ立番尾行其他便宜ノ方法ヲ以テ警戒ヲ嚴ニスヘシ當廳主管ノ工事入札ニシテ警察部ヨリ通報ヲ受ケタルトキ亦同シ

第三項　入札場所々轄警察署長警察分署長ハ當日豫定時間前現場及附近要路ニ必要ノ巡査ヲ派遣シ嚴重ニ警戒シ若シ入札者又ハ入札者ノ使用人ニアラスシテ入札ニ干渉セントスル者アルトキ又ハ故ナク參集シタル者アルトキハ之ヲ制止退場セシメ若シ公安ヲ害スルノ虞アル者ハ行政執行法第一條ニ由リ檢束ノ手續ヲ爲スヘシ

第四項　入札終了後落札者ノ住所宿所及酒宴ノ場所又ハ入札シタル者若ハ現場ヘ參集シタル者ノ會合セル場所ハ第一項ニ準シ注意警戒スヘシ

第五項　落札者確定シタルトキハ入札場所々轄警察官署ヨリ直ヲニ其住所及宿所ヲ所轄警察官署ヘ其旨ヲ通報スヘシ

第六項　落札者入札場所ヨリ退去スルトキハ必要ノ限度ヲ參酌シ其住所宿所又ハ酒宴ノ場所等ニ到ル途中警戒スヘシ

第七項　前項ノ場合其住所宿所又ハ酒宴ノ場所等他ノ警察官署部內ニ係ルトキト雖モ途中引繼キノ便宜アルトキノ外目的ノ場所迄直送スヘシ

第八項　工事著手中落札者ノ住所及工事場所ハ各其所轄警察官署ニ於テ注意警戒シ若シ故ナク其工事ニ容喙シ又ハ暴行脅迫其他ノ手段ヲ以テ金品ヲ强請スル者アリタルトキ法令ニ違犯セル者ハ檢擧訴追ニ附シ公安ヲ害スルノ虞アル者ハ檢束ノ手續ヲ爲スヘシ

第九項　關係警察官署ノ區域ハ犯罪被疑者視察內規第十條ノ規定ニ據ルヘシ

●河川取締規則

大正十五年七月一日
京都府令第百三十七號

河川取締ニ關スル件左ノ通定ム

河川取締規則

第一條　河川ノ取締ハ河川法及其ノ附屬命令ニ規定アルモノノ外本令ニ依ル

第二條　本令ニ於テ河川ト稱スルハ河川法施行及河川法準用ノ河川其ノ他ノ河川ニシテ河川敷地、流水、水面及河川ノ附屬物ヲ包括シタルモノヲ謂フ

本令ニ於テ河川ノ附屬物ト稱スルハ堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生ズル公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ施設シタル工作物ヲ謂フ

第三條　本令ニ於テ許可ト稱スルハ河川法及其ノ附屬命令若ハ本令ニ依リ知事ノ爲ス許可又ハ承認ヲ謂フ

第四條　河川ニ於テ左ニ揭ゲル行爲ハ之ヲ禁止ス

一　舟筏ノ通航又ハ流木ヲ妨害スル行爲

二　繫留設備ナキ場所ニ於ケル舟筏、竹木又ハ畜類ノ繫留

三　貨物陸揚ノ設備ナキ場所ニ於ケル船積又ハ陸揚

四　土石、竹木、塵芥其ノ他汚物ノ投棄

五　堤防ニ車馬ノ乘入（道路ノ用ニ供スル部分ヲ除ク）又ハ畜類ノ放飼

六　河川敷地內ニ於ケル掘上堤又ハ盛土但シ第五條第五號ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

七　捕魚ノ爲ニスル石附

八　前各號ノ外河川ノ維持上有害ナル行爲

第五條　河川ニ於テ左ニ揭ゲル行爲ヲ爲サントスル者ハ許可ヲ受クヘシ

一　流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物ノ新築、改築若ハ除却

二　河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物ノ新築、改築若ハ除却

三　河川ノ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ橫過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物ノ新築、改築若ハ除却

四　河川ノ占用

五　用水引入又ハ惡水排除ノ爲ニ一時施設スル掘上堤若ハ盛土

六　竹木ノ植栽

七　土石、砂礫、竹木、雜草其ノ他ノ物件ノ採取

八　竹木、薪類ノ散流又ハ流筏ノ慣行ナキ河川ニ於ケル流筏

九　前各號ノ外流水ノ方向、淸潔、分量、幅員、深淺又ハ河川敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事其ノ他ノ行爲

第六條　許可ヲ受ケントスル者ハ當該河川名、場所、種別、目的、數量、期間、著手及終了期日、住所、氏名其ノ他必要ナル事項ヲ具シタル書面ニ左ノ書類（圖面ハ各二通）ヲ添附シテ出願スヘシ但シ輕易ナル事件ニ在リテハ見取平面圖ヲ以テ第一號及第二號ノ圖面ニ代ヘ第三號乃至第七號ノ書類又ハ其ノ一部ハ之ヲ省略スルコトヲ得（第一號書式）

一　平面圖

縮尺六百分ノ一以上トシ出願場所ノ上下流各五十メートル以上ノ河川ノ狀態ヲ測定シ縮尺、方位、計畫線（朱線）、流水ノ方向、出願地域、工作物ノ位置竝形狀、河川ト民有地トノ境界線、市町村名、大字名、字名竝其ノ境界線、河川ノ附屬物ノ位置、形狀、出願場所ノ位置ヲ知ルヘキ地物及其ノ距離等ヲ記入スヘシ

二　求積圖

縮尺六百分ノ一以上トシ縮尺、面積算出ノ方法及目的竝地目每ノ計算表ヲ示スヘシ但シ輕易ナル事件ニ在リテハ平面圖ニ併セテ示スコトヲ得

三　縱斷面圖

縮尺縱百分ノ一以上橫六百分ノ一以上トシ縮尺、測點番號、測點距離、追加距離、地盤高、計畫線及其ノ勾配（朱線）、切盛高、工作物位置等ヲ記入スヘシ

四　橫斷面圖

縮尺百分ノ一以上トシ兩岸ニ亙リ測定シ縮尺、測點番號、工作物ノ位置竝形狀、河川ト民有地トノ境界線、計畫線（朱線）、洪水位及常水位等ヲ記入スヘシ

五　構造圖

縮尺五十分ノ一以上トシ縮尺、名稱及材質等ヲ記入スヘシ

六　設計書

七　計畫說明書

行爲ヲ必要トスル理由、行爲ノ計畫及行爲ノ結果他人ノ權利ニ及ボス利害關係等ヲ記入スヘシ

公共團體ノ出願ニハ關係會議ノ議決書謄本ヲ添附スヘシ

出願場所ニシテ舞鶴要港境域ニ屬スルモノニ在リテハ前二項ノ書類ハ

二通ヲ提出スベシ

第七條　筏其ノ他ノ流送物ガ目的地ニ到達シタルトキハ直ニ之ヲ陸揚スベシ但シ特別ノ事由ニ因リ所轄警察署ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　舟筏其ノ他ノ流送物ニシテ顚覆若ハ沈沒又ハ膠砂シタルトキハ直ニ之ヲ除却スベシ此ノ場合ニ於テ其ノ除却終了ニ至ル迄ノ間當該場所ニ相當ノ標識ヲ設クベシ

第九條　舟筏ノ流送又ハ許可ヲ受ケ爲シタル行爲ニ因リ河川ノ附屬物ヲ毀損シタルトキハ直ニ之ヲ屆出デ所轄土木工營所ノ指揮ヲ受ケ之ヲ復舊スヘシ

第十條　第五條第一號乃至第三號、第五號及第六號ノ行爲ノ著手及終了ハ直ニ之ヲ屆出デ所轄土木工營所ノ指揮ヲ受クベシ

第五條第七號ノ行爲ニシテ料金ノ納付ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ納付シタル後ニ非ザレバ其ノ行爲ニ著手スルコトヲ得ズ

第十一條　許可ヲ受ケタル者ハ許可ノ期間中當該場所ニ許可年月日、許可番號、目的、期間、住所及氏名ヲ表示シタル標杭又ハ標札ヲ建設スベシ但シ第五條第八號ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　第五條第七號及第八號ノ行爲ヲ爲ス者ハ作業中許可書ヲ携帶シ當該官吏吏員ノ要求アルトキハ之ヲ提示スベシ

第十三條　河川ノ占用期間ハ特別ノ事由アル場合ノ外五箇年以内トス但シ期間滿了前ノ出願ニ依リ之ヲ更新ヲ許可スルコトアルベシ

第十四條　第五條第四號又ハ第七號ノ行爲ヲ許可スルトキハ料金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　帝室用、公共用、公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ但シ收益ノ用ニ供スルモノヲ除ク

二　特別ノ事由アリト認ムルトキ

許可ヲ受ケズシテ第五條第四號又ハ第七號ノ行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ料金ヲ追徵ス

第十五條　前條第一項ニ依リ徵收シタル料金ハ不可抗力ニ因リ許可ヲ受ケタル目的ヲ達スル能ハザルニ至リタルトキ又ハ第十九條第三號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テ許可ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更スルトキノ外之ヲ還付セズ

第十六條　許可ヲ受ケタル者其ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第六條ノ規定ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第十七條　許可ヲ受ケタル者住所、氏名ヲ變更シ又ハ許可ヲ受ケタル行爲ヲ廢止シ若ハ不可抗力ニ因リ許可ヲ受ケタル目的ヲ達スル能ハザルニ至リタルトキハ事實ノ生ジタル日ヨリ十五日以内ニ之ヲ屆出ヅベシ

許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ其ノ相續人ニ於テ前項ノ屆出ヲ爲スベシ

第十八條　許可ニ因リテ生ズル權利義務ハ相續ニ因ル場合ノ外許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得ズ

相續ニ因ル權利義務ノ移轉ハ相續人ニ於テ相續屆出ノ日ヨリ十五日以内ニ戸籍抄本ヲ添附シ之ヲ屆出ヅベシ

第十九條　左ニ揭グル場合ニ於テハ許可ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ復舊ヲ命ジ又ハ許可シタル事項ニ因リテ生ズル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルベシ

一　法令又ハ許可ニ附シタル條件ニ違背シタルトキ

二　工事施行ノ方法又ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

三　河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生ジタルトキ

四　河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、占用又ハ物件採取ヲ許可スル爲ニ必要ヲ生ジタルトキ

五　法令ノ規定ニ基キ必要ヲ生ジタルトキ

六　公益ノ爲必要ヲ生ジタルトキ

第二十條　左ニ揭グル場合ニ於テハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第四號ノ場合ニ於テ宥恕スベキ事由アリト認ムルトキハ出願ニ依リ其ノ效力ヲ復活セシムルコトアルベシ

一　許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ所在不明トナリタル場合ニ於テ其ノ承繼者ナキトキ

二　許可ヲ受ケタル法人解散シタルトキ

三　許可ヲ受ケタル行爲ヲ廢止シ又ハ許可ヲ受ケタル目的ヲ達スル能ハザルニ至リタル場合ニ於テ第十七條ノ屆出アリタルトキ

四　許可ノ期日ニ工事又ハ物件採取ニ著手セズ若ハ之ヲ終了セザルトキ

第二十一條　許可ノ效力消滅シタルトキハ三十日以内ニ當該場所ヲ原形ニ復舊シ又ハ物件採取ノ跡地ヲ整理シ所轄土木工營所ノ檢查ヲ受クベシ但シ河川ノ維持上支障ナキモノニ付テハ許可ヲ得テ之ヲ爲サザルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テ河川ニ附加シタル物件ハ無償ニテ國有ニ歸屬ス

第二十二條　第四條ニ違背シ又ハ許可ヲ受ケズシテ第五條又ハ第十六條ノ行爲ヲ爲シ若ハ不正ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

第七條乃至第十二條又ハ第二十一條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ科料又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

第二十三條　本令ニ依リ知事ニ提出スベキ書類ニシテ市町村費支辨ノ河川ニ關スルモノハ當該市町村長ヲシ、其ノ他ノモノニ在リテハ所轄土木工營所ヲ經由スベシ

市町村長ニ於テ前項ノ書類ノ受理シタルトキハ之ヲ所轄土木工營所ニ回附スベシ

第二十四條　地盤ノ官有ニ屬スル堤塘ニシテ市町村費ノ支辨ニ屬スルモノニ付テハ本令ヲ適用セズ

第二十五條　本令ハ湖、海竝地盤ノ國有公共用財産タル池沼及溝渠ニ之ヲ準用ス

海ニ關シ第五條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第六條第一項各號ノ書類ノ外出願場所ヲ表示シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖二通ヲ添附スベシ

附則

第二十六條　本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條　本令施行前爲シタル處分又ハ之ニ附シタル條件ハ本令ニ依リ爲シタル處分又ハ條件ト看做ス

第二十八條　左ニ揭グル府令、告示及達ハ之ヲ廢止ス

府令

明治二十年四月府令第六十九號官有地貸下及堤防使用ニ付心得方ノ件

明治三十八年九月府令第三十五號河川敷地占用規程

明治三十九年十一月府令第二十八號河川木竹材流下取締ノ件

明治四十一年十月府令第八十六號官有土地水面ニ關スル取締ノ件

告示

明治二十四年七月告示第四十八號官有地借使用願、同契約書其ノ他書式ノ件

明治二十九年九月告示第百六十一號諸川石竝土砂採取願ノ件

明治三十九年四月告示第百五十二號京都市地域内ニ屬スル河川敷地ノ使用等ニ關スル願出ノ件

（第一號書式）

明治十四年十二月第二百三十六號淀川筋浮流ノ筏寸法ノ件

明治十六年四月甲第二十五號河川堤防外民有地ニ家屋建設願出方ノ件

明治十六年十一月甲第九十九號堤塘道路ハ民有地第二種ニ屬スルト雖モ家作等新設スヘカラサル件

河川工作物新築（占用）（物件採取）願（變更願）

河川名	何川
場所	何郡何町村大字何字何番地々先
種別	河川敷（堤防）（水面）（流水）
目的	家屋建設（何物干場）（船繋留）（砂利採取）（水車用）
面積又ハ數量	平面長何間幅何間何坪（立何坪）
期間	自何年何月何日至何年何月何日（何月間）（何年間）
著手及終了期日	何年何月何日迄ニ著手 何年何月何日迄ニ終了
添附圖書類	平面圖何葉、求積圖何葉、縱斷面圖何葉、橫斷面圖何葉、構造圖何葉、設計書何通、計畫說明書何通、何何通
摘要	年月日許可指令第何號許可期間滿了ニ付繼續

右御許可相成度候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

知事　宛

備考

一　摘要欄ニハ繼續占用ニ在リテハ其ノ沿革、物件採取ニ在リテハ其ノ方法ノ概要、工事變更ニ在リテハ其ノ理由等ヲ記載スヘシ

二　摘要欄ニ記載スヘキ事項ニシテ書面ヲ以テ盡シ難キモノハ別紙ニ記載シ之ヲ添付スヘシ

【京都警】

●河川取締規則取扱手續

大正十五年十月二十九日
京都府訓令第七十一號

繫察署長　市町村長　土木工營所長

河川取締規則取扱手續左ノ通定ム

第一條　市町村長又ハ土木工營所長ニ於テ河川取締規則（以下規則ト稱ス）第二十三條ニ依リ願書ヲ受理シタルトキハ左ニ揭ケル事項ヲ調査シ不備ナキコトヲ認メタル上其ノ處分ニ關スル意見ヲ具シ河川法施行河川、河川法準用河川、府費、市町村費支辨河川ノ區別ヲ附記シ之ヲ回附又ハ進達スヘシ

一　必要ナル圖書ヲ添附セルヤ

二　記載事項ニ過誤又ハ僞瞞ナキヤ

三　物件採取ノ出願ニ在リテハ其ノ採取方法、從業者ノ人員、使用器具器械及運搬方法等出願ノ目的ヲ遂行スルニ適切ナリヤ

四　出願ノ事項ハ公害ヲ生シ又ハ他人ノ權利ヲ侵害スルノ虞ナキヤ

第二條　市町村長及土木工營所長ニ於テ規則第二十條第一項但書及第二十一條第一項但書ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ實地ヲ調査シ其ノ狀況竝處分ニ關スル意見ヲ具シ之ヲ回附又ハ進達スヘシ

第三條　前事ニ於テ規則第五條ノ行爲ヲ許可シタルトキハ其ノ要領ヲ所轄警察署長及土木工營所長ニ通知ス

第四條　警察署長ニ於テ規則第七條但書ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ其ノ事由、繫留場所、繫留方法、期間及危險防止ノ方法等詳査ノ上公安ヲ害スル虞ナシト認ムルモノニ限リ之ヲ許可スヘシ

前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ其ノ許可事由、年月日、番號、河川名、繫留場所、繫留方法、期間及危險防止ノ方法竝出願人ノ住所氏名等ヲ當廳及所轄土木工營所長ニ通報スヘシ

第五條　土木工營所長ニ於テ規則第九條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ事故發生ノ日時、河川名、場所、附屬物ノ名稱、被害ノ狀況、行爲者ノ住所氏名及命令シタル事項ヲ當廳及所轄警察署長ニ通報スヘシ

第六條　土木工營所長ニ於テ規則第十條ニ依リ作業著手ノ屆書ヲ受理シタルトキハ直ニ實地ニ臨ミ行爲者ヲ立會セシメ其ノ作業ヲ指揮監督シ又ハ作業終了屆書ヲ受理シタルトキハ出來形ヲ檢査シ之ヲ進達スヘシ

第七條　市町村長又ハ土木工營所長ニ於テ規則第十七條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ詳査シ之ヲ回附又ハ進達スヘシ

第八條　警察署長、市町村長（所轄土木工營所經由）、土木工營所長ニ於テ規則第十九條第一項ノ處分ヲ要スル事實アルトキハ其ノ事實ヲ詳査シ之ヲ具申スヘシ

●河川法準用河川

大正六年三月二十日
京都府告示第百三十號

改正　大正九年京都府告示第四九一號、一二年第六五三號

左記ノ河川ハ河川法第五條ニ依リ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川ニ認定シ大正六年四月一日ヨリ施行ス

桂川　北桑田郡黑田村大字廣河原小字根尻木谷ヨリ船井郡世木村大字殿田田原川合流迄ニ至ル

木津川　右岸相樂郡大河原村大字北大河原
左岸相樂郡大河原村大字南大河原三重縣界以下同郡加茂村大字錢司同郡同村大字渡船路ニ至ル

園部川　右岸船井郡西本梅村大字天引字城山以下桂川合流點ニ至ル
左岸船井郡西本梅村大字北山以下桂川合流點ニ至ル

犬飼川　右岸南桑田郡曾我部村大字犬飼字樋ノ口以下桂川合流點ニ至ル
鴨川　右岸愛宕郡上賀茂村大字上賀茂中津川合流點以下紀伊郡上鳥羽村大字塔ノ森
左岸同上以下紀伊郡下鳥羽村大字中島
高野川　右岸愛宕郡修學院村大字高野花園橋以下鴨川合流點ニ至ル
山科川　右岸宇治郡山科村大字東野晉羽鞍馬四宮合流點以下紀伊郡堀内村大字六地藏
左岸同上以下宇治郡宇治村大字六地藏
牧川　右岸天田郡下夜久野村大字井田畑川合流以下由良川合流點ニ至ル
竹田川　右岸天田郡中六人部村大字田野兵庫縣界以下土師川合流點ニ至ル
竹野川　右岸中郡三重村大字谷内五十河川
左岸同郡奥大野村大字奥大野常吉川合流點以下海ニ至ル
伊佐津川　右岸加佐郡中筋村大字京田山崎橋以下海ニ至ル
上林川　右岸何鹿郡中上林村大字五津合畑口川合流點以下由良川合流點ニ至ル
左岸何鹿郡奥上林村大字故屋岡木谷川小和木川合流點迄
野田川　右岸與謝郡與謝村大字與謝字赤石以下海ニ至ル

大正六年三月
京都府告示第百三十一號

改正　大正一二年京都府告示第六五四號

明治四十五年三月京都府告示第八十三號河川法ニ規定シタル事項ヲ準用ス

〔京都警〕

ヘキ河川區域ヲ左ノ通更正シ大正六年四月一日ヨリ施行ス

由良川　北桑田郡知井村大字芦生小字シモ谷ヨリ何鹿郡山家村大字鷹栖上林川合流迄ニ至ル
右岸天田郡上六人部村大字三俣棚田井堰以下由良川合流ニ至ル
土師川　左岸天田郡上六人部村大字三俣棚田井堰以下由良川合流ニ至ル

大正十二年十一月
京都府告示第六百五十二號

左ノ河川ハ河川法第五條ニ依リ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川ニ認定シ大正十二年十二月一日ヨリ施行ス

筒川　與謝郡筒川村大字菅野野村川合流ヨリ同郡本庄村字本庄濱ニテ海ニ入ル迄
高屋川　船井郡三ノ宮村大字三ノ宮繩手川合流ヨリ同郡上和知村字柳谷ニテ由良川ニ合スル迄
佐濃谷川　熊野郡上佐濃村大字尉ケ畑峠谷川カツコ谷川合流ヨリ同郡神野村大字鹿野ニテ二派トナリ同郡神野村大字鹿野ニ至リ海ニ入ル迄
天神川　紀伊郡上鳥羽村大字上鳥羽堀川合流ヨリ同郡下鳥羽村大字下鳥羽ニテ鴨川ニ合スル迄

●河川法準用ニ關スル件

明治四十五年三月一日
京都府令第十二號

改正　大正六年京都府令第一七號

河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ河川ニ對シテハ明治三十二年勅令第四百四號第二條ニ依ル條項ノ外第三條ニ依リ河川法第六條（但書ヲ除ク）、第七條、第九條乃至第十一條、第十五條、第二十四條第一項第三項、第二十五條、第二十八條及之ニ基ク命令ノ規定ヲ準用ス

〔京都警〕

●河川ノ區域變更ノ件

明治四十三年三月
京都府告示第八十六號

河川法第四條ニ依リ淀川支川ト認定シタル山科川筋淀川落合ヨリ上流約二百間ハ同法第二條ニ依リ河川ノ區域ヲ變更ス
但詳細ノ圖面ハ京都府内務部ニ備置ク

大正五年二月
京都府告示第五十三號

河川法第二條ニ依リ左記ノ通河川ノ區域ヲ變更ス

一、淀川區域中紀伊郡堀内村大字堀内字大長老百十四番地先ヨリ百六十番ノ二地先ニ至ル派流ノ區域ヲ除外ス

二、同上（左岸紀伊郡向島村大字葭島新田字五反田島先堺右岸同郡同村大字渡場島地先）ヨリ以下大阪府國界ニ至ル改修新川ノ區域ヲ以テ淀川區域トス

三、桂川區域中（左岸紀伊郡納所村大字納所町字二番地先右岸乙訓郡淀村大字水垂字天神口地先）ヨリ以下淀川合流口ニ至ル舊淀川ノ區域及改修擴築ノ區域ヲ以テ桂川ノ區域トス

四、木津川區域中舊淀川合流口ト新淀川ノ合流口トノ中間ヲ淀川ノ區域トス

五、山科川區域中紀伊郡堀内村大字六地藏字大島地先ヨリ同郡同村大字堀内字根來地先ニ至ル改修新川ノ區域ヲ以テ山科川ノ區域トス

大正九年五月
京都府告示第二百三十六號

河川法第二條ニ依リ左記ノ通河川ノ區域ヲ變更ス

一　葛野郡嵯峨村大字天龍寺地内中島公園左岸一部ヲ桂川區域トス
二　桂川區域中葛野郡嵯峨村大字天龍寺地内中島公園ノ右岸派流一部埋立ノ區域ヲ除外ス
三　紀伊郡吉祥院村大字石島小字堤外元二十四番ノ二同元二十五番ノ三同元二十六番ノ二小字中ノ島元一番ノ二同四番小字橋裏元一番ノ二小字割畑元一番ノ四同元一番ノ三以上八筆ノ土地改修擴張ノ部分ヲ桂川區域トス
四　乙訓郡羽束師村大字鴨川小字江川三番ノ二地先ヨリ小字井上九十四番ノ一地先ニ至ル改修擴張ノ部分ヲ桂川區域トス
五　桂川區域中紀伊郡吉祥院村大字石島小字笠井三十九番ノ一地先ヨリ同郡上鳥羽村大字塔ノ森小字四ツ谷三十八番地ニ至ル新舊堤防間ニ介在セル乙訓郡久我村及紀伊郡吉祥院村大字石島地内ノ區域ヲ除外ス

●河川區域認定ノ件

大正六年三月
京都府告示第百十一號

河川法第二條ニ依リ久世郡槇島村字大島三十二番ノ一乃至同番ノ十三十三番ノ一乃至同番ノ六字治郡字治村大字五箇庄小字針木原十八番ヲ淀川ノ河川區域ニ認定ス

●淀川支川認定ノ件

明治二十九年九月三十日
京都府告示第百七十七號

内務大臣ノ認可ヲ經河川法第四條ニ依リ左ノ河川ヲ以テ淀川ノ支流ト認定

ス

桂　川　左岸葛野郡嵯峨村大字天龍寺後改所右岸同郡松尾村大字上山田渡月橋南詰下流淀川落合ニ至ル

木津川　左岸相樂郡加茂村大字北小字小谷右岸同村大字錢司渡場下流淀川落合ニ至ル

鴨　川　大阪街道紀伊郡上鳥羽村大字塔ノ森同郡下鳥羽村大字中島ニ跨ル小字小枝橋下流桂川落合ニ至ル

山科川　紀伊郡堀内村大字六地藏字治郡字治村大字六地藏ニ跨ル六地藏橋下流字治川落合ニ至ル

小畑川　淀ヨリ龜岡ニ達スル街道乙訓郡新神足村大字勝龍寺土橋下流淀川落合ニ至ル

小泉川　官設鐵道線下流淀川落合ニ至ル

大正十一年三月
京都府告示第九十號

河川法第四條ニ依リ左ノ河川ヲ淀川ノ支流ト認定ス

東高瀨川　左岸紀伊郡竹田村字醍醐田四番
右岸同　郡同村字淨害提院五番舊奈良鐵道線以下淀川合流點ニ至ル

●河川工作物等取締ノ件

明治四十一年十一月六日
京都府令第九十號

河川ノ工作物及橋梁保護ノ爲メ施設シタル諸種ノ工作物ヲ毀損シ又ハ毀損スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔京都警〕

●河川測量標其他ノ榜示標取締方心得

明治三十二年九月
保訓示第四六號

警察(一分)署

今回府令第八十號ヲ以テ違警罪目中ヘ官公署ノ建設ニ係ル測量標杭其他榜示標取締方ノ件追加相成候ニ就テハ別紙心得書ノ通町村役場ヘ通牒シ置キタル趣ヲ以テ同樣取締方内務部ヨリ照會ノ次第モ有之候條若心得ヲ以テ相當取締ルヘシ

河川測量標心得

第一條　河川測量標點ハ河川臺帳ニ關シ必要ナル物ニシテ其種類ヲ四種トス

一　基標
二　測標
三　町杭
四　支距標

第二條　基標ハ一ケ町村内大字毎ニ一ケ所トシ位置高低ノ基標ニシテ一定基線上ヨリノ高サヲ量リタル物ニテ比隣ノ樋管閘門水制其他ノ必要ナル構造物ハ該基標ヨリ其高低ヲ量リ得ルモノニシテ若シ構造物ヲシテ變更ノ必要アレハ石柱トス

第三條　測標ハ三角測量ノ標點ニシテ河川平面圖調製ノ骨子ニテ原地況ノ異動アルニ際シテハ圖面ノ訂正ヨリ復舊工事ニ至ル場合ニ於テモ平面圖ト相對照シテ原況ヲ知ルヘキ物ナレハ石柱トス

第四條　町杭ハ河川ノ末流ヨリ起リ水眞ヲ測リ二町毎ニ兩岸堤防ノ縱横斷面堤防ノ高サ法服ノ勾配一定基線上ヨリノ高サ等ヲ量リタルモノナリ

第五條　支距標ハ三角標點ヨリ繫キ線ヲ取リ平面圖調製地況測量等ニ用ヒタルモノ及ヒ河川敷地ノ境界ヲ明示セルモノナリ

第六條　前各項ノ測量標點ハ河川臺帳ト相待テ必要アルノミナラス町村圖面ノ調製或ハ構造物ニ對シ高低ノ測定等ニ適用スルノ便益アリ故ニ原標點ニ於テ微動ヲ生スルモ爲メニ測定上相違ヲ生スルノ恐レアレハ測標ニ牛馬船ヲ繫キ亦タ諸車ヲ突觸セシメ若クハ惡戲等ヲ爲スヘカラス

第七條　堤防ノ萬置地況ノ變更ヨリ測量標ヲ異動スヘキ必要アル場合亦タハ流紛失等ノ節ハ町村長ヨリ直ヲニ本廳ニ報告スヘシ

●水車用堰堤竝水路取締規則

明治四十四年十月三十一日
京都府令第百四十四號

改正　大正元年京都府令第三三號、五年第三號

第一條　水車用堰堤竝水路ノ新築、改築及除却ヲ爲サントスル者ハ知事又ハ地籍ノ屬スル郡長ノ許可ヲ受クヘシ

前項出願ノ區別ハ明治四十年八京都府令第四十九號土木工事取締規則第二條及第三條ニ於ケル用惡水路ノ區別ニ依ル

第二條　出願ノ手續ニ關シテハ本則ニ規定スルモノノ外土木工事取締規則第四條、第五條、第九條第一項竝第二項、第十條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條及第十八條ニ依ル屆出ハ知事ニ對スルモノハ地籍ノ屬スル郡市役所及町村役場、郡長ニ對スルモノハ地籍ノ屬スル町村役場ヲ經由スヘシ

第三條　出願者其ノ土地ノ所有權ヲ有セサルトキハ左ノ文書ヲ添付スヘシ

一　民有地ニ在テハ賃貸借ノ契約書又ハ其ノ登記ノ謄本、地上權又ハ地役權ノ設定アル場合ハ其ノ登記ノ謄本

二　官有地ニ在テハ其ノ使用ニ關スル願書

三　國有地ニ在テハ其ノ使用ニ關スル當該官廳ノ許可證ノ謄本

第四條　第十七條及第十九條ニ依ル出願ノ場合ニ於テ讓受人又ハ承繼人ニシテ其ノ土地ノ所有權ヲ有セサルトキ亦前項ニ同シ

第五條　第十八條ニ依ル屆出ノ場合ハ死亡者ノ戸籍謄本ヲ添付スヘシ

第十九條ニ依ル出願ノ場合ニシテ第十八條第二項ニ該當スルトキハ其ノ相續人ノ戸籍謄本竝工場ノ讓渡又ハ之ヲ使用スル權利ノ原因ヲ證スル文書、其ノ期間内ニ屬スルトキハ相續人ノ戸籍謄本竝相續人ニ於テ承繼セサル旨ノ記載アル文書ヲ添付スヘシ

第五條ノ二　灌漑ノ用ニ供スル堰堤竝水路ヲ使用シ若ハ其ノ水路ヨリ引水スルコトヲ出願スルトキハ其ノ管理者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第六條　工事ノ著手及竣工ハ各三日以内ニ當該官廳ニ屆出ツヘシ

第七條　工事ノ指定セラレタル期限内ニ著手若ハ竣工スヘシ

天災其ノ他當該官廳ニ於テ正當ト認ムル事由ニ因リ前項期限内ニ工事ニ著手又ハ竣工スルコト能ハサルトキハ其ノ日數ヲ超ヘサル範圍ニ於テ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第八條　許可ヲ受ケタル者ノ義務ニ關シテハ本則ニ規定スルモノノ外土木工事取締規則第十七條及第十八條ノ規定ヲ準用ス

第九條　許可期限ハ特ニ指定スルモノノ外許可ノ日ヨリ二十箇年トス

第十條　知事又ハ地籍ノ屬スル郡長ハ公益上必要ト認ムルトキハ許可ニ條件ヲ付スルコトアルヘシ

第十一條　許可ヲ受ケタル者數人アルトキハ連帶ニテ本則ニ規定シタル義務ヲ負擔スヘシ

第十二條　灌漑ノ用ニ供スル堰堤竝水路ノ一部又ハ全部ヲ使用シ若ハ其ノ水路ヨリ引水スルモノハ水路ノ管理者ヨリ灌漑ニ要スル時期ニ於テ一定ノ期間内引水ノ停止若ハ水量節減ノ請求アリシトキハ許可ヲ受ケタル者

〔京都警〕

ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ管理者ニ於テ條件ヲ附セスシテ支障ナキ旨ノ承諾ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限リニアラス

前項濯漑ノ時期ハ地方ノ慣習ニ依ル

引水停止若ハ水量節減ノ爲メ許可ヲ受ケタル者ノ受クヘキ損失ハ之ヲ補償セス

第十三條　知事ニ於テ施行スル工事又ハ他人ニ於テ知事又ハ地籍ノ屬スル郡長ノ許可ニ基キ施行スル工事ニ障害ヲ來シ若ハ其ノ虞アルトキハ許可條件ヲ變更シ又ハ既設工作物ノ變更若ハ設備ヲ命シ又ハ許可ヲ取消シ又ハ一時引水ノ停止若ハ水量ノ節減ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條ノ二　土木工事取締規則第十三條ニ依リ京都府知事ノ許可ヲ得タル土木工事ノ施行ニ基因シ既設工作物ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ工事ノ施行者ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ既設工作物ノ變更若ハ相當ノ設備ヲ爲シ其ノ損害ヲ除却シ得ヘキトキハ此ノ限ニアラス

前項但書ニ要スル費用ハ之カ原因ヲ爲ス工事ノ施行者ニ對シ請求スルコトヲ得

第一項ノ賠償ハ現存工作物ノ見積價格ニ相當スル金額ヲ以テ定ムヘキモノトス

第十四條　許可ヲ取消サレタルトキハ既設工作物ヲ撤却シ原形ニ回復セシムルコトアルヘシ

許可ヲ受ケタル者ニ於テ六箇月以上引水セサルトキ亦前項ニ同シ但シ他人ヲシテ引水セシムル場合ハ此ノ限リニアラス

第十五條　許可ヲ受ケタル者ニ於テ本則又ハ本則ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ知事又ハ地籍ノ屬スル郡長ニ於テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第十六條　前條及第八條ノ處分ニ因リ生スル費用ハ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第十七條　許可ヲ受ケタル者ハ知事又ハ地籍ノ屬スル郡長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ許可ニ依リ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第十八條　許可ヲ受ケタル者死亡シタルトキ其ノ相續人ニ於テ許可ニ依リ生スル權利義務ヲ承繼セントスルトキハ相續開始ノ日ヨリ六十日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ

前項ノ期間內ニ屆出テ爲ササルトキハ承繼ノ意思ナキモノト看做ス

第十九條　相續人ニ於テ許可ニ依リ生スル權利義務ノ承繼ヲ爲ササルトキハ他人ニ於テ知事又ハ地籍ノ屬スル郡長ノ許可ヲ得テ之ヲ承繼スルコトヲ得

第二十條　本則又ハ本則ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十一條　第一條及第六條ニ違背シタルモノハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第二十二條　本則施行前ニ於テ許可ヲ受ケタルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

❸砂防法ニ依ル指定地取締規則

明治三十四年八月十三日
京都府令第六十五號

改正　明治三九年京都府令第三二號

第一條　砂防法第二條ニ依リ內務大臣ノ指定ニ係ル土地ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁止ス

一竹木ノ皆伐

一畜類ノ放牧

第二條　前條ノ土地ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスルモノハ當廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス

一竹木ノ間伐、擇伐、枝打、枯損木ノ伐採

一開墾及土石竝ニ竹木草根ノ採掘

一芝及芝草竝ニ落葉ノ採取

一炭燒竈又ハ陶器竈又ハ石灰燒竈ノ施設

一火入

第三條　前條ノ許可ヲ得シトスルトキハ別紙樣式ニ準據シ施業ノ日ヨリ三ケ月前ニ出願スヘシ但火入ハ一ケ月前トス

第四條　施業ノ許可ヲ得タル者ハ著手竣了共當廳ニ屆出ヘシ

第五條　第一條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ第二條ニ違フモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六條　第四條ニ違背シタルモノハ壹圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第七條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　本令施行ノ後第二條ノ行爲ハ從來許可ヲ得タルモノト雖明治三十四年十月三十一日限リ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

（樣式略ス）

●淀川流域內砂防工事竣成ノ場所ニ於テ作業禁止ノ件

明治十九年十一月
京都府令第四十二號

淀川流域內諸山中內務省直轄砂防工事竣成ノ場所農商務省直轄官林ヲ除ク**ニ於テ**左ノ所業ヲ禁止ス犯スモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

一砂防ノ爲メ新規植付ノ樹木ヲ拔取リ又ハ伐採スル事

一砂防工事施行ノ場所ニ於テ土石ヲ掘取シ落葉ヲ掻取リ下柴草ヲ刈リ及牛馬ヲ飼養シ又ハ之レヲ其植樹ニ繫ク事

一其他施設ノ工事ヲ毀損スヘキ諸般ノ所業

右布達ス

第十章　軍事

●徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者ニ關スル調査手續

明治四十年五月二十一日
京都府訓令第三十九號
〔郡〕區役所　町村役場　警察署〔警察分署〕
憲兵分隊

徵兵適齡者ニシテ所在不明ノ爲メ徵兵上ノ處分ヲ受ケサルモノ、捜査ニ關シテハ曩ニ訓令ヲ發シタル結果關係各官公署ニ於テハ怠ラス調査ニ力メタル爲メ多少發見スルコトヲ得以テ之カ終決處分ヲ了リタルモノアリシカ未タ著シキ減少ヲ見サルノミナラス年々新タニ不明者ヲ累加スルハ甚タ遺憾トスル所ナリ惟フニ軍備ノ充實ヲ計ラントスルニ際シテハ兵員ノ增加ヲ要スルコト言ヲ俟タスサレハ此際嚴密ノ捜査ヲ行ヒ以テ其不明者ノ數ヲ減セシムルハ刻下ノ急務ナリト信ス爰ニ於テカ陸軍大臣ハ此等調査ニ關シ本年四月五日陸軍省訓令甲第一號ヲ以テ其規程ヲ發布セラレタルニヨリ右訓令ニ基キ左記ノ通徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者ニ關スル調査手續ヲ定メタリ依テ各官公署ハ相互連絡ヲ保持シ敏活ニ捜査ヲ遂ケ充分ノ成績ヲ擧ケンコトニ努ムヘシ

第一條　本手續中所在不明者ト稱スルハ徵兵終決處分未濟者（一旦徵兵終決處分ヲ受ケタルモノニシテ入營前所在不明トナリタルモノヲ含ム）及徵兵相當者ニシテ所在不明ノ者ヲ謂フ

第二條　郡役所區役所町村役場警察署警察分署憲兵分隊ニ在リテハ第一樣式ニ依リ其内部ニ本籍ヲ有スル徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者ノ名簿ヲ調製シ置クヘシ

〔京都警〕

第三條　郡長區長町村長警察署長警察分署長憲兵分隊長ハ相互ニ聯絡ヲ保持シ絕ヘス所在不明者ノ調査ヲ爲スヘシ

第四條　郡長區長ハ其徵募區ニ於テ新タニ生シタル所在不明者ノ本籍氏名等ヲ第二樣式ニ依リ調製シ毎年八月三十一日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第五條　町村長ハ所在不明者ニシテ死亡轉籍シタルモノ及重罪ノ刑ニ處セラレタルモノアルトキハ直チニ其旨ヲ郡長ニ報告シ他ヘ轉出シタルモノニ對シテハ同時ニ轉出先ノ市區町村長ニ通知スヘシ

郡長、區長ハ徵兵終決處分未濟者ニシテ死亡、徵兵處分濟滿四十歲ヲ超過シタル者重罪ノ刑ニ處セラレタル者及轉籍シタル者ニ對シテハ第三樣式ニ依リ毎年八月十日調ヲ以テ同月三十一日迄ニ知事ニ報告シ同時ニ所轄警察署長警察分署長及憲兵分隊長ニ通知スヘシ

第六條　知事第四條第五條ノ報告ヲ受ケタルトキハ十月三十日迄ニ其事項ヲ官報ニ掲載スルヲ以テ郡長區長町村長警察署長警察分署長憲兵分隊長ハ之ニ依リ照合ノ上備付ノ名簿ヲ加除訂正スヘシ

第七條　第三條ノ調査ニ關シテハ左ノ各項ニ依ルノ外時機ヲ利用シテ適當ノ手段ヲ採ルヲ要ス

一　郡長區長町村長警察署長警察分署長憲兵分隊長ハ所轄内ニ本籍ヲ有スル所在不明ノ徵兵終決處分未濟者ニ對シテハ本人ノ鄰佑親戚其他心當リノ者ニ就キ平素ノ行動行先等ヲ捜査シ又ハ親戚ヲシテ捜査セシメ其端緖ヲ得タルトキハ必要ノ事項ヲ具シ直チニ當該地ノ郡長市長區長町村長警察署長警察分署長憲兵分隊長ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル郡長區長町村長警察署長警察分署長憲兵分隊長ハ直チニ捜査ヲ爲シタル上相當ノ處置ヲ爲シ且通知ヲ爲シタル官公署ニ通知スヘシ

二　郡長區長町村長警察署長警察分署長憲兵分隊長ハ第六條ニ依リ官報ニ掲載シタル者ノ所在ヲ發見シタルトキハ直チニ關係ノ官公署ニ通報シ且其蹤跡ヲ失セサルノ手段ヲ採リ其年若クハ翌年ニ於テ徵兵終決處分ヲ受ケシムヘシ

前項ノ外所轄内ニ本籍ヲ有セサル現住者ニシテ故ナク徵兵終決處分ヲ受ケスト認ムル者アリタルトキハ直チニ之ヲ本籍ト認定シタル市區町村長ニ通知スヘシ

町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長ニ報告シ郡區長ニ於テハ本條右記第二ノ第一項ニ準シ取扱フヘシ

三　區町村長ハ毎年一月其年ノ壯丁名簿ニ編入スヘキモノ（前年假決ノ者ヲ含ム）ノ在不在ヲ調査シ其不在者ニ對シテハ戸主又ハ家事擔當者若クハ親戚ヲシテ捜査ヲ爲サシメ本條右記第一第二ノ手續ニ依リ發見者ニ對シテハ關係官公署ト協力シ其年ニ於テ徵兵檢査ヲ受ケシムヘシ

〔京都警〕

〔京都警〕

第八條　第三條ノ調査ヲ爲スニハ鑛山工場其他壯年者ノ集團スル場所ニ對シ特ニ注意ヲ加フルヲ要ス

第九條　所在不明者カ臺灣、關東州、韓國及樺太ニ在住セルコトヲ知得シタルトキハ其官公署ヨリ臺灣地方廳關東都督府民政署韓國理事廳及樺太廳ヘ調査方ヲ依賴スヘシ

附則

明治三十六年四月本府訓令第十號徵兵失踪者ニ關スル取扱手續ハ之ヲ廢止ス

第一樣式（用紙美濃紙）

本籍	何郡（市區）何町（村）何番地
徵集年次	明治何年
氏名	何某
生年月日	明治何年何月何日
發見事項	何年何月何日何處ニテ發見
異動事項	何年何月何日何郡（市區）町（村）ヘ轉籍ス 何年何月何日何郡（市區）町（村）ヨリ入籍ス
終決處分事項	何年何月何日徵兵終決處分濟 何年何月何日滿四十歲トナル 何年何月何日死亡 何年何月何日重罪ノ刑ニ處セラル

第二樣式

明治何年ニ於テ生シタル徵兵所在不明者人名

何郡(區)役所

本籍	氏名	生年月日
何郡(市區)何町(村)何番地	何　某	明治二〇、二、一〇
、、	、、	、、
、、	、、	、、
何郡(市區)何町(村)何番地 (何年何月何日何府(縣)何郡(市區)何町(村)何番地ヨリ轉入ス)	、、	、、

第三樣式

明治何年ニ於ケル徵兵所在不明者異動人名

何郡(區)役所

事項	本籍	氏名	生年月日
何年徵兵受檢ノ結果甲種合格徵集免除又ハ、、、	何郡(市區)何町(村)何番地	何　某	明治一九、五、五
何年何月何日死亡	、、	、、	、、
何年何月何日滿四十歳トナル	、、	、、	、、
何年何月何日何府(縣)郡(市區)町(村)番地ヘ轉籍	、、	、、	、、
何年何月何日重罪ノ刑ニ處セラル	、、	、、	、、

〔京都警〕

●鑛山ニ在ル徵兵處分未濟者調查ニ關スル件

明治四十二年十一月九日
京都府訓令第四十八號
(郡)區役所　町村役場　警察署　警察(分)署

〔京都警〕

鑛山ニ在ル徵兵處分未濟者調查ノ件ニ關シ左ノ通陸軍省ヨリ農商務省ヘ協議ノ結果農商務大臣ヨリ其趣旨ニ基キ各鑛山主ヲシテ相當取締ヲ爲サシムル樣各鑛山監督署長ヘ訓示相成タル旨其筋ヨリ通牒有之候條所轄內ニ鑛山ヲ有スル警察署警察分署長ハ明治四十年京都府訓令第三十九號第八條ニ基キ關係ノ官公署ト協議ノ上每年一月四月ノ兩度ニ於テ鑛山ニ就キ該當者ノ有無ヲ調查シ發見シタルトキハ同訓令第七條第二號ノ取扱ヲ爲シ以テ本件ニ關スル實際ノ狀況ヲ其都度知事ニ報告スヘシ

陸普第四一八七號(明治四十二年九月二十八日)

徵兵終決處分未濟者ニシテ居所不明ナル者ノ調查ニ關シテハ明治四十年陸軍省訓令甲第一號ヲ以テ調查規程ヲ作リ實行シ來リ候處鑛山ハ是等ニ關スル調查困難ナル特別ノ事情モ有之候ニ付鑛山ニ於テ雇傭ヲ爲ス場合ニハ必ラス雇傭主ニ於テ適當ノ方法ヲ以テ被傭者ニ係ル兵役上ノ關係ヲ調查シ故ナク徵兵終決處分ヲ受ケサル者ハ之ヲ雇傭セサルハ勿論雇傭中適齡年ニ達スル者ニ在リテハ雇傭主ヨリ適齡届ニ關シ所要ノ注意ヲ與ヘ且身體檢查ニ出場セシメ要スレハ相當官憲ニ届出ルコト、シ尙雇傭主ハ是等ニ關スル書類ヲ整理シ隨時官憲ノ調查ニ應セシムル等ハ頗ル有效ナル手段ト存候條相當措置相成樣致度此段及協議候也

●陸海軍人員表提出方

大正十五年九月二十一日
京都府訓令第六十八號
警察署(市部ヲ除ク)　市役所　區役所　町村役場

陸海軍人員表左ノ樣式ニ依リ每年二月一日調ヲ以テ二月十五日迄ニ區役所ハ市役所ニ町村役場ハ所轄警察署ニ差出シ市役所警察署ニ在リテハ更ニ一表ニ調製シ同月末日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

明治三十三年京都府訓令第百三十四號ハ之ヲ廢止ス

陸海軍人員表

陸			憲兵	歩兵	騎兵	砲兵	工兵	輜重兵
將官及同相當官	現役							
	豫備							
	後備							
佐官及同相當官	現役							
	豫備							
	後備							
尉官及同相當官	現役							
	豫備							
	後備							
准士官及同相當官	現役							
	豫備							
	後備							
下士官及同相當官	現役					助輸卒		輸卒
	豫備							
	後備							
兵卒	現役							
	豫備							
	後備							
計	現役							
	豫備							
	後備							
補充兵								
合計								

陸軍 經理部	陸軍 衛生部	陸軍 獸醫部	陸軍 軍樂部	陸軍 計	海軍 兵科 水兵	海軍 兵科 信號兵	海軍 軍樂部	海軍 船匠部	海軍 機關部	海軍 軍醫部	海軍 主計部	海軍 造船部	海軍 造兵部	海軍 水路部	海軍 計	合計

〔京都警〕

諸學校生徒其他 種別	員數
陸軍士官候補生	
陸軍主計候補生	
陸軍衛生部見習諸官學生生徒	
陸軍獸醫部見習諸官學生生徒	
陸軍中央地方幼年學校生徒	
陸軍砲兵工長候補生	
陸軍戸山學校軍樂生徒	
陸軍一年志願兵	
海軍兵學校生徒	
海軍機關學校生徒	
計	

備考

(一)本表ノ人員ハ其郡市町村内ニ本籍ヲ有スルモノノミヲ掲クルモノトス(二)待命、休職竝停職ニ在ル者及歸休兵竝現役兵ニ決定シタル未入營ノ輜重輸卒補助看護卒ハ現役欄ニ其員數ヲ別記(朱書)スヘシ但計及合計ニハ朱書ヲ要セス(三)縫工及靴工ハ經理部ニ記入スヘシ(四)諸工長ハ各其兵科ニ記入スヘシ(五)一年志願兵ニシテ豫備役ニ入リタルモノハ各其階級ノ欄ニ記入スヘシ(六)海軍各候補生ハ准士官ノ欄ニ記入スヘシ(七)木工ハ船匠部ニ看護ハ軍醫部ニ筆記及主厨ハ主計部ニ記入スヘシ(八)將官ハ各其出身兵科ノ欄ニ記入スヘシ

〔京都警〕

●陸軍兵籍ニ在ル官公吏報告ノ件

大正十五年八月十日
京都府訓令第五十九號

市役所　警察署(市部ヲ除ク)

改正　大正一五年京都府訓令第六五號

陸軍豫備役、後備役、又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ警察署及市區町村ノ官公吏トナリ兵事事務ヲ主管スル者一人竝公立小學校長同正敎員タル者ハ其ノ職氏名等ヲ左ノ樣式ニ依リ在職地ノ市役所、警察署ニ於テ調査シ毎年八月二十五日迄ニ當廳ニ報告シ爾後翌年ノ報告期迄ニ新任轉免等ノ異動アルトキハ其ノ都度報告スベシ

大正二年京都府訓令第三十七號ハ之ヲ廢止ス

樣式

大正十五年京都府訓令第五十九號ニ依ル人名調書

現職名	兵役	官名	徵集年	本籍	氏名

●町村役場ニ於ケル陸海軍召集及徵發事務檢閲規程

大正十五年十一月九日
京都府訓令第七十四號

警察署長(市部ヲ除ク)

町村役場ニ於ケル陸海軍召集及徵發事務檢閲規程左ノ通定ム

第一條　警察署長ハ毎年四月ヨリ六月迄ノ間ニ於テ所轄町村役場ノ陸海軍召集及徵發事務ノ整否ヲ檢閲スベシ但シ警察署長事故アルトキハ部下官吏ヲシテ檢閲セシムルコトヲ得

第二條　檢閲ハ嚴密ニ施行シ規定ニ反シタル點又ハ不備錯誤等ヲ發見シタルトキハ直チニ整理セシムベシ

第三條　檢閲ヲ終リタルトキハ陸軍ニ在リテハ左ノ事項ヲ、海軍ニ在リテハ吳鎭守府召集事務取扱規程別表第二ニ準シ、十日以内ニ知事ニ報告スベシ

一　檢閲ノ方法

二　成概績ノ要

三　著シキ缺點又ハ不備ノ點
四　吏員執務ノ狀況
五　被檢閲者ニ與ヘタル訓示又ハ注意ノ大要
六　將來ノ意見

●召集事務ニ關スル書類用有鑰函調製ノ件

明治三十二年一月十二日
京都府訓令第二號

召集事務ニ關スル書類ハ散逸ヲ防クカタメ一定ノ裝置法ニ依リ之ヲ格護スルヲ要ス之レカ爲メ左ノ樣式ニ準シ一ノ有鑰函ヲ調製シ該書類ヲ其中ニ格納スヘシ

但シ既ニ有鑰函調製ノ向ハ其寸法竝ニ樣式ヲ具シ當分據置方持ニ當廳ノ指揮ヲ請フヘシ

（樣式）

〔京都警〕

〔京都警〕

●陸軍召集不應者ニ對シ警察官吏證明ニ關スル注意ノ件

明治三十年五月
京都府告諭第四號

〔陸軍召集條例第三十三條〕中召集令狀ヲ受領スルモ犯罪失踪等ノ爲應召スルコト能ハサル者アルトキハ召集令狀ヲ受領シタル者ヨリ令狀受領後二十四時間以内ニ差出スヘキ屆書ニハ憲兵若クハ警察官吏ノ證明書ヲ添ヘキ旨規定有之候處舊條同上ノ場合ニ於テハ憲兵ノ設ナキ地ニ限警察署等ノ證認ヲ受クルノ規定ナリシニヨリ府下ニ憲兵設置ノ今日ニ於テハ右證明ハ猶憲兵ニ限ルモノト誤解シ居ル者有之趣ニ相聞エ候條自然夫等ノ誤解ヨリ規定ノ時間内ニ屆書ヲ差出スコト能ハサル者有之ニ於テハ甚不都合ニ付右ハ憲兵屯所等ノ設ケ有之土地ト雖便宜ニ從ヒ最寄警察署同分署巡査派出所同駐在所等ニ就キ證明ヲ受クルコトヲ得ヘキ儀ニ有之候條誤解無之樣注意スヘシ

●陸軍召集不應者證明書付與及申報方

明治三十年五月
訓示第五八號

〔陸軍召集條例第三十三條〕ノ規定ニ係ル證明書ノ儀ニ付今般告諭第四號ヲ以テ告諭ノ次第モ有之候ニ付テハ特ニ巡査派出所同駐在所ニ於テ證明方ニ付不都合無之樣豫テ巡査ニ訓示シ又召集ニ係ル狀況ハ速ニ警察部ヘ申報スヘシ

但シ召集ニ係ル申報中左ノ事項ハ必ス記載スヘシ

一召集ヲ受タル總人員
一應召人員
一應召スルコト能ハサリシ人員

〔京都警〕

内譯　犯罪何人　失踪何人　疾病何人
一證明付與ノ區別
警察分署何人　派出所何人　駐在所何人
一停車場、渡船場、旅費支給場、軍用旅舍等ノ狀況

●陸軍召集ニ關シ巡査派遣箇所

明治三十年四月
訓示第七一號

〔陸軍召集條例施行細則第百十二條〕ニ依リ召集旅費支給場其他ヘ巡査ヲ派遣スヘキ箇所及人員等ハ豫メ定置キ召集ノ發布アリタル際不都合ナキ樣取計フヘシ

但シ派遣スヘキ箇所及人員等此際別表雛形ノ通取調來ル十五日迄ニ差出スヘシ

（別表略）

●陸地測量標監視規程

明治三十年五月一日
京都府訓令第九十四號

改正　明治三一年京都府訓令第二五九號

〔警察署〕〔警察分署〕〔役所〕市役所　町村役場

第一條　陸地測量標ハ所在市町村長ニ於テ監視スヘシ

但シ本規程ニ於テ測量標ト稱スルハ二十三年法律第二十三號ノ諸標杭トス

第二條　市町村長ハ別紙樣式ニ依リ陸地測量標臺帳ヲ調製シ市役所又ハ町村役場ニ備置クヘシ

第三條　測量標ノ增減變更ハ總テ當廳内務部ノ通知ニ依テ登記スヘシ

第四條　市町村長ニ於テ第三條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其市町村區域内ニ於ケル警察署及警察分署ニ通知スヘシ

第五條　市町村長ニ於テ測量標ノ亡失毀損其他異狀ヲ發見シ又ハ通告ヲ受ケタルトキハ直ニ事狀ヲ具シテ當廳ヘ屆出ヘシ

第六條　警察署及警察分署ニ於テ第五條ノ事實ヲ發見シタルトキハ直ニ市町村長ニ通告スヘシ

（樣式略ス）

〔京都警〕

第十一章　租稅　賦金

●郡部府稅賦課規則

明治四十年三月三十日
京都府令第二十號

改正　明治四一年府令第三一號、四三年第二一號、四四年第五〇號、第七九號、四五年第一五號、大正二年第五三號、四年第一號、第一〇號、六年第一〇號、七年第二一號、八年第二二號、九年第二〇號、第七九號、一〇年第二一號、一一年第二六號、第五二號、一二年第二六號、第五五號、一三年第一三號、一四年第一一號、第三七號、一五年第三三號、第一七四號

通常郡部會ノ議決ヲ經テ明治三十四年三月府令第十三號京都府郡部府稅賦課規則左ノ通改正ス

京都府郡部府稅賦課規則

第一章　總則

第一條　府稅ノ賦課ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外此規則ニ依ル

第二條　府稅ノ賦課額ハ別ニ定ムル歲入豫算及課目課額ニ依ル

第二章　地租割

第三條　地租割ハ其課額ヲ折半シ每年四月一日及十月一日現在ノ地租割ニ依リ納租者ニ賦課ス

地租割ヲ賦課スル期日前ニ荒地ト成リ其免租ノ處分カ期日後ニ渉リタル場合ニ於テ其中間ニ賦課徵收シタル地租割ハ之ヲ還付ス

第三條ノ二　特別地稅ハ其ノ課額ヲ折半シ每年四月一日及十月一日現在ノ地價額ニ依リ納稅義務者ニ之ヲ賦課ス

前條第二項ノ規定ハ特別地稅ニ之ヲ準用ス

第三章　戶數割及家屋稅

第四條　戶數割ハ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課ス

第四條ノ二　戸數割ハ年稅トシ毎年四月一日現在ノ納稅義務者ニ之ヲ賦課ス

第四條ノ三　戸數割納稅義務者ノ資力ニシテ所得額及住家坪數ノミニ依ルヲ適當ナラスト認ムル場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ以テ其ノ資產ノ狀況ヲ斟酌シテ之ヲ算定スルコトヲ得

特別ノ事情アル町村ニ於テハ納稅義務者ノ資產狀況ヲ斟酌シテ資力ヲ算定シ課スヘキモノノ割合ハ當分ノ內之ヲ其ノ總額ノ十分ノ四以內トナスコトヲ得

第四條ノ四　戸數割納稅義務者ノ數ヲ標準トスル町村ノ配當額ハ戸數割總額ノ十分ノ五以內トス

第四條ノ五　納稅義務者ノ資力及其ノ資力ヲ算定シテ課スヘキ割合、府縣稅戸數割規則施行細則第七條ノ規定ニ依ル控除額竝賦課額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ六　住家坪數ニ依ル資力算定ニ付テハ町村會ノ議決ヲ以テ建物ノ構造、用途及敷地ノ地位ニ依リ等差ヲ設クルコトヲ得

府縣稅戸數割規則第十條ノ規定ニ依ル住家坪數ノ計算方法ハ外廻柱通ノ間數ニ依リ曲尺六尺平方ヲ以テ一坪トシ地下室又ハ二階以上ノ坪數ハ十分ノ二ヲ減ス

前項ノ計算上一坪未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ一坪トス

第四條ノ七　第四條ノ三及前二條ノ規定ニ依ル町村會ノ議決期限ハ毎年六月十五日迄トス

第四條ノ八　賦課期日ニ於テ恤救規則ニ依リ救助ヲ受クル者ニ對シテハ戸數割ヲ賦課セス

第四條ノ九　納稅義務者ハ府縣稅戸數割施行規則細則第三條ノ規定ニ依ル所得金額ヲ毎年四月中ニ町村長ニ申告スヘシ

【京都警】

府縣稅戸數割規則施行細則第七條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第一項ノ申告ヲ爲ササルトキ若ハ申告金額不相當ト認ムルトキ又ハ所得金額調査ニ際シ事實ヲ隱蔽スル者アルトキハ相當ト認ムル金額ヲ査定ス

第四條ノ十　家屋稅ハ年稅トシ毎年四月一日現在ニ依リ別ニ定ムル町村ノ家屋所有者ニ之ヲ賦課ス

第四條ノ十一　家屋稅總額ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於テ町村住民（法人ヲ除ク）ノ賦課ヲ受ケタル直接國稅及直接府縣稅ノ稅額竝前年度始ニ於ケル現住戸數及一戸ヲ構ヘサル獨立ノ生計ヲ營ム者ノ數ヲ標準トシ町村ニ之ヲ配當ス

前項ノ現住戸數及獨立ノ生計ヲ營ム者ノ數ヲ標準トスル額ハ家屋稅總額ノ十分ノ五以內トス

第一項直接稅ノ種類ハ府縣稅戸數割規則ノ例ニ依ル

第四條ノ十二　町村會ハ前條ノ規定ニ依リ町村ニ配當セラレタル家屋稅總額ニ付家屋ノ種類、構造、坪數、敷地ノ地位ニ依リ等差ヲ設ケ納稅義務者ノ賦課額ヲ定ムルモノトス

特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經知事ノ許可ヲ得テ前項以外家屋利用ノ狀況ヲ斟酌スル標準ヲ設クルコトヲ得

前項町村會ノ議決期限ハ毎年四月十五日迄トス

第四條ノ十三　家屋稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニ對シテハ發生ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ賦課ス

賦課期日後新ニ納稅義務ノ發生シタル者ニ對スル賦課額ハ前條ノ規定ニ依リ定マリタル他ノ納稅者ノ賦課額ニ比準シテ之ヲ定ム

家屋稅ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニ對シテハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ賦課ス但シ既ニ徵稅令書ヲ發シタル場合ニ於テハ其ノ賦

【京都警】

課額ハ之ヲ變更セス

第四條ノ十四　左ニ揭クル建物ニ對シテハ家屋稅ヲ賦課セス

一　私立學校幼稚園

一　公益法人ノ直接其ノ用ニ供スル建物但シ有料ニテ之ヲ使用セシムルモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一　私法人使用ノ建物

前項各號ノ外必要ト認ムル場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ以テ其ノ種類ヲ增加スルコトヲ得

第四條ノ十五　戸數割及家屋稅ノ每年度各町村配當額ハ年度開始前之ヲ告示ス

第四條ノ十六　前條告示後ニ於ケル追加戸數割及家屋稅ノ賦課ニ關シ必要ナル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

第四章　營業稅及雜種稅

第五條　商業中十方劑以下ノ賣藥請賣事業者ハ四月一日現在ニ依リ其他年稅ニ係ルモノハ總テ其課額ヲ折半シ四月一日十月一日ノ現在ニ依リ月稅ニ係ルモノハ每月一日ノ現在ニ依リ營業ニ在リテハ營業者ニ物件ニ在リテハ物件所有者ニ私法人使用建物ニ在リテハ使用ノ法人ノ行爲ニアリテハ行爲者ニ飼犬ニ在リテハ犬ヲ飼養スル者ニ賦課ス但郡部外ノ者ノ所有ニ係ル船車自轉車ト雖モ以下同シ物件ニ對スル雜種稅ヲ其使用者ニ賦課ス

前項ノ期日後賣藥請賣方劑數寄萬金妙數ヲ增加シ又ハ營業ヲ開始シ行爲ヲ爲シ物件ヲ所有シ若ハ使用シ犬ヲ飼養シ又ハ營業者物件所有者行爲者ノ郡部外ヨリ轉入シタル者ハ其事實發生ノトキ賦課ス

請賣賣藥數十一方劑以上トナリ又ハ湯屋船車私法人使用建物ノ噸數、間數、石數、坪數竝水車臼數ノ增加私法人使用建物又ハ人力車荷車自動車自轉車ノ使用種類ヲ變更シ又ハ藝妓轉住若ハ年齡增加飼犬ノ等級變更ノ爲稅額ニ異動ヲ來シタルトキハ其事實發生ノトキ當期分ノ差額ヲ賦課ス

營業稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ニシテ其翌年ニ至リ課稅標準低減ノ爲義務ヲ有セサルコトヽナリタル者ハ其事實發生ノトキ年額四分ノ一ヲ賦課ス

日稅ハ營業開始以前市場ハ每翌月一日（其月內廢業ノモノニ在リテハ其際）各其營業者ニ賦課シ筏ハ流出ノ都度筏主ニ賦課シ火葬場ハ每翌月一日ニ於テ場主ニ賦課ス但日稅ニシテ豫定額ニ對シ增減シタルトキハ追徵又ハ還付ス

狩獵稅割ハ免許ヲ受ケタルトキ狩獵者ニ賦課シ所得稅ハ第二十七條ノ規定ニ依リ十月一日ノ現住者若ハ滯在者ニ賦課ス

鰮臺網類漁業稅ノ漁場ニ依ルモノハ其ノ漁業權者ニ上リ金高ニ依ルモノハ漁業ノ都度其ノ漁業者ニ賦課ス

鼈種稅ハ普通鼈種ノ檢查ヲ受ケタルトキ鼈種製造者ニ賦課ス

倉庫稅ハ穀物、什器、商品其ノ他物品ヲ藏置スルノ目的ヲ以テ設備シタル建物ニ對シ其ノ所有者ニ之ヲ賦課ス但シ普通物置納屋ト稱スルモノハ之ヲ除ク

私法人使用建物及倉庫ノ坪數計算上一坪未滿ノ端數アルトキハ之ヲ一坪トシ金庫ノ一立方尺未滿ノ端數アルトキハ之ヲ一立方尺トス

不動產取得稅ハ家督相續、遺產相續以外ノ原因ニ依リ不動產所有權ヲ取得シタルトキ其ノ價格ヲ標準トシ取得者ニ對シ之ヲ賦課ス

前項ノ價格ハ不動產登記法ニ依リ登記ヲ爲シタルモノハ登記價格其ノ他ノモノハ賣買價格又ハ時價ニ依ル

納稅義務者課稅標準價格ヲ申告セサルトキ又ハ申告不相當ト認ムルトキ

ハ知事ノ定ムル價格ニ依ル

第五條ノ二　鰤臺網類以外ノ海面漁業ニ對スル漁業稅ハ年稅トシ豫算ニ定ムル額ヲ以テ其町村納稅義務者ノ負擔總額トス

町村會ハ其ノ町村納稅義務者ノ負擔總額ニ就キ毎年四月十五日迄ニ一定ノ標準ニ依リ各自ノ課額ヲ定ムヘシ

第六條　同一人ニシテ數課目ノ營業ヲ爲シ又ハ商業中他類ヲ兼ネ又ハ數箇所ニ營業場ヲ有スルトキハ以下各條ニ於テ特ニ定ムルモノヽ外其營業又ハ營業場毎ニ賦課ス但工業者ニシテ其製造品ヲ販賣製造場區域外ニ店舗ヲ設ケ小賣スルモノハ除スルモノハ別ニ商業稅ヲ課セス

第七條　商業中十方劑以下ノ賣藥請賣ヲ專業トスルモノハ上リ金高ニ依ラス方劑數ニ依リ賦課ス

第八條　商業第二類、料理屋、飲食店ノ內二業以上ヲ兼ヌル者ハ各上リ金高ヲ合算シ其稅額ノ重キニ依リ賦課ス

第九條　遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、幇間、藝妓ノ內二業以上ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ重キモノ一箇ノミヲ課ス

第十條　營業者ニシテ行商ヲ爲シ又ハ一時出店ヲ爲シ若ハ集合出店ノ一場內ニ支店ヲ設クル者ハ各其上リ金高ヲ本店ニ合算シ賦課ス

第十一條　本店ナクシテ行商ヲ爲ス者又ハ出店スルヲ業トスル者ハ各其上リ金高ヲ通算シテ賦課ス

第十二條　營業者ニシテ其翌年ニ至リ課稅標準增加ノ爲營業稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スルコト、ナリタルモノハ年稅額四分ノ一ヲ減ス

第十三條　臨時ニ開設スル一時限リノ人寄席ニ對シテハ興行稅ヲ課シ同上遊技場ニ對シテハ商業稅ヲ課ス

第十四條　大堰川流通ノ筏ハ筏改所ヨリ上流船井郡世木村迄ノ間ニ於テ解筏スルモノト雖總テ本稅ヲ課ス

西高瀨川筏稅ハ同川ノ市郡界ヨリ上流ニ於テ流通スル筏ニ對シ之ヲ賦課ス

第十五條　筏ニシテ一乘分以上ノ長幅アルモノハ更ニ其間數ニ達スル迄毎ニ一乘分ヲ增課ス

筏ノ長ハ一乘ノ前端ヨリ後端ニ至ル長ヲ以テ其ノ間數ヲ定ム

第十六條　水車ニシテ二類以上ノ用途ヲ兼ヌルモノハ各種類毎ノ額ヲ賦課ス

第十七條　水車搗臼ニシテ一箇ノ臼ニ二箇以上ノ杵ヲ具フルモノハ杵一箇ヲ臼一箇ト看做シ賦課ス

第十八條　商業、工業、料理屋、飲食店、理髮人ノ上リ金高、貸付金高及漁業鰤臺網類漁業及第五採藻ノ上リ金高ハ左ノ區分ニ依ル

一前年一月以前ヨリ引續キ營業セルモノハ同年一月ヨリ十二月迄一箇年分ノ額

一前年十月以前ヨリ引續キ營業セルモノハ開業ノ月ヨリ同年十二月迄ノ分ヲ一箇年ニ積算セル額

一前年十一月以降ニ開業シ引續キ營業セル者ハ開業ノ節見積リタル額

一新規開業ノ者ハ總テ一箇年ノ見積リ額但前年一月以降ニ於テ三箇月以上同業ヲ營ミタル者ハ其營業中ノ金高ヲ一箇年ニ積算セル額

一上リ金ノ卸賣ニ係ル分ハ其三分ノ一手數料、貸料、損料等ニ係ル分ハ其五倍ヲ以テ上リ金高トシ計算ス

但漁業採藻ハ此限ニアラス

第十九條　前條營業者ニシテ廢業ノ後一年以內ニ再ヒ同業ヲ營ムトキハ推定ヲ以テ其ノ上リ金高ヲ定ム

第二十條　營業者ニシテ廢業ノ後其家族又ハ他人之ヲ繼續シ若ハ繼續ト認ムヘキ事實アルモノハ總テ本人ノ再開業ト看做シ前二條ニ依リ其ノ上リ

金高ヲ定ム

第二十一條　營業者其ノ上リ金高貸付金高ノ申告ヲ爲ササルトキ若ハ申告金高不相當ト認ムルトキ又ハ營業ニ關スル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者又ハ上リ金高調査ニ際シ帳簿書類ヲ隱蔽スル者アルトキハ相當ト認ムル上リ金高ヲ査定シテ賦課ス

第二十二條　商業第一類及工業ノ從業者ニ關シテハ國稅營業稅ノ例ニ依ル

理髮人ノ助手ハ前年度中ノ事實ニ依ル其數一定セサルモノニアリテハ最モ多キトキノ數ニ依ル

新規開業者ニ對スル從業者又ハ助手ハ開業ノ際ニ於ケル事實ニ依ル但シ前年度中ニ營業セシコトアル者ニ對シテハ前各項ノ例ニ依ル

第二十三條　月稅ノ賦課ヲ受クヘキ人寄席ニ於テ演劇興行ヲ爲シタルトキハ別ニ演劇興行稅ヲ賦課ス

第二十四條　演劇興行及遊覽所ニ在リテハ表木戶錢中木戶錢敷物料其ノ他總テ受得スルモノヲ以テ觀覽料トシ其ノ種類アルモノハ最高キモノニ依ル

棧敷、場枠等ノ名稱ヲ付シ二人以上容ルルモノヲ設ケタルモノハ其一人ノ額ヲ算定シ前項ノ例ニ依リ計算ス

第二十五條　湯屋ノ等級ハ湯壺ノ內法平面坪數ニ依リ其二壺以上ヲ構フルモノハ各壺ノ坪數ヲ合算シテ之ヲ定ム

第二十六條　自轉車ニシテ發動機ヲ附著スルモノハ其ノ形狀ノ如何ヲ問ハス之ヲ自動自轉車ト看做ス

電氣動力ニ依リ運轉スル自轉車ニシテ一人乘ノモノハ自動自轉車稅ヲ課シ二人乘以上ノモノハ自動車稅ヲ課ス

第二十六條ノ二　飼犬中獵犬ト稱スルハ狩獵法ニ依リ狩獵免狀ヲ受有スル

者又ハ受有セシ者ニ於テ狩獵ノ用ニ供スル目的ヲ以テ飼養スル犬ニシテ生後六ケ月ヲ經過シタルモノヲ謂フ

第二十七條　所得稅ハ左ノ各項ニ依リ賦課ス

戶主及其同居家族ノ所得ハ之ヲ合算ス戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

所得ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ算出ス

一　年金、恩給及此等ノ性質ヲ有スル給與、賞與ノ類竝所得稅法施行地外ニ於テ支拂ヲ受クル公債社債ノ利子、營業ニ非サル貸金ノ利子及預金ノ利子ハ其ノ收入豫算年額

二　俸給、給料、手當、歲費ノ類ハ其ノ收入豫算年額ヨリ十分ノ三ヲ控除シタル額

三　法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配ハ前年中ノ收入金額ヨリ十分ノ四ヲ控除シタル額

四　前三號以外ノ所得ハ總收入金額ヨリ左ノ經費ヲ控除シタル豫算年額但シ山林ノ收支ハ前年ノ額ニ依リ田畑ノ收支ハ前三年間ノ平均額ニ依ル

種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費及借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ直接必要ナル經費

第三項ニ依リ所得山林ノ所得ヲ除クヲ算定スルハ五月一日ノ現況ニ依ル但九月三十日以前ニ於テ半額以上減損シタルトキハ十月一日ノ現況ニ依ル

所得金高ノ申告ヲ爲ササルトキ若ハ申告金高不相當ト認ムルトキ又ハ所得金高調査ニ際シ事實ヲ隱蔽スル者アルトキハ相當ト認ムル金高ヲ査定シ賦課ス

第二十八條　左ニ揭クルモノニハ各其營業稅又ハ雜種稅ヲ賦課セス

一各自栽種ノ農産物林産物又ハ各自捕獲ノ魚鳥獸採藻等ヲ加工セス又ハ製絲、製茶、製炭若ハ草履、繩、莚、疊表等ノ單純ナル手工ヲ加ヘ開店セス賣捌ク者但シ樹苗ノ栽培ヲ業トスル者ヲ除ク

一草履ノミヲ小賣スル者

一煙管仕替竝下駄直シヲ業トスル者

一一定ノ工場又ハ製造所ニ定傭ノ職工

一新聞紙ヲ發行スル者

一政府ヨリ發行スル印紙切手類ノ賣捌ヲ爲ス者

一蹄鐵工蹄ニシテ鐵ヲ鍛造スル者

一船車牛馬ヲ以テ自ラ旅客貨物ノ運送ヲ爲ス者但シ自動車ヲ以テ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

一婦女子ニシテ衣服ノ裁縫、洗濯、機織ノ助手、金絲撚、麓ノ子較其他俗ニ內職ト稱スルモノ但他人ヲ傭役スルモノハ除ク

一年齡十五年未滿ニシテ理髮人ノ助手ヲ爲ス者

一不具癈疾等ノ爲自用ヲ辨スルコト能ハサル遊藝師匠、遊藝稼人

一遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、幇間、藝妓ニシテ年齡滿六十年以上ノ者

一郡部外ニ於テ納稅義務ヲ果シタル期限ニ對スル遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優

一倉庫船、水災豫備船、橋梁ニ代ヘ渡場ノミニ用フル船、橋梁ノ組成ニ用フル船、航海中本船ニ屬スル傳馬船ノ類

一官廳公署公立學校公立病院附屬ノ車、非常專用ノ車、鐵道軌道用ノ車、製造所又ハ鐵道停車場ノ如キ一構內ニ專用ノ車、神佛祭典用ノ車、育兒用ノ車

一商品ニシテ使用セサル船車

〔京都警〕

一耕地灌漑用ノ水車

一水車搗臼ノ容量一斗未滿一臼ノモノ及第三類ノ內絲繰（俗ニ「シズ」又ハ「センマイ」ト稱フルモノ）若ハ之ニ類スルモノ

一由良川棚野川一本流シノ村木ニシテ北桑田郡地內ニ於テ陸揚ケスルモノ

一私法人使用建物ニシテ屋根ヲ設ケタルモノ又ハ一時ノ假建物

一營利ヲ目的トセサル私法人ノ使用建物

一國稅所得稅ヲ納ムル者所得四百圓未滿ノ者第二十七條第二項合算ノ場合ニ於テ四百圓ニ滿ツルモノハ五月一日十月一日ノ兩日共郡部內ニ住所ヲ有シ若ハ滯在三箇月以上ニ及ヒタルモノニ非サル者軍人從軍中ニ係ル俸給扶助料及傷痍疾病除ク者ノ恩給、旅費、學資金及法定扶養料、法人ノ所得營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得、所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債社債ノ利子ニ對スル所得稅

一町村ノ一部ニ屬スル不動產ヲ無償名義ニ因リ其町村ニ移ス場合ニ於ケル所有權ノ取得

一災厄ノ爲建物ノ滅失シタル場合ニ於テ其ノ滅失後二年以內ニ跡地ニ再築スル不動產所有權ノ取得但シ再築シタル建物カ復舊程度ヲ超過シタルトキハ其ノ超過部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一共有物ノ分割ニ因ル不動產所有權ノ取得

一西高瀨川筏ニシテ葛野郡嵯峨村及同郡太秦村字嵯峨野地內ニ於テ解筏スルモノ

一倉庫ニシテ木造ノ茶業用覆小屋農業倉庫業法ニ依リ農業倉庫業者ノ所有スルモノ國稅營業稅ノ課稅標準ニ算入セラレタルモノ及私法人使用建物稅ノ賦課ヲ受クヘキモノ

一賦課期日前最近ノ決算ニ於ケル利益配當率年六分未滿ノ私法人所有ノ電柱竝營業者ニ非サル者ノ所有スル電柱

一飼犬ニシテ生後三ケ月ヲ經過セサルモノ

一京都府自作農奬勵資金貸付規則ニ依ル資金ヲ以テ購入シタル耕地ノ買得ニ因ル所有權ノ取得

一產業組合ニ於テ直接業務上使用スル倉庫、金庫、船車但シ自動車、自動自轉車又ハ自轉車ハ一組合各一輛ニ限ル

第五章　營業稅附加稅

第二十九條　營業稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタルトキ其納額ニ依リ納稅者ニ賦課ス

郡部外ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シテハ郡部ノ內外ニ於ケル歩合ヲ定メ本稅ノ納稅告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ノ豫算課率ニ依リ賦課ス

第六章　鑛業稅附加稅

第三十條　鑛業稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタルトキ其ノ納額ニ依リ納稅者ニ賦課ス

第七章　所得稅附加稅

第三十一條　所得稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタルトキ其納額ニ依リ納稅者ニ賦課ス

郡部外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業ノ所得ニシテ其本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シテハ郡部ノ內外ニ於ケル歩合ヲ定メ本稅ノ納稅告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ノ豫算課率ニ依リ賦課ス

第八章　賣藥營業稅附加稅

第三十一條ノ二　賣藥營業稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタルトキ其納額ニ依リ納稅者ニ賦課ス

第二編　保安　第十一章　租稅　賦金

第三十二條　此規則ハ明治四十年度ヨリ施行ス

●郡部府稅賦課規則施行細則

明治四十年四月十一日
京都府令第二十一號

改正　明治四四年府令第八〇號、第一三八號、大正四年第二號、第一一號、六年第一九號、八年第二三號、九年第三一號、一〇年第二四號、一一年第二七號、一二年第二八號、一三年第五九號、一五年第八三號、第一七〇號

郡部府稅賦課規則施行細則左ノ通定ム

郡部府稅賦課規則施行細則

第一條　家屋稅ヲ賦課セラルヘキ町村內ニ於テ家屋ヲ建築シ又ハ家屋ノ所有權ヲ取得シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ平面圖ヲ添ヘ町村長ニ屆出ツヘシ增築改築廢滅其他異動ヲ生シタルトキ亦同シ但所有權ノ移轉ニ在リテハ相續ノ場合ヲ除クノ外前所有者ノ連署ヲ要ス

一　家屋ノ種類（木造、土藏造、煉瓦造、石造等ノ區別）構造（平屋、二階建、三階建等ノ區別）間尺（縱橫ノ間尺）坪數及其用途

二　家屋ノ所在地及建築落成年月日

三　他ノ規定ニ依リ家屋建築ノ許可ヲ受ケタルモノハ其許可年月日

第一條ノ二　府縣稅戶數割規則第十一條第一項ニ依ル納稅義務者戶數割ヲ賦課セラルヘキ町村ニ於テ新ニ一戶ヲ構ヘ又ハ獨立ノ生計ヲ營ミタル者ハ其ノ都度左ノ事項ヲ町村長ニ屆出ツヘシ

一　新ニ一戶ヲ構ヘ又ハ獨立ノ生計ヲ營ミタル年月日及其ノ場所

二　住家ノ坪數

三　府縣稅戶數割規則施行細則ノ規定ニ依リ算出シタル所得金額（同細則第七條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ同時ニ其ノ申請書ヲ